カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所 福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　田中重治
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般の意向】新しい世代の一致と福音宣教
【布教の意向】寛容にたいする教育
【日本の教会の意向】21世紀の幕開け

2001年度 福岡教区標語

キリストの招きにこたえこの一歩

教区長年頭あいさつ
希望を持って一歩一歩前進しよう



教区長松永久次郎司教は、新世紀を迎え、大聖年の閉幕を間近に控えた私たちに、今年の教区目標と新年メッセージを発表した。その中で司教は、大きな祭りが終わって急にしぼんでしまうようにではなく、日常の普通の生活において、栄光の神の国を目指して、希望を持って一歩一歩、確実に前進しようと呼びかけている。

1、信望愛の歩み

カトリック信仰に導かれる歩みです。すべてを任せて、忠実にその道を護って歩まなければなりません。神にすべてを任せその道を勇気をもって進むことこそ、信者の務めです。信者はまた希望を見通すことができないときでも神のみ言葉を信じ、すべてを任せて、忠実にその道を護って歩まなければなりません。神にすべてを任せその道を勇気をもって進むことこそ、信者の務めです。信者はまた希望の喜びで導かれます。キリストが指し示す目的の豊かさが私たちを引き寄せます。わたしたちは目標を目指して、喜びをもって進むのです。その希望は欺かれることはありません。また、そのすべての歩みは愛の実行でなければなりません。神を愛し、人々に愛の業を行うことが、本当に価値あることなのです。真の愛から離れて、真に価値あるものは考えられないのです。

2、誠実な歩み

人間は一瞬にして完全に到達することはできません。一つずつ、前に進むのです。人間の中に生きるわたしたちは一つ一つの段階を省略することはできません。それぞれの道を、一つずつ重ねていかねばなりません。これは忍耐を必要とすることでありますが、同時にやりなおしのきくことを意味します。新しい世紀の到来を迎えて、人生の歩みは信仰に導かれる歩みです。すべてを見通すことができないときでも神のみ言葉を信じ、すべてを任せて、忠実にその道を護って歩まなければなりません。神にすべてを任せその道を勇気をもって進むことこそ、信者の務めです。信者はまた希望の喜びで導かれます。キリストが指し示す目的の豊かさが私たちを引き寄せます。わたしたちは目標を目指して、喜びをもって進むのです。その希望は欺かれることはありません。また、そのすべての歩みは愛の実行でなければなりません。神を愛し、人々に愛の業を行うことが、本当に価値あることなのです。真の愛から離れて、真に価値あるものは考えられないのです。

3、輝かしい未来への歩み

わたしたち信者の歩みは希望の歩みであることは申しました。確かにそれは希望の歩み、輝かしい希望の歩みです。わたしたちは最終的に栄光の国に召されているのです。この世の段階の一つ一つを見れば、そこには苦しさがあり、失敗があり、不満足なところが残ります。人間の罪、制度の不完全、日論みの甘さが目立ちます。完全から遠く離れてこの世は推移していきます。物事は破滅に向かっているかのような時があります。しかし最後に、キリストが来られてすべての秩序は打ち立てられます。そしてその完全な調和の中にわたしたちはすべて場所を与えられ、その美しさを称えることになります。これは、欺くことのないわたしたちの希望なのです。

4、聖母マリアにより頼む

未来はいつも不安定な要素を含んでいます。何がこの世紀に起るかを、わたしたちはまだ予測できません。そこで聖母マリア様の御加護にすべて委ねて、自分たちの懸命な努力を怠らず、希望と喜びにあふれて前に進みましょう。わたしたちは、わたしたちの期待を越える明日が待っていることと信じます。

もう一度、すべてに祝福をお祈りして、年頭のことばと致します。

2001年元旦
福岡教区長　松永久次郎司教

この要点を忘れてはならないと思います。

21世紀が訪れました。神様の祝福と御加護がわたしたちの歩みのすべてを満たしてくださるようお祈り申し上げます。

時の話題

牧山　満安

二十世紀最後の降誕祭と、二十一世紀の幕開けが愈々面前である。望んでも叶わないこの時機に生まれ合わせた幸運を感謝したい。

佐賀教会の大聖年で示された信徒目標は「神がお与えになった使命を果たそう」というものであった。教会活動だけでなく、日常生活の中でも、自らの背負った使命・役割を果たそうとする努力は容易なことではなかった。時に諦めや反省を重ねながら、幾らかの、霊的成長を遂げ、曲がりなりにも一年を終わろうとしている。

「友の為に命を捨つ、これより大なる愛はなし」（ヨハネ15・13）好きな聖句である。私は、己の命の箇所を「時間」と置き換え、人々との煩わしい関わりであっても、時間を割くことを大事にしたいと思っている。二十一世紀に課題を求める人がいるとすれば、惑うことなく「人間の尊重」を挙げるだろう。戦争や、暴力だけでなく、少年達の間にさえ、今日ほど命が粗末に扱われている時代はないからである。

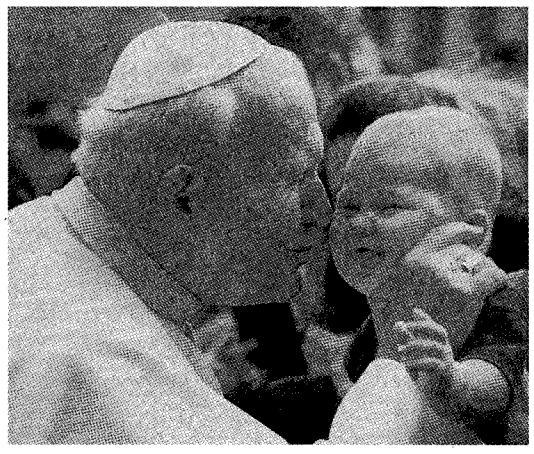
加えて過日の新聞では、三死刑囚の刑執行が報じられ、オランダでは「安楽死」を容認する法案が可決されるなど、或は、医学・科学者が競って生命の分野に立ち入っての操作など―科学進歩の影で無気味な蠢きを感じないではいられない。

我々は今こそ、天を仰ぎ、地に伏して、「御旨が地にも行われます様に」と祈らずにはおられない。

（佐賀教会信徒）

天を仰ぎ、地に伏して

教皇ヨハネ・パウロ2世は12月8日無原罪の聖母の祭日に「文化間の対話ー愛と平和の文明に向けてー」と題する200



1年1月1日世界平和の日のメッセージを発表した。

……

この紙面では「教皇メッセージ」の全文が掲載できませんので、「オッセルバトーレ・ロマーノ紙」に紹介された教皇メッセージの解説記事を要約で掲載させて頂きました。

……

教皇はこの対話の緊急な必要性とそれと共に困難さを明らかにし、この困難さから対話が「和解した世界を築くために必要な道」であることを明らかにしておられる。

新年平和メッセージ
文化間の対話こそ愛と平和の文明へのテーマ

人類とその多様な文化

「文化は人間とその歴史的変遷の表現である」こと、「人は必ず、ある特定の文化の中で生きる」こと。この2つのことは人間をその文化の土壌と固く結び付けることを示しているだけでなく、ある意味で各文化独特の価値を明らかにし、同時に文化の多様性を正当化している。

人格の形成と文化の一員に

教皇は、個人が持つ祖国への感情から「文化は様々な場所で、多かれ少なかれ国家的な形成に寄与する」ことを認めている。しかし、「帰属の意識が自己賛美や多様性の拒絶、国家主義、外国人嫌いなどに発展した時」この文化は危険なものになる。この流れをくい止めるには、人類の諸文化間の多様性の基礎にある「全人類の一致」との基本的観点を育むように招いている。

文化の違いと相互の尊重

そこで、二つの具体的で今日的な問題を取り扱う。まず第一に、幾つかの民族的、文化的な少数派の状況を苦しくする可能性のある、他の文化に攻撃的に主張する文化を認めるのを否定するために、第二に「西洋的な文化モデルは、その科学的、技術的に際立った特徴から、魅力があり気を引くものではありますが、残念ながら、人間的そして霊的、倫理的な貧しさを深めてしまうことが明らかか」なことを示すためである。

文化間の対話

文化間の対話は、実は唯一であり三位である神にその正当性と源泉、そしてモデルを持っている。つまり、文化間の対話の理由は父と子と聖霊の交わりの神秘から出てくる。ここから教皇は対話によって人類家族の歴史的、社会的、文化的出来事を寄与するように招く。また、連帯、平和、命、教育の価値を見つめている。

今、経済的、社会的不平等と貧困の拡大から軍事力の脅威的な発展へ、命を引き裂く文化の広がりから教育の失敗までも、これらは現代世界の日常的問題である。これらの問題解決のために文化間の希望ある対話が行われることを求めている。

ゆるしと和解

対話にはしばしば過去のしがらみが残っている。この状況に直面して、「十字架につけられたキリストを仰ぎ見て、私たちはゆるしと和解が、日々の生活やすべての文化で普遍に実践され、そしてそれが人類の平和と未来を築き上げる真の機会となることを信じる気持ちで満たされます。」

青年へのアピール

教皇は世界青年の日の機会に青年たちにローマで会われたことを思い出しながら、彼らの力とキリストへの愛を称えられた。「あなたがたと心が一つになっていることを感じながら、私は主に向かって深い感謝の念を抱きました。あなたがたの様々な言語や文化、習慣、そして考え方などを通して、教会の国際性と普遍性、そして一致の奇跡を思う恵みをお与え下さったのですから。」

世界的コミュニケーション

新しいコミュニケーション技術について意外な可能性を認めているが、同時に限られた国々が独占するものになっていることを批判している。

移住の認識

「移住者がいつも、すべての人の尊厳に対する当然の配慮を持って待遇を受けなければならない」という原則を確認した後、文書は移住はある限定された領域で文化的特徴を不安定にさせる要素ではあり得ないと宣言する。「納得のいく前進を続ける方法は、各地域の発展に大きく寄与した文化に配慮しつつ、一定の文化的均衡を確保すること」であり、「移住者たちが持ち込む文化的慣習などは、自然法に由来する普遍的倫理観に反するか、基本的人権を侵さない限りにおいて容認されなければなりません。」

共通する価値観の認識

各文化に共通する価値観の認識への呼びかけとともに、メッセージは「建設的な対話に寄与する普遍的な性格の文化的土壌」を背景に持つ指針を列記している。1986年のアシジ、1999年の聖ペトロ広場での諸宗教者の集いを思い起こして、教皇は諸宗教がこの問題に愛と平和の社会の要求に合わせようと招きを新たにしている。

みちくさ

先日、教区邦人司祭で一番若い司祭が三十路の誕生日を迎えた。イエス様は30才位から宣教生活を始められたという。まだまだ若僧である。だが、本人にとっては複雑な心境である。30代に入ったというのはやはり思うところがあるわけである▼しかし、これは教区としても深刻な問題である。これで、福岡教区に20代の司祭はいなくなったことになる。次の新司祭誕生も定かでない今、司祭の高齢化、減少化は21世紀の福岡教区の現実かつ緊急の課題として突きつけられている▼東京教区では初めての全司祭集会が開かれ、現在の小教区のあり方が限界に来ているという点で一致した認識だったという。共同司牧という方式を取り入れた教区もある。一つの小教区に一人の主任司祭と言うことが不可能になる日もそんなに遠い先の話では無くなりつつある▼一方で、おかしな現象も生じている。「若い司祭・シスター」と「若手司祭・シスター」間の年齢差が生じているのである。年齢が若い司祭は若手司祭だが、50代になっても、下から数えて何番目、つまり「若手司祭」となる。修道会にいたっては本当に大きな問題になっているところもある。60代前半でも「若手シスター」と言わざるを得ない修道会も出てきている。「若手」という言葉の意味から生じるギャップであり、それは広がる一方なのである▼気持ちはいつまでも若いつもりと言う方は多い。結構なことである。しかし、年齢ばかりはどうすることもできない。年はとりたくなくてもとっていく。体力の衰えは進んでいく。それでも、「若手」として気持ちだけでも若さを保ちつつ、身体に鞭打って働く司祭、修道者の姿。今世紀の一つの美しい姿、福音となればと願う。（T）

新しい世紀の幕開けおめでとうございます

二〇〇一年　神の母聖マリアの祝日に

教区長　松永　久次郎司教

〈福岡地区〉

司教館　松井　忠之
田中　重治
糸島　櫻井　尚明
今村　中浜　一男
大楠　堤　敏雄
大牟田　森山　信三
小郡　牧山　勝美
久留米　三村　邦明
古賀　浦川　務
笹丘　T・ドワイヤー
浄水通　柴田　弘之
大名町　堤　要吉
浦口　均
牧山　美好
高宮　小池　如安
茶山　片岡　哲夫
西新　山田　成章
箱崎　平田　敬
光丘　M・ジラード
T・リシャール
J・バイヨ
H・キニュウ
C・ブレッシュト
美野島司牧センター　C・ミケレーナ
M・コース
ロザリオの園　A・アレグリーニ

〈北九州地区〉

飯塚　山下　正
黒崎　L・ベリオン
C・バスチ
小倉　平田　寛
杉原　寛信
新田原　竹森　勇
天神町　M・ラバルタ
戸畑　深堀　勝人
直方・田川　中村　信哉
水巻　J・ガイヤール
門司　下町　豊重
湯川　浦　俊雄
行橋　川上　惣一
若松　鵜野　泰年
八王寺（パリ外国宣教会）　L・デシャンブ
門司港　牧山重光（管理者）

〈佐賀地区〉

伊万里　C・ガッザルディ
鹿島・武雄　L・マネルバ
唐津　V・チェリッツァ
佐賀　G・フェラーラ
多久　A・テムペリーニ
鳥栖　平田　三好
馬渡島　田川　清美

〈熊本地区〉

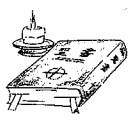
荒尾　K・オマホニ
崎津・大江・本渡　川添　猛
川原　拓也
帯山　V・ヤングキャンプ
菊池　R・オウエンス
健軍　中村　彰
島崎　F・カロール
玉名　D・グリフィン
手取　W・カリー
水俣　T・X・ヌエン
人吉　M・コーフィールド
武蔵が丘　E・ホーガン
八代　H・オッカロール
生命山　F・マッケイ
J・ノーリス
F・ソットコルノラ
在米　古川　和雄
渡辺　隆義
司教館付　平田　三郎司教
山川　辰幸
黒川　博
久留米信愛短大　高木　善行
パストラル　W・キッペス
伊東　成晃
シトー会　C・ミケレーナ
A・アレグリーニ

二日市　山元　眞
本郷　岩永　義人
吉塚　硫黄　隆二
老司　畠山　七郎
大神学院　大山　悟
高見　三明
Z・イエール
牧山　強美
白浜　満
湯淺　俊治
召命の家　青木　悟
山頭　原太郎
聖パウロ会　永富　久雄
イエズス会　塩谷　恵策
J・L・モラレス
梶山　義夫
G・ケルクマン
A・セトアイン
萱場　基
浦　善孝
ファミリーセンター
S・ライル
御受難会　鈴木　忠一
M・ヴェッター

新しい福音宣教とは何か

新しい福音宣教⑨

G.ケルクマン神父

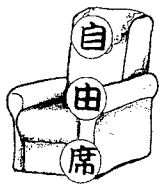


20世紀後半、福音宣教についての考え方がしだいに変わってきました。つまり「教会を植える」よりも「社会の福音化」という概念が主流になりました。誰かが遠い国に出かけて教会を創立することよりも、自分たちの社会がもっと福音的になるように自ら協力する方がよいという考えです。古い教会と宣教地の区別は意味がなく、どの社会でも福音化されるべきです。つまりイエズス様が教えてくださった価値観を社会の中に広まるようにしなければなりません。この宣教論は聖霊降臨を基礎にしています。弟子たち、そして私たちは聖霊で満たされて、それぞれが自分のカリスマに従ってキリスト教の価値観を出来るだけ広く自分が住んでいる社会に種蒔くことこそが福音宣教でしょう。このような福音宣教は教会全体の責任です。特定の宣教師ではなくて、信者皆が自分の環境をもっとキリスト教的になるよう協力することができます。現在の日本における教会を見ても、あまり洗礼を授けない司祭、シスター、修道士がたくさんいます。例えば、病院で奉仕しているシスター、大工さんとして働いているブラザー、本や新聞などを編集する司祭などの皆さんの顔が喜びに輝いているからです。しかし家に帰るときあの嬉しそうな顔はどうなるのでしょうか。神様からいただいた喜びを人々に見せるべきだと思います。この喜びはそのためにもらったものです。言葉は要りません。このような喜びは人の心を引きつけるはずです。少なくとも誰かがなぜ、この人は嬉しいのだろうかという問いを自分の中に感じるでしょう。尋ねる人に、どうして喜んでいるのかを説明することは必要です。その返事は、第二バチカン公会議の言葉によると、相手の心の中でパン種のように働きます。

この信仰の喜びを育てるために一番素晴らしい祈りは言うまでもなくごミサです。（イエズス会司祭）

恵みの一世紀を記念
大名町教会の写真展

岩永　明子



いまカテドラル大名町教会の聖堂内で、福岡教区ゆかりの司教様方、かつてこの教会を司牧なさった司祭方のポートレート写真、また信徒の記念写真や行事写真が展示してある。これは大聖年を記念し、一世紀あまりの大名町教会の歴史を、写真でたどろうと企画されたもの。古いものでは19世紀後半の「最初の宣教師の家」、最初のカテドラル「赤レンガ聖堂」、最近では「現カテドラル献堂式」などがあります。



初代の司教様をはじめ大名町教会だけにとどまらず、福岡教区内外で貢献なさった（ている）方に「写真」を通して「対面」出来ます。特筆すべきは、ラゲ神父はじめ、福岡教区並びに大名町教会の黎明期に活躍された方々、そのときどきの信徒の懐かしい姿にも会えます。

黎明期の方々の功績や偉業も今や話題になることは、あまりないのではないでしょうか。私自身、この写真展の準備を通し、また展示中の写真を見つめることで遠い過去の「人」「建物」、「風景」に思いを馳せています。今、私がたたずんでいるこの場所に、写真にあるこの大名町教会のこの場所に、写真に写っている「あの人」もかつてたたずんでいたに違いない…。連綿と続く強い絆を感じずにはいられません。

21世紀、新世紀のスタートで人の「思い」はややもすれば、未来にばかり先走りがちですが…。スタート前にしばし温故知新の時間、いかがでしょうか？

もちろんごく最近の写真も多数展示しております。今、皆様の小教区でご活躍の方々をはじめ、皆様のご友人、思いがけず「自分」のお姿も発見！なさるやもしれません。

また、12月31日（日）午前9時から、松永司教を迎えて大聖年とこの一世紀の恵みの感謝ミサが行われます。

（大名町教会「恵みの一世紀を感謝して」写真展は1月7日（日）まで大聖堂で開催中）

大名町教会信徒

「信徒宣教者」を知って

日本の国際協力委員会の中にカトリック信徒宣教者会（運営委員長＝池長潤大司教）という団体がある。この会は、信徒宣教者を養成し、第三世界の各地の求めに応じて、信徒を派遣する事を目的としている。派遣される信徒宣教者は異なる環境、価値観の中で当地の人々と同じ言葉を話し、人々とともに生活し、理解を深め、学び合い、喜びや悲しみを分かち合って生きることを使命としている（「信徒宣教者会」誌から）。

現在派遣されている信徒宣教者は13人で、ロシア、中国、カンボジア、ベトナム、ネパール、パラオ、東ティモールなどの7カ国で活躍している。

信徒宣教者は、現地からの要請に応える形で、過去に日本と関係があった場所、司祭や修道者が入りにくく、信徒の方がより入りやすい場所へ派遣される。

派遣に先立ち、研修生は共同生活をしながら、講義にあずかり、滞日外国人とのふれあい、農村での研修、長期研修旅行など7カ月間の養成を受ける。

現地に赴いた後、約半年間の語学研修を受けた後、実際の活動に入る。

福岡教区からは小郡教会の棚町久美子さんが1998年からカンボジアの首都プノンペンで活躍している。棚町さんはもうひとりの日本人と二人で、プノンペンのごみ集積所を中心に特に子どもたちが少しでも衛生的に生活できるように衛生教育を行っている。ここの住民は、ごみの山の中からリサイクルに可能なものを集め、それを売って生計を立てている。かれらは日夜働きづめで、しかもごみの周辺やその上に住んでいて衛生状態は最悪。そこで、食事の前には手を洗うとか、水は沸かして飲む等の簡単なことから教えていくことになる。他に、識字教育、わずかな収入でも将来への蓄えになるように貯蓄による生活設計なども教えている。

この他、唐津教会出身の大塚理映子さんが現在研修生として東京・松原にある研修所で共同生活をしながら養成を受けている。大塚さんは1995年にNGOのスッタフとしてタンザニアやケニアに行ったこともあり、活躍が期待されている。

信徒宣教者会では、信徒宣教者として派遣されることを希望する人を、毎年8月ころに募集する。

応募の条件は①年齢21歳以上②受洗後3年以上③社会人として2年以上の生活体験がある④基礎的な英語力などとなっている。

その他、活動を支援する寄付を受け付けている。

［郵便振替］

［口座番号］００１７０・１・１７８１１４

［口座名］カトリック信徒宣教者会

事務局：〒135-8585東京都江東区潮見2-10-10日本カトリック会館☎03・5632・4480

［e-mail］jlmm@jade.dti.ne.jp

教区広報部

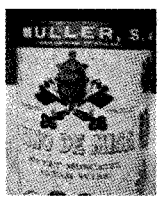
2000年待降節　黙想会と祈りの学校

① 3月2日(金) ～ 4日(日)　平山　高明　司教様
★ 3月9日(金) ～ 11日(日)　来住　英俊神父《祈りの学校：神様のゆるし》
② 3月16日(金) ～ 18日(月)　ガブリエル神父
③ 3月23日(金) ～ 25日(日)　マテオ神父

①～③と★　16：00受付～最終日昼食後迄　／会費：18,000円
※　部分参加をご希望の方はご相談下さい。

福岡黙想の家　〒811-4155 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222 FAX 0940(32)3385

ミサ用ワイン



ヴィノ　デ　ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社　大楠酒店
ヨハネ　青木　彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

サン・スルピス大神学院祭
卒業生が集い金祝・銀祝を祝う
11月21日

福岡サン・スルピス大神学院（大山悟院長）の神学院祭が、11月21日（火）に行われた。

毎年恒例の行事だが、昨年は西日本宣教司祭大会と重なって中止されたため二年ぶりの神学院祭となった。六十人近くのこの大神学院卒業の司教・司祭を始め、宣教会・修道会関係の司祭が集い、主の食卓を囲んだ。



ミサを司式したのは4月に長崎教区から大神学院のスタッフとなり、6月12日教皇から大分教区長に任命され、10月1日に司教に叙階されたばかりの宮原良治司教が執り行った。宮原新司教はミサのはじめに、「わたしが司教になる際、お祈りや様々な形で協力してくれた皆さんへの感謝の気持ちを込めてミサをささげます」と語った。

このミサの中では、司祭叙階金祝（50周年）、銀祝（25周年）、10周年の司祭を特別にお祝いした。金祝で、説教を担当された長崎教区の原塚正人神父は、神学生を前にして、「自分にもこんな時があったんだと感じています」と入学した当時の思い出を語りながら、50年目を歩む今の心境を分かち合った。

また、25周年、10周年の司祭の代表もそれぞれの心境を挨拶し、参加した司祭たちも、自分の司祭職を見つめ直す機会となった。ミサ後に祝宴が催され、お互いの親交を深めた。今回、特に目を引いたのは、新しく聖堂内に作られた納骨室に安置された恩師ツルデル神父の前で、静かに祈る教え子神父たちの姿が見受けられ、感じ入るものがあった。

パストラルケア研究会で介護保険を学ぶ

去る12月3日、福岡サンスルピス大神学院において、福岡市東区にある中村病院院長、中村吉彦先生による介護保険についての講演が福岡カトリック・パストラルケア研究会（井上重子代表）の主催で行われた。介護保険ということばを耳にしながらも、その実態が分からなかった参加者は皆、中村医師のわかりやすい説明に真剣に聞き入った。高齢化社会となり従来の健康保険では保険料をまかないきれなくなり、平成12年に介護保険が導入され、介護の為にはこの介護保険より支給される事になった。介護保険制度は40歳以上の人が対象となり、40歳以上の人はすべて介護保険料を支払うことになる。40歳以上の人で初老期の痴呆や脳血管疾患など老化にともなう病気が原因で、日常生活をおくるための介護や支援が必要となった時、介護サービスを受けることができる。

介護サービスは介護の必要とされる度合いに応じて受けることができる。介護度合いが重いほどサービス費用も高くなる。その費用は介護保険から支払われ、利用者はサービス費用の1割を負担するだけでよい。その他、個人的なものは個人出費となる。

介護サービスを受けたい人は区役所に申請し、訪問調査と主治医の意見書を受け、これらの情報を元に介護が必要であるかどうか、必要ならどの程度であるかの認定が行われる。その後、介護のための計画書が作成され、利用者の同意のもとにそのケアが実行されることになる。

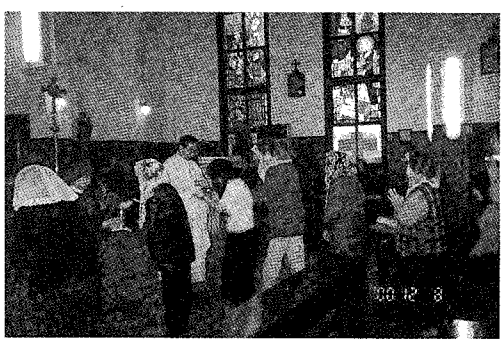
具体的介護サービスは在宅で行われる場合と、施設で行われる場合がある。どこの施設へ入所するかはケアマネージャーと相談しながら、自分で決めることが出来る。

また講演においては介護認定の難しさやケアマネージャーの中立性など、介護保険制度の今後の課題についても言及した。

師イエズス修道女会
信徒と一日黙想会
12月8日

師イエズス修道女会では、大聖年もあと一か月、待降節という恵みの時をより豊かにするために、そして「21世紀を迎えるキリスト者としてどんな生き方が求められているのだろうか」こんなテーマで、12月8日・無原罪の聖マリアのご保護のもとに一日静修の時を過ごした。

指導司祭は、自ら早くからパストラルケアに関わっておられるサン・スルピス大神学院院長の大山悟神父である。講演の中で、種々の角度からの話があり、まず社会人としてのキリスト者のアイデンティティーの形成について、常に病んでいる社会とこれからの社会を分析した。このような社会の中に生きている私たちに求められていること、次に家庭人として信仰と信頼、生命に仕えるものとしての愛のあり方を、自分の育った家庭を例に引きながら、家庭とは何か、家庭人として今できることは何かなど、示唆に富む指導を参加者に与えた。



会場は、講話とミサ、ゆるしの秘跡を浄水通教会で、昼食を召命の家にて行われた。

会に参加した一同は、御父の愛、慈しみ、ゆるしの恵みを豊かに注がれた。そして、マリアのようにキリストをまず自分の中にお迎えするために、またキリストを私たちの家庭の中に迎えるために、そしてキリストをこの世界に迎えるために頂いた恵みを噛み締めながら新しい世紀へと出発した。

福岡市 市民クリスマスの集い

今年もクリスマスを前に、熊本市や福岡県宗像市など各地でカトリックとプロテスタント（別れた兄弟たち）との合同企画で、市民と共にクリスマスを祝おうという「市民クリスマス」が盛大に催された。

福岡では、福岡市民クリスマス実行委員会・福岡キリスト教連合が主催して、12月11日（月）に福岡市民会館を会場に「福岡市民クリスマス」が開催された。会場には４００人近くの信者、また信者でない人が集まった。



集いは、賛美歌と聖書の朗読（招詞）で厳かでありながら和やかな雰囲気の中で始った。また、西田リサさん（老司教会信徒）の聖書朗読を受けて、重症心身障害児施設である久山療育園理事長で香椎浜バプテスト伝道所の川野直人牧師が「見えないものを見る」と題してメッセージを述べ、自らの体験をふまえながら、クリスマスの意味を懇々と説いた。またスズキ・メソード福岡支部の子どもたちによるヴァイオリンの演奏が披露され、かわいらしくもすばらしい演奏に集まった人々は聞き入っていた。後半はゲストとしてニューヨークを中心に活躍し、自らもクリスチャンである大倉めぐみさんのポップ調のヴァイオリン演奏やピアノ弾き語り、自らの信仰体験の語らいなどを織りまぜたステージとなり、皆を魅了していた。

宗像では、12月3日（日）に「むなかた市民クリスマス」の合同祈祷会が宗像黙想の家で開催された。合同での祈祷会が行われた後、ベテル・クリスチャンセンターのオルソン牧師によって黙想の家のルルド前に作られた馬小屋の祝別がなされた。また、中島淳一氏による独り芝居「砂漠の商人」が披露され、楽しい一時を皆で過ごした。

生き続けているキリストと共に

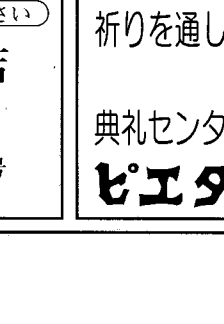


最近の教会の様を見て、私の頭に一つの不安がよぎる。『それはあなたの取り越し苦労ではないの？』と言われてしまいそうだが、それは、去年一年間大々的にjubileoの年・大聖年をお祝いした。そういう特別な時と場に身を置いて、私たちは自分の信仰を高め、その熱い炎を燃え立たせた。しかしそうした歴史的な時を終えて、新たな世紀に飛び出して行こうとしている今、その感動を忘れてしまったというのだから、いかに教会が長い悠久の時を歩んできたかが窺い知れるし、大局を常に見つめて生きている教会の大らかさが私たちを包み込んでくれているということを感じずにはいられない。教会は今新たに自分の歩みの中で残した歴史の足跡を見つめながら、さらに大きく羽ばたこうとしている。前の千年にもまして、今度の千年は更なる大きな希望と、目的を持って、私たち一人ひとりが教会の主人公であるという責任と自覚を持つ必要があるに違いない。今一度冷めて冷えきった私たちの情熱を、燃え立たせてゆこう。

自分たちが生きている喜びを、時代を経ても変わることなく生き続けているキリストと分かち合おう。新たに迎えた千年が実り豊かな歴史の一ページになりますように。

（大神学院　湯淺俊治神父）

BOOK 読みは専科



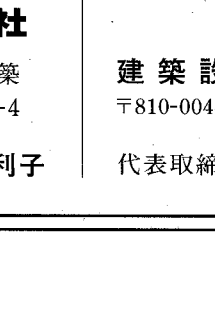
★しあわせなろばのメシャク
リンダ・M・ネルソン 著
中村 妙子 訳
岩淵 慶造 画

だれからも愛された少年イエス。その後の十字架への道すじについて、イエスの身近にいたロバのメシャクが親愛の心をこめて語る。子供の為のイエス伝。メシャクとイエスの生涯生き抜かれたあったかい友情が心を打つ。同時に、イエスの後に従って愛に生きようとする人に何を大切にして、どのようなことを心掛けて毎日を過ごしていったらよいかを指し示してくれる。美しく感動的な物語。イースターにもふさわしいお話。大人にもぜひお勧めしたい。

女子パウロ会出版
本体　一四〇〇円

◇　◇　◇

★みことばの調べ
森 一弘 著



森司教の主日の福音説教集（C年）

私たちは、聖書のみことばをどのように捉えているでしょうか。本書は、著者独特のまなざしによって、みことばそのものの持つメッセージ、響きを味わいます。待降節から王であるキリストまでの年間の主日と、主な祝祭日を網羅した福音説教集です。「カトリック新聞」連載完結！「A年、B年」続刊予定！

サンパウロ　税抜　一〇〇〇円

ジャパンスマイルか
株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092−761−8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計
株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092−711−0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811−7265

感謝と賛美のために
祈りを通して制作
典礼センター ピエタ
祭服．聖器具．聖像
信心用品．ベール．
ロザリオ他
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092−526−9176

大聖年の感謝と新世紀への恵みを祈る

大聖年閉幕ミサ

日時：2001年1月6日(土) 19時
場所：カテドラル大名町カトリック教会
司式：教区長松永久次郎司教
内容：ミサの中で大聖年のお恵みを感謝し、新たな歩みを始めるための教話と祝福

※1999年の主の降誕前夜、教皇が聖ペトロ大聖堂の聖なる門を開いて始った大聖年は、1月6日（土）主のご公現に合わせ門が再び閉じられます。そこで教皇はすべての地方教会が、司教座聖堂で大聖年の閉幕のミサを行うことを望まれました。

福岡教区でもこれに合わせ、閉幕のミサを聖年の感謝と、新しい世紀への恵みを共に祈るため集まるよう呼びかけています。

『一日マリアポリ』in 福岡
「今、福音を伝える」とは
…もう一人のキリストとして生きる…
家庭で、学校で、職場で、、、

日　時：2001年2月12日（月）休日
　　10：00　開場
場　所：福岡サン・スルピス大神学院
参加費：無　料
主　催：フォコラーレ
※昼食持参（受付で注文もできます）
問合せ：☎092-871-4943（高見神父）
　　☎092-761-4504（柴田神父）

カトリック精神障害者の会

『オリーブの会』九州の集い

日　時：2001年3月18日(日) 11時～16時
場　所：大名町カトリック教会
対象者：当事者及び家族
参加費：1000円（昼食代含む）
申込み締切：2月20日(火)
※宿泊の必要な方はご紹介します。
申込み・問合せ：☎092-871-5517(河井)

案内版　会合と催し

福岡黙想の家　1月

◇5日(金) ～ 11日(日)　休館
2月予定
◇10日(土) ～ 11日(日)　御受難会きょうだい会
◇11日(日) ～ 12日(月)　聖母カテキスタ会
◇12日(月)　バプテスト教会集会
◇14日(水)　ミカエル会
◇17日(土) ～ 18日(日)　山口・島根地区信徒養成
◇19日(月) ～ 23日(金)　アウグスチノ会黙想
◇28日(日)　典礼/聖歌といのりの集い
◇27日(火) ～ 31日(木)　ＡＳＩＰＡの会

※お一人でもグループでも心豊かな一日を味わってください。お手伝いいたします。
※二面に広告いたしました「黙想会と祈りの学校」もお待ちしています。
［問合先］黙想の家　☎0940・32・3222　FAX32・3385

生命山カトリック別院

遥かに有明海を望む山頂に生命山はあります。自然と静寂の中で祈りましょう。お待ちしています。
※祈りの集い
テーマ：本当にこの人は神の子だった
・1月11日(木) 10時～15時
・2月8日(木)
指　導：F.ソットコルノラ神父
　　古川和雄神父

※生命山の霊性
自　然：神はすべてを創り、人の手に委ねられた。
自　然：陽が昇るところから、陽が沈むところまで。
静けさ：沈黙の中に神の言葉を聴こう。
交わり：信仰体験を分かつ。

［問合先］生命山カトリック別院
☎0968・85・3100
FAX 0968・85・3186

1月のこよみ

1日（月）　神の母聖マリア　元日
　†G.ロー（人吉教会1950）
　世界平和の日ミサ（大名町教会10:00）
　新成人の祝福［鳥栖教会］
2日（火）　†J.ドノフ（菊池教会1985）
　†ヨゼフ牧山藤房（司教館1993）
4日（木）　†E.モーゼ（八王寺本部1998）
6日（土）　福岡教区大聖年閉幕ミサ（大名町教会19：00）
7日（日）　主の公現
　†T.フィッシャー（人吉教会1998）
8日（月）　主の洗礼　成人の日
10日（水）　司祭新年の集い［浄水通教会11：00］
14日（日）　年間第2主日
　豊津教会創立50周年・献堂式
　†A.ハルブ（崎津教会1945）
18日（木）　キリスト教一致祈祷週間（25日まで）
　†J.M.マルタン（大牟田教会1975）
19日（金）　†J.ツルデル（大神学院1999）
　†L.ガルニエ（大江教会1941）
21日（日）　年間第3主日
　福岡ホスピスの会（カテドラル14:00）
　小郡教会献堂式
28日（日）　年間第4主日
　カトリック児童福祉の日（献金）
　浄水通教会堅信式
　生と老い、死を見つめる会（カテドラル14:00）

2月
2日（金）　主の奉献
4日（日）　年間第5主日
5日（月）　日本26聖人殉教者

◆福岡

■大聖年閉幕感謝のミサ
［日時］1月6日（土）19時～
［場所］大名町カトリック教会

召命祈願ミサ
［日時］1月11日（木）19時15分から［場所］聖スルピス大神学院聖堂［司式者］伊東成晃神父（呼子教会主任）

■典礼を学ぶ集い
［日時］1月21日（日）14時～
［場所］大名町カトリック教会3階［指導］白浜満神父［内容］典礼と音楽［参加費］600円
［問合先］☎0940・33・8122井上

■ヨアキム・アンナ信心会
［日時］1月18日（木）毎月第3木曜日9時20分［場所］高宮カトリック教会［指導］小池如安神父［内容］ロザリオ・黙想・ミサ［問合せ先］☎0922・533・2326小田部

■テゼの集い
［日時］1月19日（金）19時
［場所］笹丘教会［指導］植松功師［内容］テゼの歌と祈りと黙想［参加費］学生500円／一般1000円［問合先］☎092・761・4504 Fr柴田

■SE・Coの新年会
［日時］1月20日（土）10時30分から［場所］聖心のウルスラ宣教修道会・会議室［会費］1000円（昼食代共）［申込締切］1月17日（火）まで［問合先］581・6838龍：574・3787山下：512・0033 Srフェラリス

■第27回典礼聖歌講習会
［日時］1月14日（日）13時から［場所］光丘カトリック教会［講師］深堀純氏（大名町教会）
［問合先］☎092・623・5023有馬

■第82回福岡結婚準備セミナー
［日時］1月17日（水）～2月10日（土）全8回毎水曜日と土曜日19時～21時30分［場所］カテドラル大名町教会［申込・問合先］カトリック・ファミリーセンター☎092・541・6207 FAX 552・5022

■福岡ホスピスの会勉強会
［日時］1月21日（日）14時から［場所］大名町カトリック教会4階［内容］遺族へのアプローチ（Ⅱ）［講師］三木浩司医師（小倉記念病院神経心療科主任部長）［参加費］会員500円／一般700円［問合せ］☎092・737・3701ホスピス事務所：次回3月18日

■召命を共に祈る会福岡
［日時］1月25日（木）14時
［場所］召命の家

■在世フランシスコ会集会
［日時］1月28日（日）14時～16時［場所］高宮カトリック教会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習［指導］小池如安神父［問合先］☎092・843・5831岩崎

■福岡生と老い死を見つめる会
［日時］1月28日（日）14時～
［場所］カテドラル大名町教会
［内容］介護保険について［講師］平野頼子先生［問合先］☎092・713・8523大山：092・607・6992村尾

■聖テレーズの著作を読む会
［日時］1月28日（日）14時～15時30分［場所］カルメル会修道院［世話人］城島暁☎092・731・3723

■美野島司牧センターのお願い
衣類・毛布のカンパをお願いします。せっけん・ハブラシ等洗面用品。越冬炊き出しの季節になりましたのでそちらのカンパもよろしくお願いいたします。
［問合先］コース神父☎092・431・1419

◆北九州

■小倉祈りの集い
［日時］1月16日（火）13時30分～15時［指導］マテオ神父（御受難会）［場所］小倉教会信徒会館2階［内容］「みことばをあじわい祈る」［問合先］☎093・452・1556安藤

◆佐賀

■聖書を読む会
［日時］毎月第1木曜日、午前の部10時～11時半／午後の部19時半～21時［場所］佐賀カトリック会館［内容］苦しみについての聖書の教え［講師］A・アレグリーニ神父［テキスト］聖書［参加費］無料［問合先］☎0952・23・4754阿南

◆熊本

■第64回熊本結婚準備セミナー
［日時］1月23日（月）～2月20日（火）毎月曜日と火曜日19時～21時30分［場所・問合先］手取教会☎096・352・3030 FAX 352・1515

編集後記

主の降誕と新年のお慶びを申し上げます。今年も「カトリック福岡教区報」をよろしくお願いいたします。
いよいよ大聖年も閉幕し、新しい世紀が始まりました。皆様にとって、希望の年、喜びの世紀となりますよう、編集部一同お祈り申し上げます。特に、これから新しい世紀を担う若者や子ども達に期待し、応援していきたいと思います。
しかし、新世紀は大きな希望と喜びだけでなく、たくさんの課題を背負っていると皆さん実感していると思います。社会に目を向けると様々な事件や課題が目に映ります。これについて、元旦の新聞では大きく特集を組み、多くの話題や課題が連日新聞やテレビで取りあげられ、社説や問題の分析など多角度から示唆を与えています。これがマスメディアの務めな訳です。
福岡教区としても、様々な問題、課題を持ち、行事や企画が計画され、これからも実行されていくことでしょう。それに対して、教区報としても取り組んでいかなければと決意を新たにしています。一般の日刊紙のように、本来なら教区全域での出来事の報告、さらには、教区民が感じている種々の問題感、興味あることを紹介したり解説したりして、教区の人々に投げかけるのも大切な役割となればと願っています。しかし、これがなかなか難しい。スタッフ不足は深刻な問題です。私と深堀さん、コンピューター入力手伝いのパウロ会のブラザー牧山だけでは、理想は高くとも、現実は限界があります。その良い例が、行事予定が少なくて編集後記欄がこんなに長い…。実際、最近の行事予定欄や記事を見ても、教区報と言いながら、福岡地区の新聞だと言われかねない状況です。
どうぞ、皆さん、特に若い方（と思っている方も）一人ひとりが記者だと思って、記事や情報を送ってください。新聞社のように、こちらだけで情報を集めること、まして取材に出かけるのは現体制では不可能に近いのです。福岡・佐賀・熊本の3県からなる私たちの教区の新聞です。どうぞ遠慮なく御協力下さい。お待ちしています。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者 ペトロ 平田　清

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所 大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

FUJIKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長 大森　周　福岡支店長 多田泰幸

カトリック 福岡教区報

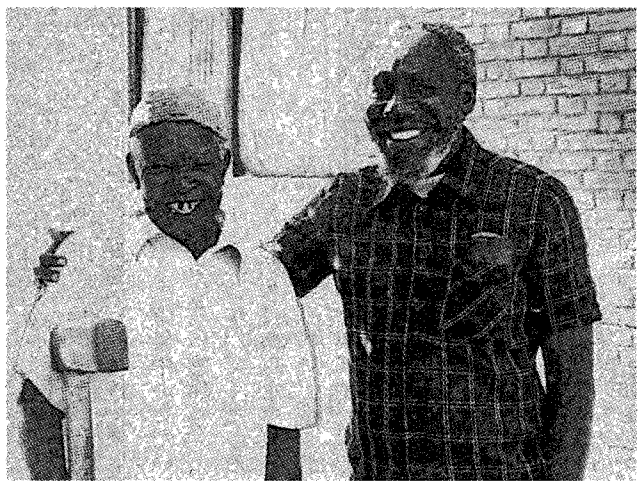
松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　田中重治
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう
【一般の意向】子どもを兵士にしてはならない
【布教の意向】福音宣教の手段である家庭
【日本の教会の意向】病者への慰め

世界病者の日（ルルドの聖母）

新しい福音宣教と苦しむ人の尊厳



「すべての人の健康」を促進することは、国際社会の全メンバーにとって第一の務めです。さらに、キリスト者にとっては内的な深いところで、自分の信仰のあかしにかかわる義務であります。キリスト者は、いのちに対する尊敬を促し、これに反する誘惑、人工妊娠中絶から安楽死に至るまでのあらゆる誘惑を退けながら、いのちの福音を具体的な方法で宣言しなければなりません。

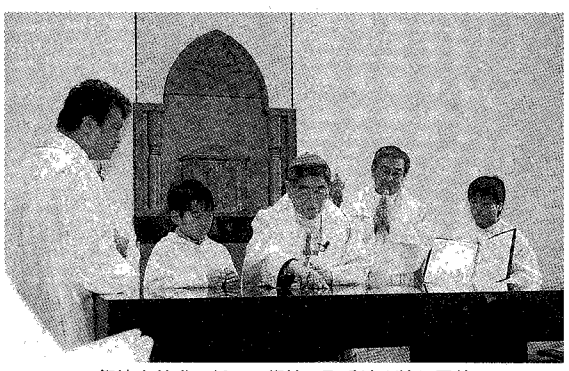
（「世界病者の日」教皇メッセージから）

大聖年記念事業完成

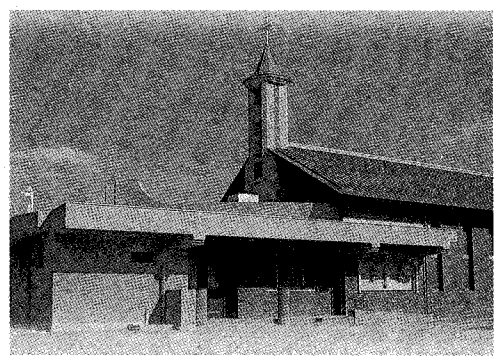
小郡教会 二つの教会を新築 豊津教会

行橋教会巡回の豊津教会が50周年を迎え新聖堂を建設

福岡教区の大聖年の記念事業として二つの教会の建築が進められてきたが、この1月相次いで完成の喜びを祝う事となった。豊津教会ではさらに50周年に当たることから信徒や主任司祭の深い心意気が伺われた。小郡教会でも遺跡の出土などで遅れていた工事も終わり、不便さを凌いでいた信徒の喜びは大きなものとなった。



祭壇奉献式で新しい祭壇に聖香油を塗る司教



小雪の舞う1月14日（日）、豊津教会（主任川上惣一神父、行橋教会巡回）創立50周年記念感謝ミサと新聖堂献堂落成式が松永久次郎司教を迎えて挙行された。あいにくの天気にも関らず、初代主任司祭のパリ・ミッション会のピエール・デュノワイエ神父（現・パリ日本人センター所長）をはじめ、歴代の主任司祭や近隣の司祭など、25人の司祭など、ら会いのもと行われた。ミサが始まり、入堂の後水の祝福式が行われ、新聖堂と集う人々に聖水が注がれ、清められた。また、新聖堂の祭壇は石造りの固定祭壇のため、教会法にのっとり奉納の前に祭壇奉献式が行われ、連願に引き続き、司教による荘厳の奉献の祈りの後、祭壇の中央と四隅に聖香油が塗られ、引き続いて献香がなされた。そして、真新しい祭壇布とろうそくが準備されると、司教によって祝福されたろうそくの火によって祭壇のろうそくに火がともされた。

ミサに引き続いて行われた記念式典の中で、主任司祭の川上神父は建物の教会はこうして完成したが、本当の完成はこれから、つまり私たちの信者としての歩みによって完成されていくと信徒を激励した。

式後、公民館に場所を移して開かれた祝賀会では、参加した歴代主任司祭がそれぞれ個性的な挨拶、この日のために練習した、豊津・行橋教会婦人精鋭約30人によるコーラス、教会学校の子ども達を中心とする、自分たちの先祖である五島のキリシタン殉教劇も披露された。

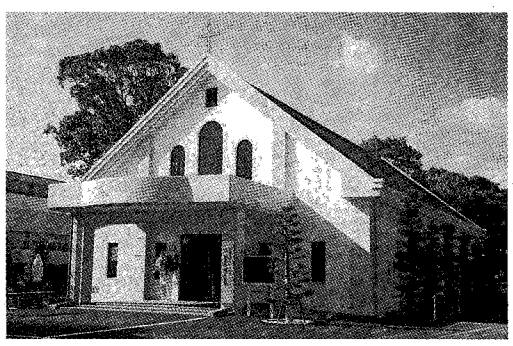
豊津教会は、1926年に新田原の地にトラピスト修道会の分院が創立されたことに端を発する。このトラピスト修道院を援助して欲しいという司祭の要請に応え、五島の信者が集団で新田原地方に移民した。そこで出来たのが先日創立70周年を祝った新田原教会である。そして、豊津地区に移住した信徒のために、1950年に豊津町台ヶ原に仮教会が創立された。1955年に行橋教会が創立されたのに伴い、行橋の巡回教会として正式に設立され現在に至っている。今回の新聖堂建設は、今まで使っていた教会の老朽化と同時に、創立50周年の節目に、先祖が命がけで守ってきた信仰を形にしたいという信徒の熱い思いから、工事に至った。新聖堂は後方部に信徒会館を併設した形である。また、篤志家の寄付により、聖堂の全窓にステンドグラスが取り付けられた。

新築された小郡教会 納骨堂も完成で先祖も身近になった

1月21日（日）穏やかな晴天のもと、小郡教会（主任牧山勝美神父）の新聖堂及び司祭館の献堂落成式が松永久次郎司教司式で執り行われた。当日は、小学校六年生までこの教会で過ごした牧山美好神父（大名町教会助任）をはじめ近隣の司祭など7人の司祭と120人ほどの信徒・修道者が集い、新聖堂の完成を祝った。

ミサの説教の中で、松永司教は聖堂は神様への祈りが形になったもの、人々が集まって祈りをささげる場所、そこに入る人が祈りたくなる雰囲気の場所であることを説いた。また、大聖年のお恵みの中でこの教会が完成したのであり、この信仰の恵みを次の世代に伝えながら、新聖堂が人で一杯になり狭くなったというようになって欲しいと信徒を励ました。ミサに於いて新聖堂と祭壇が祝別され、拝領祈願後、信徒の熱望により内陣左横に併設された納骨室の祝別が行われた。

ミサに引き続いて行われた落成式では、建設委員長の井上さんから工事の経過報告。続いて挨拶に立った司教は、この教会が神の栄光の場、愛徳の場、まことの幸せの場となるようにと述べられた。



ミサを終えて新聖堂を退堂した司祭団が見守る中、引き続いて新司祭館の祝福式を行い、祝福の祈りの後、司教は建物の中に聖水をまいて祝別した。この新しい司祭館は一階部分が信徒の勉強会や会議が出切る広い会議室と応接室となっており、司祭のための生活空間は、台所も含め、すべてが二階部分に配置された構造となっている。

今回の工事は、信徒総会に於いて、旧聖堂の老朽化と今後の信徒増への対応など、あわせて、自分の教会に納骨堂があれば先祖に気軽にお祈りできるので納骨堂を自分たちの教会にという信徒の熱望で、納骨室が併設されることも決まった。主任司祭の牧山勝美神父も多大な寄付と同時に、自ら本を出版して販売し、その収益金を建設資金にすべてまわすなどして、信徒を物心両面から支えた。教区としても、大聖年の記念聖堂として、大聖年中の完成を目指して工事を指示し、12月に完成、そして今回の祝福式を迎えた。なお、旧聖堂は今後信徒会館として活用していくことになった。

寺濵亮司神学生 朗読奉仕者に

日時：3月10日（土）14：30
場所：久留米教会
※朗読奉仕者は典礼集会において神の言葉を朗読するのを任務とする。

司祭異動

▽天神町教会主任＝H・キニュウ神父（光丘教会助任）▽天神町教会協力司祭＝J・バイヨ神父（光丘教会主任）▽パリ外国宣教会八王寺本部＝M・ラバルタ神父（天神町教会主任）いずれも1月21日付け。尚、光丘教会は当分の間、青木悟神父（召命の家）が担当する。

時の話題

煙草もう一度考えて！

宗信夫

教会は、社会問題についてカトリックの立場からいろいろ指導してきた。その例が、中絶や避妊問題だと思う。今、タバコについても考える時期だと思う。

従来タバコは、嗜好品とか、個人の習慣と考えられてきた。最近の研究調査でタバコの害が明らかになった。タバコは吸う本人の寿命を縮める。吸わない人は受動喫煙になり、7人に1人が殺されている。死因は癌や心臓病、乳幼児の突然死などなどである。けっしてない。排気ガスやレントゲンなどの安全基準の数十倍から数十万倍もタバコの方が危ないのである。健康以外にも火災をはじめとし、死亡や病気による社会的負担などタバコを吸わない人に多くの負担を強いている。

十戒には殺すな、盗むなとある。タバコを吸うことはこの二つを破ることになると思う。しかし、ことが簡単でないのは、本人が分かっていても簡単に止められないところに問題がある。意志の問題と簡単にかたづけられることではない。

このようにタバコは多くの難しい問題を抱えている。タバコは自殺行為であり、殺人行為であり、社会の人の財産を損なう泥棒行為である。また止めるのも難しい。今、教会もタバコに対する問題を検討する時期ではないだろうか？

一度にいままでの常識を変えることは簡単にはできない。しかし、折に触れ考えてみなくてはいけないだろう。

西新教会信徒

みちくさ

「雪が溶けると水になる」とも云うが、「雪が溶けると春になる」という云い方もある。どちらとも正しいと思うが、どちらが真実であろうか▼雪が溶けて水になるのは科学的な物の表現だけれど、「春になる」という云い方には春を待つ心が伺われる様な気がする。暮らしの心とも言えるものだろうか▼田舎で猫一匹とひよこ三羽を一緒に飼っていたら何匹になるか、とたずねたら、猫一匹と答えるのが普通であろう。猫が三羽のひよこを食べてしまうからである。数学は数学である。現実は数学と違う結果を出すことが少なくない▼分かち合うことが大切な時代とされ、IT革命が必要時代と云われるようになった。だが、情報を正しく使いこなす真の心の革命が何よりも必要ではなかろうか。情報伝達がスムーズに行ったとしても、すべてが善く運ぶものだろうか。分かち合う愛があり、状況が整えられてこそ、真に人々の幸せにつながることは実現していくのではなかろうか▼一人扶持は食べられないが、二人扶持は食っていける、とか云われることもよくある。独身のとき、一人ではどうしようもないが、結婚して二人になると何とか生活していけるというのである。別に外的状況が特に大きく変った訳ではない。だが二人で工夫して、思いやりの心を合わせて、困難を乗り越えていけると云うのである▼「愛情は食べられない」とよく云われる。だけど愛情はしばしば、食べる以上の物を工夫し作り出すのである。愛は創造的な力をもっていることがすくなくないのである。新しく訪れた二十一世紀に、数学を越える愛の創造力に期待したいものである。（M）

カテドラル

大聖年六百人で閉幕ミサ

1月6日

1999年の主のご降誕前晩、聖ペトロ大聖堂の聖なる扉が教皇ヨハネ・パウロ2世によって開かれて始まった大聖年から1年。



洗礼の恵みを思い起こす聖水を注ぐ司教

終了・閉幕ミサが1月6日（土）主の公現の前晩にカテドラル大名町教会でささげられた。これは、主の公現のミサの中で教皇が聖なる扉を閉じるのに伴い、その前晩に地方教会では大聖年終了のミサをささげ、大聖年中いただいた大いなる恵みに感謝し、これからも共に歩いてくださるキリストと共にあらたな気持ちで歩み出すために、地方教会でもカテドラルにて教区司教によって閉幕ミサを行うように望まれたので、急きょ執り行われることになった。

当日は土曜の夜にも関わらず教区長松永久次郎司教を始め、20人強の司祭と600人を超す信徒が集まった。ミサに先立って、ローマで、指定の近隣教会に全員が集結し、カテドラルまで行列する式にならい、一階講堂に全員がろうそくに火をともして集結し、開始の儀が行われ、2階のカテドラル聖堂まで全員で行列した。

行列後、主の公現と洗礼にならい、伝統的な聖水の式を回心の儀にかえて行い、司教が聖堂内を回って聖水を散布し、回心の心を強め、自分達の受けた洗礼の恵みを思い起こした。また、福音朗読に引き続いて、伝統的に主の公現のミサの中でその年の典礼暦年の中心であるイエス様が弟子たちと最後の晩餐をし、十字架につけられ、葬られ、復活した聖なる3日間、中でも、その頂点である主の復活の日（4月15日）とそれに伴う主な祝祭日の発表が行われるので、それにならって、西新教会主任の平田敬神父によって朗々と告知がなされた。

説教の中で、松永司教は大聖年、そして二十世紀がこれで終わるが、この恵みの年に頂いた恵みをもって、同じ心で、ゆるし、支え合いながら、新しい世紀を生きること、そのために、自分自身が何か特別のことをするというのではなく、平和に穏やかな心で毎日の生活を平穏に、心を柔和にして過ごすように諭し、そして「キリストの招きに応えこの一歩」とした今年の教区目標を示して、忠実な僕として、主であるキリストに従って歩み、信用に値する僕となろうとマリア様の取り次ぎを求めながら話された。

拝領祈願後、太聖年の恵みに感謝して全員でマリアの賛歌（マニフィカト）を歌った後、これからの司牧目標について、松永司教のメッセージを教区事務局長の青木悟神父が代読し、大聖年は終わるが、私たちの歩みはキリストと共に終わりはない。これからが新しいスタートであり、確実に前進し続けようと信徒を激励した。最後に荘厳な祝福がなされ、こうして大聖年は幕を閉じた。しかし、それぞれは新たな希望に満ちて派遣されていった。

大聖年記念カトリックフェスティバルから

アンケートに見た信徒の希望と決意

教区信徒協は、昨年11月3日に「語りかけよう、心を開いて」をテーマに久留米の信愛女学院で開催したカトリックフェスティバルの反省や決算を行った。当日のアンケートや参加者の声も検討、決算書と合わせ、報告書が出された。

フェスティバルの開催に関して

フェスティバルを待ち望んでいたと言う声が多く聞かれました。子供達からはもっと明るく楽しい企画を開催してほしいと言う要望がありました。こうした多くの信徒の要望を受けて、フェスティバルを定期的に開催し、信徒、特に青少年の養成の場として活用してはどうかと検討をはじめています。

現在挙がっている案としては、11月3日は教区デーとして、4年に一回フェスティバルを開催する。2年ごとに「召命の集い」を開催する。

信徒の生涯養成に関して

信徒の生涯教育を実行していくには、一つの小教区の力を超えるものが多く、小教区の枠を越えた対応が欲しい、との要望が数多くありました。

小教区毎に取り組みがまちまちで、要理や聖書を学ぶ機会にも差があるのは確かです。この状況の是非を求める要望が届いています。

小教区制について

現行の小教区制が今のまま維持できるかどうか、不安を抱え、疑問視する声も多く届いています。見通しが定かでない中で、将来を見据えた制度の見直しを要望する声が多いようです。

青少年の信仰教育

フェスティバルでは多くの青少年の参加がありました。その様子から、教会はただ待つのではなく、積極的に働きかける姿勢が必要だとの指摘が、当然のことながらありました。

青少年の信仰教育の問題は教会全体の問題でもあり、計画的、長期的に取り組む姿勢が必要でしょう。

そのための専任司祭を置き、教区・地区・小教区が連帯しあう組織作りをしてほしい、と要望しています。

教区の運営に関して

教区のいろんな問題について、司祭、信徒が一体となって協議する、教区運営委員会を設置してほしい、との要望が寄せられました。

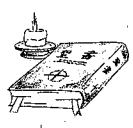
「司祭の高齢化、減少が進む中で、いろんな問題提起はされても、その解決をどのように進めるのか、方向性が示されていない」との現状認識に立って、司祭、信徒が一緒になって考える場が必要だとの要望です。

フェスティバルの収益金は二ケ所に分けて美野島司牧センターに178、666円と東チモール支援金に178、000円が送られた。

新しい福音宣教とは何か

新しい福音宣教⑩

G.ケルクマン神父



私たちは、福音宣教に協力できるように、自分の信仰の喜びを育てなければなりません。そしてそのためには「祈」りがもっとも大切なのです。

祈りの場はおもに二つあると思います、教会での祈りと家庭における祈りです。もちろん、一番素晴らしい祈りはごミサです。

ごミサはキリストとの出会いの場でもあり、キリストを信じる人々の共同体を体験する場でもあります。キリストの大きな恵みと共同体の励ましは私たちの信仰の支えと力になります。

そのためには、信徒は教会の中でお客様として行動してはならないと思います。教会は決してクラブのようなものではありません。

皆さんは教会の建物の中に入るときに、自分の家に入る気持ちで入ってもらいたいのです。その家はキリストに出会う心を育てるところです。そして、そこで祈ったり、聖書を読んで味わったり、典礼に参加したりして、司祭の心も信徒の心も鍛えられるのです。

キリスト教を勉強したり、聖書を研究したりすることも必要でしょうが、その目的はキリストに出会うことです。かれが私たちの力の泉です。

家庭の中の祈りも大きな力になると思います。

ある家庭は毎日、夕の祈りを皆で一緒に唱えます。毎晩9時頃、お父さんが帰って来た時に家族全員が、大人も子どもも、家庭祭壇の前に集まり「毎日の黙想」という本からその日の箇所を読んで、共同祈願の形で夕べの祈りをしているそうです。

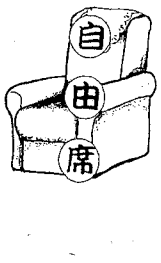
家庭の中で宗教的な雰囲気を作ることはとても素晴らしいものです。家族が一緒に祈る家庭の証は家の外までも影響があります。

私たち一人ひとりが本当の「世の光」になることが、社会の福音化の始まりでもあります。

イエズス会師・泰星学園教諭

カトリックフェスティバル決算報告書

収入の部		支出の部	
福岡地区信徒協	2,701,200	交通補助	2,851,230
北九州地区信徒協	2,045,800	大会運営費	60,294
佐賀地区信徒協	466,400	広　報	853,375
熊本地区信徒協	797,600	謝　礼	696,800
福岡教区信徒協	100,000	会場設営費	1,528,914
献　金	563,417	レンタル費	105,000
北九州地区信徒協年末街頭募金	200,000	食事コーナー	66,150
		子どもの広場	189,093
その他収入	126,430	国際広場	100,000
		体験発表・相談コーナー	20,367
		修女連	30,000
		休憩室	49,273
		その他支出	93,685
合　計	7,000,847	合　計	6,644,181



召命祈願のミサに参加して思う

内藤さとみ

私利私欲に走る人の多い中、ここの皆さんは何と爽やかで清冽なのでしょう。訪れる度にいつも心洗われます。こんな風に生きている人達がいる事を三人の子供に見せ、教え、何かを感じとって欲しいと願い「ポケモン」のテレビを見たがる子らを「ジュースもお菓子も出るよ。」と誘い車に押し込みいざ出発。

大神学院の森を抜け正面に現れるステンドグラスの光る聖堂。いつもの教会ではないので少し緊張気味の子らも「こんばんは」と明るく迎えてくれる神学生の笑顔でほぐれる。ごミサの前にフォークソング聖歌集のオルガン、ギター、司会等皆神学生が一生懸命に担い、司式はここの卒業生の若い神父様で心に響く説教。彼らを養成されている司祭団と祈り支えておられるシスター達と共に祈れたごミサは本当に光と熱に満ちた一体感に包まれるとても素晴らしいものでした。そしてカリスから初めて御血をいただいた十一歳の長女が「イエス様の苦しみが伝わってきた…。」と流した涙。ごミサ後の茶話会で食べた大きな干し柿の素朴な甘さ。ユーモア溢れ心優しき神父様や神学生にくっついて遊んでもらった子らは帰り道の車中で「弟は神父にする！」「子供を産んで神父にする！」「シスターになろうかな？」とワイワイ興奮気味に語り母はにやりとし心の中でその想いを大切にと願う。「召命を祈る」という言葉だけではピンとこなかったのだけれど素晴らしい神学生達と出会い彼らが皆み心にかなう司祭になれますように、一人でも多く後に続く志願者をと切に願い応援したくなるこの気持ちが「召命を祈る」ことにつながると実感しました。体を治す医者がいても、心を癒し神と和解し導いて下さる司祭や皆の幸せを祈る修道者がいなければどうして生きてゆけましょう。この方々の為に、私たちが祈り応援せずに誰がするでしょう。一人でも多くの方、子供達がこのミサに参加される事を切に願ってペンを取りました。

（西新教会信徒）

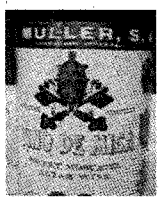
2001年四旬節　黙想会と祈りの学校

① 3月2日(金) ～ 4日(日)　平山　高明　司教様
★ 3月9日(金) ～ 11日(日)　来住　英俊神父《祈りの学校：神様のゆるし》
② 3月16日(金) ～ 18日(月)　ガブリエル神父
③ 3月23日(金) ～ 25日(日)　マテオ神父

①～③と★　16：00受付～最終日昼食後迄　／会費：18,000円
※　部分参加をご希望の方はご相談下さい。

福岡黙想の家　〒811-4155 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222 FAX 0940(32)3385

ミサ用ワイン



ヴィノ　デ　ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）

ご用命　お問い合せは
有限会社　大楠酒店
ヨハネ　青木　彰

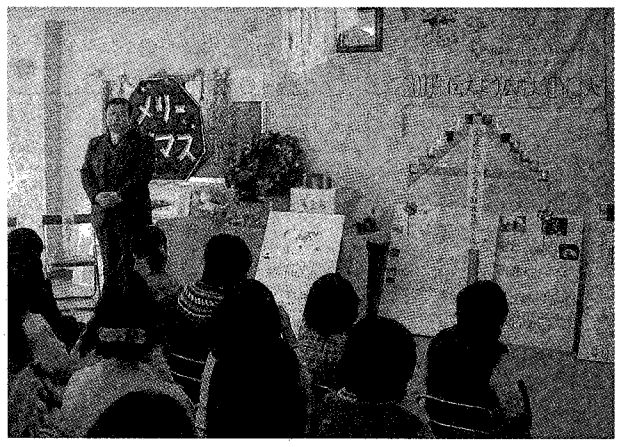
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

北九州CYG（シイグ）めぐみの広場を開催

2000年12月23日

北九州地区の司祭団の協力のうちに、35年目を迎える北九州CYG（カトリック・ヤング・ガール）のクリスマス会が、大聖年の12月23日（土）に福岡教区長松永久次郎司教を迎え、指導司祭で戸畑教会の深堀勝人神父に若松教会の鵜野泰年神父、リーダー13人、会員31人（小倉・湯川・若松・戸畑・天神町）、元会員3人、保護者10人が参加して戸畑教会で開催された。



「イエスさまのおのぞみに、いつもしたがいます」「もはんによって、神の教えを伝えます」「お互いに協力し、たすけあいます」を大切にしながら小学校3年から6年生の女子が集い、子どもの信徒使徒職を実践するために頑張っている。

今回、めぐみの広場ではそれぞれの教会でモンゴルについて本、新聞、インターネットなどで調べ、各教会がモンゴルをパネルで紹介し、感想を述べ、お互いに手作りのもの（お菓子、リース、小物など）を販売し、干ばつと冷害に苦しむモンゴルのため収益金56、580円と寄付金44、400円の合計100、980円をカリタス・ジャパンを通して送ることとなった。このめぐみの広場の後、ご降誕の聖劇タブロー（みことばの祭儀）を全員で行い、クリスマスの心を大切にしながら解散した。大聖年を記念する年に松永司教の参加をいただき、励ましと祝福のうちに会員とリーダーたちは感謝とこれからの歩みへの大きな力をいただいたことはよい思い出となった。

《参加した会員の声》

●モンゴルを調べてみて、一番びっくりしたのは、草原で馬に乗り、走り回っていると思ってたのに、本当は、すごく大変なんだなあと知ったことです。この人たちの生活が少しでも、楽になるようにめぐみの広場の売り上げをモンゴルに送りました。（小4の八郷知佳さん）

●自分たちが作ったのがすごく売れてうれしかった。司教様も来てくださってお話をしてくださった。祝福もしていただいて、お母さんがうらやましがっていた。司教様はとてもやさしそうなおじいちゃんだった。いろんな人と会えたし、楽しい一日だった。どうぞ、モンゴルの人たちにも、おめぐみがありますように。（小3の早田摩耶さん）

北九州地区で21世紀最初の新成人を祝う

『なかよしは主のよろこび』を会のモットーに、三つの約束を掲げている。島の道を車で進んでいくと、みかんの木々の間から人々の住む家が見えかくれする。人々の思いも、はたらきもまた、みかんの木に寄り添っている。夏みかんは、今、大きなまぶしい黄色の実をつけている。



「社会人としても信仰者としても責任と自覚を持って頑張ってください」とのお祝いの言葉に、「幼い頃は信仰者であることを重荷に感じていたが、最近信仰を誇りに思えるようになりました。今からはこれまでのことを皆さんに感謝しながら頑張って歩んでいきたい。」との感謝の言葉と決意の言葉を返す若者の姿に逞しさを感じられた。

また、式の後家族や友人と写真に笑顔で収まっている新成人や、我が子の成長した姿に目を細めて見まもっている母親の姿に時代を超えた微笑ましさをおぼえた。

大名町教会の新成人を祝う集いは1月7日（日）に行われた。参加出来たのは3人。彼らを幼少のころから見知っている人たちの「立派になったね。もう、20歳ね。」などという声には、共同体の家族の温かさに満ちて聞こえた。

ミサの後、教会委員さんとの会食では大人になった晴れがましさを見せていた。

65人の司祭が新年に集う

1月10日



2001年司祭新年の集いのミサが1月10日（水）、浄水通教会でささげられた。当日は60人を超す司祭が集い、主の食卓を共にした。ミサを司式した松永久次郎司教は、説教の中で、司祭が健康であることが一番大切な宣教であるから、体を大切にされ、私たちの父として導いてくださるよう、また我々司祭も健康に注意し司教と共に頑張ろうと挨拶した。引き続いて、新しく福岡教区に着任した方の紹介と挨拶があり、佐賀教会に留守番で来ているジャンピエール・ブルーニ神父（ミラノ会）、手取教会助任として着任したヌエン・スアン・ティエン神父（コロンバン会）、有期誓願で、福岡での修道生活体験と同時に、教区報の手伝いを頼んでいるパウロ会のブラザー牧山康二、2月まで行橋教会にて司牧研修をしている長崎教区の前田達也神学生がそれぞれ紹介された。

中浜一男神父の乾杯によって始められた祝宴は、いつもにもまして盛大かつ和やかな雰囲気のもと、終始にこやかにお互いの親交を深め、希望を新たにする機会となった。

福岡ホスピスの会に山崎広太郎福岡市長から感謝状



市長からの感謝状を受けたスタッフ

ホスピスの会では1月18日（木）に福岡市民病院（博多区）を訪れ、昨年12月4日に行ったチャリティの収益金の一部で購入した緩和ケア用の点滴台5台を寄贈した。市民病院にはボランティアも派遣していて医療者に喜ばれている。この日はホスピスの会の奉仕に対して山崎福岡市長から感謝状が与えられた。

木かげの教会



司祭生活が始まって、2年。毎日が飛ぶように過ぎていく。この時間の流れには、どうにもついていけそうにない。こりゃ困った。これからは大切なものを見失わないように、「ゆっくり、ゆっくり」と自分に言い聞かせながら歩こうと思う。

私は、毎週土曜日の午後、能古島の教会へ行っている。能古では島の斜面を利用して、みかんの栽培が行われている。この輝きの奥に、忘れられない花のにおい、あの濃い緑色をしていた頃の記憶がよみがえってくる。

能古島教会は島の北部にある。オレンジ色の屋根の聖堂は、今年築32年目。小さいが、落ち着いた雰囲気の教会だ。周囲の木が大きいので、その木かげにすっぽりと入る。夏は、照りつける太陽を逃れて木かげに入りこむ。そこでは強い日射しが和ぎ、暑さをしばし忘れることが出来る。激しく雨がたたきつけられている。島の道を車で進んでいくと、みかんの木々の間から人々の住む家が見えかくれする。人々の思いも、はたらきもまた、みかんの木に寄り添っている。夏みかんは、今、大きなまぶしい黄色の実をつけている。この輝きの奥に、忘れられない花のにおい、あの濃い緑色をしていた頃の記憶がよみがえってくる。

能古島教会は島の北部にある。オレンジ色の屋根の聖堂は、今年築32年目。小さいが、落ち着いた雰囲気の教会だ。周囲の木が大きいので、その木かげにすっぽりと入る。夏は、照りつける太陽を逃れて木かげに入りこむ。そこでは強い日射しが和ぎ、暑さをしばし忘れることが出来る。激しく雨がたたきつけられている。島の道を車で進んでいくと、みかんの木々の間から人々の住む家が見えかくれする。人々の思いも、はたらきもまた、みかんの木に寄り添っている。夏みかんは、今、大きなまぶしい黄色の実をつけている。

どこへ行く時も、木かげではやわから

キリストの招きにこたえ この一歩

平和を共に考える2月11日佐賀の集い

日　時：２月11日

◆13：30～13：50
［体験報告］
石司真由美さん
（長崎西高２年：
高校生平和大使2000）
2000年８月21日～30日まで、スイス、ジュネーブの国連欧州本部で、原爆の悲惨さと核兵器の廃絶を訴える。ポツダム会談会場、サンスーシー宮殿、ベルリンの壁を見学。アウシュビッツ絶滅収容所跡、アンネフランクの隠れ家を見学。

場　所：佐賀カトリック教会・幼稚園講堂

◆13：50～15：20
［基調講演］
松浦悟郎司教
（大阪大司教区補佐司教）
テーマ：福音そして正義と平和…現代社会のただ中にあって

◆15：30～
平和を共に祈るミサ
参加費：無　料
主　催：佐賀カトリック正義と平和協議会
問合せ先：
森内慎一郎
☎ 0952-30-9015

『一日マリアポリ』in 福岡
「今、福音を伝える」とは
…もう一人のキリストとして生きる…
家庭で、学校で、職場で、、、

日　時：2001年２月12日（月）休日
10：00　開場
場　所：福岡サン・スルピス大神学院
参加費：無　料
主　催：フォコラーレ
※昼食持参（受付で注文もできます）
問合せ：☎ 092-871-4943（高見神父）
☎ 092-761-4504（柴田神父）

カトリック精神障害者の会
『オリーブの会』九州の集い

日　時：2001年３月18日（日）11時～16時
場　所：大名町カトリック教会
対象者：当事者及び家族
講　師：三木浩司医師（小倉記念病院精神神経科部長）
大山悟神父（福岡サン・スルピス大神学院長）
参加費：１０００円（昼食代含む）
申込み締切：２月20日（火）
※宿泊の必要な方はご紹介します。
申込み・問合せ：☎ 092-871-5517（河井）

案内版　会合と催し

福岡黙想の家　２月

◇10日（土）～ 11日（日）　御受難会きょうだい会
◇11日（日）～ 12日（月）　聖母カテキスタ会
◇12日（月）　バプテスト教会集会
◇14日（水）　ミカエル会
◇17日（土）～ 18日（日）　山口・島根地区信徒養成
◇19日（月）～ 23日（金）　アウグスチノ会黙想
◇25日（日）　典礼 聖歌と祈りの集い
◇27日（火）～ 3月1日（木）　ＡＳＩＰＡの会
３月
◇２日（金）～ ４日（日）　黙想と祈りの学校
※お一人でもグループでも心豊かな一日を味わってください。お手伝いいたします。
※二面に広告いたしました「黙想会と祈りの学校」もお待ちしています。
［問合先］黙想の家　☎ 0940・32・3222　FAX 32・3385

生命山カトリック別院

古川和雄神父

遥かに有明海を望む山頂に生命山はあります。自然と静寂の中で祈りましょう。お待ちしています。

※祈りの集い
テーマ：本当にこの人は神の子だった
・２月８日（木）10時～15時
・３月８日（木）
指　導：F.ソットコルノラ神父

※生命山の霊性
自　然：神はすべてを創り、人の手に委ねられた。
祈　り：陽が昇るところから、陽が沈むところまで。
静けさ：沈黙の中に神の言葉を聴こう。
交わり：信仰体験を分かつ。
［問合先］生命山カトリック別院
☎0968・85・3100
FAX 0968・85・3186

２月のこよみ

２日（金）　主の奉献
越冬炊き出し［大名町教会2月中の火・金］
４日（日）　年間第５主日
５日（月）　日本26聖人殉教者
６日（火）　司祭評議会［司教館別館10:30］
11日（日）　年間第６主日［ルルドの聖母］
世界病者の日・建国記念日
東光町ルルドでミサ［13：30］
14日（水）　†J.オマラ［荒尾教会1974］
15日（木）　†J.ボア［黒崎教会1957］
18日（日）　年間第７主日
本郷教会堅信式
22日（木）　聖ペトロ使徒座
†F.ベルトラン［門司港教会1940］
23日（金）　聖ポリカルポ殉教者
†パウロ糸永武男［今村教会1992］
25日（日）　年間第８主日
老司教会創立25周年記念ミサ
福岡生と老い・死をみつめる会［カテドラル14:00］
26日（月）　今村信徒発見記念日
†F.ドルエ［八王寺教会1983］
†G.オーブリ［大神学院院長1985］
28日（水）　灰の水曜日［大斎・小斎］
†マルチノ青木保［浄水通教会1997］
３月
２日（金）　†R.ミケレ［鹿島教会1988］
†J.オブライエン［手取教会1959］
４日（日）　四旬節第１主日
６日（火）　松永司教霊名の祝い［浄水通教会11：00］

東光町ルルドで司教ミサ

日時：２月１１日（日）13：30～
ルルドの聖母
場所：東光カトリック伝道所ルルド
福岡市博多区東光2-8-75
内容：松永久次郎司教司式のミサ、茶話会など

◆福岡

■召命祈願ミサ
［日時］２月８日（木）19時15分から［場所］福岡サン・スルピス大神学院聖堂［司式者］田中重治神父（司教館司教秘書）

■ヨアキム・アンナ信心会
［日時］２月15日（木）毎月第３木曜日９時20分［場所］高宮カトリック教会［指導］小池如安神父［内容］ロザリオ・黙想・ミサ［問合せ先］☎092・533・2326小田部

■召命を共に祈る会福岡
［日時］２月22日（木）14時
［場所］召命の家

■在世フランシスコ会集会
［日時］２月25日（日）14時～16時［場所］高宮カトリック教会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習［指導］小池如安神父［問合先］☎092・843・5831岩崎

■典礼 聖歌と祈りの集い
［日時］２月25日（日）14時～
［場所］福岡黙想の家（宗像）
［テーマ］四旬節聖週間の聖歌
［お話］鈴木忠一神父［聖歌指導］深堀純氏［参加費］千円

■福岡生と老い死を見つめる会
［日時］２月25日（日）14時～
［場所］カテドラル大名町教会
［テーマ］生老病死の未来［内容］ビデオによる話し合い［問合先］☎092・713・8523大山：092・607・6992村尾

■聖テレーズの著作を読む会
［日時］２月24日（日）14時～15時30分［場所］カルメル会修道院［世話人］城島暁☎092・731・3723

■福岡パストラルケア研究会
２月・３月は休会いたします。
４月から医療の現場で働いている方、病人訪問をしておられる方と共に「看護者、介護者の心」の在り方を深めるプログラムを行う予定です。
［場所］大神学院新館講話室
［問合せ先］☎092・871・4943 sr.箕浦

■福岡ホスピスの会勉強会
勉強会は奇数月の第３日曜日です。病院ボランティアなど希望なさる方、ホスピスについてのご相談など、火曜日と金曜日に事務所に電話か訪問ください。
［問合せ］☎092・737・3701ホスピス事務所：次回勉強会３月18日

■福岡結婚準備セミナー
カテドラル大名町教会での結婚セミナー次回は５月12日から６月６日の毎土曜日と水曜日の予定です　［申込・問合先］カトリック・ファミリーセンター☎092・541・6207 FAX 552・5022

■美野島司牧センターのお願い
衣類・毛布のカンパをお願いします。せっけん・ハブラシ等洗面用品。越冬炊き出しの季節になりましたのでそちらのカンパもよろしくお願いいたします。今の所、女性用の衣類は間に合っています。男性用の衣類をよろしくお願いします。［問合先］コース神父☎092・431・1419

◆北九州

■小倉祈りの集い
［日時］２月13日（火）13時30分～15時［指導］マテオ神父（御受難会）［場所］小倉教会信徒会館２階［内容］「みことばをあじわい祈る［問合先］093・452・1556安藤

■第19回お母さんのつどい
［日時］２月26日（月）10時30分～13時［指導］大山悟神父（大神学院院長）［場所］小倉教会聖堂［テーマ］信仰の喜び［内容］講話とミサ［参加費］500円［問合先］093・962・1395福吉

◆佐賀

■聖書を読む会
［日時］毎月第１木曜日、午前の部10時～11時半／午後の部19時半～21時［場所］佐賀カトリック会館［内容］苦しみについての聖書の教え［講師］A・アレグリーニ神父［テキスト］聖書［参加費］無料［問合先］☎0952・23・4754阿南

◆熊本

■第64回熊本結婚準備セミナー
［日時］１月23日（月）～２月20日（火）毎月曜日と火曜日19時～21時30分［場所・問合先］手取教会☎096・352・3030 FAX 352・1515

編集後記

何とか今月も間に合った…。編集が終わるたびに本当にホッとしています。時間との勝負の中で記事を書き編集する。本当に大変なプレッシャーがあります。その中で原稿を送っていただいたものを元に記事を作ったり、あるいは自分が参加することによって取材して記事にすることがたくさんあるわけです。教区報ですから、新聞として、中立公平、客観的に正しく事実を伝える新聞の記事となるよう、気を使って作業しています。しかし、感想文だけでなく、記事にした文章の場合にも、書く者の感性が出てしまうものです。今月号を読んでみて気づかれた方もおられるかも知れませんが、編集長である私が好きなことの一つが典礼です。そのため、いろいろな典礼儀式を記事にする際、ついつい専門的に説明しようとしたりします。おっとこれではいけないと記事を訂正していくわけですが、やはり私が今回関わった記事はたぶんに典礼臭いもの、視点になっているようです。このような記者や編集長の視点の違いから同じニュースを伝えるのにたくさんの新聞があって読者はそれを選んで購読しているわけです。ところが教区の新聞は唯一これだけ。私の視点に捕われ過ぎないよう、たくさんの方の多様な視点からのニュース、原稿を心からお待ちしております。

越冬炊出し/熱いスープの会

厳しい社会の狭間にいるホームレスの人々に厳寒の２月だけでも温かいスープを届けたいと思っています。
おにぎり作り：15：00～17：00
おにぎり配り：20：30～22：00
※お米、野菜、卵、現金などの支援もよろしくお願い致します。
※作業場所：大名町カトリック教会厨房

COSMOS
スポーツ用品・ＯＡ・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木 67 － 3
ＴＥＬ　0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川３丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

FUJKi
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店　〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　大森　周　福岡支店長　多田泰幸

カトリック福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　田中重治
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般の意向】貧困の根絶とキリスト者の関わり合い
【布教の意向】宗教間の対話と「信仰の証人」による模範
【日本の教会の意向】新卒者の受け入れ

滞日外国人にもっと開かれた教会を目指そう　司祭評議会

2001年度司祭研修会などのテーマも検討

新世紀初め、今年度第3回教区司祭評議会が、2月6日（火）、19人の司祭が参加して開催された。この会議の中で、6月に行われる教区内全司祭の研修会のテーマやフェスティバルの反省、滞日外国人の子どもの洗礼の問題などが討議された。また、信徒のためにゆるしの秘跡の機会を多く出来ないかも検討された。

始めに教区長松永久次郎司教から、21世紀の初めての評議会であり、将来の事を考え、適切な話し合いになるようにと挨拶があった。また、古賀教会に所属しているネオ・カテキュメナートの方々が、信徒のいない大川地区に移り、料理教室などをしながら福音宣教を開始することになったので、見守っていこうと紹介があった。

報告事項として家庭委員会より2月27日に日本司教団が発行する教書「いのちのまなざし」が紹介され、それに伴いビデオや書籍の紹介、性行為感染症（性病）の脅威についての報告があった。

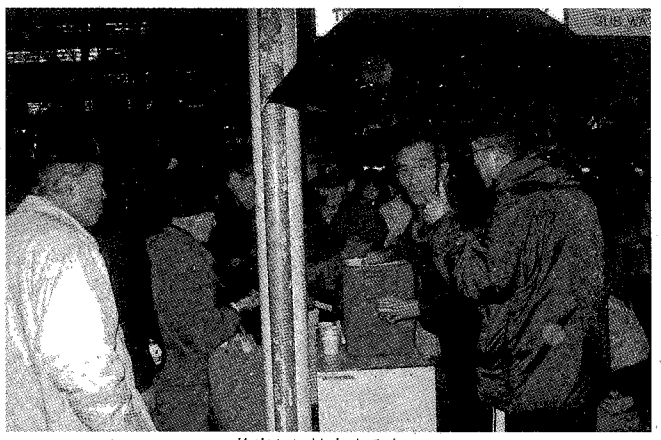
第1議題として、6月26（火）～28日（木）に予定の教区全司祭研修会の内容とテーマについて話し合われた。司祭研修ということで、聖書について取り扱ってはと言う意見が大半を占め、松田清四郎神父（コンベンツアル修道会）が紹介しているASIPAプログラム（生活の中で読む聖書）を主なテーマにすることになった。一方で、生命倫理についても現代は大きな問題であり、今後、信徒を含めた研修を行うためにも、その要点だけでも学ぶ機会をこの研修会に盛り込めないかも提案された。今後、事務局長にその検討が任せられた。

第2の議題として、先日信徒協から出されたフェスティバルの報告書について話し合われた。まず、大神学院が行っている「召命の集い」をフェスティバルに組み込んだ点に無理があったのではないかと意見が出された。大神学校としては、神学生の数が減り（来年度は10人）、神学生だけでは召命の集いを開催できないかもしれないというような特別の時、あるいは、信徒の側から盛り上がって案が生まれた時、開催を検討することが確認された。また、報告書全体に言えることとして、理想は良いが、あまりに現実を無視しているのではないかとの指摘が多く出された。たとえば、今まで教区主催の聖書講座を開いても参加者はほとんどいない、小教区制を見直して自分の教会から司祭がいなくなるとなると不満を漏らす信徒がいるのも事実であるなど、もう少し、教区の現実、特に財政面について信徒に知らせていく必要があると提案がなされた。

第3の議題として滞日外国人の司牧、特にその幼児洗礼の問題が取り上げられ、美野島司牧センターのマルセル神父から、統計によると教区内には日本人信徒の数に対して、実際は20％に相当する外国人信徒がいることが紹介され、具体的な提案がなされた。外国人は、小教区に所属する考えが日本人と違っている点に問題があるのは事実だが、幼児洗礼を望まれた場合前向きに対応するのと同時に、外国語の聖書と典礼やミサの式文の対訳などを数部おくなど、大人の外国人信徒に対する司牧を各教会で前向きに検討することが確認された。

最後に、ザビエル聖遺物が来た時やフェスティバルの際、個別のゆるしの秘跡を受ける人が多かったので、大名町教会などで定期的にいつでもゆるしの秘跡を受けることができる場を設ける必要性が指摘され、今後具体的に検討することになった。

四旬節愛の献金



炊出しに協力する人々

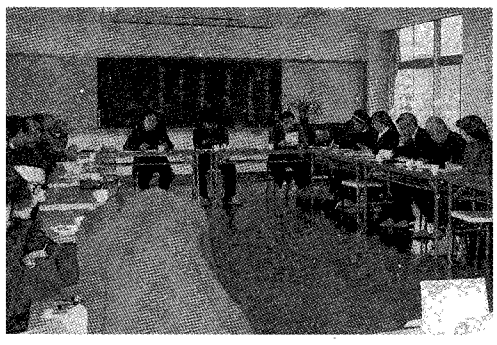
灰の水曜日から聖木曜日・主の晩餐の夕べのミサ前までが四旬節です。四旬節は初代教会から、復活祭の時に洗礼を受ける洗礼志願者の準備の時とされ、やがてすべての信徒にも、復活祭を迎える準備の時となりました。この準備は、断食や愛のわざ、苦行などを通して、洗礼志願者はもちろん、信者にとっても既に受けた洗礼の恵みを思い起こし、その恵みにより良く生きるための回心と償いの時となります。イエス様は自ら十字架を担い、「敵をも愛せ」との教えを実践しました。私たちもイエス様に従うため、回心と和解が必要です。そこから敵き準備の時となります。その一つが四旬節愛の献金です。これは、余っている内から良心の負担をやわらげるため差し出すのではなく、世界に存在する困窮を自分の身に引き受けることですと教皇は今年の四旬節メッセージの中で述べています。

福岡教区幼稚園連盟園長会議開催

39年の歴史を持つ福岡司教区幼児教育連盟（会長　山元眞神父）が、教区内の所属する幼稚園と保育園合わせて59園の園長会議を2月13日（火）、司教館で開催した。年に数回のこの会議では、2年に一度の夏期教職員研修大会について、或いは加入園の悩みの分かち合い、或いは4地区に分けていて各地区の状況披露など幅広く扱い、各各の環境で、どのようにキリストの福音が生かされているか、また、神の民のための園が存続していくためにどのような手助けができるか、さらに教職員と園児への宗教教育はどうかなどを話し合うための場である。

この日も、32園の園長及び園長代理が佐賀、熊本、福岡、北九州から参集し、話し合いをした。来年度8月下旬に唐津のホテルで2泊3日を過ごす夏期研究大会について、そのスケジュールからテーマ、参加方法などを丁寧に討議した。この夏期研究大会の目的はカトリックの園で働くものとして、相応しいカトリック精神を身につけ、お互いの心の通い合いを通して一つに結ばれていることを喜びをもって自覚するためにある。

次に、連盟規約改訂について話し合われ、各方面から意見が出された。規約の目的は、「カトリック福岡教区長の指導を仰ぎ、各園が連帯のうちに、カトリック精神に則り、相互の親睦や交流を通して向上を計り、教育・保育事業に福音の実りをもたらすことをめざすもの」であ



る。これについては来年度中に完成し成文化される見通しである。出席者は知恵者、経験者の集まりでもあり、白熱した意見が交わされた。また会計年度末の報告があった。経営難の園から経営的に悩んでいることや保育の在り方など分かち合う。親身になって考える場でもあった。

時の話題

新しい世紀にこれからの教会の在り方は

富田敦夫

2年の準備の期間を含め大聖年の間、沢山の行事や祈りを通して各々に感じるものがあったことと思います。もともとキリスト教以前から50年ごとの節目を定めた姿勢の中には、私たち弱い人間が必死に生きるうちに、いつのまにか流されて本来あるべき道すじからそれてしまいがちなことを、神の啓示によって知らされたのでしょうか。時には人間の欲をはなれて神の望まれる道に立ち返るべきだとの想いがあったのではないでしょうか。そうだとすると、私たちは「神を愛し、自分と同じように他人をも愛しなさい」と命じられたとおりに弟子たちがスタートした初代教会の姿に、もう一度もどる必要があるかもしれません。使徒言行録には「毎日ひたすら心を一つにして神殿に参り、家ごとにパンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をし、神を賛美していたので民衆全体から好意を寄せられた」とありますが、幼児洗礼を望まれた場合前向きに対応するのと同時に、外国語の聖書と典礼やミサの式文の対訳などを数部おくなど、大人の外国人信徒に対する司牧を各教会で前向きに検討することが確認された。

最後に、ザビエル聖遺物が来た時やフェスティバルの際、個別のゆるしの秘跡を受ける人が多かったので、大名町教会などで定期的にいつでもゆるしの秘跡を受けることができる場を設ける必要性が指摘され、今後具体的に検討することになった。

いま、こんな共同体があるなら、周囲の人々は自分も仲間に入りたいと思うのではないでしょうか。

私は、毎年クルシリヨの手伝いをさせていただいてますが、参加された方の多くが喜びと感謝に満たされ、勇気づけられているのを感じます。それは、クルシリヨでの体験が、初代教会の信徒たちの生活にあい通じるものがあるからではないかと、近ごろ考えさせられています。私たちは自分が属している共同体の素晴しさを見失ってはいないでしょうか。

天神町教会信徒

佐賀教会出身の司祭誕生

受階者：古里慶史郎神学生（フランシスコ会）
叙階式：3月10日（土）
場　所：東京聖アントニオ神学院

新司祭初ミサと記念式典

日　時：3月25日（日）14時
場　所：佐賀カトリック教会

寺濱亮司神学生朗読奉仕者に

日時：3月10日（土）10：00から
場所：久留米教会
※司祭には朗読奉仕者、祭壇奉仕者を経て、助祭叙階後なる事ができる。

司祭異動

▽大名町教会主任＝中浜一男神父（今村教会主任）▽老司教会主任＝浦口均神父（大名町教会主任）▽今村教会主任＝岩永義人神父（本郷教会主任）▽本郷教会主任＝畠山七郎神父（老司教会主任）▽西新教会主任・西新カトリック幼稚園園長＝下町豊重神父（門司教会主任）▽小倉教会主任・小倉カトリック幼稚園・宮の尾カトリック幼稚園園長＝平田敬神父（西新教会主任）▽門司教会主任・門司聖母幼稚園園長＝平田寛神父（小倉教会主任）　3月30日付け

みちくさ

食事の時はテレビを消しなさい。子どもの頃、そのようにしつけられた。そのおかげだろうか、家族一緒に食事をする時、一日の出来事や色々な事など、話は絶えなかった。思い起こせば、食事の時が家族の交わりの場だった。▼確かに、何人かが集まって、会話をはずませながら食事をするのは、一人黙々と食事をするのに比べると楽しいし、たくさん食べることが出来る。実際、そういう楽しい食事は体にも良いという。しかし、独りっきりで食事をしなければならない人もいる。そういう人にとって、テレビが食卓にあると、寂しさもまぎれて良いと思われるわけである。好きな番組をビデオにとっておいて、食事をしながらそれを見れば、時間も節約できる。言われてみると、いつも独りで生活している司祭の食堂に、必ずと言っていいほどテレビがあるのもそのためだろうか。▼テレビを見ながらの食事は寂しくはない。テレビは常に情報を流してくれる。しかし、それはテレビからの一方的な情報提供であって、そこに対話はない。そこに歪みを感じてしまうのだが、独りで食事をしなければいけない人にとっては、これで良いかとされてしまっているようだ。▼人間的な食事、それは人々が顔を合わせて色々な会話をしながら心を通わせることが不可欠に思えてならない。しかし、それが難しくなりつつある。両親が働いているため、子どもが用意された食事をレンジでチンしてテレビを見ながら独りで食事をする光景も珍しく無くなりつつある。それどころか、今では家族揃ってテレビを見ながら食事をする光景もみられる。果たして、これで良いのだろうか。（T）

2001年四旬節司教教書
洗礼の秘跡について



ゆるしの秘跡と病者の塗油、そして叙階と結婚の7つの秘跡があります。今回は洗礼の秘跡について考えることにいたしましょう。

1、洗礼の秘跡

洗礼の秘跡は人をすべての汚れから清め、神の子の品位を与える秘跡です。

神の子の品位を受けたということは神に対して父子の関係にあり、神の愛を受け、神の喜びとなる存在になったことであり神の心に適う行いができる人となることです。もちろんこの父子関係は養子関係ですから、不適切なことでこの関係を傷つけられたり、取り消されたりすることがありますから、注意をする必要があります。

神の子の尊さをいただいたということは、すべての人をこの尊い品位に与かるよう招く務めをいただいたことになります。まだこのお恵みをいただいていない他の人々を洗礼のお恵みに招くよう働かねばなりません。

福音宣教は実に兄弟愛の務めなのです。

また神の子に相応しい生活、聖なる生活を送るよう心掛け、愛徳の実践に励まなければなりません。愛はカトリック信者の生活の基本的な徳だからです。また神との親しさを培うため、必要なお恵みを願うため、教会が教えるお祈りを忘れてはなりません。

2、神にささげ物を ささげる

人間は本来、万物の霊長であることから、神と人々とを結び合わせる司祭的な役目を受けています。人々の中から特に選ばれて、神の子の品位に与った者は、人々に代わって神にささげものをするという務めがあります。

キリスト者となった者は、人間だけではなく動物・植物に代わって、いわば全被造物の代表者として、神にささげ物をささげる務めがあると言えます。全被造物の目的は人間であり、他の被造物は人間に仕え、人間が神への真のささげ物をささげるのです。

人間は種々の意味で神のお恵みのうちに生きています。常に感謝の心を持ち、それを示して生きていく必要があります。また、わたしたちは度々過ちを犯すものですから、その赦しを乞い願う必要があります。感謝の意を示すため、また赦しを願うため、真心を込めて何かをささげることは、人間にとって相応しいことです。

もちろんささげ物を神は必要となさいません。すべての物を充分もっておられるからです。

しかし、ささげ物はそれをささげる人を特別に神につなぎ、神のお恵みをいただくに相応しい者とします。おささげ物は実は人間の真の利益になり、万物の利益になるのです。

3、神の国を築く

人間はまた、仲間として生活を営んでいます。人間全体が心を合わせて、人間間の組織において、他の物質の使用においても、神のお望みの秩序に従って、幸せな世界を築いていかねばなりません。人間が神を中心として万物を支配し、幸せな世界を造りあげ、共に神を賛美することが神のお望みだからです。

また人間の間に正義と平和の関係が全うされるよう努力し、人間がそれぞれ人間としての尊厳が認められる社会としなければなりません。そして、相互愛の関係が築かれ、すべての人が神の愛より導き出される愛の相互関係を打ち立てなければなりません。人間間の真の正義は、愛によってのみ全うされることを知らねばなりません。

特に人間の間の秩序が整えられ、神の導かれる世界が建築されることが理想です。たとい困難であっても、常に希望をもって励み行わねばなりません。理想の世界は一夜にして実現する物ではありませんが、神の願いは人間の力を越えていつか実現します。

結び

21世紀を迎え、新しく堅実に信仰生活を進んでまいりましょう。パパ様の勧めに応え、キリスト者の本分の道を歩んでまいりましょう。神の祝福のもと、わたしたちの未来は希望に溢れたものです。

神の祝福を祈ります。

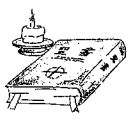
2001年2月28日

福岡教区長　司教　ヨセフ松永久次郎

新しい福音宣教とは何か

新しい福音宣教㊦

G.ケルクマン神父



福音宣教に参加するために、自分の信仰の喜びを育てる方法が二つあると前の章で述べました。それは教会での祈りと家庭における祈りのことです。祈りにおけるキリストとの親しい交わりがなければ、どんな福音宣教も難しいと思います。

その上に、社会の福音化を考えた時、私たちにどんな生き方が求められているでしょうか。私たちは信徒として社会の中で生活しています。

社会の福音化は、特に私たち信徒の役割として与えられているのです。霊的な生活（キリスト者としての生き方）は、個人の領域に留まらず、社会的な生活に深く関わります。私たちは神の国の完成を見据えた生き方をしなければならないのです。このような福音的な生き方を実現するために山上の説教を思い出しましょう。「それからイエスは弟子たちに言われた。「だから、言っておく。命のことで何を食べようか、体のことで何を着ようかと思い悩むな。命は食べ物より大切であり、体は衣服よりも大切だ。鳥のことを考えてみなさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、納屋も倉も持たない。だが、神は鳥を養ってくださる。あなたがたは、鳥よりもどれほど価値があることか。あなたがたのうちのだれが、思い悩んだからといって、寿命をわずかでも延ばすことができようか。こんなごく小さな事さえもできないのに、なぜ、ほかの事まで思い悩むのか。あなたがたも、何を食べようか、何を飲もうかと考えてはならない。また、思い悩むな。それはみな、世の異邦人が切に求めているものだ。あなたがたの父は、これらのものがあなたがたに必要なことをご存じである。ただ、神の国を求めなさい。そうすれば、これらのものは加えて与えられる。（ルカ12・22-26、29-31）」

神様が、私たちの面倒を見てくださることを思い出しましょう。大自然を私たちのためにお作りになりました。大自然の中で一番大切な者は人間です。しかし人間が害を受けたとしたら技術の進歩に何の意味があるでしょう。現代人である私たちはこのことに対して非常に敏感になりました。公害の恐ろしさを知り、環境を守ることの大切さをよく分かっています。しかし、いつもだれでもそれに従って生活しているとは限りません。

人間を大切にしなければならないとだれでも分かっていますが、戦争が続きます。貧富の差があります。人種差別があります。など。

人間はなぜそんなに大切なのでしょうか。たくさんの理由を挙げることができますが、その内の一番大切な理由は人間が神様から愛されているという事実です。神の御子さえ人間になったほど人は大切です。聖書の中によく人類が神の嫁として描かれています。神様はこの愛の相手を大自然を通して養ってくださり、自分の愛に包みこんでくださいます。しかし、人間は自然を神の愛のしるしとして見てはいません。外面的なもの、物質的なものに心をかけています。行動の基準になるのは、利益か損か、快楽をもたらすか、もたらさないか、名誉になるか、ならないか、皆から評価されるか、されないか。

「神の国を求めなさい。そうすればこれらのものは加えて与えられる」（ルカ12・31）

社会を福音化させるために私たちの仕事はまだたくさんあります。神様の愛と恵みに信頼しながら、まず自分の心の中から始め、そして私たちの周りに少しでも神の国を実現するように努めましょう。

イエズス会司祭

マリア ポリって？

船橋　英子

「ねえ、マリアポリってなあに？」と尋ねるわが家の子どもに「そうねえ、マリア様のお祭り？カナ？」とあいまいな答えをした私たち夫婦。そうなのだ私たちもはっきり言ってどんなものかよくわかってないのだ。

フォコラーレ運動の「マリアポリ」に関しては随分前、青春時代にかかする程度の出会いがあった。そしてこの度、十数年ぶりに漁られたというところだろうか。2月の連休に何のレジャーの予定もない私たちは、大神学校で子どもを放牧させてもらおうとの下心と、十数年来おぼろげだったものをいよいよ確かめてみようとの好奇心からすんなりと参加を決めた。

今回は「福音を生きる」というテーマで行われた。愛を生きることで福音を伝えていく。それは難しい事ではなく、日常の小さな事からできる。夫婦、職場の人間関係、若者たち等それぞれの立場で福音を生きようとした時に得られた、恵み溢れる体験が具体的に語られた。

笑いあり、感動を覚える逸話ありで思わず引き込まれてしまった。



子供たちは、自分たちで作った「愛のサイコロ」をお土産にもらった。「毎日サイコロをふってねっ、て言われたよ」。翌朝、4歳の息子が、出た目を何と読むか聞いて来た。「(互いに愛しあいなさい)よ」。うーむ、朝から心が洗われる。2日目からは、子供たちはすっかりサイコロ振ることを忘れてしまっている。

感動を持続させるのは難しい。

笹丘教会信徒

この年、その国のすべての教区司教は自分の教区について教会内外の詳しい報告書を作成して教皇庁に送付する。同じ年、司教自らローマを訪問し、聖ペトロとパウロの墓に巡礼し、教皇に一対一で謁見する。また、その国の司教団全体のための教皇演説や食事会が催される。

日本国のアド・リミナは本来2000年であったが、大聖年であったため、延期されていた。アド・リミナが日本、特に福岡教区にとって豊かなものとなるように祈ろう。

アド・リミナ開催へ

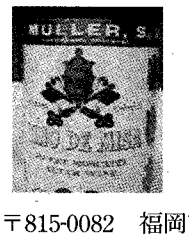
3月26日（月）～31日（土）まで、アド・リミナ（使徒の墓への訪問の意）が行われる。このアド・リミナとは、各国の司教団毎に5年に一度行われる。

2001年 四旬節・聖週間とご復活　黙想会と祈りの学校

★3月9日(金)～11日(日)　来住　英俊神父《祈りの学校》タイトル：神様のゆるし
②3月16日(金)～18日(月)　Sr.今泉ヒナ子(明治学園)／ガブリエル神父(限定15名)
③3月23日(金)～25日(日)　マテオ神父
④4月6日(金)～8日(日)　オッカロール神父(聖コロンバン会)
⑤4月12日(木)～15日(日)　鈴木　忠一神父
◆16：00受付　詳しくは電話でお問合せください。(部分参加も可能です)

むなかた祈りの森　福岡黙想の家
〒811-4155　宗像市名残1056
TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

ミサ用ワイン



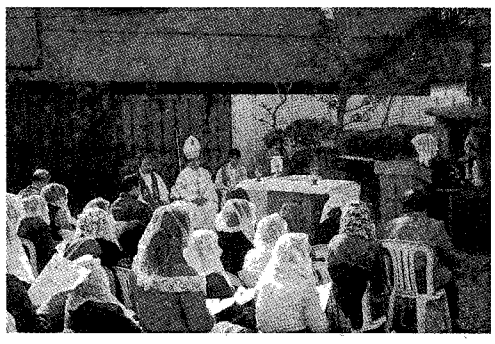
ヴィノ　デ　ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社　大楠酒店
ヨハネ　青木　彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑(SOU-EN)
ご葬儀
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

ルルドの聖母の日を東光町伝導所で祝う

日射しは温かくても、まだまだ寒い2月11日（日）、福岡市博多区の東光伝導所で恒例のルルド祭が行われた。当日は、かぜで体調が悪いにも関わらず松永次郎司教がお見えになり、遠くは佐賀県の松島など、各地から80人近くの信徒・修道者が集まった。

天気に恵まれ、人数も多かったので、今年は屋外のルルドの聖母像の前に一同が集まった。始めに、特に司祭・修道者への召命を願ってロザリオの祈りをささげた。続いて松永司教主司式で、東光町担当の松井忠之神父、司教秘書の田中重治神父の共同司式でささげられた。当日は主日だったので、その日の典礼に従ってミサがささげられた。



説教の中で、松永司教は2月11日、ルルドの聖母の記念日は世界病者の日と定められている点に触れ、病気のいやしということは確かに神の奇跡だが、病気そのものも神の恵みを表わす手段になり得ることを強調した。これは、病気に苦しむ人は、その苦しみを神様のみこころにかなうように耐えていくことによって、また、周りの人も病気に苦しむ人を訪問して慰めることによって、私たちの真心を示すことによって、神の恵みがそこに豊かに注がれていることを示すと同時に、神のあがないのわざに協力することになると説明した。また、当日の福音と同じルカ福音書の6章の中で、「あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい」とイエス様が言っておられるが、わたしたちは、実際に、病人を訪問したり、祈りや犠牲をささげるなどして、少しなりとも憐れみ深くなっていくように務めようと信徒を激励した。

東光町伝導所では、屋外にルルドが設置され、ルルドの聖母の記念日に因み、毎月11日にロザリオの祈りとミサがささげられ、毎年ルルドの聖母の記念日に司教を迎えている。

非福音的社会に神の愛をうったえよう

佐賀協正平

「平和を共に考える2月11日佐賀の集い」（佐賀カトリック正義と平和協議会主催）が2月11日、佐賀カトリック幼稚園講堂と教会を会場とし、約100人の参加者のもと開かれた。

昨年8月に「高校生平和大使2000」としてジュネーブの国連欧州本部を訪れ、原爆の悲惨さと、核兵器の廃絶を訴えた長崎西高2年の石司真由美さんが、まず体験報告をした。そのはなかった。実際はこれは桜の皮から取り出した色であった。あの黒っぽいゴツゴツした桜の皮から美しいピンクの色がとれるのだ。この桜色は、一年中どの季節でもとれるわけではないという。桜の花が咲く直前のころ、山の桜の皮をもらってきて染めると、あのえもいわれぬ色が取り出せるという。春先、もうまもなく花となって咲き出ようとしている桜の木が、花びらだけでなく、木全体で懸命になって最上のピンク色になろうとしている。花びらのピンクは、幹のピンクであり、樹皮のピンクであり、樹液のピンクであった。

桜は全身で春のピンクに色づいていて、花びらはいわばそれらのピンクが、ほんの尖端だけ姿をあらわしたものにすぎなかったのである」。お造りになったもののすべてをいとおしむ神は、このようにして自らのいのちを被造物にこめられ、輝かせておられるのでしょう。

インド西部大地震で、生後8ヵ月の赤ちゃんが地震発生から96時間後に救出されました。地震で亡くなった母親のいのちの最後のぬくもりが子どもにいのちを与えつづけたのでした。1月にJR新大久保駅で転落した人を救おうとして亡くなった二人の方の行動が、多くの人々に感動を与えた。数日後、名古屋や東京で、駅のホームから転落した人を助けた人々は、新大久保で亡くなった二人から勇気を得たと語りました。神のいのちのつながりが示されたでき事でした。

神からいただいたいのちが私たちを生かし、神への賛美と感謝につつまれたものとなるように。私たちがいただいたいのちが他のものに分かち与えられ、祝福をもたらすものとなるように。

イエズス会　萱場　基神父

神のいのちの輝き

春の気配が濃厚になってきたとはいえ、桜の木はまだまだ殺風景な装いのこの時期です。かなり前に「桜のいのち」という次のような文章を読んだことがあります。

「あるときなんとも美しい桜色に染まった糸で織られた着物を見たことがある。その色の美しさは目と心を吸い込むように感じられた。『この色は何から取り出したんですか』『染色家は答えた。『桜からです。』しかしそれは桜の花びらから取り出したものではなかった。実際はこれは桜の皮から取り出した色であった。あの黒っぽいゴツゴツした桜の皮から美しいピンクの色がとれるのだ。この桜色は、一年中どの季節でもとれるわけではないという。桜の花が咲く直前のころ、山の桜の皮をもらってきて染めると、あのえもいわれぬ色が取り出せるという。春先、もうまもなく花となって咲き出ようとしている桜の木が、花びらだけでなく、木全体で懸命になって最上のピンク色になろうとしている。花びらのピンクは、幹のピンクであり、樹液のピンクであった。

桜は全身で春のピンクに色づいていて、花びらはいわばそれらのピンクが、ほんの尖端だけ姿をあらわしたものにすぎなかったのである」。お造りになったもののすべてをいとおしむ神は、このようにして自らのいのちを被造物にこめられ、輝かせておられるのでしょう。

インド西部大地震で、生後8ヵ月の赤ちゃんが地震発生から96時間後に救出されました。地震で亡くなった母親のいのちの最後のぬくもりが子どもにいのちを与えつづけたのでした。1月にJR新大久保駅で転落した人を救おうとして亡くなった二人の方の行動が、多くの人々に感動を与えた。数日後、名古屋や東京で、駅のホームから転落した人を助けた人々は、新大久保で亡くなった二人から勇気を得たと語りました。神のいのちのつながりが示されたでき事でした。

神からいただいたいのちが私たちを生かし、神への賛美と感謝につつまれたものとなるように。私たちがいただいたいのちが他のものに分かち与えられ、祝福をもたらすものとなるように。

イエズス会　萱場　基神父

最後にフィリピンの人達も交えての平和を共に祈るミサを松浦司教司式で挙行し、二十一世



最後にフィリピンの人達も交えての平和を共に祈るミサを松浦司教司式で挙行し、二十一世紀の幕開けにふさわしい集いとなった。特に若者に向けて少しでも輪が拡がっていく契機となるような集いでもあった。未来に対する希望を持てる集いにもなった。

フォコラーレ運動 福岡で初のマリアポリを開催

世界的な信仰刷新運動、フォコラーレの「マリアポリ」が福岡教区で初めて、2月12日（月）福岡サン・スルピス大神学院を会場に、教区内外から信徒、シスター、司祭約100人が参加して開かれた。午後には松永司教も姿を見せ参加者を励まし、ミサを司式した。

「マリアポリ」（マリアの町の意）はともに集い、日常生活での体験などを分かち合って相互の愛と一致の心を養う場で、今回のテーマは『今、福音を伝えるとは…もう一人のキリストとして生きる…家庭で、学校で、職場で！』で、すでにこの運動に参加し、その精神に生きようとしている人たちの体験発表を聞きながら、キリストを伝える道をともに考える1日を過ごした。ある夫婦は、家庭や地域で自分から先に愛することで家庭内と、周囲の人との間に心の通いが深まり、またキリスト教入信を反対していた親に自分から心を開くことで理解が生まれ、気づいてみると福音がいつしか伝わっていたことを分かち合った。一人の司祭と3人の信徒の体験発表を聞き、「真ん中に立つキリスト」こそ私たちの歩みを導き一致と平和をもたらしてくださる方であること、みことばは単に言葉ではなく現実であることをあらためて実感した。

午後は、昨年の「世界子ども未来会議」とローマの「ワールドユースデイ」に参加したフォコラーレの子どもたちと青年たちがそのときの感激を報告し、その気づきをもとに学校や家庭で教会でキリストの愛を生きようと正面から取り組んでいることを分かち合った。

参加者から「愛は日常的で平凡なことの中にあるのですね。大変勇気づけられました」「子どもも立派な宣教師なのだと気づきました」などの声が聞かれた。

今年のおにぎり400個！

出炊支援 越冬し

信徒のボランティア活動の一つである「越冬炊出し」が今年も、厳冬の2月の毎火曜日と金曜日行われた。博多駅周辺と天神周辺が主な範囲になっているが、博多駅も構内の内外、近くの公園など広範囲になっているため昨年からは1月の終わりにチラシを配り所定の箇所に来てもらう方法をとっている。天神地区も昨年のサミットなどを境に地下街や公園からの閉め出しで東公園から西区の方までと散らされた状態となっているため昨年の終わりに把握が難しくなったとボランティアの代表は語っている。炊出しに欠かせない「おにぎりとスープ作り」、活動の当初は「おにぎり」の数は100個前後だったのが、ここ数年は300を越え、今年は400個を作る日もある。このおにぎりを握り続けているのが福岡地区婦人会のボランティア。当日の午後2時くらいから2・3時間かけて用意している。配る方も協力者が少しづつ増え、ミッションスクールの先生と生徒も加わり、粉雪が舞う夜の街頭に出かけて行く。おにぎりの数が少しでも少なくなることを望みながら。

BOOK 読みは専科

★神、この、もっとも　曲解された名
A・カファレル　編者
高橋　たか子　訳者

心に深い渇きはありながら、それを神へのと言うには、長い歴史の中で、また今、現代にも、あまりに曲解された名の為に、そう呼ぶことを人々は恐れる。それにしても、彼は在る。私たち自身よりも、もっと身近に、「だれか」とか「あなた」とか呼べるおかたとして、厳然と、彼は在る。人間の小さな知性で理解できるお方ではないから、神の体験は、すればするほど、闇に包まれる思いがすると同時に、言い知れない歓喜の出会いとして、魂に消しがたい刻印を残す。

女子パウロ会出版
本体　一八〇〇円

◇　◇　◇

★マリアと祈りながら　イエスの徳に学ぶ
Q・ハーケンワース　編者
日本信徒マリアニスト共同体訳

簡単で、実践的で、現実的な徳を用いることが、いかに本当に生き方を変えるものであるか——。本書は、マリアが生涯をとおしてイエスと共に歩まれたように、個人でまたはグループで祈り、分かち合いを繰り返しながら、イエスの徳を身につけていくための手引きである。

サンパウロ　本体　一八〇〇円

ジャパンスマイルか 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092−761−8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092−711−0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811−7265

感謝と賛美のために
祈りを通して制作
典礼センター ピエタ
祭服、聖器具、聖像
信心用品、ベール、
ロザリオ他
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092−526−9176

キリストの招きにこたえ この一歩

『オリーブの会』九州の集い

カトリック精神障害者の会

日　時：2001年３月18日（日）11時～16時
場　所：大名町カトリック教会
対象者：当事者、ご家族、医療者、司牧者
講　師：三木浩司医師
（小倉記念病院精神神経科部長）
大山悟神父（聖スルピス大神学院長）
参加費：1000円（昼食代含む）
申込み締切：２月20日（火）
※宿泊の必要な方はご紹介します。
宿泊には一部補助がありますので
お問合せください。
申込み・問合せ：☎092-871-5517（河井）

第40回 クルシリヨ

日　時：5月3日(木) 10時から
5日(土) 16時まで
場　所：福岡黙想の家
（宗像市名残1056　☎0940-32-3222）
参加費：１２,０００円
（宿泊、食事、用品代　当日受付で）
携行品：ロザリオ、着替、寝間着、洗面具
福岡教区クルシリヨ事務局
〒808-0074　北九州市若松区藤ノ木1-4-23
松尾光敏　☎093-77-2936

案内版　会合と催し

福岡黙想の家　３月

◇２日(金)～４日(日)　四旬節の黙想会
[指導：平山高明司教]
◇４日(日)～５日(月)　むなかた和善の聖書の集い
◇９日(金)～11日(日)　祈りの学校［指導：来住英俊神父］
◇12日(月)～14日(水)　御受難修道会・共同体の日
◇15日(木)　ミカエル会
◇16日(金)～18日(日)　四旬節の黙想会
[指導：Sr.今泉ヒナ子/ガブリエル神父]
◇17日(土)～19日(月)　泰星卒業生黙想会
◇23日(金)～25日(日)　四旬節の黙想会
[指導：マテオ神父]
◇26日(月)～30日(金)　オブレート会
◇31日(土)～4/1(日)　ME日本企画・錬成会
［問合先］黙想の家　☎0940・32・3222　FAX 32・3385

生命山カトリック別院

遥かに有明海を望む山頂に生命山はあります。自然と静寂の中で祈りましょう。お待ちしています。
※祈りの集い
テーマ：本当にこの人は神の子だった
・3月8日(木) 10時～15時
指　導：F.ソットコルノラ神父
古川和雄神父
黙想会：A.ミサと茶道の霊性
3月20日(日) 14:00から
3月21日(水) 14:00まで
黙想会：B.座禅と十字架の神秘
3月24日(土) 14:00から
3月25日(日) 14:00まで
・宗教対話について
日　時：3月18日(日) 14:00～
場　所：熊本手取教会
※四旬節をふさわしく過ごすため上記の黙想会を企画致しました。お待ちしています。
［問合先］生命山カトリック別院
☎0968・85・3100
FAX 0968・85・3186

３月のこよみ

２日(金)　†R.ミケレ［鹿島教会1988］
†J.オブライエン［手取教会1990］
４日(日)　四旬節第１主日
６日(火)　松永司教霊名の祝い［浄水通教会11：00］
†H.ジョリ［久留米教会1966］
10日(土)　寺濱神学生選任式［久留米教会10：00］
11日(日)　四旬節第２主日
12日(月)　†F.M.ヴェイヨイ［唐津教会1973］
16日(金)　†L.M.^ベリボ［箱崎教会1977］
17日(土)　長崎信徒発見記念日
18日(日)　四旬節第３主日
福岡ホスピスの会［カテドラル14：00～］
宗教者対話について［熊本手取教会14：00～］
19日(月)　聖ヨセフ　松永司教霊名祝日
†J.ベラス［水俣教会1990］
†M.ボネ［新田原教会1959］
20日(火)　春分の日
25日(日)　四旬節第４主日
福岡生と老い・死をみつめる会［カテドラル14:00］
古里慶史郎新司祭の初ミサ［佐賀教会14：00］
26日(月)　神のお告げ
†J.ドイル［荒尾教会1962］
†J.ムルグ［小倉教会1989］
アドリミナ　26日～31日
４月
１日(日)　四旬節第５主日
５日(木)　†F.ブレンゲ［佐賀教会1946］
７日(土)　†C.シュミッツ［黙想の家教会1988］
８日(日)　受難の主日（枝の主日）世界青年の日

福岡

■召命を共に祈る会福岡
［日時］3月15日（木）14時～
［場所］召命の家
■ヨアキム・アンナ信心会
［日時］3月15日（木）毎月第3木曜日9時20分［場所］高宮カトリック教会［指導］小池如安神父［内容］ロザリオ・黙想・ミサ［問合せ先］☎092・533・2326小田部
■福岡ホスピスの会勉強会
［日時］3月18日（日）14時～
［場所］カトリック大名町教会4階［テーマ］介護保険とホスピスケア［講師］福岡市健康づくりセンター理事長西岡和男氏［受講料］会員500円・一般700円※勉強会は奇数月の第3日曜日です。病院ボランティアなど希望なさる方、ホスピスについてのご相談など、火曜日と金曜日に事務所に電話か訪問ください。［問合せ］☎092・737・3701ホスピス事務所・次回勉強会5月20日肝臓がんについて
■在世フランシスコ会集会
［日時］3月25日（日）14時～16時［場所］高宮カトリック教会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習［指導］小池如安神父［問合先］☎092・843・5831岩崎
■福岡生と老い死を見つめる会
［日時］3月25日（日）14時～
［場所］カテドラル大名町教会
［テーマ］介護保険について
［講師］平野頼子先生［問合先］☎092・713・8523大山・092・607・6992村尾
■聖テレーズの著作を読む会
［日時］3月25日（日）14時～15時30分［場所］カルメル会修道院［世話人］城島暁☎092・731・3723
■福岡パストラルケア研究会
3月は休会いたします。4月から医療の現場で働いている方、病人訪問をしておられる方と共に「看護者、介護者の心」の在り方を深めるプログラムを行う予定です。
［場所］大神学院新館講話室
［問合せ先］☎092・871・4943 sr.箕浦
■「典礼を学ぶ集い」
［日時］4月22日（日）14時～
［場所］カトリック大名町教会
［テーマ］最後の晩餐とミサ
［講師］白浜満神父（サン・スルピス大神学院教授）［申込先］☎0940・32・3047平井美代子［費用］600円
■福岡結婚準備セミナー
カテドラル大名町教会での結婚セミナー次回は5月12日から6月6日の毎土曜日と水曜日の予定です　［申込・問合先］カトリック・ファミリーセンター☎092・541・6207 FAX 552・5022
■美野島司牧センターのお願い
衣類・毛布のカンパをお願いします。せっけん・ハブラシ等洗面用品。越冬炊き出しの季節になりましたのでそちらのカンパもよろしくお願いいたします。今の所、女性用の衣類は間に合っています。男性用の衣類をよろしくお願いします。［問合先］コース神父☎092・431・1419

北九州

■小倉祈りの集い
［日時］3月13日（火）13時30分～15時［指導］V・マテオ神父（御受難会）［場所］小倉教会信徒会館2階［内容］「みことば」をあじわい祈る［問合先］093・452・1556安藤
■聖書を読む会
［日時］毎月第1木曜日、午前の部10時～11時半／午後の部19時半～21時［場所］佐賀カトリック会館［内容］「創世記」を読む［講師］A・アレグリーニ神父［テキスト］聖書［参加費］無料［問合先］☎0952・23・4754阿南
■古里慶史郎新司祭初ミサ
［日時］3月25日（日）14時～
［場所］カトリック佐賀教会と付属幼稚園講堂

佐賀

■熊本地区召命を共に祈る会
［日時］3月15日（木）11時～
［場所］健軍カトリック教会
［内容］ロザリオ、召命の祈り・はなしあい［問合先］☎096・368・2825中村彰
■宗教者対話について
［日時］3月18日（日）14時から16時［場所］熊本手取教会
［主催］生命山カトリック別院
■花岡山殉教祭
［日時］4月29日（日）14時～
［場所］花岡山殉教者墓地広場
［内容］小笠原玄也とその妻マリアみや一族と15人の殉教者たちの早期列福を祈り求めるミサ
［問合先］☎096・352・5610島崎教会

熊本

2001年度臨床パストラルケア教育研修会案内

コース：第１５回研修会
日　時：５月26日(土)～30日(水)
場　所：イエズスの聖心病院（熊本市）
科　目：心理学的傾聴

コース：第１６回研修会
日　時：2002年１月19日(土)～23日(水)
場　所：イエズスの聖心病院
科　目：哲学的人間論
申込先：☎：0942-31-4836（久留米市津福今町459-10）
定　員：８名（定員になり次第締切らせていただきます。）

コース：第４回神学講座
日　時：８月29日(水)～９月７日(金)
場　所：福岡サン・スルピス大神学院
科　目：宗教概論、日本における諸宗教、哲学倫理、キリスト教的人間論、神の神秘、病者の塗油
申込先：☎：03-5426-3586（担当：木澤）
定　員：定員なし。宿泊は25名まで。

★費　用：全コースとも申込先へお問合せください。

福岡カルメル修道院に共同納骨堂建設へ

この度、福岡カルメル会のご厚意により、修道院境内地に信徒のための共同納骨堂を建設することになりました。この納骨堂を利用されたい方は、３月末日までにお申し込み下さい。申込を元に、基本設計等に入り、使用料など詳しい案内を申込者に連絡し、その時点で正式契約をさせていただきます。
［申込・問合］☎092・807・7361福岡カルメル会気付　建設発起人代表　木本敬子・本松純一・江頭千鶴子

編集後記

今年度もいよいよ終わりです。皆さん大変お忙しいことでしょう。教区報も動きがあります。連載の新しい福音宣教のコーナーを終了します。執筆いただいた方ありがとうございました。今後、何か神学的な連載などを企画したいと思います。また、いろいろと手伝ってくれたパウロ会のブラザー牧山君も東京へ異動です。今まで本当にありがとうございました。これでまた二人だけの編集部です。皆さんの期待にそえるよう、新年度へ向け体勢を整えます。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL　0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川３丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

FUJIKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店　〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　大森　周　福岡支店長　多田泰幸

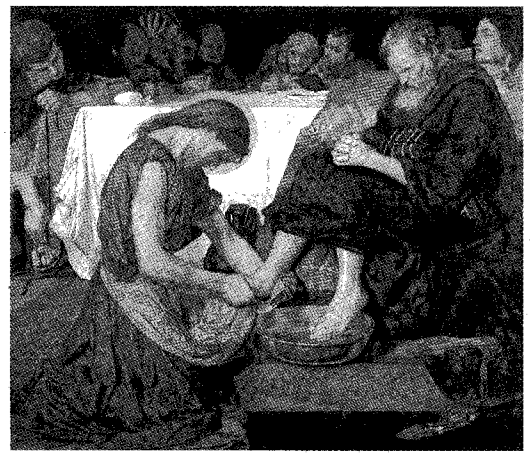
カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　田中重治
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう
【一般の意向】　至福の精神を広めるために呼ばれて
【布教の意向】　ルアンダの理解と和解
【日本の教会の意向】　いのちを大切に

聖なる３日間



Brown画　ロンドン　テート・ギャラリー所蔵

聖木曜日・主の晩さんの夕べのミサから復活の主日の教会の祈りの晩の祈りまでの３日間は「聖なる３日間」と呼ばれ、教会の一年のこよみの頂点です。なぜなら、この３日間こそ、イエス様の生涯のクライマックスであるご聖体の制定（聖木曜日・主の晩さんの夕べのミサ）、受難と十字架上での死（聖金曜日・主の受難の祭儀）、死んで埋葬され（聖土曜日）、復活を徹夜して待ち、そして秘跡で復活を祝い（復活徹夜祭）、復活して人々に出現し（主の復活の主日）、救いの神秘（過越の神秘）を成し遂げられたからです。だからこそ、この聖なる３日間の典礼に信者が参加することが切に望まれるのです。

1976 創立25周年を祝った 老司教会 2001

100人が760人になった25年

2月25日（日）、福岡市南区にある老司教会が創立25周年を迎え喜びの記念式典を催した。松永久次郎司教司式の感謝ミサには、初代の主任司祭で教会堂建設から宣教の場、祈りの場としての基礎がための労を担ったE・デイキン神父が招かれ喜びを分かち合った。



福岡市の南に位置する老司教会（主任畠山七郎神父）の創立25周年記念ミサが、天気にも恵まれた2月25日（日）、教区長松永久次郎司教と老区喜多見教会主任）を迎えて挙行された。

2月の終わりとはいえ、寒い聖堂を埋め尽くした信徒の熱気に包まれてミサはささげられた。説教の中で松永司教は、25といえば、聖書の中で祝福された意味を持つ7の7倍に1を足した50の半分であり、25周年を迎えたことは祝福に満たされた一世代だと説明した。

また、老司教会というとデイキン神父、デイキン神父というと老司教会と言われるように、初代主任司祭であるデイキン神父とのつながりが今も強いことの素晴らしさを説き、イエス様が私の記念として行いなさいと弟子たちに命じられた姿がまさにここにあると、初代の宣教師との関わりを大切にする信徒を激励した。

ミサの終わりに挨拶したデイキン神父は、25周年は福岡教区の中ではまだ若い教会だが、たくさんの恵みを頂いたことを回想した。設立当初、司祭館でミサをしながら、海星女学園を経営するマリアの宣教者フランシスコ修道会の協力で、教会は発展してゆき、現聖堂建設に至ったことを、教区の手伝いのために働く宣教者である自分の務めだったと述べた。また、特に召命のために一生懸命祈り、そのおかげか、修道者に一人召し出されたこと（聖心のウルスラ宣教女修道会のシスター松永ミカ）はうれしいことだが、司祭がまだ誕生してないので、一人でも良いから生まれて欲しいと願った。

ミサ後、全員で記念写真を撮影し、会場を信徒会館に移して開かれた祝宴で、主任司祭の畠山神父は、25年は宇宙の中ではわずかだが、この年を通して永遠に入っていくのだから、これからも頑張ろうと信徒に挨拶した。祝宴では、信徒たち同志、また、司教やデイキン神父らと親しく語り合う和やかなものとなった。

老司教会は1976年2月22日午後2時に海星女学園の南側に隣接するところに聖堂を兼ねた司祭館が泰星高校の旧校舎の廃材を利用して建設・献堂されて設立した。初代主任司祭として天草からデイキン神父が着任した。高宮教会から別れた新しい教会の信徒数は100人足らずだった。しかし、その後信徒はみるみる増加し、1983年6月26日に現在の聖堂が献堂された。その後も発展を続け、1993年1月10日には、当時の主任司祭であった平田正喜神父の努力によって要理教室（ザビエル館と命名）も司祭館に併設して建設されている。現在の信徒数は760人を越える教会にまで発展した。これからのますますの発展に期待したい。

聖ヨセフの霊名を頂く司教と司祭を祝う

3月の第一火曜日である3月7日、教区長ヨセフ松永久次郎司教の霊名のお祝いミサが浄水通教会でささげられた。残念ながら、ヨセフの霊名を持つ司祭は教区に数名いるが、いずれも参加できず、集まった司祭も四十人足らずと、少々寂しい感はあったが、シスターや信徒の参加を得て、暖かい雰囲気の中でミサはささげられた。



地区婦人会のお祝を受ける司教

ミサを司式した松永司教は、説教の中で、聖ヨセフは教会の保護者であり、私たちが教会の慈しみを現していけるように祈ろうとまず参列者に呼びかけた。そして、聖ヨセフは、ただ天上のことだけを考えていただけでなく、地上のこと、聖家族のことを気にかけ、守り、育てたことを指摘。それも、言葉数は少なく、信仰のうちにイエス様を育てたように信仰に優れた方であった。現代に生きる私たち司祭も、信仰を深め、魅力あるものになって人々をひきつけ、信徒を、特に次世代の司祭を産み出していくようにと説いた。また、司祭や修道者が健康に生きる姿は信仰でもあると励ました。

会場を司教館新館5階に移して開かれた祝宴で、司祭団を代表して挨拶した司教総代理の堤要吉神父は、聖ヨセフは不言実行の人だった。司教様もそのように、私たちを守り養い、育てていって欲しいと挨拶した。また、司祭や修道者はたくさんいても、司教は一人しかいないだから、司教自身が健康を大切にして欲しいと司教に願った。

聖ヨセフのお祝い日は3月19日だが、福岡を含む春分の日に叙階式を行う教区も多く、また、色々な行事が多い時期なので、1995年の司祭評議会での審議の上、司教の誕生日が3月7日（役所に届けられた正式な誕生日は4月5日）にちなみ、3月の第一火曜日に教区として霊名のお祝いをするように決定し、現在に至っている。その他の日にも、色々な教会、団体からお祝いがなされている。

寺濱亮司神学生 久留米教会で朗読奉仕者に選任される



み言葉を伝えなさいと聖書を授与される

3月10日（土）寺濱神学生の出身教会である久留米教会（主任三村邦明神父）で松永司教司式の朗読奉仕者選任式が行われた。朗読奉仕者は、ミサ典礼の中でみことばの朗読を始め、すべての人にみことばを伝える役目を正式に頂いた者となる。当日は近隣の教会学校の子どもたちがたくさん出席し、将来の召命への希望を繋ぐ式になった。

司祭異動

▽光丘教会主任＝ジャンピエロ・ブルーニ神父（イタリアより転入）ミラノ外国宣教会▽3月18日付け

時の話題

井手　義孝

社会福祉の現場では、相手のことを理解したり、受け入れようとする時「発想の転換」が必要とよく言われる。ある研修会での「浦島太郎」の話が印象に残っている。浦島太郎が、助けた亀の背中に乗って竜宮城に行き、鯛やヒラメの踊りを見たり、ご馳走を食べる物語である。現実にはあり得ないこと、そんなことをすると死んでしまうと否定すれば、このお伽話は成り立たなくなる。

お伽話として聴くから誰もが納得できるのである。同様に、痴呆症のお年寄りの非現実的な言動を否定したり、怒ったりしてはこのお年寄りの世界にいるのだすることはできない。今、お年寄りはお伽話の世界にいるのだと、受け止めてあげることが必要という事であった。このことは、あらゆる人間関係においても言えることではなかろうか。家庭や職場、社会において、相手の短所はすぐに挙げることが出来るのに、相手がそれ以上に持っているはずの長所は、なかなかすぐには思い出せないのである。相手の欠点や悪いところばかりを見るのではなく、角度を変えて見ると、いつもと違った、良い一面が見えて、少しは受け入れも容易になるのではないか。

角度を変えて見ると、いつもと違って見えてくる

また、いつも「主の祈り」の中で、「私たちも人をゆるします」と唱えているのだが、事実、私たちはゆるしているだろうか。

この四旬節を、まずは静かに自分を見つめ、何かを「気づく」ことが出来るように聖霊の働きを願って過ごしたいと思う。（久留米教会信徒）

みちくさ

梅一輪、一輪づつの暖かさ、と言う句がある。四季の豊かな彩りに恵まれたこの日本に生まれ育った者は、この句のこころに親しみを感じるであろう。例年になく寒かったこの冬などでは、特に共感する者が多かったに違いない▼四季の移り変わりの美しさ、空の無数の星、自然を飾る花の数々は、創造主の豊かさの反映とも言われるが、この森羅万象の中に神の栄光が形を取って私たちに迫っているのである。その声を聞き、その豊かさを愛でることなく、偉大な神を賛美するとは言えないであろう▼日本人には手紙の冒頭に気候の挨拶を書く習慣がある。外国人から見れば、一寸不思議な習慣ではなかろうか。わざわざあまり関係の無いことを書くからである。しかし本人にとっては決して無関係なことではない。春夏秋冬、寒暖に対する思いは何人にも無関係ではない。その一つについて語るのは共感を求めることである。手紙の最初に相手の共感を求め、親しみの感じを呼び起こすのである。そしてこそ交わりが成り立つ。一番優れた話の始め方とさえ言える▼西行法師の歌とされるものに、願わくば、花の下にて春死なむ、この如月の望月のころ、と言うのがある。私はこの詩を読んで、彼は春が好きだった、桜の花が好きだったのだとばかり思っていた。ところで、この如月の十四日はお釈迦様の命日であり、西行法師は本当にこの十四日に入寂したのであった。修行して五穀を断ち、この日を待ったのである▼自然を愛し、自然の美しさを愛で、それが歌になるとき、そしてそれが宗教の心とつながるとき、キリスト教の受肉はより完全なものとなるのではなかろうか。（M）

新しい世紀をともに歩むすべての人に向けて

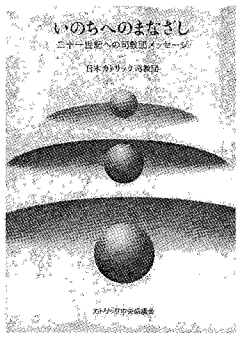
「いのちへのまなざし」を出版

日本司教団メッセージ

日本カトリック司教団は、2月27日付で、現代社会の中にあっていのちの尊さを説く、21世紀への司教団メッセージ「いのちへのまなざし」を発表した。本書は、「聖書からのメッセージ」、「揺らぐ家族」、「生と死をめぐる諸問題」の3章から構成され、21世紀を生きるすべての人に向けられて作成されている。

この教書は、カトリック信者にだけ向けられたものではなく、21世紀を生きるすべての人々に向けられたものとしてつくられていることに特徴がある。また、今までのカトリック教会の文書のように、「教会の教えはこうである」と断定的に教えるものではなく、メッセージの形を取って人々に語りかけ、「最後のことば」としてではなく、一人ひとりが主体的にこのメッセージを元に議論を深め、いのちを大切にする生き方を選び取っていくように配慮しているのも特徴である。カトリック中央協議会から出版され、本文が129頁にわたるが、定価を300円に抑え、なるべく多くの人が手に取ることができるようにしている。

内容は、「いのち」のメッセージを根底で支えているのがイエス・キリストであり、様々な問題に満ちた現代社会に神が与えたいのちの尊さを、イエスの教えによって再確認するため、第1章では「聖書からのメッセージ」を取り扱っている。



続く第2章からは具体的な種種の問題を取り扱っている。第2章では「揺らぐ家族」として夫婦、性と生殖、家庭、親子、高齢化社会についてみている。いわゆる高齢化、核家族化が進む中で、本来いのちを育み、支え、導く愛の場、交わりの場である家族の危機的状況を取り上げ、光を当てようとしている。

第3章は「生と死をめぐる諸問題」として出生診断と障害者、自殺、安楽死、死刑、生命科学、脳死と臓器移植、ヒト胚研究と人間クローン・遺伝子治療、環境問題を取り扱っている。

この様に、このメッセージは特に戦後の日本が経済優先の功利主義的社会となった中で生じた歪んだ人間観・価値観に光を当てるためにつくられている。

また、近年すさまじい勢いで発展する科学技術、特に医療技術から生じる問題に対して、越えてはならない一線があることを想起させるためにつくられている。また、人間が経済中心の社会形成をしてきたために生じた地球規模での調和のゆがみを改めなければ、いのちあるものは希望を見いだせないとこのメッセージは警告している。

しかし、このメッセージの中で取り扱っていない諸問題があることも、また、取り上げた諸問題も現状認識が甘く、カトリックの教えをもっと全面に出すべきと言う意見もあるかも知れないことをメッセージは認めている。だが、あえて新世紀を迎えた今、始まりとして、司教団としてメッセージを発表することになったとしている。

それぞれの詳しい内容や解説は改めてシリーズなどで詳しく取り扱わなければならないだろうが、このメッセージの中で述べられているのは、今までのカトリックの教えの再確認でもあり、そこから新たな事態への対応についてのメッセージともなっている。しかし、たとえば自殺に関しては、教会法でも、今まで自殺者とその遺族に対して冷たく、裁き手のように振る舞ってきたことを反省し、心を込めて葬儀ミサや祈りを行うよう呼びかけるなど、新たな呼びかけ、反省も含まれているなど、今までどちらかというと掟に従って生きることができなかった人々を裁き、差別するイメージの強かった教会の教え方ではなく、神様の慈しみを全面に示そうとしている。

「新しい世紀を迎えたこのとき、わたしたちは、人間のいのちをむしばみ、その人生を疎外させるすべての悪に対してカトリック教会がはっきりと「否」と言い、個々の困難な状況を克服し、問題を解決して、真理と正義と愛にあふれた社会をつくり上げようとする人々の輪に積極的に加わっていきたいと願っていることを表明します。」とこのメッセージは結んでいる。

いのちの与え主である神の愛に気づくきっかけになるメッセージとなろう。

神の啓示 マイライン

新しい世紀のカテケジス①

伊東成晃神父



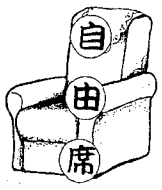
皆さんこんにちは、呼子教会の伊東成晃神父です。

今回から数回にわたって、編集長の田中重治神父様の命により、私が『教会の教え』に関して書かせて頂くことになりました。皆さんの信仰生活のご参考にして頂ければ幸いです。

さて、最近よく耳にする言葉の一つに『マイライン』という言葉がありますよね。自分の電話のかけ方に応じて電話会社を選ぶというものですよね。県外へかけることが多い人は、県外割引をしている会社を選ぶ、ほとんど特定の人にしかかけないという人は、それに関した割引をしている会社にする、とかといったようなものです。別に私は、電話会社の回し者ではありません。今は、コンピューターが普及して、情報を得るために電話回線を使って24時間繋ぎっぱなし、というような時代、少しでも経費を安くしようというのは当たり前のことですよね。今やまさに『情報』がものをいう時代。誰よりも早く新鮮な情報を手にしたものがすべてを制するといってもいい時代です。何かの時には、すぐに回線がパンクしてしまうくらいですよね。ところで、神様の教えも『情報』です。昔は『啓示』という言葉を使いました。神様が情報を発信しているという意味です。皆さんは、この最も価値ある情報を見逃してはいませんか?この世の刹那的な情報に惑わされて、本当にためになる情報に知らんぷりしてないですか?神様の福音を『良い知らせ』といいます。これを知らなきゃ大損するということです。神様の尊い情報は、聖書の中に、教会のいろんな書物の中にあります。最近は、教会関係のホームページだってあるはずです。それらを開いてどんどん情報をゲットしましょう!皆さんは、新聞や週刊誌を開かない日はないはずです。だったら聖書も毎日開きましょう。コンピューターは、使えば使うほどお金がかかりますが、聖書は、一度買ってしまえば後はタダです。3000~5000円位です。もしも本当に生き残りたいと思われるのであれば、この神様からの情報に耳を傾けるべきです。毎日ぼろぼろになるまで聖書を開きましょう。騙されたと思ってやって下さい。キリスト教は、『啓示の宗教』まさに『情報の宗教』なのですから。マイラインは『神様』につなぎましょう。

呼子教会主任神父

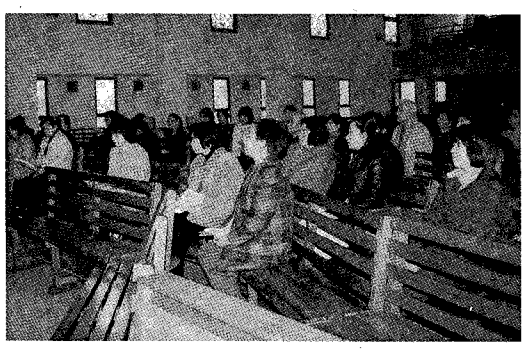
お母さんの集い



福吉三代子

第19回お母さんの集いが2月26日(月)「信仰の喜び」というテーマで、大神学院院長の大山悟神父を迎えて開催された。参加者の大半はお母さん。子どもの教会離れに頭を痛めている人も多い。大山神父は「何にも心配しなくていい。見えない物、益にならない物を信じるのは難しい。神を受け入れるか受け入れないかはその人の自由であり、一度神から離れる事は必要でその時代を通って初めて神の次元に心が開かれていく。無神論を恐れてはならない。ただし、しなくてはいけない事は、子どもは親の背中を見て育つ。親の隠している部分、気付かない部分に真理をみていく。常に回心・告解をしてカトリック信者として真摯な姿を示していくことが親として必要である。」と話して、自分の父親の例を語って下さった。

父は絶えず、「たとえ全世界を手に入れてもその魂を失えば何の益たらん」(マタイ16・26)を引用し、貧乏で食べる米さえない生活に音を上げそうな子どもたちに「苦しい事、辛い事があっても常に永遠の命というものは神に開きうるんだ」ということを示してくれ、私達子どもにとって父の生き方は、まさに父の背中だったと話された。優しい口調の中に揺るぎない信仰を感じ、本当の信仰は小さい時からの親子関係から出て来るのだと教えられた。また「信仰の喜びを得るには自分を肯定できる様にならなくてはいけない。肯定できた時、自分の喜びを他人に示していける。宣教とは喜びを伝えていく事である」と語って講演を締めくくられた。話は固かったが、神父様はお母さんの集いと出会えた事を心から喜んで下さり、「現在のカトリック教会には様々な問題を抱えている母親達の気持ちを安らげてくれる場がない。この様な集いが全国各地に広がっていくことを願っている。頑張って!」とエールを送って下さった。分かち合いの後、一人一人と握手をかわし、笑顔で小倉教会を後にされた。さわやかな風が心地よく吹いていた。



小倉教会信徒

2001年聖週間ミサ時間

小教区名	聖木曜	聖金曜	聖土曜	復活の主日
福岡地区				
糸島	20:00	20:00	19:00	10:00
今村	19:30	19:30	19:30	9:00
大楠	19:00	19:00	19:00	9:00
大牟田	19:00	19:00	20:00	10:00
小郡	19:30	19:30	19:30	10:00
久留米	19:00	19:00	19:00	6:30 ; 9:00
古賀	19:30	19:30	19:30	7:00 ; 9:30
笹丘	20:00	20:00	20:00	8:00 ; 10:00
浄水通	19:00	19:00	19:00	9:00
大名町	19:00	19:00	19:00	7:00 ; 9:00 英語16:00
能古島(巡)				15:00
高宮	19:00	19:00	19:00	9:30
茶山	19:00	19:00	19:00	9:00
西新	19:00	19:00	19:00	9:00
箱崎	19:00	19:00	19:00	10:00
光丘	19:30	19:30	19:00	9:30
二日市	19:30	19:30	19:00	6:30 ; 9:00
本郷	19:30	19:30	19:30	9:00
吉塚	19:30	19:30	19:30	10:00
南粕屋(巡)	19:30	19:30	19:30	10:00
老司	19:30	19:30	19:30	9:30
佐賀地区				
伊万里	19:00	15:00	19:00	9:30
鹿島	18:00		18:00	11:00
唐津	19:00	19:00	19:00	9:00
佐賀	19:00	19:00	19:00	7:00 ; 9:30 英語15:00
多久	20:00	20:00		10:00
武雄		19:00		9:00
鳥栖	19:00	19:00	19:00	9:00
基山(巡)				
馬渡島	19:00	19:00	19:00	8:00
呼子	19:00	19:00	19:00	8:30
松島(巡)				

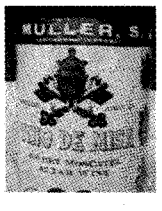
小教区名	聖木曜	聖金曜	聖土曜	復活の主日
北九州地区				
飯塚	19:30	19:30	19:30	9:00
黒崎	19:00	19:00	19:00	9:30
小倉	19:00	19:00	19:00	6:45 ; 9:00
新田原	19:00	19:00	19:00	9:00
田川	18:30	18:30	18:30	12:15
天神町	20:00	20:00	20:00	9:00
戸畑	19:30	19:30	19:30	9:00
直方	19:00	19:00	19:00	9:00
水巻	19:30	19:30	19:30	10:00
門司	19:30	19:30	19:30	10:00
湯川	19:30	19:30	19:30	6:00 ; 9:00
行橋	19:30	19:30	19:30	9:00
豊津(巡)				7:00
若松	19:30	19:30	19:30	9:30
熊本地区				
荒尾				
大江			19:00	9:30
帯山	19:00	19:00	19:00	9:00
菊池	20:00	20:00		9:00
健軍	19:00	19:00	19:00	9:30
高遊原(巡)				
崎津	19:00	15:00	根引山	8:00
島崎	19:00	19:00	19:00	9:00
玉名	19:00	19:00	19:00	9:00
手取	19:00	19:00	19:00	9:00 ; 11:00 英語15:00
山鹿(巡)				
人吉	19:30	19:30	19:30	9:00
本渡				
水俣	19:00	15:00	20:00	9:00
武蔵ケ丘	19:30	19:30	19:30	10:00
八代	19:00	19:00	19:00	9:30

聖なる3日間の典礼の時間を掲載します。
仕事や所用で自分の教会にいけなくとも、時間を調整してどこかの教会の典礼に参加しましょう。

2001年聖週間の黙想と主の復活を祝う

聖木曜日：16:00受付
：祈り
：20:00主の晩餐のミサ
聖体拝領 *
聖金曜日：09:30講話
：13:00十字架の道行き
：15:00主の受難の典礼 *
聖土曜日：09:30講話
：13:00十字架の道行き
：14:00聖時間
：20:00講話
：23:00復活の聖なる徹夜祭
復活の主日：11:00ミサ

むなかた祈りの森 福岡黙想の家
〒811-4155 宗像市名残1056
TEL 0940(32)3222 FAX 0940(32)3385

ミサ用ワイン

ヴィノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命 お問い合せは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ 青木 彰
〒815-0082 福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718 Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 (SOU-EN)
ご葬儀
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

北九州地区信徒協が研修会

これから目指す小教区のあり方

北九州

去る、2月12日、小倉教会において、北九州地区信徒協の研修会が行われた。テーマは「これから目指す小教区のあり方」と題して、各小教区がどのような組織で運営され活動を進めているか、また、その活動の中でどのような問題を抱えているかを、率直に出し合い、お互いが共通の認識にたって、その対応策について考えていくという主旨のもと、約九十人の信徒と五人の司祭が参加した。

この研修会は昨年のカトリックフェスティバルのテーマ「これから目指す教区のあり方」の延長線上にある、さらに身近な「小教区のあり方」について考えようという、2000年大会を一過性のもので終わらせないための試みとして計画された。

初めに、「信徒に望むこと、思うこと」のテーマで、J・ガイヤール神父（水巻教会主任）による基調講演が行われた。

この中で、まず昨年のカトリックフェスティバルで得た一致と大きな動き、「この歩みをやめないで」、「今は、沖に漕ぎだして網をうつ時、港で錨を降ろしている時ではない」。特に、日本社会の文化の中に浸透していく努力が必要であると述べられた。また、「教会」といえばどんなイメージが浮かんでくるのだろうか、たくさんのピラミッドがあるのではないだろうか。縦のつながりではなく、横のつながりが大切であり、日本の中の福岡にある教会として、地方の時代に合わせた（地ビールの例のように）地域の特色を生かした活動、交わり、一致が大切。ローカル信徒、地方の教会の信徒として、聖なる交わりの神の民として、キリストの神秘体としての「ぶどうの木」、「聖パウロの言う神秘体」のような教会の姿を目指して欲しい。今、教会の使命として、①交わりを深め、充実させる。②元気な共同体（外に向かって働く）をつくる。生き生きしていない共同体は外に向かって働くことができない。外に向かって宣教しなければ教会はしぼんでしまう。楽しい教会づくりのため、それぞれのタレントを生かし、対話すること、交流することが大切と小教区を越え、地区全体の共同体づくりの大切さを強調された。

次に、各小教区の現状と問題点について、各小教区の代表により次の7項目について発表がなされた。①信徒の養成②典礼③青少年④信徒の高齢化⑤教会会計⑥滞日外国人⑦国際問題。

その後、7つの項目について十～十五人のグループに分かれて意見交換を行った。約1時間の分科会では時間の足りないところが多く、再度意見交換の場を持って欲しいとの声が強かった。

最後に、分科会のまとめ発表が行われたが、各小教区の現状では、規模の大小により活動、運営において、多少の違いはあるが、それぞれの小教区が抱える問題は似通っていた。特に、「信徒の養成」、「青少年の教会離れ」、「信徒の高齢化」については、今後の課題として、もっと議論を深め、北九州地区全体の問題として共同研究、活動、司牧の必要性が強く感じられた集いであった。

カトリック精神障害者の交流会

オリーブの会　第1回福岡集会に71人

福岡

3月18日（日）カトリック大名町教会で「オリーブの会第1回福岡集会」が開催された。オリーブの会（会長＝河井章江氏）はカトリックの精神障害者の自助グループとして、カトリック障害者連絡協議会（カ障連）などの支援の中で1999年9月に誕生した。九州で初めて行われた集会に東京、横浜、千葉、兵庫、鳥取、山口、大分、佐賀と福岡などから当事者を始め家族支援者など71人が参加した。

会場に駆付けたカ障連会長の中原えみ子さん（東京）は「福岡で開催できる運びになったことを喜びたい。また、九州でこの集いが続いてほしい」と挨拶した。

最初の基調講演で横浜から参加した当事者である村田氏の赤裸々な分かち合いから参加者に共感の感動が伝わった。

続いて、オリーブの会の霊的支えとして関わり続け、福岡開催にも支援を続けてきたサン・スルピス大神学院の大山悟院長や精神科医としての助言を惜しまない北九州小倉記念病院精神神経科部長の三木浩司医師が講演した。昼食を挟んで午後はグループに分かれて分かち合いが行われ、当事者や家族の苦しみや困難などが話し合われた。

大名町教会の信徒でもある河井会長は、閉会の挨拶で「人間が一番淋しいのは一人ぼっちです。今日の集いを足掛かりとして、同じ信仰、同じ障害を持つ者の自助活動として福岡でも集いができるようになればと思っています。オリーブの会の理念でもある『心の平和と希望』がみんなの心に与えられればと願っています」と語った。また、開催にあたっては、たくさんの方の祈りを感じました。耳の不自由な人への奉仕を申し出てくださった方や「手は足りてるね」と声をかけてくださってスタッフボランティアを申し出てくださった方々のおかげです、と感謝を惜しまなかった。

参加者の声＝この集いができていつも自分だけじゃないと励まされて帰れるんです。（福岡）



▲挨拶をするカ障連会長の中原さん

宗教対話について学び合う

熊本

3月18日（日）、熊本の手取教会において諸宗教対話集会が開かれた。この集いは10年前から生命山のS・フランコ神父の指導で開かれている。

最初の2年間はカトリック教会が諸宗教について、どのように考えているのか、どのように教えているのかを、教皇庁の諸宗教評議会が出した「対話と宣言」をテキストに学ぶことから始めた。

最近の2年間は、仏教、神道や新興宗教（立正佼成会）の信徒との交流を通して学びや対話を行っている。今回は、1999年10月にバチカンで行われた諸宗教会議にフランコ神父と出席したSr.マリア（マリア布教修道女会）の報告とフランコ神父の「主イエス」について講話があった。



Sr.マリアは1970年に最初に京都で立ち上げられた「世界宗教平和会議委員会」のこれまでの動きや、1987年にヨハネ・パウロ2世教皇の呼びかけでアシジで開催された世界宗教者平和会議から毎年開催されているこの会議での平和を求める祈りと積極的な行動の取組、また、バチカンでの諸宗教間の関わりの現状などを報告した。

内戦が続いているアフリカでの宗教者の取り組みやイスラム教徒が多い南フィリピンのミンダナオでの活動など、諸宗教対話の活動がその地域の正義と平和に大きな影響を与えていることも報告した。

フランコ神父は、キリスト教がその地域に受け入れられていくこと、地域に根ざしていくことへの努力は「主イエス」への信仰をどう表明するか、どう伝えるかの方法であり、「主イエス」の本質を少しも変えるものでないことを強調した。

何が大切なの？

年度末を迎えると相変わらず教会も幼稚園も忙しさを感じながら過ごしていますが、ところで、この慌ただしい年度末、年度始めを静かに味わってみると、実際は厳しい現実を見せつけられます。多くの教会での大人の入信者の数は減りました。年間の幼児洗礼は少なくなりました。教会学校は子どもの数も減り、ご復活祭の頃、たくさんの初聖体式を受ける子どもの数もわずかになりました。また、幼稚園でも園児募集が思いのままにならず、園児減少を憂いながら、今後の歩みに不安を抱くようになりました。

これもひとえに少子・高齢の社会の結果と言ってしまえば簡単なことですが、教会にとっては、もともと信徒数が少ない中で、そのような結果は楽観的に見ることができるのだろうかと思います。二十一世紀を迎えてと言ったものの、果たして近未来の教会はどのようになっているのだろうかと、ふと心によぎります。

少子化対策、障害、高齢との共生、労働人口の減少のなかで在日外国人労働者の共生など、最後に、司祭召命が少ないではなく、なくなると思われる中で、いつも人間の知恵だけで対応されていくような現実を感じます。また、人間の自己主張と実現のための神のみことばで、わたしたち人間が、本当に、みことばに照らされ、導かれ、生きているだろうかと思ったりしています。確かに、今日ほど人間が、主体的に生きているときはないのかも知れません。ただ、神様のために生きているかは、どうなのだろうかと思います。

今、列福申請がなされている百八十八人の殉教者のうち福岡教区の二十八人の殉教者の列福推進担当司祭という任をいただいて、彼らの生きざま、信仰を思うとき、果たしてこれでいいのかと考えさせられます。父のみ旨を生き抜き、十字架の道を歩まれたキリスト、そのみあとに倣った殉教者の生き方は空しいものなのだろうかと思う今日この頃です。

戸畑教会主任　深堀勝人神父

Sr.平田　ヒロエ帰天



神学校援助姉妹会のシスター平田ヒロエが、2月21日急性肺炎で帰天した。享年74才。シスターは、1926年8月15日生まれで、47年10月15日に神学校援助姉妹会に入会後、一貫して、福岡小神学校の神学生のために影から支え続けた。

BOOK 読みは専科

★ヨナのしるし
トマス・マートンの日記
トマス・マートン絵・著
五百旗頭明子・伊藤和子共訳
女子パウロ会出版



四季のトラピスト修道院を背景に、修友と共に―祈り働く―若き修道士マートンの、司祭叙階前後―心燃える弾みの時―5年半の日記。さまざまな葛藤の中にも、喜びに満ちた信仰と共に、神の示される目的地に向かう旅は、厳しく、美しく、楽しい祈りや勉学、読書からの霊的メモも記されているのが興味深く、黙想になる。

この日記は第二バチカン公会議（1962～65）以前のトラピスト会（厳律シトー会）の日常生活が描かれている。

本体　2800円
◇　◇　◇

★あめのささきCD
カトリック聖歌・聖母賛歌集
合唱　宮崎カリタス修道女会
オルガン　伏木幹育



聖母マリアに対する歌は、今日でもよく歌われ、親しまれている。特にここに収録したカトリック聖歌の聖母賛歌は、これからも大切に歌い継がれていくだろう。このアルバムはカセット「あかつきの星よ」「アヴェ・マリア」「われらの母なる」から18曲を選曲したもの。

サンパウロ　税抜き2300円

ジャパンスマイルか株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811-7265

感謝と賛美のために
祈りを通して制作
典礼センター ピエタ
祭服、聖器具、聖像
信心用品、ベール、
ロザリオ他
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092-526-9176

キリストの招きにこたえ この一歩

第40回 クルシリヨ

日　時：5月3日(木) 10時から
　　5日(土) 16時まで
場　所：福岡黙想の家
　　(宗像市名残1056　☎:0940-32-3222)
参加費：12,000円
　　(宿泊、食事、用品代　当日受付で)
携行品：ロザリオ、着替、寝間着、洗面具
福岡教区クルシリヨ事務局
〒808-0074　北九州市若松区藤ノ木1-4-23
　　松尾光敏　☎093-771-2936

みこころのうちに一つになろう

2001年度　《聖霊による信仰生活セミナー》

日時	テーマ	講師
5月7日	神の国	牧山勝美神父
5月14日	救いのみわざ	青木　悟神父
5月21日	新しい生命	牧山美好神父
5月28日	神の賜物の受領	山元　眞神父
6月4日	聖霊の満たし	F.マッケイ神父
6月11日	聖霊のうちでの成長	T.ドワイヤー神父
6月18日	ミサ、聖霊の証人	松永久次郎司教 外神父一同

日　時：全7週毎月曜10時30分から12時30分まで
場　所：大名町カトリック教会
問合先：☎092-522-5139（司教館）Br.床島籐吾

案内版　会合と催し

福岡黙想の家　4月

◇4日(水)～5日(木)　笹丘カトリック幼稚園職員黙想会
◇6日(金)～8日(日)　四旬節黙想会(指導:オカロール神父)
◇11日(水)　ミカエル会
◇12日(木)～15日(日)　聖週間の黙想と主の復活を祝う
◇23日(月)～25日(水)　日本聖公会・九州教区教役者会
◇28日(土)～30日(月)　聖母カテキスタ会・地区長研修会
［問合先］黙想の家　☎0940・32・3222　FAX 32・3385

生命山カトリック別院

遥かに有明海を望む山頂に生命山はあります。自然と静寂の中で祈りましょう。お待ちしています。
※祈りの集い
テーマ：本当にこの人は神の子だった
・4月19日(木) 10時～15時
指　導：F.ソットコルノラ神父
　　古川和雄神父
・宗教対話について

日　時：4月30日(月) 14：00
場　所：熊本手取教会
集　合：13：30　手取教会外庭
訪問先：宗岳禅寺(熊本市上林町)
テーマ：曹洞宗・カトリック信徒間の対話
助言者：曹洞宗　堀田大心師
　　カトリック　フランコ師
申込み：4月25日まで

［問合先］生命山カトリック別院
☎0968・85・3100
FAX 0968・85・3186

花岡山殉教祭　4月29日

日時：4月29日(日) 14時から
場所：花岡山殉教者墓地広場
※小笠原玄也・加賀山マリアみや一族殉教者の列福を願うミサにたくさんご参加下さい。

4月のこよみ

1日（日）　四旬節第5主日
5日（木）　†F.ブレンゲ［佐賀教会1946］
7日（土）　†C.シュミッツ［黙想の家1988］
8日（日）　受難の日（枝の主日）・世界青年の日
　　司教座教会献堂記念特別献金日
9日（月）　受難の月曜日
10日（火）　受難の火曜日
　　聖香油ミサ［カテドラル15：00］
11日（水）　受難の水曜日
12日（木）　聖木曜日
　　主の晩餐の夕べのミサ［カテドラル19：00］
　　†パウロ大野正恒［泰星学園校長1985］
13日（金）　聖金曜日（主の受難）・大斎小斎
　　福岡教区司教座教会献堂記念日
　　聖地献金日
14日（土）　聖土曜日
　　復活徹夜祭［カテドラル19：00］
15日（日）　復活の主日
　　†J.ドレル［直方教会1984］
22日（日）　復活節第2主日
　　菊池教会創立50周年記念祭
25日（水）　聖マルコ福音記者
　　†A.レウトル［新田原教会1944］
29日（日）　復活節第3主日　みどりの日
　　花岡山殉教祭
5月
3日（水）～5日（土）
　　クルシリヨ［黙想の家］
5日（土）　†F.ルマリエ［八代教会1945］

◆福岡

■福岡地区婦人会総会
［日時］4月3日（火）10時～［場所］カトリック大名町教会［内容］総会と感謝ミサ・講演会［講演］シスター泉キリエ（熊本聖心ホスピス）［テーマ］ホスピスでのいのちを支える［参加費］1000円（昼食代含む）［問合せ］各教会婦人会

■グレゴリオ聖歌を歌う集い
［日時］4月4月（水）11時～12時15分［場所］福岡召命の家聖堂［講師］坂田孝子（エリザベト音大でパイプオルガン宗教音楽を学ぶ）氏［参加費］自由献金・テキスト代500円［主催］ル・ヴァン・ヌーボー［問合先］☎096・380・5686堺敬子

■召命を共に祈る会福岡
［日時］4月19日（木）14時～［場所］召命の家［問合先］☎092・531・6821青木神父

■在世フランシスコ会集会
［日時］4月22日（日）14時～16時［場所］高宮カトリック教会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習［指導］小池如安神父［問合先］☎092・843・5831岩崎［次回］5月27日（日）

■福岡生と老い死を見つめる会
［日時］4月29日（日）13時～［場所］カトリック大名町教会［テーマ］平成12年度総会とビデオ「老いをどう生きるか」※午後1時より軽昼食を用意します［会費］今回はいりません［問合先］☎092・713・8523大山・092・607・6992村尾

■聖テレーズの著作を読む会
［日時］4月29日（日）14時～15時30分［場所］カルメル会修道院［世話人］城島暁☎092・731・3723

■「典礼を学ぶ集い」
［日時］4月29日（日）14時～［場所］カトリック大名町教会［テーマ］最後の晩餐とミサ［講師］白浜満神父（サン・スルピス大神学院教授）［申込先］☎0940・32・3047平井美代子［費用］600円

■福岡パストラルケア研究会
［日時］5月6日（日）14時～16時［場所］大神学院新館講話室［内容］臨床体験発表［発表者］浜崎喜美代氏［参加費］500円［問合せ先］☎092・871・4943 st.箕浦※今年度は現場で働いておられる方の体験をもとにし、看護者・介護者のこころのあり方を勉強し深めていきたいと思います

■第83回福岡結婚準備セミナー
［日時］5月12日（土）～6月6日（水）毎土曜日と水曜日19時～21時30分［場所］カテドラル大名町教会［申込・問合先］カトリック・ファミリーセンター☎092・541・6207 FAX 552・5022

■福岡ホスピスの会勉強会
［日時］5月20日（日）14時～［場所］カトリック大名町教会［内容］肝臓がんについて［講師］矢津剛医師（矢津内科消化器科クリニック院長）［参加費］会員500円一般700円［問合せ］☎092・737・3701ホスピス事務所：次回勉強会7月15日肺がんについて

■美野島司牧センターのお願い
衣類・毛布のカンパをお願いします。せっけん・ハブラシ等洗面用品。今の所、女性用の衣類は間に合っています。男性用ジーンズ・ジャージーなどの衣類をよろしくお願いします。

◆北九州

■小倉祈りの集い
［日時］4月24日（火）13時30分～15時［指導］V・マテオ神父（御受難会）［場所］小倉教会信徒会館2階［内容］「みことば」をあじわい祈る［問合先］☎093・452・1431・1419

■聖書を読む会
［日時］毎月第1木曜日、午前の部10時～11時半／午後の部19時半～21時［場所］佐賀カトリック会館［内容］読む［講師］A・マテオ神父［テキスト］聖書［参加費］無料［問合先］☎0952・23・4754阿南

◆佐賀

◆熊本

■熊本地区召命を共に祈る会
［日時］4月19日（木）11時～［場所］健軍カトリック教会［内容］ロザリオ、召命の祈り・はなしあい［問合先］☎096・368・2825中村彰神父

■熊本地区教会学校担当者の集い
［日時］4月22日（日）14時～［場所］健軍カトリック教会［問合先］096・368・1046中村彰神父

■花岡山殉教祭
［日時］4月29日（日）14時～［場所］花岡山殉教者墓地広場［内容］小笠原玄也とその妻マリアみや一族と15人の殉教者たちの早期列福を祈り求めるミサ［問合せ先］☎096・352・5610島崎教会

■第65回熊本結婚準備セミナー
［日時］5月7日（月）～5月29日（火）毎月曜日と火曜日全8回・19時～21時30分［場所］手取カトリック教会［問合先］手取教会☎096・352・3030 FAX 096・352・1515

また、頂いた衣類の管理や分配などを手伝ってくださるボランティアを募集しています。火曜日と金曜日の午後1時から行います。お問合せをお待ちしています。［問合先］コース神父☎092・431・1419

2001年度臨床パストラルケア教育研修会案内

コース：第15回研修会
日　時：5月26日(土)～30日(水)
場　所：イエズスの聖心病院（熊本市）
科　目：心理学的傾聴
コース：第16回研修会
日　時：2002年1月19日(土)～23日(水)
場　所：イエズスの聖心病院
科　目：哲学的人間論
申込先：☎0942-31-4836（久留米市津福今町459-10）
定　員：8名まで

コース：第4回神学講座
日　時：8月29日(水)～9月7日(金)
場　所：福岡サン・スルピス大神学院
科　目：宗教概論、日本における諸宗教、哲学倫理、キリスト教的人間論、神の神秘、病者の塗油
申込先：☎：03-5426-3586（担当：木澤）

★費　用：全コースとも申込先へお問合せください。

熊本「神学講座」開催　募集中

期間：全2年間
第1期日時：5月13日～2002年3月10日まで15回
主催：熊本地区信徒協
募集：4月1日～15日まで
※詳細は☎096-352-1515 手取教会日向

編集後記

今月号より、2面に「新しい世紀のカテケジス」と題して、今を生きる私たちに教会の教えを今一度再確認する場として連載コーナーを設けます。最初は、教区信仰教育委員会委員長の伊東成晃神父（呼子教会主任）に数回の連載をお願いしています。御期待下さい。
良き聖なる3日間、復活祭をお迎え下さい。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

未来へ――安心を創る
藤木工務店
FUJIKI
福岡支店　〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　大森　周　福岡支店長　多田泰幸

カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　田中重治
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

世界広報の日
屋根の上で言い広めなさい！



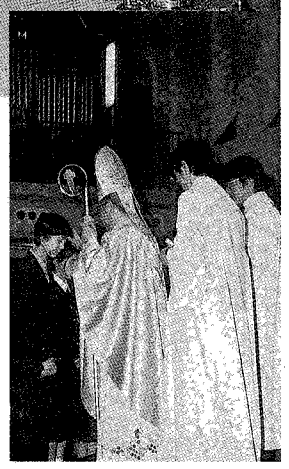
福岡教区の福音宣教についてパパ様に話す松永司教…アドリミナで…

5月20日復活節第6主日は世界広報の日です。今年のテーマは、「屋根の上で言い広めなさい」－グローバル・コミュニケーション時代の福音－です。教皇はメッセージの中で「キリスト者には真理を、すなわち、人のいのちと、人となられたみことばのうちに示された人生と、その目的についての栄光ある真理を、宣べ伝える義務と特権があります」と言われ、時として福音宣教に敵意を抱いているように見えるメディアに対しても、キリストの福音を宣べ伝える手段ともなり得ること、キリストに向かって広報の扉を開け放つことを恐れてはならないことを述べています。

2001年目のご復活を祝う



復活のローソクに2001の年号を書き込む司教



聖香油を受ける受洗者

主はおっしゃっていた通り復活された！
「福岡教区共同体に95人の神の民が加わった日

2001年目の復活祭、福岡教区で95人が受洗し神の民に迎えられた。また、今年の復活祭にミサに参加した信徒は、ここ数年の教区現勢報告から推して約一万七千人。教区の信徒総人口が約三万一千人であるから57％の信徒が復活祭を教会で祝ったことになる。復活祭に先立つ受難の火曜日、カテドラル大名町教会で聖香油ミサが松永司教を囲み、60余人の司祭と多数の修道者、信徒が参加して行われた。この日、3人の宣教師が司祭叙階50年を祝った。聖金曜日には天草・根引山で主の受難を偲んで十字架の道行きが行われ50人が参加した。

今年も、主の過ぎ越しの神秘を記念する聖なる3日間の典礼が各地で盛大に挙行された。4月12日聖木曜日の夕べには、イエスの死と復活の記念でありその恵みをつめこんだキリストの聖体の秘跡制定を記念した。聖体拝領後、主が受難に向かわれたのを記念して、聖体を仮聖ひつに移した。

翌13日聖金曜日は、主の受難と十字架の死を記念し、祭壇の布が全て取り払われた聖堂で、受難の朗読や十字架崇敬が行われた。典礼の前には個人で、あるいは教会主催で十字架の道行きの祈りをする人々の姿が見られた。



主の受難を思い十字架の道行きを進む川添神父と参加者

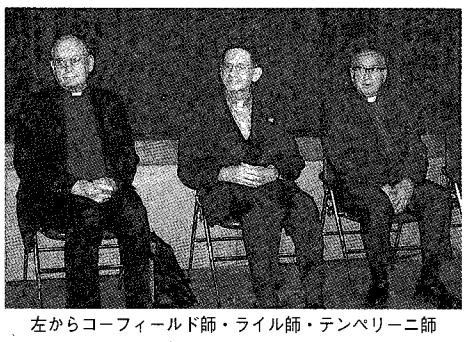
14日土曜日の夜、暗闇の中で始められた復活徹夜祭は、復活して私たちと共におられる主イエスの象徴である復活のろうそくの祝福式から始った。旧約の朗読を通して神の救いの神秘を想起しながら主の復活による救いを待った。そして、主の復活を記念して栄光の賛歌が響き渡る鐘の中高らかに歌われた。荘厳なアレルヤ唱と福音により、主の復活を祝った後、主の過ぎ越しの神秘に与る洗礼式が行われた。今年は教区内で95人が洗礼を受け、神の民の一員となった。また、既に洗礼を受けた信者も洗礼の約束を新たにした。

15日、日曜日の復活の主日・日中のミサの中では、子ども達の初聖体式を行った教会も多く、120人以上の子ども達が初めて主の体を拝領した。

また、主の復活のお祝いとして、多くの教会で恒例の美しく飾られた復活の卵が配られ、喜びの内に主と共に新たな歩みを始めた。

金祝
3宣教師 教会を育て続けて50年

4月10日（火）、カテドラル大名町教会で、聖香油ミサが松永久次郎司教主式、60余人の司祭の共同司式で行われ、多数の修道者や信徒が参加した。聖香油ミサは、本来聖木曜日の午前中、最後の晩餐の時にイエス様が聖体の秘跡を制定するのと同時に、司祭職を制定されたことを記念して全司祭が司教のもとに集まり、司祭としての約束を更新し、オリーブ油から作られ秘跡に用いる3つの油、すなわち病者の油、洗礼志願者の油、聖香油を聖別するミサである。



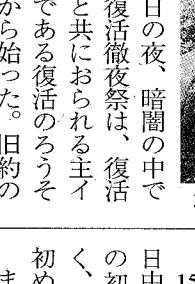
左からコーフィールド師・ライル師・テンペリーニ師

福岡教区では司牧上の理由で、火曜日の午後に毎年このミサがささげられている。

ミサ後、1階ホールにて司祭叙階50周年祝賀会が催された。金祝のA・テンペリーニ神父（ミラノ会会主任）、M・S・ライル神父（コロンバン会・多久教会主任）、M・コーフィールド神父（コロンバン会・手取センター所長）、M・コーフィールド神父（コロンバン会・手取教会）が紹介された。司祭団を代表して平田敬神父は「終戦後の大変な時期に宣教師として来られた神父様方のおかげで、日本の教会も邦人司祭も育ちました。これからも一生懸命頑張って私たちのために支えになってください。」と感謝の言葉を述べた。挨拶にたった3人はそれぞれ司教、司祭団、信徒たちに支えられてきたことを感謝していた。テンペリーニ神父は、叙階の記念に選んだ、聖レオ教皇の「私たちはキリストになりました」という言葉に、今でも似ていないので、エマオへの弟子のように主よ共にいてください と述べた。ライル神父は家庭司牧ができたことを感謝した。6月に帰国予定のコーフィールド神父は、この世で会えなければ、後の世で、それも、できれば暑くない所で会いましょうと挨拶した。

乾杯の音頭をとった山田成章神父は昔は金祝の神父様はめったにいなかったが、今は毎年数名の司祭が金祝を迎えることは大きな喜びと述べ、これからは生理年齢ではなく、司祭年齢で頑張ってくださいと激励した。

佐賀教会出身
教区神学生誕生



井手公平神学生

福岡サン・スルピス大神学院に4月より新しく井手公平君が入学した。井手君は1969年8月16日生まれの31才。佐賀教会出身。93年4月29日に東京イグナチオ教会にて洗礼を受けた。3月迄は佐賀広域消防局の救急隊員として活躍。「神様の招きを感じて、司祭召命の道に飛び込んだ。清水の舞台から飛び下りる覚悟で頑張りたい。」と意気込んでいる。

司祭異動

▽大名町教会主任＝青木悟神父（教区事務局長・召命の家）▽教区事務局長代理＝松井忠之神父（教区会計兼任）▽司教館付 中浜一男神父（今村教会主任）

▽4月22日付け　※召命の家は担当者不在となります。管理等は司教館にて行います。

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般の意向】難民女性に対する尊敬

【布教の意向】都市文化と福音宣教

【日本の教会の意向】司祭、修道者への召命

時の話題
曽根 忠明

桜やツツジの季節と共に復活祭を迎え、教会は新しい命に生かされる雰囲気になってまいりました。学校もほぼ時を同じくして新入生を迎え、新しい命に満たされた感じがございます。

「子ども達を私のところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。」（ルカ18・16）というイエス・キリストのお言葉は現代も大事にされなければなりません。

近年は、「子ども連れOK」の音楽会がぼちぼち開かれるようになりました。

一方、教会の中に子ども部屋の用意されたところがあるようでございますが、イエス・キリストがごらんになったらどう言えるでしょうか。子どもの歓迎されない社会はやがて勢いを失います。

イエス・キリストが弟子たちに教えられた「子どもを私のところに来させなさい」という教えは、少子高齢化の社会となりつつある現代の日本に必要な教えであるような気がいたします。

若者がいなければ国の勢いを保つことはできません。同じように、若者の少ない教会はどうしても活気が乏しくなります。イエス・キリストは教会がいつまでも元気であるようにと、「子どもを大切にしなさい」と教えられたのかなと思える昨今でございます。

21世紀という新しい世紀を迎え、教会が多くの新しい命に恵まれ、人々に復活のよろこびを伝える場となるよう祈っております。

（イエズス会　泰星学園校長）

子どもたちを私のところに来させなさい

ちくさ

今や携帯電話の普及率が50％を越えたと先日報じられていた。一家に一台の電話から一人に一台の電話、しかもいつでもどこでもどこからでもの時代となってゆく。▼コンピューターや携帯電話からの電子メールのやり取りも急速に普及している。子どもたちが平気で操作しているのを見るとあっけにとられてしまう。しかし、いまや会社の中で社内メールが一般化されつつあり、近年中には官公庁による公文書等も電子メールによって配信されようとしている。数年前までファックスがどうのといっていたのに、今やそれさえ時代遅れとなりつつある。▼ところで、自分は電話恐怖症、苦手である。自分が言葉をはっきりと発音できないため、名前を伝えるだけでも何度も繰り返さなければならない。おまけに、普通の人には大丈夫な電話からの音も、自分には音としては聞こえてもそれが言葉として認識できず、音量を最大にしないとわかりづらいし、面識のない人との場合はそれでも理解するのが大変なためだからだ。普通に面と向かって人と話している時にはそんなことはないのに…。▼人間にとって大切なのは顔を向き合わせて会話する事だろう。これが神様が創られた人間の本来の姿である。神と、そして人間と向き合って暖かい言葉による交流をする。言葉がなくても一緒にいるだけで、相手のそぶりなどから意志が伝わってくる。一緒にいるのが物理的に離れているなど不可能な時、電話などの手段が有益となる。しかし今、直に会うことができるのに電話で済ます、さらには、肉声ではなくコンピューターの文章で、とは便利でも何か寂しい気がする。（T）

特集

召命を祈る福岡教区に実りのしるし！
各地で召命の喜びを祝う

召命祈願日

この春、佐賀教会出身の古里新司祭（フランシスコ会）の初ミサ、聖母訪問会や聖心のウルスラ宣教女修道会では3人の修道女の終生誓願式が行われた。5月6日の「世界召命祈願日」の特集としてこれらの式に参列した信徒から寄せられた喜びの声を掲載した。また、佐賀教会出身の大神学生（一面参照）も誕生した。

古里慶史郎神父 出身教会で初ミサ

佐賀教会

3月10日（土）に東京の聖アントニオ神学院聖堂において司祭に叙階された古里慶史郎神父（フランシスコ会）の初ミサが去る3月25日（日）、出身教会である佐賀教会において行われました。初ミサには近隣の司祭たち、信徒や関係者など約200人の出席がありました。

お説教の中で古里神父様がどうして司祭職を目指すようになったかのエピソードが語られました。感動的な話だったので紹介させていただきます。それは、神父様がインドを旅された時のこと。場所もわからず迷い込んだある施設で一人のおばあさんに出会ったそうです。神父様は当時はまだ洗礼も受けておられず、そのおばあさんが誰であるかも知らなかったそうです。



（実はその方こそかのマザー・テレサなのですが・・・）そして、その施設でしばらく働かれたそうです。そして日本に帰ってくる時にマザー・テレサに「神父になります・・・」と約束されたとのことでした。それから約10年、その約束を果たされたわけです。その出会いと月日を思うと何か主のお導きがあったとしか思えませんでした。ミサのその場を何か暖かいものがおおったような気がしたのは私だけでしょうか。ミサ後も記念式典、祝賀会と古里神父様を囲み楽しいひとときがつづきました。

シスター石川直子の終生誓願式に参加して

黒田　京子

昨年3月まで約3年間大名町教会の受付で働いておられた、シスターパウリナ石川直子の終生誓願式ミサが、去る3月15日鎌倉市にある聖母訪問会（総長＝渡辺清子修道女）の本部聖堂において、横浜教区長梅村昌弘司教様司式のもと執り行われました。ミサには京都や埼玉など、そして私たち福岡からもシスターに縁のあった人たちと、聖母訪問会のシスターズあわせておよそ100人の人たちが参列しました。

聖堂の正面にステンドグラスを通して春の光が射し込む中、入祭の歌「しあわせな人」に始まり、開祭の挨拶と回心への招き、福音朗読から誓願式の部へ入りました。

まず終生誓願宣立志願者の呼び出しと確認、終生誓願宣立へと進み、二人のシスターが証人となり、証書に署名。次に指輪の祝別と司教様が「キリストの花嫁であり、この修道家族の花嫁であるシスターパウリナ石川直子、終生変わることのない忠実のしるしとして、この指輪を受けなさい」と言われ指輪の授与が行われました。最後に会衆一同に祝福が与えられ、聖母訪問会総長とシスターパウリナのご挨拶があり、閉祭の歌「聖霊の息吹を受けて」を唱い、喜びと感動のうちに終わりました。



ミサ終了後、前日の寒さとはうって変わり、青空が広がり、春の日差しでいっぱい輝いているなか聖堂前のお庭で梅村司教様を囲み記念撮影をしました。

祝賀会では個性豊かなシスターの方々と交わり楽しい時を過ごしました。

シスターズの手作りのお祝い走でお腹をいっぱいにし「カナの婚礼の時のマリア様のように、すぐそばに困っている人がいたら手を差しのべる心を、そして私たちのためにも取りなして下さるマリア様がいらっしゃることを忘れずに」との司教様の言葉を心に深く刻み、鎌倉を後にしました。神様のお恵みでいっぱいの良き日でした。

シスターパウリナは新しい宣教の地「福井」へ赴任されました。シスターの上に神様のみ恵みと祝福がありますようにお祈りいたします。

大名町教会信徒

寺濱亮司神学生の選任式に参加した

須々木　里美

3月10日（土）に久留米カトリック教会で寺濱亮司神学生の朗読奉仕者の選任式が行われました。

当日は、ヨセフ松永久次郎司教様をはじめ、多くの神父様、神学生の方々によって、盛大な式が行われ、とてもビックリしました。

遠くから、たくさんの信者のみなさんが集まっておられたので、式が始まる前に着いたのに、一番後ろの席に座るのがやっとでした。それだけみんなが寺濱神学生が司祭になられる事を心から望んでいる事の表れだろうなぁと思いました。

私は去年の夏休みに召命学校に初めて参加しました。二泊三日という短い期間でしたが、いっぱいお祈りをして神様の事について勉強したりして、大変だなぁと実感しました。だから、寺濱神学生が、司祭になろうとがんばっておられるので、「私には、無理だなぁ」と思いました。

私達信者も、寺濱神学生が司祭への道を歩み続けることができるようにお祈りをしないといけないと思います。

カトリック福岡教区報で見たのですが、朗読奉仕者を経て、助祭叙階後に司祭になることを知りました。とても大変なんだとまた感じました。

寺濱神学生をはじめ、召命の道を歩もうとしておられるすべての方々に、がんばってほしいと思います。

久留米教会・小学6年生

熊本地区の召命を共に祈る会

竹市　ヒロ子

この会を立ちあげたのは1997年8月。3人のシスターの出発でした。教会や修道院で「召命祈願ミサ」を挙げ、教区や福岡地区の集まりに参加し青年達を召命祈願し、黙想会や教区の集まりに誘いながら続けてきました。この会発足当初から「エネルギッシュな若者と関わって頂く若い司祭を熊本に送って下さい」という具体的な祈りがありました。昨年3月中村彰神父様を熊本にお迎えできたことは、この願いが聞き入れられたと感謝しております。

神父様に熊本の様子も理解頂いた頃、この会の指導司祭としてお願いし6月から定例会を開いて頂いております。また数カ月毎に小教区を回り「召命祈願ミサ」を挙げて頂いております。ミサの中では、教会において扇の要とも言える司祭の高齢化・召命の減少、祈るときには名指しで祈ることの大切さ、を訴えておられます。（司祭を助け生涯を奉献しておられる修道者の場合も同じです）青年達との関わりでは、山登り、プロテスタントの青年達との交流、月2回の聖書の分かち合い等。3月には青年会手作りの黙想会へとその分かち合いは深められています。この様に耕され手入れをされるところに神様からの召命の恵みを頂くことができるものと思います。

聖職者への道はそれぞれです。カトリック改宗5代目百年にして誕生する司祭、改宗数年にして司祭、修道者への道を志し叙階の恵みを頂く人。またそのきっかけもそれぞれです。その中でも子どもの頃の司祭・修道者に憧れてという声をよく耳にします。その声の中に、そして祈りの中で、今ある司祭・修道者の方々に感謝と喜びを持って生きていただくように祈ることの大切さに気付かされています。この会が、熊本に福岡教区に司祭・修道者の豊かな召命を祈り、要請があれば真心こめた奉仕ができますようにと願っています。

健軍教会信徒

第12回召命を祈る 徹夜祈祷会

日　時：5月26日(土) 19：00　受付～
　　27日(日) 7：00　朝食で解散
場　所：浄水通教会と召命の家
内　容：19：30　晩のいのり
　　22：00　Br.小崎登明による無声映画
「日本二十六聖人―われ世に勝り―」
　　24：00　共同の聖体礼拝
　　03：00　ロザリオ
　　05：30　召命祈願ミサ
参加費：献金
問合先：☎092-741-3687（青木　悟神父）

召命祈願ミサ

日　時：5月10日(木) 19：15～
場　所：サン・スルピス大神学院
司　式：下町豊重神父（西新教会主任）
問合先：☎092-741-3687（青木　悟神父）

復活は美白!?

新しい世紀のカテケジス②

伊東成晃神父



みなさん、主の復活おめでとうございます。21世紀最初の復活節、みなさんはいかがお過ごしでしょうか？皆さんにとって『復活』とは何ですか？私も幼い頃からずっとこの問いかけをしてきました。「毎年毎年、イエス様は復活できていいなあ」と思っていました。「ぼくも死んだら復活するのかな？でもずーと先の事だ」とか考えていました。『復活』それはもちろん死後のことでしょう。しかし、毎年毎年、私達が祝うということは、今生きている間にも意味があることだと思います。『復活』ということばからイメージされるのは、『取り戻す』とか『よみがえる』とかいうもので、『元の状態を取り戻す』という印象があるのではないでしょうか？そういう意味での復活が、毎年自分にも起こるのだと思います。人間は、もともと神に似せて創られました。ということは、私達は神様のような輝きを持っているという事です。それが、いつの間にかだんだんくすんだり汚れたり、錆び付いたりしてしまいます。せっせとお肌の美白に取り組むのであれば、魂の美白にも励みましょう。お父さんやお母さん、疲れはてて元気のないハリのない『親』になっていませんか？お父さんにもお母さんにも、元々あった素晴らしい輝きがあるはずです。家族みんなでその輝きを取り戻しましょう！毎年の復活、それは『私の復活』でもあり『夫婦、家族の復活』の時でもあると思います。やっぱりいつまでもカッコイイお父さん、キレイなお母さんがいいですよね。御復活節は、美白の季節、みんなで美白に励みましょう。私も錆び付いた司祭にならないよう美白し、復活しようと思います。

呼子教会主任神父

むなかたASIPAアシパ　人生の道

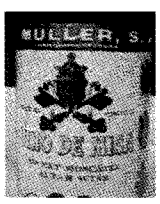
みことばを静かに味わい、分かち合い、現実の生活の中でみことばを生きるため継続的に聖書を深め、実行していくプログラムです。

Aグループ　6月15日〈金〉19：00（夕食後）～ 17日〈日〉16：00迄
Bグループ　6月22日〈金〉19：00（夕食後）～ 24日〈日〉16：00迄

【費用】19,900円（宿泊・食事・資料代一切を含む）
【指導】コンベンツァル聖フランシスコ修道会ー松田清四朗神父

むなかた祈りの森 福岡默想の家
〒811-4155 宗像市名残1056
TEL 0940(32)3222 FAX 0940(32)3385

ミサ用ワイン



VINO DE MISA ヴィノ デ ミサ
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ　青木　彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

聖心のウルスラ宣教女修道会
二人の終生誓願と一人の誓願25周年を祝う

3月26日、神のお告げの祭日に、聖心のウルスラ宣教女修道会（管区長＝Sr.江藤フサ）本部聖堂にて、シスターマリアベルナデッタ蔵留津子（出雲教会出身）とシスターマリアジョセッパ松永みか（老司教会出身）の終生誓願宣立と、シスターマリアベロニカ佐田栄子の修道誓願25周年銀祝の感謝の御ミサが松井忠之神父司式によって挙行された。

桜のつぼみも綻び、春日和の


銀祝のSr.佐田と終生誓願宣立のSr.松永とSr.蔵（右から）

ミサの中で司式司祭の松井神父は、3人の喜びのシスターに心温まる励ましと奉献生活の尊さを心にひびく言葉で訴え感動を与えた。終始なごやかな雰囲気のうちに新しい絆によって、神により親しく結ばれる覚悟を公に表明する終生誓願という式が進行した。聖心のウルスラ宣教女修道会における終生誓願は修道女となってから6年間、自分の召命の恵みを確かなものとし、感謝をもって終生神と人々への奉仕に生きることを公に表明するものである。有期誓願の印であった小さな十字架のバッチの替わりに、祝別された銀の鎖がついたキリストの十字架が二人のシスターの胸に輝き参列者にもその感動が伝わった。

修道誓願25周年記念を迎えたシスターマリアベロニカ佐田栄子は、信仰と愛のシンボルであるローソクを手に、25年前に初めて神と約束したことば、誓願文を読み上げ、喜び、悲しみ、苦しみを心に深く刻んだ25年間の恵みを感謝しながら神と人々の前で、心を新たに修道誓願を更新した。

午後からは聖心ウルスラ幼稚園大ホールで祝賀会が催され、参加した神父の思いがけない楽しいコーラスや、シスターの家族のとび入り、幼稚園の先生方の踊りなどが披露され喜びのシスター方と共に心和む親しい交わりのひとときを過ごした。

聖心のウルスラ宣教女修道会の日本の小さな家族的な共同体は勿論のこと、イタリア、オーストラリア、台湾、フィリピンの各修道家族にとっても神のお告げの祭日は、喜びと感謝、そして賛美の祈りと熱い心が互いにこだましあう祝福された一日であった。

カトリック福岡教区福岡地区婦人会総会を開催
「もう一人の教区司祭の母になってください」
福岡

4月3日（火）、カテドラル大名町教会においてカトリック福岡教区福岡地区婦人会（顧問＝松井忠之神父）の総会が開催された。10時からの総会は100人ほどの会員が集まり昨年


就任の挨拶に立つ牛尾会長（左端）と新役員

度の報告、新年度の活動予定などが話し合われた。総会後、松井神父司式で感謝のミサ。

午後は、「いのち」をテーマとした講演会が行われ、熊本の聖心ホスピス病院のシスター泉キリ江（ショファイユの幼きイエズス会）が「愛されて生きるいのち…ホスピスの中で」と題して、いのちの尊さ、いとおしさを毎日の体験から語った。

福岡地区婦人会は福岡市内14小教区と1つの巡回教会の全女性信徒を会員とするグループである。司教座教会の膝元である福岡市にあって、教区行事への奉仕や司教館・召命の家などの清掃奉仕をはじめ、今村の聖母園、篠栗老人ホーム、富の里老人ホーム、亀山栄光病院などへのボランティア活動も長年に渡って行っている。

総会に続いて行われた感謝のミサで松井神父は日頃の婦人達の奉仕に触れ「いつも感謝しています。誰かに何か言われることがあっても、これまでの活動が人々に喜ばれ、必要とされ、大切なことという思いで奉仕してください。また、病気の司祭のために祈ってください。福岡教区のために働いてくださった方々ですから。さらに、司祭召命は急務です。若いお母さん方にお願いします。もう一人の教区司祭を産んでください」と訴えた。

また、社会不況の中、いわゆる専業主婦が少なくなり奉仕活動にも高齢化が目立ってきている。そんな中、婦人会の役員を引き受ける人も少なくなり勤めを持ちながらという人も少なくない。教会活動の高齢化はこんなところからも進んできているようである。

今年度は、地区婦人会でも役員交替の年に当たり福岡地区の小教区・巡回教会から新しい代表が派遣され、新会長に大楠教会の牛尾伝枝さんが選出され、前任の茶山教会の河野美智子さんと交代。副会長には二日市教会の山口紀子さんと光丘教会の永田妙子さんが選出された。

日本カトリック司教団の公認団体である「日本カトリック女性団体連盟」にも所属し、全国で展開中の「いのちを守る運動・神のみ旨に基づく家庭づくり・召命運動」のテーマにも参加、取り組んでいる。

「福岡教区報」の発送に奉仕しているメンバーもいる、福岡教区の原動力とも言えよう。

集まり続ける「ミカエル会」
宗像市

88歳から50歳までの43人が集う祈りと笑いのグループが、間もなく25周年を迎える。年間10回の集いを黙想の家で持つようになって四半世紀。大半が女性だが男性も参加できる。最初の指導司祭の名前を頂いて「ミカエル会」（指導司祭＝鈴木忠一神父）と命名したそうである。


笑いの溢れるある日の参加者と指導司祭

御受難会の黙想の家が福岡市城南区片江にあった頃から始って、宗像市に移転した現代に至るまで、ミカエル会は集まり続けてきた。

集会の一日は、10時半までに到着すると前回から宿題になっていた「この一月間で笑ったこと」を分かち合う。その後、オリエンス宗教研究所監修の「イエズスと出会う」という本のテーマにそってミサがささげられ、参加する。昼食を挟んでミサのテーマで分かち合い、静かでゆっくりとした聖時間を過ごし15時ころにそれぞれ帰っていく。

子ども達が成人し、自分も社会の第一線を卒業したという人や独り暮らしになったという人たちが支えあいながら集まってくる。「人生後半になって、一人で弱ってくる体や気持ち、寂しさを励ましてもらえる」と参加者は話している。

指導司祭の鈴木神父は、「カトリック信仰の伝統をしっかり受け継いでいる人々だと思いますよ。明るくて、けっこういいかげんさもあって素晴らしい。年を取ると淋しかったり、嘆きが多くなります。ですから、にもかかわらず笑う分ち合いをします。常連さんが多く、グループホームのようなものが欲しいという声もありますよ。」と語っていた。

集まりは毎月行なわれるが、日時は黙想の家の予定を見て欲しいとのことである。

ほっとする存在

車の中でラジオのスイッチを入れる。「傍らにいてくれる、だけでよい…」低音の魅力あるフランク永井のナツメロが流れてきました。

ある新聞の投稿欄に、某主婦が同窓会のことを書いていました。学生時代の友人、特に友人A子さんと十数年ぶりの出会いを楽しみに出かけました。A子さんは優しく、いつも笑顔を絶やさず、傍らに居るだけで安心できる友人だったようです。今でもそんなA子さんかと、同窓会へと出かけました。15年以上も経っています。みな昔の若さの代わりに、太ったり、しわが増えたりしていました。当のA子さんもそうでしたが、昔と少しも変わっていないのは、話をしていなくても傍らに居るだけで、ほっとしたそうです。

〝あなたたちに平和〟と復活したキリストが弟子たちに現れ、そして弟子たちはキリストと話をするよりも、復活したキリストの傍らに居てほっと安心します。キリストが生き返ったという喜びよりも、自分の傍らに居て下さると言う喜びで満たされます。それでキリストは何度も弟子たちの中で現れます。その度に、キリストが「なぜ私を捨て逃げたのか」「なぜ裏切ったのか」「なぜ悪いことをしたのか」と弟子たちを一度も咎めませんでした。だからキリストが現れる時に逃げ出さずに、キリストが傍らに来るのをいつも待っていました。

ところで私たちは教会でどうでしょうか。私の存在が皆に安心感を、喜びを与えているのでしょうか。教会に行ったら、いつも責められ、叱られ、皮肉を言われるのではないかと不安にさせ、つらい思いをさせているのではと反省します。偉そうにしたり、威張ったり、威圧するような態度では誰も傍らに来ないし、ほっと安心させないでしょう。やすらぎの場である教会が、いたたまれないつらい場にならないように、私たちも復活したキリストのように、あの主婦の友人A子さんのようになりたいものです。

今村教会主任　岩永義人神父

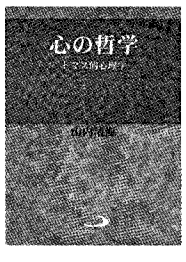
BOOK 読みは専科



★海原のかなた
長崎外国人墓地の碑
結城了悟　著
門坂流（イラスト）
女子パウロ会出版

波涛を越えてヨーロッパから日本へ。人生の荒波を渡って天のふるさとへ。明治から昭和の初期にかけ、異国に葬られた人びとの墓碑銘。悲しみのかなたに今なお光芒を放つ、信仰と望と愛の記録。『春になって、わたしはもう一度墓地を訪れた。桜が満開だった。そこでわたしは「花は散りても、また春咲くが・・・」という歌のことばを思いだした。碑に残る彼らの声が、終わりのない新しい春を物語っている』著者あとがきより
本体　1300円

◇　◇　◇



★心の哲学
―トマス的心理学―
山内清海　著

アリストテレスの「霊魂論」が哲学の教科書とされていた中世期以来、「哲学的心理学」と呼ばれていた「心の哲学」。デカルトの二元論を発端に、現代では伝統的哲学とされる「アリストテレス・トマス主義的思想」が見直されている。本書はトマス・アクィナスの研究に永年心血を注いでいる著者が、日本における「心の哲学」の構築と発展を願い、「心の哲学」におけるトマスの思想を体系化し、まとめあげたものである。
サンパウロ　税抜き1500円

ジャパンスマイルか
株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計
株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811-7265

感謝と賛美のために
祈りを通して制作
典礼センター ピエタ
祭服．聖器具．聖像
信心用品．ベール．
ロザリオ他
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092-526-9176

キリストの招きにこたえ この一歩

みこころのうちに一つになろう

2001年度《聖霊による信仰生活セミナー》

日時	テーマ	講師
5月7日	神の愛	牧山勝美神父
5月14日	救いのみわざ	青木　悟神父
5月21日	新しい生命	牧山美好神父
5月28日	神の賜物の受領	山元　眞神父
6月4日	聖霊の満たし	F.マッケイ神父
6月11日	聖霊のうちでの成長	T.ドワイヤー神父
6月18日	ミサ、聖霊の証人	松永久次郎司教 外神父一同

日　時：全7週毎月曜10時30分から12時30分まで
場　所：大名町カトリック教会
問合先：☎092-522-5139（司教館）Br.床島籐吾

募集中　司祭叙階金祝を記念して ライル神父と行くアイルランド

日　時：本年7月24日(火)～8月5日(日)
代　金：398,000円(分割払いも承ります)
行　程：ローマ・ヴァチカン・アイルランドの各地(ナバン・ダブリン・ノック等)
最少催行人員：20名(添乗員同行)
福岡発着
※申込とお問い合わせ：
(株)阪急交通社博多支店(担当：森賢司)
☎092-472-2243(福岡朝日ビル2階)

熊本地区神学講座のご案内　第1期

開講日程：2001年5月13日～2002年3月10日
開講場所：カトリック手取教会信徒会館
受講対象：カトリックの洗礼を受けた信徒
＊信仰を深めたい人・教会奉仕活動をする人・カテキタを目指す人
資格取得：1期と2期の全単位を取得しレポート提出、面接試験、資格査定に合格した人に要理教師二級資格が与えられます。
受講料：1期分3万円を全納していただきます
部分受講：1単位　1,500円(1日2単位)
問合せ先：☎096・352・1515　手取教会 日向

案内版　会合と催し

福岡黙想の家　5月

◇3日(木)～5日(土)　クルシリヨ
◇9日(水)　ミカエル会
◇12日(土)～13日(日)　聖霊刷新黙想会
◇18日(木)～20日(日)　黙想の家後援会・会員黙想会
◇20日(日)　黙想の家後援会・総会
◇25日(金)～26日(土)　アメリカ御受難会巡礼団
◇26日(土)～27日(日)　山口・島根信徒研修（ASIPA）
◇28日(月)～30日(水)　ASIPAスタッフ研修会

※新緑の美しい祈りの森での一時は、すべての人の心を優くします。　時々、この静かな森を訪れて神との語らうことは、人生を豊かにできます。
[問合先] 黙想の家　☎0940・32・3222　FAX 32・3385

生命山カトリック別院

遥かに有明海を望む山頂に生命山はあります。自然と静寂の中で祈りましょう。お待ちしています。

※祈りの集い
テーマ：本当にこの人は神の子だった
・5月10日(木) 10時～15時
・6月14日(木) 10時～15時
指　導：F.ソットコルノラ神父

※宗教対話の霊性
日　時：5月4日(金) 16時～5月6日(日) 14時
指　導：F.ソットコルノラ神父

※日本宗教研究
日　時：5月24日　アメリカから25人が訪問

[問合先] 生命山カトリック別院
☎0968・85・3100
FAX 0968・85・3186

5月のこよみ　聖母月

1日（火）　労働者聖ヨセフ
3日（水）～5日（土）　クルシリヨ［黙想の家］
5日（土）　†F.ルマリエ［八代教会1945］
6日（日）　復活節第4主日　召命祈願日
10日（木）　召命祈願ミサ［大神学院19：30～］　†F.チリ司教［初代福岡教区長1930］
13日（日）　復活節第5主日　**熊本地区神学講座開講［手取教会］**　老司教会ふれあいバザー　笹丘教会バザー
14日（月）　聖マチア使徒
15日（火）　†ヨハネ棚町正刀［茶山教会1968］
20日（日）　復活節第6主日　世界広報の日（献金日）　**箱崎教会堅信式**
26日（土）　召命を祈る徹夜祈祷会［召命の家　～27日］
27日（日）　主の昇天　**古賀教会堅信式**
28日（月）　福岡地区婦人会巡礼バス旅行
31日（木）　聖母の訪問
6月
1日（金）　聖ユスチノ殉教者
3日（日）　聖霊降臨（復活節最終日）　**教区合同堅信式［カテドラル14：00］**
4日（月）　†ミカエル西田邦洋［若松教会1996］
6日（水）　助祭・司祭候補者認定式［大神学院16：00］

◆福岡

■福岡パストラルケア研究会
［日時］5月6日（日）14時～16時［場所］大神学院新館講話室［内容］臨床体験発表［発表者］浜崎喜美代氏［参加費］500円［問合先］☎092・871・4943 sr.箕浦

■グレゴリオ聖歌を歌う集い
［日時］5月9日（水）11時～12時15分［場所］浄水通教会聖堂［講師］坂田孝子氏［参加費］自由献金［問合先］☎098・380・5686堺

■第83回福岡結婚準備セミナー
［日時］5月12日（土）～6月6日（水）毎土曜日と水曜日19時～21時30分［場所］カトリック光丘教会［指導］深堀純氏［参加費］自由献金［問合先］☎092・623・5023有馬

■召命を共に祈る会福岡
［日時］5月17日（木）14時～［場所］召命の家［問合先］☎092・741・3687青木神父

■ヨアキム・アンナ信心会
［日時］5月17日（木）［場所］カトリック高宮教会［指導］小池如安神父［内容］ロザリオ・黙想・ミサ［問合せ先］☎092・541・6207

■第28回福岡典礼聖歌研修会
［日時］5月13日（日）13時～15時30分［場所］カトリック光丘教会［指導］深堀純氏［参加費］自由献金［問合先］☎092・623・5023有馬

■召命を共に祈る会福岡
［日時］5月17日（木）14時～［場所］召命の家［問合先］☎092・741・3687青木神父

■ヨアキム・アンナ信心会
［日時］5月17日（木）［場所］カトリック高宮教会［指導］小池如安神父［内容］ロザリオ・黙想・ミサ［問合せ先］☎092・541・6207

■第83回福岡結婚準備セミナー
［日時］5月12日（土）～6月6日（水）毎土曜日と水曜日19時～21時30分［場所］カテドラル大名町教会［申込・問合先］カトリック・ファミリーセンター

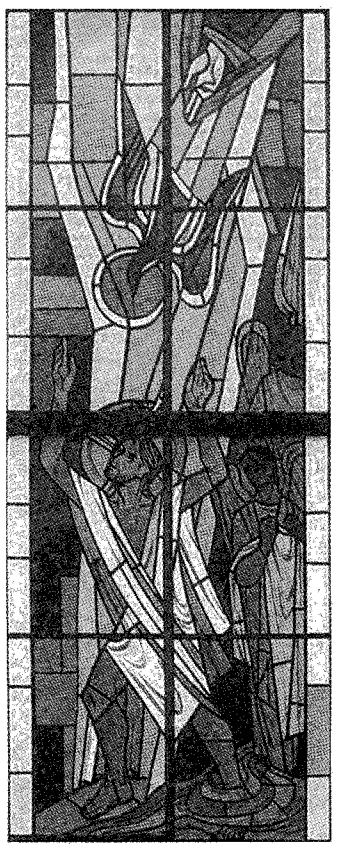
カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　田中重治
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう
【一般の意向】行動の起点と終点であるキリスト
【布教の意向】ベトナムのカトリックと国の発展
【日本の教会の意向】エキュメニズムと諸宗教対話

父と子と聖霊
三位一体の主日

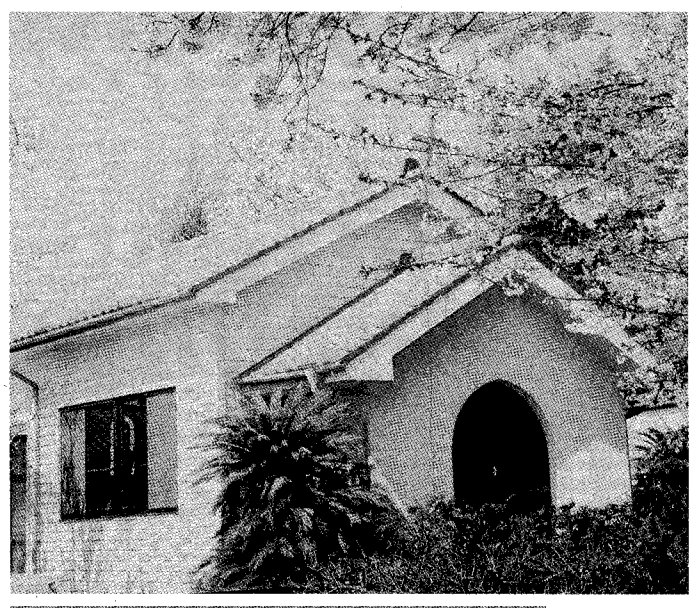


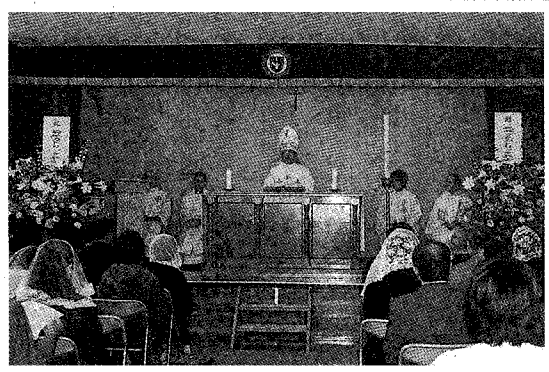
聖スルピス大神学院聖堂のステンドグラスから

◇「〝霊〟が鳩のように天から降って、この方の上にとどまるのを見た。」（ヨハネ1・32）
◇父である神から遣わされ、救いの過ぎ越しの神秘を成し遂げた後、主は昇天し、イエスに降った聖霊が私たちにも降りました。この聖霊降臨を祝った後、教会は私たちの信じる神は唯一であって父と子と聖霊の三位一体の神であること、私たちの命の糧がキリストの聖体であることをそれぞれの主日で思い起こさせます。

2世代の信徒が祈り・守り続けた教会が3世代目に

樹齢50年の樹木に囲まれた菊池教会が創立記念を祝う
司祭の年齢と減少化の不安の中でも絆を大切に
熊本地区





4月22日（日）、熊本県菊池市にあるカトリック菊地教会（主任＝R・オーエンス神父）が創立50周年を祝った。1950年4月熊本の地に聖コロンバン会が宣教を始めて、いちはやく献堂された教会である。今日までの間、10人の聖コロンバン会の司祭によって司牧が行われてきた。小さな教会ではあるが、菊池聖母幼稚園（ウィチタ聖ヨセフ修道会経営）から聞こえる子ども達の明るい声と、最初の信徒達によって植えられた樹木が美しい影をつくる静かな優しさをたたえた教会である。現在の信徒数は79人。

熊本県の菊池教会創立50周年記念ミサが、4月22日（日）、神の喜びの表れのような晴天のもと挙行された。普段の日曜日には30人の信徒でいっぱいになる創立当初からの聖堂では小さすぎるため、当日のミサは隣接する菊池聖母幼稚園（ウィチタ聖ヨセフ修道会経営）のホールを仮聖堂に仕立て上げた。このミサに、教区長松永久次郎司教、聖コロンバン会管区長D・ホーガン神父、熊本地区長F・マッケイ神父、現主任司祭R・オーエンス神父、田中重治神父を始め、地元の信者は勿論のこと、熊本地区の各教会の代表が駆けつけ、80人の信者で幼稚園のホールは満員となり、熱気に包まれてミサが始まった。

ミサを司式した松永司教は説教の中で、50年間、2世代がすっぽりと入る年月、小さな愛のわざ、祈りがこの地でささげられ続け、神はそれを受け入れてくださったのであり、ここに神の教会の姿があると信者を激励した。また、この地にとどまり続けた歴代の主任司祭に対し、まさに素晴らしい信仰、宣教師魂によって菊池の信者たちを導いたことを感謝した。

ミサの終わりの記念式典で挨拶した管区長のホーガン神父も、50年間、聖コロンバン会の約10人の会員がこの地で司牧に従事できたのも、信者の皆さんが司祭と共に祈り、協力してくれたおかげであり、こうして今もキリスト教の光がこの地で輝き続けていることを感謝した。また、信徒を代表して挨拶した信徒会長の松川義雄氏は、「司祭の高齢化、減少化の中にあって、この小さな菊地教会が巡回教会になってしまうかもしれないという危惧感はぬぐえない。でも小さいながら育ててきた教会とお互いの絆を大切にこれからも頑張って行きたい」と抱負を述べた。ミサに引き続いて催された祝賀会もその家族的な教会の雰囲気に満ちていた。

菊池教会は、1951年10月に司祭館が建設され、教会が未完成だったので1952年1月1日司祭館でミサがささげられ、誕生した。当時は聖コロンバン会が熊本に入り、次々と教会を建設していた時代であった。菊池教会誕生には信者の高木梅さんが当時の聖コロンバン会の管区長ハンター神父に熱心に働きかけたおかげで誕生にこぎ着けたといわれている。初代主任司祭としてP・ブラッドレー神父を迎えて、水田跡地に建てた教会の周りを樹木や花の苗を植えて周囲を明るく整備していった。1954年2代目主任司祭J・ドノフ神父の時、正式に小教区として設立された。菊池の地に布教するために、幼稚園を創ろうということになり、信徒に呼びかけ、150枚程のガリバン刷りの幼稚園設立協力依頼書を各方面にだし、こうして菊池聖母幼稚園が誕生した。

また、国立ハンセン病療養施設菊池恵楓園に建てられた恵楓園巡回教会（現在は武蔵が丘教会担当）、菊池郡合志町の巡回教会も担当することになった。1972年には山鹿に巡回教会を設立するなど、確実に地に根をはりながら発展を続け、現在は7代目の主任司祭に当たるオーエンス神父の10年以上に渡る指導のもと神の家族として歩み続けている。

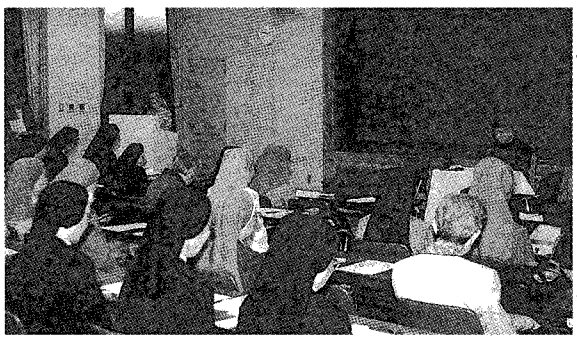
時の話題
歌野清三

映画「親分はイエス様」の公開が近まってきた。カトリック新聞や聖母の騎士にも広告が掲載され、白柳枢機卿の推薦もあります。この映画は、「ミッション・バラバ」という元ヤクザの人たちが書いた本が原本となり制作されたといいます。死刑囚として釈放に値しないバラバは、キリストが身代わりになり、十字架につけられたが故に赦され、もう一度新しい人生をやり直せることになった事実が聖書の中にありますこの映画の骨子は「日本人ヤクザが韓国人女性と結婚し、その妻の献身的な愛と祈りによって、回心し、クリスチャンとして生きていく話で『だれでもやり直せる』ことを訴えるものです。テーマも日本と韓国の和解にあると聞いています。奇跡を生んだ妻の愛が極道から牧師への道を拓き、極道を超えた神との出会いを内容とするこの映画は日本の多くの人々に感動を与えてくれるものと確信します。未だ主キリストと出会っていない私たちの周囲の方々にぜひ観ていただくように薦めることによって福音宣教の使命に結びつくことを願っています。熊本朝梼会でもプロテスタント、カトリックの教派を越えて「主にあって一つ」、「すべての人を一つにして下さい」を合い言葉にこの映画の成功のために、共に祈り、共に前売券の販売に協力を誓いあっています。この販売が必ず教会への招待状となるように福音の担い手の役目を果たしていきたいと考えています。日韓の和解を願いつつ、罪人である自らのやり直しのために。

健軍教会信徒

極道のやり直し

福岡教区修道女連盟総会
研修と新役員選出
福岡



2001年4月30日、大名町のカテドラル・センターで、福岡教区修道女連盟平成13年度総会が行われた。

総会に先立って、松永久次郎司教の講演による研修会が開かれ、教区各地から集まった100人のシスターたちを前に、司教は「修道者への願い」と題して話した。淡々と、しかし、独特のユーモアたっぷりの話の運びで満場を引き付けながら、司教は、修道者が神のために生きる者として、一般人とどこが違うかを理路整然と話した。神は本質的に喜びの存在であられるから、修道者はその生き方によって神の味を人々に知らしめる者であるはず、それぞれの修道会のカリスマを喜びをもっていきてくださいと力説した。

講演後、松永司教主式、修女連盟問の平田三好神父、司教館の田中重治神父、大名町教会の牧山美好神父の共同司式によるミサが、力強くささげられた。

午後の総会では、新役員の紹介、新旧年度活動・会計報告がなされた。連盟の主な活動は、会員の研修、召命促進活動（大神学院主催の「召命の集い」での奉仕を含む）などである。

平成13年度役員は次の通り
会　長＝青木光子（福音の光）
副会長＝横澤澄子（コングレガシオン・ド・ノートルダム）
会　計＝国枝洋子（マリアの宣教者フランシスコ修道会）
書　記＝山崎サツ（カノッサ修道女会）
書　記＝山脇ひとみ（宮崎カリタス修道女会）
会計監査＝小柳マサ子（礼拝会）

司祭異動

▽小倉教会助任＝杉原寛信神父は聖パウロ会から4月10日付けで福岡教区司祭に移籍。

みちくさ

ある作家の随筆だったと思うが、「自分の顔を正面から正しく見たことのある人はあまりいない・・・」と云うのがあった。云われてみればその通りである。正面の鏡に映る自分の姿は、左右が逆なのである。他人に自分が普通どんなに見えているかは、写真ででも確かめてみなければ分からない▼自分のことを棚にあげて、他人を厳しく批判する人は少なくない。これは不思議ではない。先ず第一に、他人を批判する時は、自分の欠点が見えなくなるのだ。だからこそ、心安らかに他人を批判できるのである▼そして、第二に、他人の欠点を批判する時、自分はその欠点から免除されている様な感覚を持つに到る。だから、正義の味方になったみたいに、一種の正義感をもって、他人の批判を続けることが出来るのだ▼もう一つ。自分の欠点を他人の中に見いだすとき、それに嫌悪感を持ち、厳しく攻撃しなければ気が済まない心になってしまう。自分がよく知っている醜さを、他人の中に見いだす時、何かに特に反発したいのだ。だから、その人が示す反発感の強弱で、その人自身の主要欠点が明らかになる程である。たとえば、他人のケチについて厳しく話す人のことを第三者に訊ねてみると、その人が多くの人の中で最もケチであるという返事が返ってくる場合が多い▼多くの人々と共に暮らす私たちは他人の上に写る自分の欠陥を正しく認め、自分の欠陥を矯正する善い機会としなければならない。自分を美しく整えてその欠点を上手に隠さなければならない。そのためにも、他人の批判は出来るだけ避けるべきだと思う。

（M）

神様も『生』が好き！キリストの聖体

新しい世紀のカテケジス③

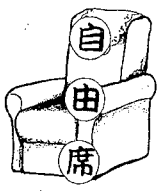
伊東成晃神父



そろそろ冷たいビールが美味しい季節、皆さんいかがお過ごしでしょうか？私はどちらかといえば焼酎の方がいいですね。ところで、ビールは古代エジプトの時代からあったそうです。イエス様も飲んだかどうかは分かりませんが、今回は『生』のお話です。イエス様は神様ですが、受肉の神秘によって生身の身体を持たれました。『生ける神』はまさに『ナマ神』として姿を現されたのです。現代人は『素足』の事を『ナマ足』と言ったり芸能人本人に出会ったら『ナマ○○見た』とか言ったりします。だから現代風に言えばイエス様は、『ナマ神様』と言ってもいいのではないでしょうか？そしてイエス様は、生身の身体を持つ私達を生かすために、食べ物として御聖体を与えて下さいました。私達が『生』であり続けるためには『食べる』ことが不可欠であるからです。どんな生き物も食べる事によって『生』を維持しています。食べる事をやめた時『生』ではなく死臭を放つ『死んだもの』になってしまいます。人間にいつも『生』のままでいて欲しい、新鮮であって欲しいと望んだ神は、御自分の身体を『命の糧』として与えられたのです。それだけ神様は生身の人間の命を愛されたという事です。『生もの』を扱う事はやっかいです。ちょっと油断すればすぐに傷んでしまいます。細心の注意が必要です。まさに神様は、私達がずーと『生』でいられるように細心の心配りをして下さったという事ではないでしょうか。神様によって生かされる私達も、人に対する細心の心配りが必要です。隣人も自分もまた『生もの』であるからです。『人は生もの』という気持ちを忘れない限り、人や自分を痛めつけたり、悪くなるまでほったらかしたりはしないはずです。みんなで家族や友人、そして自分自身も大事にしましょう。人はみんな生もの、乱暴に扱えばすぐに傷みます。ほったらかしにしておけば、あっという間に悪くなります。私達は、隣人や自分を乱暴に扱う事はないでしょうか？みんなが寂しい思いをしないように温かい心で関わりを大事にしているでしょうか？家族が、社会が『腐敗』して行っているとしたら、それは私達がキリストの聖体の心に生きていないという事です。みんなで『生』を愛しましょう！。

呼子教会主任神父

三人の母



李知殷（イ・チウン）

みなさん、こんにちは。私は去年の4月に韓国からまいりました（ご主人の九州大学留学に伴い）。李知殷（イ・チウン）ともうします。私はみなさんに、私の母たちについてお話したいと思います。みなさんは私の母たち、という言葉を聞いたらおかしいですか。でも私には、母親が3人います。みなさんびっくりしないで、私の話を聞いて下さい。

一番目の母は、もちろん私を産んで、育ててくれた母です。私の父は長男でしたから母は長男の嫁です。だから、母は結婚してから今まで、いろいろと大変なことを一人でしなければなりませんでした。

母は、私たち5人の娘の母ですが、私たちが手伝おうとすると「お母さんを手伝うことよりも自分のためになることをするのが、本当に、お母さんのためにする良いことですよ」といつも言っていました。母の献身的な愛があったから私たち5人の娘が今いるのです。お母さん本当にありがとうございます。

二番目の母は、私の姑です。私は結婚して舅・姑といっしょに住んでいました。時々、姑は私に「あなたは家の嫁じゃなくて、私の娘よ」と言ってくれました。その時、私の心は、あたたかくなりました。私は「お母さんいつまでも元気にしていて下さい」と言いたいです。

三番目の母は、日本人です。私は去年の5月に、カトリック教会でこの母と出会いました。私が今までに会った日本人とちがって、会った時から心を開いてくれました。そして、会うたびに愛をくださいます。私の日本語は、まだ上手ではありませんが、母はいつも熱心に聞いてくださいます。私が「お母さん」と呼ぶ時、母はとっても幸せそうです。お母さんに感謝の気持ちを伝えたいです。私はいつも母たちのために神さまに祈っています。

駐福韓国人信徒

2000年 福岡教区現勢
21世紀をキリストに倣って歩めるだろうか！

福岡教区教勢統計（2000年度）　2000年12月現在

小教区名	在籍信徒数			転入		転出		洗礼			求道者		初聖体	堅信	不明		死亡	結婚				ミサ参加者				教会学校	
	男	女	合計	男	女	男	女	幼児	成人	合計	1999	2000			1999	2000		信者	混宗	異宗	他宗	主日	復活	降誕祭	外国語	小学	中学
糸島	159	175	334	4	8	7	9	3	4	7	1	1	10	16	26	26	1	0	0	0	1	100	200	180	0	47	14
今村	442	544	986	1	4	5	4	9	4	13	1	1	13	1	0	0	15	0	0	8	0	700	800	900	0	61	35
大楠	142	206	348	6	4	4	4	2	5	7	21	28	9	1	12	12	2	0	0	4	0	140	190	390	35	99	10
大牟田	93	170	263	1	3	3	7	5	5	10	6	7	13	4	17	23	2		0	3	7	100	150	450	15	41	11
小郡	175	206	381	0	0	4	5	0	1	1	0	0	4	0	31	32	1	0	0	3	0	70	130	240	0	13	0
久留米	480	626	1,106	7	7	3	12	18	4	22	13	16	7	0	0	235	6	0	0	15	39	600	750	910	20	102	36
古賀	409	474	883	15	18	7	11	7	5	12	9	9	9	0	8	41	4	0	0	2	5	222	462	637	0	52	38
笹丘	369	493	862	10	12	8	18	6	7	13	5	10	9	0	21	42	6	1	0	3	2	230	250	380	0	53	19
浄水通	223	331	554	9	14	9	16	6	6	12	150	538	12	1	16	16	5	1	0	16	43	130	260	710	0	44	96
大名町	684	993	1,677	23	39	25	29	11	22	33	30	36	27	84	110	110	9	1	0	30	26	650	1,350	3,500	90	31	21
高宮	168	250	418	7	9	5	5	7	4	11	4	2	12	18	77	127	2	0	0	2	2	120	250	300	0	35	12
茶山	270	291	561	8	4	10	10	6	0	6	1	0	6	11	0	0	2	0	0	0	0	238	456	259	0	19	10
西新	555	681	1,236	18	20	10	17	14	7	21	5	4	8	35	0	21	5	1	0	7	0	400	450	650	0	58	30
箱崎	97	152	249	3	2	4	8	2	4	6	7	4	4	4	0	35	2	0	0	1	0	90	120	200	0	12	0
光丘	540	627	1,167	16	9	19	25	4	7	11	8	6	14	21	85	65	1	0	0	0	0	270	400	500	0	53	38
二日市	277	377	654	13	15	12	12	6	15	21	18	6	22	0	60	13	4	0	0	4	0	220	350	650	0	46	25
本郷	322	359	681	1	1	2	1	4	4	8	8	5	6	0	11	11	8	0	0	4	0	350	550	650	0	29	20
吉塚	327	436	763	8	9	3	7	3	2	5	5	1	7	13	0	0	7	0	0	5	0	200	310	430	0	58	14
老司	326	366	692	15	10	5	10	3	8	11	12	62	13	18	0	0	4	2	0	2	0	140	330	1,350	0	53	4
小計	6,058	7,757	13,815	165	188	145	210	116	114	230	304	736	205	227	474	809	86	6	0	109	125	4,970	7,758	13,286	160	906	433
飯塚	105	140	245	0	0	0	0	2	1	3	4	4	1	0	0	0	1	0	0	2	3	70	170	190	0	0	0
黒崎	479	671	1,150	7	14	5	4	4	11	15	12	10	15	11	0	0	9	0	0	2	0	400	500	800	0	30	15
小倉	998	1,423	2,421	14	27	14	23	1	9	10	14	8	12	24	372	431	14	0	0	12	0	515	800	1,000	10	96	59
新田原	878	996	1,874	3	2	8	6	5	7	12	2	0	16	45	0	0	8	3	0	10	0	863	1,300	1,350	0	152	68
田川	60	92	152	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	1	26	26	1	0	0	0	0	30	60	80	0	0	0
天神町	131	194	325	1	4	5	4	0	0	0	0	1	0	0	0	6	3	0	0	1	0	80	140	150	15	16	2
戸畑	330	430	760	3	1	11	6	3	2	5	2	695	5	2	3	3	4	0	0	6	3	180	380	650	0	40	17
直方	96	97	193	4	5	1	3	2	0	2	2	1	0	0	6	6	0	0	0	0	0	45	100	120	0	33	5
水巻	336	415	751	2	7	7	10	7	3	10	3	5	3	3	0	0	5	1	0	2	2	150	350	350	0	34	15
門司	211	296	507	3	4	2	4	2	4	6	1	0	3	3	4	7	6	0	0	3	2	180	250	250	0	7	12
湯川	564	660	1,224	8	9	1	1	4	4	8	4	0	4	23	15	27	13	0	0	6	0	300	500	550	0	39	14
行橋	340	377	717	2	3	3	2	2	2	4	2	1	13	23	2	11	4	0	0	2	6	260	360	630	0	38	21
若松	87	124	211	0	0	0	0	4	6	10	4	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	80	120	200	0	15	4
小計	4,615	5,915	10,530	47	76	57	63	36	50	86	51	725	73	135	428	517	69	4	0	47	16	3,153	5,030	6,320	25	500	232
合計	10,673	13,672	24,345	212	264	202	273	152	164	316	355	1,461	278	362	902	1,326	155	10	0	156	141	8,123	12,788	19,606	185	1,406	665
伊万里	116	145	261	1	2	0	0	3	1	4	5	13	5	1	11	13	2	1	0	3	1	60	130	160	0	22	12
鹿島	23	29	52	0	0	0	0	1	0	1	2	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	15	25	60	0	0	0
唐津	210	270	480	5	2	0	2	4	1	5	2	1	0	0	20	20	1	0	0	5	0	120	170	300	0	40	10
佐賀	286	428	714	10	12	12	10	0	12	12	3	5	7	2	26	38	12	0	1	6	0	185	350	500	30	42	0
多久	57	61	118	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	30	40	62	0	10	0
武雄	36	50	86	0	0	0	0	0	1	1	1	1	3	1	0	0	1	0	0	0	0	20	50	90	0	15	9
鳥栖	167	238	405	8	6	0	2	5	6	11	9	4	14	23	2	3	2	0	0	2	1	100	270	280	0	101	11
馬渡島	185	191	376	2	1	3	1	3	0	3	0	1	6	18	0	0	1	0	0	0	0	360	370	390	0	35	18
呼子	154	158	312	2	0	0	0	9	5	14	3	0	7	5	34	34	3	0	0	3	0	150	280	280	0	20	16
合計	1,234	1,570	2,804	28	23	15	15	25	26	51	25	28	42	50	93	108	22	1	1	20	3	1,040	1,685	2,122	30	285	76
荒尾	39	105	144	0	2	3	5	0	4	4	4	3	2	2	9	10	2	1	0	0	0	45	70	70	0	7	3
大江	123	194	317	0	0	1	0	2	0	2	0	0	1	0	0	1	8	0	0	0	3	150	270	300	0	16	12
帯山	137	189	326	3	4	2	2	2	11	13	4	3	11	34	7	7	1	0	0	2	0	100	130	160	0	24	0
菊池	23	56	79	0	0	0	0	2	0	2	0	5	1	0	33	33	1	0	0	0	0	25	45	45	0	0	0
健軍	197	263	460	5	16	2	4	2	3	5	4	5	3	0	0	0	2	0	0	1	0	140	200	250	0	28	12
崎津	102	139	241	0	0	0	0	3	0	3	0	0	3	0	0	0	2	0	0	1	6	70	150	170	0	18	7
島崎	135	213	348	4	3	8	10	2	2	4	2	0	8	2	0	0	4	0	0	1	0	220	330	335	0	20	0
玉名	46	81	127	2	2	3	4	1	1	2	0	0	6	1	0	0	0	0	0	1	0	60	120	150	12	12	4
手取	359	698	1,057	9	17	6	13	4	19	23	41	89	23	37	34	38	16	2	0	10	15	350	550	700	70	53	18
人吉	58	125	183	0	0	1	1	3	0	3	2	1	0	0	0	0	6	0	0	0	7	50	100	170	0	18	8
本渡	65	129	194	2	1	4	5	0	2	2	3	4	2	0	0	95	1	0	0	2	2	30	50	60	0	21	1
水俣	40	61	101	1	1	1	0	1	2	3	3	2	0	0	8	8	0	0	0	0	0	30	60	100	10	49	0
武蔵ケ丘	149	230	379	11	14	8	15	0	1	1	8	6	5	1	0	0	3	2	0	0	0	200	250	350	0	22	11
八代	40	96	136	0	1	0	0	1	0	1	7	5	0	0	0	4	3	0	0	1	1	75	110	200	0	1	0
合計	1,513	2,579	4,092	37	61	39	59	23	45	68	78	123	65	77	91	196	49	5	0	19	34	1,545	2,435	3,060	92	289	76
総計	13,420	17,821	31,241	277	348	256	347	200	235	435	458	1,612	385	489	1,086	1,630	226	16	1	195	178	10,708	16,908	24,788	307	1,980	817

福岡教区総人口　7,762,559人　　司祭総数　98人　　修道士・修道女総数　459人　　神学生　2人

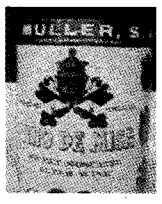
2000年の福岡教区現勢を読む

今年の現勢で注意が必要なのは、求道者の数が激増しているが、今回の統計からカトリック学校で宗教を学んでいる子どもの数も含まれるようになったためで、実際にはそんなに変化がない。

結婚を見てみると、カトリック同士はわずか16組だけである。あとは、一方のみが信者という結婚である。そんな中で生まれた子どもに洗礼を授けるのははたして親の希望だろうか。それとも親の親の意向のためか。今回幼児洗礼を受けた子どもの何割が将来教会学校に入るのだろう。そして、中学生の数は小学生と比べてみると分かるように少なくなっている。高校生を調べればなおの事であろう。

中学生の頃、堅信を受ける習慣があるが、呼びかけても親から今は学校が大切な時期だからと断られることもある。わずか人口の0.1％にも満たない信者、しかも親の片方のみが信者ならなお信仰に生きるのは難しい。家庭での信仰教育の難しい現実が浮き彫りになっている。

むなかたASIPA アシパ　人生の道
みことばを静かに味わい、分かち合い、現実の生活の中でみことばを生きるため継続的に聖書を深め、実行していくプログラムです。
Aグループ　6月15日〈金〉19：00（夕食後）～ 17日〈日〉16：00迄
Bグループ　6月22日〈金〉19：00（夕食後）～ 24日〈日〉16：00迄
【費用】19,900円（宿泊・食事・資料代一切を含む）
【指導】コンベンツァル聖フランシスコ修道会－松田清四朗神父
むなかた祈りの森 福岡黙想の家　〒811-4155 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222 FAX 0940(32)3385

ミサ用ワイン

VINO DE MISA（ヴィノ デ ミサ）
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ　青木　彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL 092－526－5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

花岡山殉教祭
16年間の迫害を信仰で証した家族に殉教の冠

熊本・花岡山殉教祭が4月29日（日）午後2時より、松永久次郎司教の主式のもと、殉教者広場で、例年通り挙行された。折からの雨にもかかわらず、地元熊本及び教区の各地から、



の列福を求める祈りが参列者一同で唱和された。

殉教ミサは、松永司教及び地元の小教区の司祭など7人の共同司式で、2人の大神学院の助祭の奉仕のもとささげられた。

司教はミサの説教の中で、殉教者たちの生き方について、小笠原玄也の妻マリアみやの父親で小倉の殉教者である加賀山隼人から始まって16年間も迫害の中で信仰を、それも家族で守り通し、最後は全員殉教によって証したことは信じられないほどの信仰であると力説し、一族の墓がこの熊本に保存されているのは、熊本の信徒たちにもっとがんばれと励ますためにほかならないと信徒を激励した。

奉納の儀式では、15人の殉教者一人ひとりの名前を明記した十字架が、助祭、修道者、信徒たちによって、祭壇前中央に敬虔にささげられた。この15の十字架はキリストの証人として、司祭・修道者・信徒等約300人が、ここに集まった。

式典は先ず、小笠原玄也とその妻マリアみや一族15人の殉教者たちが眠る墓域の聖水散水式から始まった。次いで、この墓前にて、この15人の殉教者たちの生涯を神に捧げた殉教者たちの一途な生き方を私たち一人ひとりに、新たに思い起こさせるためのものである。

この十字架を、雨の中でささげる助祭、修道者、信徒たちの敬虔な姿がとても印象的で、参列者の心を打つものとなった。

第40回クルシリヨに30人が参加

5月3日から5日まで福岡黙想の家で「福岡教区第40回クルシリヨ」（指導司祭＝下町豊重神父）が30人の参加者を迎えて開催された。



今回のクルシリヨには、3人の神学生と教区内12の小教区より、十代から七十代まで、男性8人、女性22人と幅広い参加者によって豊かな実りがあった。

参加者の感想はみな一様に、喜びと感謝の声にあふれ、はじめての出会いにもかかわらず、神の子として、兄弟、姉妹の分かち合いのうちに、再会を誓い合っていた。

今年で40回目となった福岡教区クルシリヨは、信徒養成講座として、今までに約1500人の参加者を数える。

昭和43年、第1回開催当初は、年2回の開催もあったが、近年は例年5月のゴールデンウィークの間に、年1回開催している。

例年は3泊4日で5月2日の夕刻より始まっていたが、今回は参加者の意見を取り入れ、参加し易くするために2泊3日とした。

結果は好評で、特に主婦にとっては1泊少なくなったことで参加し易くなり、高齢者や、健康に不安のある方にも参加を呼びかけやすくなった。

昨年は参加者が異常に少なく一時は中止やむなしの検討もなされたが、30年以上も続いてきたことを考えると一度火が消えると、再開するのが難しくなるとの判断から、時期をずらして実施しようということになり、9月に新田原教会において5人の参加者で実施された。その参加者の熱心な祈りによって、今回、7年ぶりに30人以上の参加者が生まれた。

事務局でも継続できたことを喜び、各小教区や、修道会の多くの方々のお祈りと犠牲に支えられていることを実感し、感謝のうちに、来年の開催に向けて、さらに多くの兄弟姉妹に呼びかけ、教区の信徒養成に役立ちたいと決意を新たにした。

学座神講
司祭減少と高齢化にも備えたい　熊本



昨年から準備が進められていた「熊本地区神学講座」が5月13日、開講の日を迎えた。12時30分手取教会信徒会館で行われた開講式で、松永久次郎司教は、びかけやすくなった。

昨年は参加者が異常に少なく一時は中止やむなしの検討もなされたが、30年以上も続いてきたことを考えると一度火が消えると、再開するのが難しくなるとの判断から、時期をずらして実施しようということになり、9月に新田原教会において5人の参加者で実施された。その参加者の熱心な祈りによって、今回、7年ぶりに30人以上の参加者が生まれた。

事務局でも継続できたことを喜び、各小教区や、修道会の多くの方々のお祈りと犠牲に支えられていることを実感し、感謝のうちに、来年の開催に向けて、さらに多くの兄弟姉妹に呼びかけ、教区の信徒養成に役立ちたいと決意を新たにした。

祈りの原点とは何か！

先だって斎場で行われた知人の告別式に参列した。仏式による二人の仏僧の読経が続いた。「観自在菩薩、行深般若波羅蜜多時、照見五蘊皆空…」よく耳にする般若心経の読経であり現世の皆空を悟り真実に目覚める念仏の原点であるといわれている。

さて、宗教は異なるが聖書の詩編の祈りをみると「主を呼ぶ人すべてに近くいまし、まことをもって呼ぶ人すべてに近くいまし、主を畏れる人人の望みをかなえ、叫びを聞いて救ってくださる。」（詩編145・18）これについて今は既に故人となったM氏を思い出す。彼は般若心経をよく学んだ人であったがカトリックの教えを学ぶようになってから祈りとは何か、理論的には充分わかっていた。しかしどうすれば祈る心になれるのか、祈る心とは一体何なのか、どうしてもわからないと言っていた。「神父様、私の洗礼はもうしばらく待ってください」と。私の教理説明の不充分なことも原因だと思っていたが、これ以外にも案外見過ごしがちな別の原因があることに気づいた。詩編にある「主を呼ぶ人／素直に幼児の心になって呼ぶ人／呼ぶ心」こういう心にまだほど遠い状態にあったこと、つまり祈りの核心ともいえる、その原点に達していなかったようである。そこで私はM氏に次のことしか言えなかった。「Mさん、もう呼びかけだけ『どうぞ祈る心を与えてください、祈る気持ちにならせてください』と。

祈る心、祈る気持ち、最も単純なようで大切な心の起点となるものだと思う。数日後、出勤途中、立ち寄ってください」って、「この短いお祈りなら出来ます。」といって、つづけてみます。」といういに祈りの原点ともいえる心の一点に到達し、洗礼後もそれを見とどけて祈りの心を失わないように努力していた姿が印象に残っている。先立っての般若心経を聞き念仏の原点であると教えていることと、このM氏のことを思い合わせて一層この点を実感せずにいられない。

「いかに幸いなことか、御もとに身を寄せる人は」（詩編34・9）いつも御もとに身を寄せる人、主を呼ぶ人、つまり祈りの心を持っている人、こういう心の人になれるならば如何に幸いなことであろう。しかし、この叫びの言葉が容易に出ないことがあって祈りの心が、祈りの原点が見失われることがあるかもしれない。このとき、あの船もろともに沈みそうになった弟子たちが「主よ助けて…。」（マタイ14・17）この必死になった叫びだけでいいのではないか。最期まで叫び続ける心こそ祈りの心であり、祈りの原点であるといえるからである。

大楠教会主任　堤敏雄神父

サマーキャンプ2001 へのおさそい！

テーマ：かけがえのない きみへ…！
期　日：2001年8月1日(水)～4日(土)
場　所：憩ヶ丘運動公園（高知県安芸郡芸西村）
対　象：小学5年生以上・中学生
※高校生・大学生・社会人はヘルパーとして参加可能
問合先：古賀カトリック教会　☎092・942・2171(川口神父)
※自分の居場所や存在感を見失っている子ども達が兄弟姉妹的な関わりの中で存在の尊さ、大切さを感じられるキャンプに！

BOOK 読みは専科

★『キリストに出会う』聖書の学びと内省
百瀬　文晃　著
池田　雅彦（レイアウト）
女子パウロ会出版



今日もイエスに出会いたいと望む人に、彼の心を知り感じることの大切さを呼びかけるFBC（キリスト教ラジオ放送局）の夜の番組で、放送された講話が収録されたものである。著者の意図は、夜遅くラジオに耳を傾ける人、一人ぼっちで生活している人、高齢者や、病気療養中の人、彼らがイエスに出会い勇気と慰めを見いだすことができれば‥と著者は願う。

本体　1800円

◇　◇　◇

★ルルド
―巡礼者へのしおり―
ロメオ・マジョーニ　著
杉原　寛信　訳



1858年、聖母マリアはルルドの町で、ベルナデッタという少女に18回も御出現されました。これは、神のいつくしみが全世界へ向けて与えられた、驚くべき出来事でした。現在、ルルドは多くの病人や信者たちが訪れる巡礼地になり、いのちと病苦についてのキリスト教的な意味を再発見する場所になっています。このしおりには「御出現の物語」「巡礼地訪問」「ルルドの聖母のミサ」「十字架の道行」と「ロザリオの祈り」などが書かれています。

サンパウロ　税抜き650円

ジャパンスマイルか 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811－7265

感謝と賛美のために
祈りを通して制作
典礼センター ピエタ
祭服．聖器具．聖像
信心用品．ベール．
ロザリオ他
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092－526－9176

キリストの招きにこたえ この一歩

みこころのうちに一つになろう

2001年度《聖霊による信仰生活セミナー》

日時	テーマ	講師
6月4日	聖霊の満たし	F.マッケイ神父
6月11日	聖霊のうちでの成長	T.ドワイヤー神父
6月18日	ミサ、聖霊の証人	松永久次郎司教 外神父一同

日　時：全7週毎月曜10時30分から12時30分まで
場　所：大名町カトリック教会
問合先：☎092-522-5139（司教館）Br.床島籐吾

募集中　司祭叙階金祝を記念して ライル神父と行くアイルランド

日　時：本年7月24日(火)～8月5日(日)
代　金：398,000円(分割払いも承ります)
行　程：ローマ·ヴァチカン·アイルランドの各地(ナバン·ダブリン·ノック等)
最少催行人員：20名（添乗員同行）
福岡発着
※申込とお問い合わせ：
(株)阪急交通社博多支店（担当：森賢司）
☎092-472-2243（福岡朝日ビル2階）

熊本地区神学講座開催中　第1期

内容			
	6月10日(日)	旧約聖書	高見三明神父
	6月24日(日)	聖書と聖伝	高見三明神父
	7月8日(日)	神とその認識	大山　悟神父

対　　象：カトリックの洗礼を受けた信徒
＊信仰を深めたい人・教会奉仕活動をする人・カテタを目指す人
部分受講：1単位1500円（1日2単位）
問合せ先：☎096・352・1515手取教会 日向

召命の集い実行委員会からのお知らせ

2001年度　召命の集い　開催いたします。
テーマ：主のまなざしを受けよう
日　時：2001年11月3日(土) 10：30～
場　所：福岡サン・スルピス大神学院
※大神学生の減少に伴い開催を検討してきましたが、「主のまなざしを受けよう」というテーマで例年通り開催することになりました。どうぞ、ご予定に入れて下さい。(実行委員長：高橋智弘神学生)

案内版　会合と催し

福岡黙想の家　6月

◇1日(金)　福岡聖公会婦人会
◇4日(月)～8日(金)　大分・鹿児島・那覇教区司祭黙想会
◇8日(金)～10日(日)　ユースフルライフカウンセリングワークショップ
◇13日(水)　ミカエル会
◇14日(木)　古賀教会婦人会黙想会
◇15日(金)～17日(日)　むなかたASIPA人生の道（A）
◇17日(日)～18日(月)　聖母カテキスタ会
◇20日(水)　むなかた和善の聖書の集い
◇22日(金)～24日(日)　むなかたASIPA人生の道（B）
◇30日(土)～7/1日(日)　山口・島根信徒研修会（ASIPA）
※週末など個人で祈るためにもご利用できます。福岡天神バスセンター1番乗り場から「自由が丘南3丁目」行きに乗車しますと約1時間で黙想の家「自由が丘南2丁目」に着きます。JRは「赤間」駅で下車タクシーで10分です。
[問合先] 黙想の家　☎0940・32・3222　FAX 32・3385

生命山カトリック別院

遥かに有明海を望む山頂に生命山はあります。九州自動車道菊水インターで降りてお電話ください。自然と静寂の中で祈りましょう。お待ちしています。
※祈りの集い
テーマ：本当にこの人は神の子だった
・6月14日(木) 10時～15時
・7月12日(木) 10時～15時
指　導：F.ソットコルノラ神父
[問合先] 生命山カトリック別院
☎0968・85・3100
FAX 0968・85・3186

6月のこよみ　みこころの月

3日(日)　聖霊降臨の主日
　合同堅信式［カテドラル14時］
4日(月)　†ミカエル西田邦洋［若松教会1996］
6日(水)　助祭・司祭候補者認定式［大神学院16時］
10日(日)　三位一体の主日
11日(月)　聖バルナバ使徒
13日(水)　聖アントニオ・パドバ
17日(日)　キリストの聖体の主日
　戸畑教会堅信式
　島崎教会聖体行列
21日(木)　†ドミニコ深堀仙右衛門司教［第3代教区長1985］
　†トマス平田好［門司港教会1938］
22日(金)　イエスのみこころ
23日(土)　聖母のみこころ
24日(日)　洗礼者聖ヨハネの誕生
　聖ペトロ使徒座への献金
　大楠教会堅信式
26日(火)～28日(木)
　教区全司祭研修会
28日(木)　聖イレネオ司教
29日(金)　聖ペトロ・聖パウロ使徒
7月
1日(日)　年間第13主日
3日(日)　聖トマス使徒
　†フランシスコ・X平田正喜［老司教会1994］
8日(日)　二日市教会創立50周年記念と堅信式

ゴシックは司教日程

◆福岡

■グレゴリオ聖歌を歌う集い
［日時］6月6日（水）11時～12時15分［場所］浄水通教会聖堂［講師］坂田孝子氏［参加費］自由献金［問合先］☎0983・80・5686堺

■福岡パストラルケア研究会
［日時］6月10日（日）14時～16時［場所］大神学院新館講話室［内容］グループホーム（施設）での日々は？［発表者］下田厚子氏・補佐＝井上重子氏［参加費］500円※痴呆介護施設についてご関心のある方々共に話し合ってみませんか。［問合先］☎092・871・4943 sr.箕浦

■召命祈願ミサ
［日時］6月14日（木）19時15分～［場所］福岡聖スルピス大神学院［司式者］牧山美好神父（大名町カトリック教会助任）

■SE・COバザール
［日時］6月17日（日）父の日11時～14時［場所］聖心ウルスラ幼稚園内：福岡市南区塩原4丁目25・20［問合先］☎092・2・73・2310（森）：0992・596・2946（森）

■第4回宗像和善の聖書の集い
［日時］6月20日（水）10時～16時［場所］「祈りの森」福岡黙想の家［内容］講話と祈り［旧約の歴史］［講師］松田清四朗神父（コンヴェンツアル聖フランシスコ会士）［参加費］2500円（昼食代を含む）［問合せ・申込み］☎0940・33・8409深堀道子

■ヨアキム・アンナ信心会
［日時］6月21日（木）［場所］カトリック高宮教会［指導］小池如安神父［内容］ロザリオ・黙想・ミサ［問合せ先］☎092・533・2326小田部

■在世フランシスコ会集会
［日時］6月24日（日）14時～16時［場所］カトリック高宮教会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習［指導］小池如安神父［問合先］☎092・843・5831岩崎

■福岡生と老い死を見つめる会
［日時］6月24日（日）13時～［場所］カトリック大名町教会［内容］ビデオ「生と死の教育」命のつながりと語り合い：思い出を語る集い（悲嘆ケア）［参加費］会員500円：一般700円［問合先］☎092・713・8523大山：092・607・6992村尾

■聖テレーズの著作を読む会
［日時］6月24日（日）14時～15時30分［場所］カルメル会修道院［世話人］城島暁☎092・731・3723

■第13回福岡ホスピスの会
［日時］7月15日（日）14時～16時［場所］カトリック大名町教会［内容］肺がん［講師］白日高歩医師（福岡大学病院）［問合先］☎092・737・3701事務局

■典礼を学ぶ集い定期学習会
［日時］7月15日（日）14時～16時［場所］カトリック大名町教会［講師］白浜満神父（福岡聖スルピス大神学院）［テーマ］ミサの全体の構造の理解［参加費］600円［問合先］☎092・40・32・3047平井

■美野島司牧センターのお願い
衣類のカンパをお願いします。特に夏物の男性用ジーンズ・Tシャツなどの衣類をよろしくお願いします。女性用の衣類は間に合っています。
［問合先］コース神父☎092・431・1419

◆北九州

■召命を共に祈る会地区合同
［日時］6月10日（日）14時～16時［場所］小倉カトリック教会［内容］聖体賛美式と大山悟神父（聖スルピス大神学院院長）の講話［問合せ先］☎092・741・3687青木悟神父

■第20回お母さんのつどい
［日時］6月11日（月）10時30分～13時［場所］小倉教会聖堂［講師］平山高明前大分教区司教［内容］講話とミサ［参加費］500円［問合先］☎093・963・3764葛島：092・962・1395福吉

■小倉祈りの集い
［日時］6月15日（金）13時30～15時［指導］V・マテオ神父（御受難会）［場所］小倉教会信徒会館2階［内容］「みことば」をあじわい祈る［問合先］092・452・1556安藤

◆佐賀

■佐賀祈りの集い
［日時］6月14日（木）10時30分～12時［場所］佐賀カトリック会館［内容］祈り［問合先］☎0952・72・7536吉田［次回］6月28日（木）10時～12時はミサと祈り：毎月第2と第4木曜日に集まっています。どうぞ、ご参加下さい。

■聖書を読む会
［日時］毎月第1木曜日、午前の部10時～11時半／午後の部19時半～21時［場所］佐賀カトリック会館［内容］「創世記」を読む［講師］A・アレグリーニ神父［テキスト］聖書［参加費］無料［問合先］☎0952・23・4754阿南

◆熊本

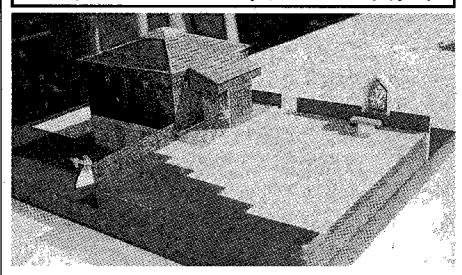
■熊本教会学校担当者会議
［日時］6月17日（日）14時から［場所］カトリック島崎教会［問合先］☎096・368・2825中村彰神父

■熊本地区召命を共に祈る会
［日時］6月21日（木）11時～［場所］カトリック健軍教会［内容］ロザリオ、召命の祈り・はなしあい［問合先］☎096・368・2825中村彰神父

編集後記

今回掲載した教区の現勢を見ると、本当に教区の民は小さな群れだと感じます。各地に散らばっているみなさんの支え、心の交流の場にこの新聞がなればと新たに思います。
6月といえば梅雨。過ごしにくい嫌な季節ですが、恵みの内にみなさん頑張りましょう。

福岡地区和田納骨堂加入者募集



福岡地区和田墓地の納骨堂を新しく増築することになりました。
場　所：福岡市南区和田4-15
完　成：平成13年10月末（予定）
加入金：25万円+管理費4万円（10年分）
申込先：各教会の納骨堂委員か委員長の山田耕三郎まで
☎092・504・0848
各納骨室を大きくし、1階部分に配置したバリアフリーな構造です

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者 ペトロ 平田 清

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所 大石真澄
☎092-552-8195 Ⓕ092-541-7734

FUJIHi
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1 TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長 大森 周　福岡支店長 城戸隆秀

カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　田中重治
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう
【一般の意向】福音に生きるキリスト者の家庭
【布教の意向】カテキスタと信徒宣教者の養成
【日本の教会の意向】信仰と宣教

日本カトリック平和旬間（8月6日～15日）

教区 平和を祈る集い



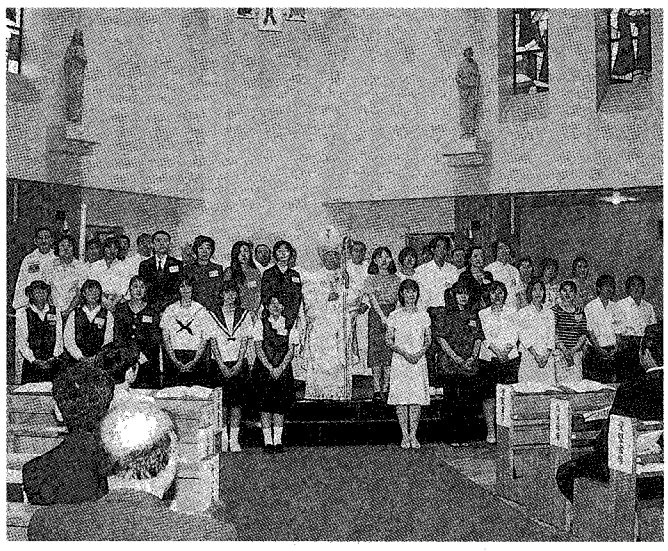
昨年のフェスティバルで共に神を讃えて唱う日韓のキリスト者。

日時：8月12日(日) 13：00～16：00
第1部：講演会
「日韓の歴史から何を学ぶか！
～和解の道へ向けて～」
講師：後藤正史神父
（広島教区・岡山教会）
第2部：平和を祈るミサ
場所：カテドラル大名町カトリック教会
主催：福岡教区福岡地区諸教会
※当日は、公共の交通機関でお越し下さい。

「私の荷は軽い！」という言葉に従って行きたい

福岡教区2001年合同堅信式

合同堅信式の受堅者は7教会28人



司教を囲んで喜びの受堅者たち

6月3日聖霊降臨の主日に、新世紀最初の福岡教区合同堅信式が行われた。主に、2001年4月14日の復活徹夜祭と、15日のご復活のお祝のミサの中で成人洗礼を受けた人たちである。「額につけた十字架の印を強くしるしました。キリストの印がついた一人ひとりです。ふさわしく生きてください。」と司教はあいさつで励ました。堅信式の終了後に手渡された「堅信証明書」に見入りながら「責任を感じます。」という言葉は頼もしい神の民の姿だった。

聖母と使徒たちが祈っているところに、突然聖霊が下り、様々な言葉でキリストを証した。この全世界の民がるようにと聖霊降臨によって私たちの教会が誕生したことを教区全体で祝う聖霊降臨信式のミサが、6月3日（日）カテドラル大名町教会で教区長松永久次郎司教主司式のもとさげられた。当日は、15人の司祭、大神学院の2人の助祭と4人あまりの信徒が共に集い、喜びのうちに聖歌「今日こそ神がつくられら日」を歌ってミサが始められた。

司教は説教の中で参列者に、キリスト者として集められた信者にはイエスと共に歩むという一つの掟・束縛が与えられているが、「私の荷は軽い」と言われたイエス様の教えの通り、私たちに与えられる聖霊によって、不自由ではなく、本当の自由をもたらすものであると説明した。また、この聖霊によって喜び、結びが与えられるので、教会も喜びの場、一つの民となると述べた。

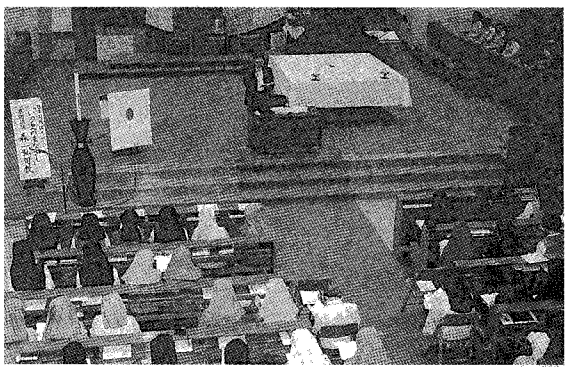
説教に引き続いて、聖霊の秘跡ともいえる堅信の秘跡が執り行われた。7小教区の28人が一人づつ司教に紹介され、「はい」と緊張した声と面もちで立ち上がり、堅信の秘跡を受けたい意思を表した。各々洗礼の時に親や代父母あるいは自分で宣言した洗礼の約束を、自分の言葉でしっかりと更新した後、司教と司祭が両手を述べて聖霊の恵みを願う按手を行い、参列者も心を合わせて祈った。それから代父母が右肩に手をおいた受堅者の額に司教から聖香油が塗られ、堅信が授けられた。受堅者はもちろん、教会の宣教の使命に新たに兄弟たちが加えられたことを参列者も喜びながら、感謝のミサが続けられた。

ミサの終わりには、堅信の証明書とプレゼントが司教から受堅者代表に手渡され、受堅者を代表して感謝と新たな決意の挨拶が述べられた。

九州地区修道女連盟研修会
「いのちへのまなざし」を読む

5月27日(月)、九州地区の修道女研修会が、福岡サン・スルピス大神学院を会場に開催された。これは日本女子総長管区長会養成委員会の主催によるもので、テーマは「日本司教団メッセージ『いのちへのまなざし』の作成にたずさわって」。講師は、このメッセージ出版までの全過程で中心的実務に携わった森一弘司教がつとめた。当日は好天に恵まれ、九州全域からシスターたち約200余人が参集した。

森司教は基調講演の中で、このメッセージ作成にあたっての背景、基本方針、対象を紹介。それによると、1998年、家族計画にかかわる問題に答えるため、司教団の勉強会がもたれた。そこで、今求められることは家族計画云々よりも、いのちの問題であることを確認した。そして、そのために現代の家庭、夫婦、親子などが置かれている状況に理解を示すとともに、キリスト教的価値観、世界観を明示し、人々の良心に訴え、励ますメッセージを「いのちの尊厳への目線を感じた。ピンと来る。」



森一弘司教の話に聞き入る修道女たち。

さらに森司教は、このメッセージの第一章に「聖書からのメッセージ」がおかれたのは、現代人を不幸にし、社会を行き詰まらせているのが物質主義、快楽主義、世俗主義や個人主義であるという判断から、まず最初にキリストが示した生き方を伝え、キリストのいのちを吹き込むことを目指したのである。また、このメッセージは、20世紀に損なわれたいのちの尊厳への反省にたち、新しい世紀を生きる一人ひとりが自己の責任において「いのちの尊さ」を、主体的に生きていくこと、決断していくことができるように願って出版されたと、語った。

午後から13グループで分かち合いが行われた。どのグループでも「読みやすい。同じ目線を感じた。ピンと来る。」など共感する意見が多かった。参加した修道女の多くが「司教団がこうしたメッセージを一般社会も視野に入れて出されたことに、大きな意義を感じる。また日々学生や保護者と接する私たちに多くの示唆を与えてくれる」と語っている。また参加者の「司教様方がよくいのちをテーマに取り上げられましたね。」の言葉には、このようなメッセージが待たれていたことを示している。「これらの事は、21世紀をいきる教会共同体として司祭、信徒が一丸となって学び会うべき事と思う。」という声もあった。

ある修道女は、「自殺について書かれた箇所で『これまで教会が自殺者に対して裁き手として振るまい、差別を助長して来たことを深く反省します。』とあるのを読んで、苦しんできたある家族のことを思い涙が出ました。早く伝えてあげたい」と語った。

「ではどうすればいいのか」という具体的な指摘に欠ける面のあることに対する問いかけもあるが、地域の小教区の一人ひとりが、共同体がこのメッセージから具体的方策を引き出し、身近な人に関わっていくことから始められないだろうか。

そのために、今後は司祭団のリーダーシップを期待したい。

時の話題

牧山　敏浩

戴帽式に憶う

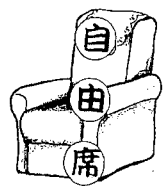
「ナイチンゲール記章」の栄誉を受けたのは日本では第一回がカトリック信徒として活躍された九州の湯浅ウメ女史である。彼女は当時、中国瀋陽市の日赤病院の看護婦長をされていたが、第二、第二次世界大戦中、最前線で敵味方の区別なく多数の傷病兵を後方に運び出し、日夜看護活動に専心された。また敗戦後も現地に留まりイタリア、ドイツ、フランス人など多くの外国人を教会、修道院に収容して寝食を忘れて難民救済に当たった。主任司祭のパトルイオ神父（パリー外国宣教会）、ブロア教区司教も信徒と共に昼夜兼行で働いたが、ついに激務による過労と当時流行していた発疹チブスの感染で高熱となり次々に殉職された。（満州奉天日本人史）

時は移り先年、東南アジア向けの青年の船講師として「ニッポン丸」に乗船、唐津港を出て黄海を渡って懐かしい現地を訪れる機会があった。私が所属していた古い教会も昔のままで残っており、仰ぎ見た時の感動は忘れられない。三年前から日程短縮の為、船から飛行機に移った。名称も「青年の翼」となり、中国、韓国を親善訪問し、お互いに友好交流することとなった。韓国、中国には信徒も多く教会内も若さと信仰の熱気が感じられる。日本では介護保険制度の実施に伴い、最近特に医療に従事する若い青年が増えつつある。戴帽式に招かれ、暗くなった式場に整列した学生たちのローソクに灯がともる。紅潮した若人の頬は希望で底抜けに明るい。

（佐賀教会信徒）

みちくさ

今年に入って、心がへこむ、落ち込むことがたびたびあった。たまらなくなり、夜、外をフラフラと歩いてみた。とぼとぼと下を向いて歩いていたが、ふと立ち止まって上を見上げてみた。そこには無限に広がる暗黒の空が私を包み、その中で星々が美しく輝いていた。自分の小ささとそんな私さえ心から愛して下さっている神様の愛、天地創造のみわざの偉大さを感じた▼人は死んだら空のお星さまになると言う考えが、世界のあちこちで見られる。現在では星の探索が科学的・理論的に説明され、すごさを感じるが、お星さまになると言うのもロマンがあっていいなと思う。星を見ながら亡くなった人のことを思いだし、自分たちを見つめていると感じること、いい話だと思う▼日本では7月7日は七夕の日。織姫さまと彦星さまが一年に一度再会できるという伝説も夢がある。「笹の葉さらさら～」と言う童謡が思い出されるが、こどもたちが笹の葉に願いをこめた短冊を飾る姿もほほえましい。最近では大人たちが街角に用意された短冊に願い事を書いているといったニュースもあり、七夕が日本のほほえましい伝統になっているのを感じる▼ギリシヤ神話など、様々な国の神話でも、星々の物語が出てくる。人は昔から、夜空を見上げて自分たちを越える何者かを感じてきた証だろう。大宇宙の神秘のように感じる▼夜のとばりが来るのも遅くなり、昼の暑さが涼しくなる夏の夜。少し夜空を見上げ、神さまの想像のわざの偉大さを、忙しく動き回っている自分がいかに小さなものであるかを黙想するのもいいのでは。（T）



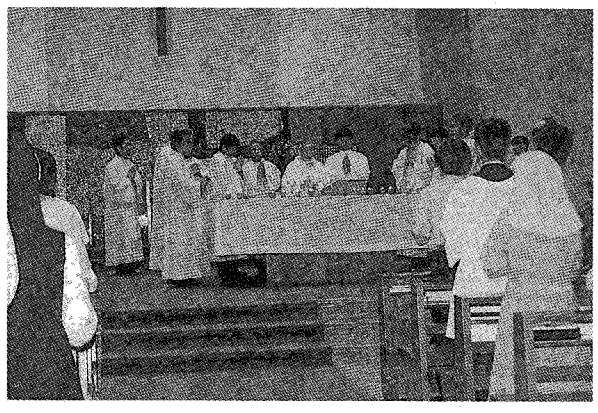
復活節から主の昇天、聖霊降臨の主日、三位一体の主日と大きなお祝が続いた5・6月。召命祈願ミサ、合同堅信式、司祭候補者認定式などに参加した、いろいろな方から自由席に投稿を頂きました。編集室としては大喜びで、早速、ほやほやの原稿の幾つかを掲載させていただくことにいたしました。これからも、喜びや気づきの分かち合いをお待ちしています。

召命祈願ミサの日 子どもたちと共に

Sr.山川 富美枝

大聖年の恵みを感謝しつつ、新しい世紀への歩みを始めた私たちに、3月には久留米教会出身の寺濱亮司神学生が朗読奉仕者に、4月には佐賀教会出身の井手公平さんの大神学院哲学科生としての入学という恵みが、長い間待ち続けた福岡教区に与えられ、大神学院で司祭養成の協力者として奉仕する私たち修道者も大きな喜びに満たされました。神学生の司祭への道はまだまだ遠くこの長い道程には、誘惑や迷いがあることでしょうが、先を歩まれる主に最後まで従って行くことが出来ますように、多くの人のお祈りが必要だと思います。

「収穫は多いが働き手が少ない。だから収穫の為に働き手を送って下さるように、収穫の主に願いなさい。」とのみことばに、大神学院では「福岡召命を共に祈る会」との共催で「召命祈願ミサ」が行われるようになって4年になります。その日は午後7時15分から歌の指導で始まり、入祭の歌と共に司祭方の入堂、その月の担当神学生の趣向をこらした典礼により、私たちは毎回新たな気持ちで祈りへと導かれます。召命を祈りながら折った千羽鶴、聖母のお取次を願いロザリオを爪繰りながら進んだ行列、十字架の道行、自分を捧げるという心で各自ローソクを灯し、行列して祭壇へローソクを奉納するなど、これまで季節にあわせた祈りが繰り広げられて来ました。



大神学院に司祭、信徒、修道者、神学生が集い主の祭壇を囲んで召命の為に祈ることは、相互の宣教への意識が高められ自分の使命への自覚が促され、神のみ国の建設のために共に働く人々の絆を強めるよい機会になっていると思います。

召命祈願ミサの日に、遥ばる熊本、久留米、北九州から一日の疲れもいとわず、毎回馳せ参じてくださる方々には頭が下がります。一方、回を重ねるにつれ大人の方々の参加が少なくなって来たのは残念に思います。私達、司祭養成の裏方を務める者のにとって月一回のこの集いは参加くださる司祭、修道者、信徒の方々と分かち合い、召命の現状を知る又となない機会でもありますので、その日の参加者の顔ぶれに一喜一憂しております。どうぞ、教区の新しい召命のためにご参加くださり共に祈り分かち合いましょう。新しい世紀になって少し変化があると思われることは、子どもたちの参加が増え、ミサ後のささやかな寛ぎの時は、子どもたちの喜びの声が食堂いっぱいに響くようになったことです。緊張から解放され自由に走り回れるこの時は一番楽しい一時でお馴染みの神学生や神父様の肩車に乗せて貰って、ご満悦の子、お友達になった他の教会の子と追いかけっこして遊ぶ子、子どもは子どもなりに次回の約束をして夢を持って帰ります。ここに明日の教会の力が息吹いているように思います。信者の皆様子どもたちの為、思い切って大神学院の召命祈願ミサにご参加下さい。

主は後について来る二人の弟子に言われました。「来てみなさい、そうすればわかる。」ヨハネ1の39

どうぞ子ども達とご一緒に！

次回は、10月11日（木）です。

（幼きイエズス修道会）

テーマパークは神様におまかせ！「天地創造」

新しい世紀のカテケジス④

伊東成晃神父



もうすぐ夏休み、この夏、皆さんはどこへお出かけでしょうか。山に海にお出かけになる方も多いと思いますが、いろんな遊園地やテーマパークに行かれる方も多いかもしれませんね。ディズニーランドやハウステンボス、グリーンランド、大阪にできたユニバーサルスタジオなど色々ありますよね。しかし不景気の昨今、ほとんどのテーマパークが経営に苦しいと言われてます。このような施設がうまく成り立って行くためには、お客さんに何度も繰り返し来て頂くことが大切なんだそうです。その為に人を飽きさせないアイデアが必要なのだそうです。

ところで、私達が住むこの世界も、丸ごとそっくり巨大なテーマパークと言っていいでしょう。創ったのは誰か？それは他でもない神様です。私達の神様は創造主、天地万物をお創りになりました。そして創られたものは「すべてよかった」と聖書の中で言われています。

しかしどうでしょう、この世界には、病気や災害、危険な事がたくさんあります。決してよい事ばかりじゃないと言えるのではないでしょうか。でも私達がテーマパークに求めるものは何でしょう。楽しさ、おもしろさ、謎、憩い、そしてスリルだったりするはずです。そういうものがなければつまらないテーマパークになってしまいます。だからこそ全能の神は、謎と神秘に満ち、安らぎもあるけれども危険もたくさんある最高最大のテーマパークを用意して下さったのではないでしょうか。しかし現代の私達は、この最高におもしろいはずのテーマパークを、全然つまらないものに作り替えようとしています。バイキンを無くし、虫や動物を不快だからというだけで駆除する。苦しみからはできるだけ逃れようとする。無菌状態のスリルも何にもない世界ではつまらないと思いませんか。怪獣や宇宙人、水しぶきや火の粉が飛んできてこそおもしろいテーマパークだと思います。

神様がお創りになったこの世界も危険や苦しみもあればこそ、安らぎや充実感、幸福感もあるのではないでしょうか。自然ではない事を「不自然」といいます。人間にとってあまりに不自然になるとそれは「不幸」という事になるはずです。みんなでこの神様のテーマパークを楽しみましょう。

呼子教会主任神父

認定式に参加していっぱい祈った

金森　南



私は、二日市教会を通して神学生の方々といっぱい知り合い、仲良しになりました。その中の一人で鶴巻神学生と、大の仲良しです。大きな体で、いつも汗だくだくになって、ミサの時のオルガンをひいて下さいます。そして、大きな体なのに小さな目でニコニコして話してくれます。神父さまになるのは「大変だぞ、大変なんだぞ」といつも、口ぐせのように言っているので、「そんなに大変なのかなあ」と思いました。大変なのに、今日までがんばって、神様のことを思い続けていたから、今日のお祝いが、神様から与えられたのだと、私は思いました。式に出て、鶴巻神学生の顔を見ると、とても緊張した顔でした。それで私も緊張して鶴巻神学生の後ろ姿を見つめました。司教様の前で、お二人の神学生の方々が認定され、お二人ともうれしそうな顔に変わっていきました。私もうれしかったです。そして、二人のことを見ていらっしゃったお父さんやお母さんや知り合いの人達もうれしかっただろうと思いました。

イエスさまは、「大変なんだぞ」と言っている人を、ちゃんと見ていて下さったのかと、ふと思いました。それで、神さまにありがとうを言いました。私の大切な人にお祝いの日を与えて下さってありがとうと言いました。

鶴巻神学生にお祝いのメッセージをいいます。スータンがよく似合っています。大きな体が、もっともっと大きくなったみたいです。スータンは、お祝いにいただいたと聞きました。だから、ダイエットは考えなくてもいいと思います。そして、これからも、私たちの教会へ来て下さい。神学生の方々が来て下さると、私達は、なんだかうれしくなります。それから、私も、神学校である召命のミサが大好きなので、その日は必ずこれからも行きます。二日市教会の人達と、神学生のために祈りして下さい。

（二日市教会信徒　小学6年生）

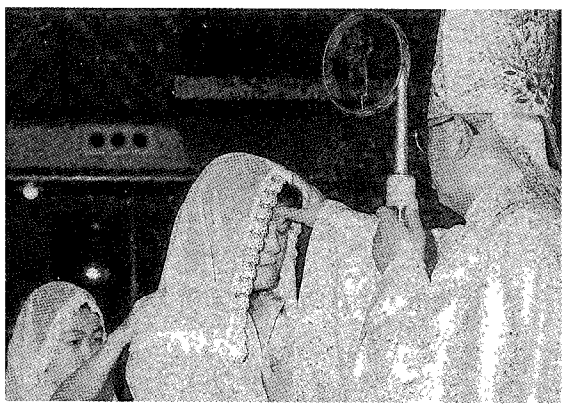


私が洗礼を受けた時、代母になってくれた方はすばらしい信仰を持った人でした。私がその人に「代母をお願いしようと思ってます」と言った時、当時の指導司祭も「あの人はすばらしい信仰の持ち主だから」と太鼓判を押してくださるほどでした。あれから2年余りが過ぎ、今年、はじめて代母をつとめることになりました。そこに来てはじめて、前々から薄々感じていた自分の「信仰の弱さ」と「知識の浅さ」を思い知らされることになりました。私が代母となった二人は、受洗前、幼い頃からカトリックの信仰を身近にして生きてきた人たちで、私よりはるかに豊かな経験と知識を持っています。私は、「私の代母さんのようにならなくては、霊的娘二人にまけないように頑張らなくては」と思いはげんでみましたが、何も変わりませんでした。2人の人間がいる時、後ろからくる者、教えられる立場の者の方が得だと思います。神様が、こういう出会いをお与えになる時、知識の少ない者への特別のお恵みとして与えられていると感じます。本来、代母と霊的娘の関係では信仰も知識も代母の方が豊かであるはずなのに、私の場合は、代母の方が教えられることが多く、私の方がかなり得をしている感じです。お二人からは「お願いします」と言って頼まれましたが、私の方こそ頭を下げてお願いすべきだったのかもしれません。「母と子」という時、私たちは母の方が上であると考えがちですが、個々の人間として見るならば必ずしもそうではないと思います。代母であるからといって二人より偉い立場になることもないでしょう。そう考えると、力まず、自然体でいいのかなと思っています。これから、二人に教えられながら少しづつ歩んで行きたいと思っています。「二人ともありがとう。そして、これからもよろしくね」。

（大名町教会信徒）

ありがとう 初めての代母

藤田 みどり



むなかた ASIPA アシパ　人生の道

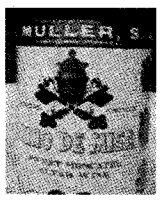
みことばを静かに味わい、分かち合い、現実の生活の中でみことばを生きるため継続的に聖書を深め、実行していくプログラムです。

Aグループ　9月21日〈金〉19：00（夕食後）～ 23日〈日〉16：00迄
Bグループ　11月2日〈金〉19：00（夕食後）～ 4日〈日〉16：00迄

【費用】19,800円（宿泊・食事・資料代一切を含む）
【指導】コンベンツァル聖フランシスコ修道会ー松田清四朗神父

むなかた祈りの森 福岡黙想の家
〒811-4155 宗像市名残1056
TEL 0940(32)3222 FAX 0940(32)3385

ミサ用ワイン



ヴィノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ　青木　彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑〔SOU-EN〕
ご葬儀
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

新田原教会の聖母行列
マリアさまがお通りです！



「風馨る五月」＝新緑みずみずしい田園風景と果樹園に囲まれた新田原教会前庭の片隅にあるルルドの広場。夕方、6時鐘楼から鳴り響く『アヴェマリア』のお告げの曲に誘われて、三々五々多くの子どもたちと信徒が集まってくる。毎年、ロザリオの月と聖母月の夕方は子どもたちを中心にした時間帯で、ロザリオの信心を続けている。教会の側にある聖母訪問会と宮崎カリタス修道会のシスター方の協力と指導で、参加者には『ロザリオカード』が配られ、毎日、参加シールを貼られる。最終日には聖母像を担って、カリタス修道院、聖母病院、聖母訪問会を巡り「聖母行列」を行う。その後、ご褒美やご馳走で祝う工夫もされている。幼児から小・中学生が40人から50人、大人も合わせると100人ほどの信者で聖母マリアへの信心業が大切に続けられ、習慣づいている。特に、子どもたちが幼少の頃からロザリオの信心を心掛け、大人になってもその習慣を忘れずに、代々続けて行くことができるように、また先祖から受け継いだ、ここ新田原ならではの習慣と継続をモットーに今後も続けられたらと思う。

主任の竹森勇神父は、さらに「聖母への信心とロザリオの習慣が薄れて行く現代、将来の教会を担う子どもたちがロザリオに親しみ、喜びと楽しい雰囲気のうちに集う一時は、将来の教会とその家庭にきっとそれなりの実りをもたらす、と信じながら聖母月とロザリオの月を、より充実した『子どもたちと聖母マリアの月』として大切に習慣付けしていきたい」と語っている。

召命を共に祈る会北九州で合同集会



去る6月10日の三位一体の主日に、小倉教会において「召命を共に祈る会」が北九州、福岡地区から約70人の参加を得て行われた。

聖体賛美式の中で、サン・スルピス大神学院院長の大山悟神父が日本の社会の現状を踏まえた上で、「一人ひとりが自分の魂の根本を見つめ直し、本物の宗教で宣教し、信仰の証をするために、喜びをもって祈りましょう。教会共同体として、皆が深く交わる後ろ姿を見せていきましょう。」との促しをされた。そして、大神学院に在籍する神学生が11人、それよりも多い16人が休学しているという現状が知らされた。続いて、この4月に福岡教区神学生として大神学院に入学した、佐賀教会出身の井手公平神学生が、これまでの自分の人生の歩みを振り返りながら、大学時代の尊敬できる先生をはじめ、様々な人との素晴らしい感動的な出会いを話した。また、人のタレントはその指導者によって実りが深まること、最高の指導者である神の導きのもとに、司祭となり実り豊かな奉仕職へと深まって行きたいとの思いを参加者に分かち合った。最後に、二日市教会信徒の山口紀子さんが「召命を共に祈る会」のこれまでの歩みを紹介した。

参加していた江口さんは「数年前、担当の青木悟神父から『北九州地区でも召命のために特別に祈ってください』の呼びかけにシスターたちと応えて、小さな歩みを始めたこの会が、神のみ旨のもとに目指すべき、導かれるべき地へと向かって確かな歩みを重ねて行けるよう祈りと小さな奉仕を捧げていきたい」と語った。

この集いは第一回を4月に行い、各教会学校の現状を分かち合った。始まりは召命を共に祈る会の中で、青年対象の働きかけをしているが、その前の教会学校の子どもへの働きかけがない、と言う意見からであった。教会学校担当者の集いは、教区でも他の地区でも行われていない。現場の要請はあるが担当する司祭がいないのが現状である。幸い熊本地区では中村彰神父を担当司祭として、集いを継続していく方向である。今後、リーダー養成の研修会、資料の共有、地区レベルでの催しの企画などを考えている。

徹夜祈祷会



今回で12回目となる召命を祈る徹夜祈祷会が5月26日（土）夕方から27日（日）早朝まで浄水通教会聖堂と召命の家を会場として催された。

召命を祈る会のメンバーを始め、40人近くの信者が集まって、20時から司教館の松井忠之神父によって聖体が顕示され一同で教会の祈りの晩の祈りを歌って永久聖体礼拝が始められた。

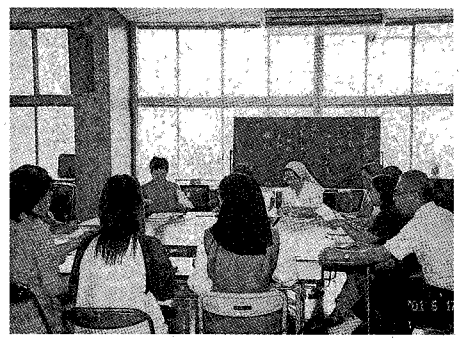
午後10時からは、召命の家聖堂を会場に無声映画「日本二十六聖人―われ世に勝てり―」がBr小崎登明（コンヴェンツアル聖フランシスコ会）を弁士に迎えて上映され、聖堂に入りきれないほどの人が集まって、映画を楽しんだ。

その間も隣の浄水通り教会の聖堂では、顕示された聖体の前で当番の人を始め、多くの人がかわるがわる熱心に祈りをささげ続けた。

朝の5時を持って永久聖体礼拝は終了。続いて、松永久次郎司教司式による召命を願いながら主の昇天のミサがささげられた。司教はこうして徹夜で祈った皆さんの姿は力があり、本物であり、天の御父にも通じたと参加者を激励し、これからも祈り続けるように促した。

熊本地区教会学校担当者会を開催

6月17日（日）14時から島崎教会で第二回熊本地区教会学校担当者の集いが行われた。今回は、夏に熊本地区で行われるサマーキャンプについて話し合われた。これまでサマーキャンプの企画は、熊本地区信徒協の宣教司牧部の担当者に任されていた。教会学校担当者は企画の後、具体的な役割担当とか、参加の呼びかけ、参加費補助のミニバザーをしていた。今回は企画の段階から加わり、実り豊かなサマーキャンプにしようと話し合われた。



訃報

マリア牧山サエ子様

大名町教会助任牧山美好神父の母堂であり、大楠教会主任堤敏雄神父の令妹。6月6日（水）糸島市の医師会病院にて帰天。享年63才。

受肉の秘義に倣う！

聖霊降臨の祝日までには、福音朗読に、救い主イエスが弟子たちに聖霊を遣わす約束をするところが続けて読まれる。「父は別の弁護者を遣わし、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてくださる。この方は、真理の霊である。世は、この霊を見ようとも知ろうともしないので、受け入れることができない。」（ヨハネ14章）。これを告げられた時、弟子たちはイエスのことばが判っていたのだろうか。イエスは彼らが判っていないことを承知のうえで必死になって御父との一つの働きが、これから「真理の霊」によって続けられることを慈しみを込めて告げられているのである。

弟子たちは、同族の民で弟子にと選び、共に生ながら友とまで呼ばれた人々だが、王たるイエスの側にいることを待つ人々だった。その隔たりに心の渇きを持ちながらもイエスは道を示される。「私を愛しているならば、わたしの掟を守る。」と。

このようにご自分は遣わされたものとしての身は離れているが、何時も「父から全てを委ねられて、父の業を行って、」父と内なる一致の生き方をしておられる事も説いておられる。

イエスが、同族の間柄の弟子たちからも、遣わされた者が遣わした者に応える姿を見せても見抜いて貰えなかった事が良く判る。遣わされたイエスの言葉と姿は、偉い者に成りたい人々には虚偽と取られ、妬みの印となり易かったことがわかる。

逆に、この世の色々の偉いこと や偏見に囚われない者には、イエスの姿に、御父の業を察知できたのである。貧富の区別なく。

受肉の秘義は、私たちの生い立ちに色々の光を投げかけている。イエスが御父と内なる一致のいのちを、人生としてもたらされた救いの業は、何時までも共に居てくださる霊によって続けられている。

イエスの「したことはなしたこと」をことごとく判らせてくれているのである。これらを直観できる人と回りくどくしか触れられない人がありはしないかと私は見ている。

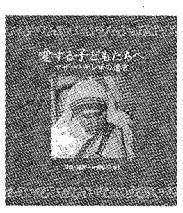
一つのヒント、自分の知恵でこの世界に大事なことを見抜いて育つ時期がある。

人の乳幼児期…人格の形成第一期に自由に、世の欲を吹き込まれずに、成長を両親が守り育むところ、そこで御父の御心をもとめて生きるならば、知的で直観に富む人柄が望めよう。

暁の星幼稚園園長
古賀教会助任　乾　盛夫神父

BOOK 読みは専科

★愛する子どもたちへ
マザーテレサの遺言
写真・編訳　片柳弘史著
ドン・ボスコ社出版



「神の祝福を受けてわたしは聖なるものとなりたいのです。あなたはそれをわたしにしたのです。」まったき奉献生活の中にあったマザーテレサの祈りから始るこの本は、マザーが共労者（マザーの活動に協力する人人）に宛てた晩年の手紙や代表的講演から集めた文が収められている。著者はマザーのもとでボランティアとして従事した経験を持つ。1998年イエズス会に入会。

定価　本体800円（税別）

◇　◇　◇

★ファチマ
―巡礼者へのしおり―
ロメオ・マジョーニ　著
永田　健二訳



「すべての苦しみを神に、そして、罪人の回心のためにささげてください」

1917年、聖母はポルトガルの小さな村ファチマで、3人の子どもにご出現になり、そして、その子どもたちを通して、人々に祈りと悔い改めをお勧めになりました。このしおりには、ご出現の歴史、ファチマの場所の案内、十字架の道行、ファチマの聖母にささげるミサ、ロザリオの祈り、ポルトガルにおける巡礼地、そしてマリアへの祈りが書かれてあります。

サンパウロ　税抜き650円

ジャパンスマイルか
株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計
株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811-7265

感謝と賛美のために
祈りを通して制作
典礼センター ピエタ
祭服．聖器具．聖像
信心用品．ベール．
ロザリオ他
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092-526-9176

キリストの招きにこたえ この一歩

熊本地区神学講座開催中　第1期

◆7月8日(日)	神とその認識	大山　悟神父
◆9月9日(日)	神・聖霊・恩寵	マッケイ神父
◆9月23日(日)	三位一体の神	櫻井尚明神父
	マリア論	櫻井尚明神父
◆10月14日(日)	信仰・希望・愛	森山信三神父
◆11月11日(日)	キリスト受肉・死・復活	
	キリスト教的終末	牧山勝美神父

対　　象：カトリックの洗礼を受けた信徒
＊信仰を深めたい人・教会奉仕活動をする人・カテタを目指す人
部分受講：1単位1500円（1日2単位）
問合せ先：☎096・352・1515 手取教会 日向

司祭叙階金祝を記念して ライル神父と行くアイルランド　募集中

日　時：本年7月24日(火)～8月5日(日)
代　金：398,000円（分割払いも承ります）
行　程：ローマ・ヴァチカン・アイルランドの各地（ナバン・ダブリン・ノック等）
最少催行人員：20名（添乗員同行）
福岡発着
※申込とお問い合わせ：
(株)阪急交通社博多支店（担当：森賢司）
☎092-472-2243（福岡朝日ビル2階）

召命の集い実行委員会からのお知らせ

2001年度　召命の集い　開催いたします。
テーマ：主のまなざしを受けよう
日　時：2001年11月3日(土) 10：30～
場　所：福岡サン・スルピス大神学院
※大神学生の減少に伴い、例年出品して頂いていました各教会学校の作品募集を行いませんのでよろしくお願い致します。
（実行委員長：高橋智弘神学生）

サマーキャンプ2001へのおさそい!

テーマ：かけがえのないきみへ…！
期　日：2001年8月1日(水)14時 ～ 4日(土) 昼食
場　所：憩ケ丘運動公園（高知県安芸郡芸西村和食甲）
対　象：小学5年生以上の男子・女子
※高校生以上はリーダー・ヘルパーとして参加。
費　用：対象別なので申込先へお問い合わせ下さい。
申込先：☎052-805-3918：FAX 052-807-1209
（名古屋オブレート会修学院）Br.八木信彦

案内版　会合と催し

福岡黙想の家　7月

◇3日(火)　祈りの日（日帰り黙想／無料）
◇10日(火)　祈りの日（日帰り黙想／無料）
◇11日(水)　ミカエル会
◇17日(火)　祈りの日（日帰り黙想／無料）
◇24日(火)　祈りの日（日帰り黙想／無料）
◇31日(火)　祈りの日（日帰り黙想／無料）
◇26日(木)～27日(金)
福岡雙葉幼稚園職員研修

※週末など個人で祈るためにもご利用できます。福岡天神バスセンター1番乗り場から「自由が丘南3丁目」行きに乗車しますと約1時間で黙想の家「自由が丘南2丁目」に着きます。JRは「赤間」駅で下車タクシーで10分です。

[問合先] 黙想の家　☎0940・32・3222　FAX32・3385

生命山カトリック別院

遥かに有明海を望む山頂に生命山はあります。九州自動車道菊水インターで降りてお電話ください。自然と静寂の中で祈りましょう。お待ちしています。

※祈りの集い
テーマ：本当にこの人は神の子だった
・7月12日(木) 10時～15時
指　導：F.ソットコルノラ神父
※8月の祈りの集いはお休みです

[問合先] 生命山カトリック別院
☎0968・85・3100
FAX 0968・85・3186

7月のこよみ

1日(日)　年間第13主日
飯塚教会堅信式
3日(火)　聖トマ使徒
†フランシスコ・X平田正喜［老司教会1994］
6日(金)　聖マリア・ゴレッティ
8日(日)　年間第14主日
二日市教会創立50周年と堅信式
15日(日)　年間第15主日
高宮教会創立50周年ミサ
16日(月)　カルメル山の聖母
20日(金)　†ヤコブ平田勇［西新教会1980］
†W. シュルツ［吉塚教会1987］
海の日
22日(日)　年間第16主日
25日(水)　聖ヤコブ使徒
†J. ラグレブ［門司天使園園長1982］
†J. ブルトン［呼子教会1957］
27日(金)　†L. ルリエ［聖小崎育児園園長1970］
29日(日)　年間第17主日
31日(火)　聖イグナチオ・ロヨラ
†ヨハネ平田惣五郎［司教館1989］
8月
4日(土)　聖ヨハネ・マリア・ビアンネ
†M. ボンカズ［田川教会1991］
5日(日)　年間第18主日
6日(月)　主のご変容
日本カトリック平和旬間（～15日）
12日(日)　平和を祈る集い［カテドラル13：00］
■ゴチックは司教日程

◆福岡

■福岡パストラルケア研究会
［日時］7月1日（日）14時～16時［場所］大神学院新館講話室［内容］看護者・介護者・患者の対応体験談（看護者・介護者の心得・よろこび・むずかしさ等）［発表者］浜崎喜代美氏（看護者・介護者）［参加費］500円［問合先］☎092・871・4943 sr.箕浦：8月は休会

■グレゴリオ聖歌を歌う集い
［日時］7月4日（水）11時～12時15分［場所］浄水通教会聖堂［講師］坂田孝子氏［参加費］自由献金［問合先］☎098・380・5686堺

■召命を共に祈る会福岡
［日時］7月19日（木）14時～［場所］召命の家［問合先］☎092・741・3687青木神父

■第13回福岡ホスピスの会
［日時］7月15日（日）14時～16時［場所］カトリック大名町教会［内容］肺がん［講師］白日高歩医師（福岡大学病院）［問合先］☎092・737・3701事務局：次回は9月16日（日）

■典礼を学ぶ集い定期学習会
［日時］7月15日（日）14時～16時［場所］カトリック大名町教会［講師］白浜満神父（福岡聖スルピス大神学院）［テーマ］ミサの全体の構造の理解［参加費］600円［問合先］☎092・732・3047平井

■カルメル山の聖母の祝日ミサ
［日時］7月16日（月）午前8時［場所］福岡女子カルメル会修道院聖堂［司式］松永久次郎司教※この日、福岡にカルメル会修道院を創立して50年になります。創立50周年の記念ミサは10月1日（月）に予定しています［問合先］☎092・807・7361福岡女子カルメル会修道院

■ヨアキム・アンナ信心会
［日時］7月19日（木）［場所］カトリック高宮教会［指導］小池如安神父［内容］ロザリオ・黙想・ミサ［問合せ先］☎092・533・2326小田部

■在世フランシスコ会集会
［日時］7月22日（日）14時～16時［場所］カトリック高宮教会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習［指導］小池如安神父［問合先］☎092・843・5831岩崎：8月は休会：次回9月23日

■福岡地区納骨堂清掃とミサ
［日時］7月29日（日）8時～ミサ11時・雨天時は8月5日（日）

■福岡生と老い死を見つめる会
［日時］7月29日（日）14時～16時［場所］カトリック大名町教会［内容］「感情の流しについて」と語り合い：思い出を語る集い（悲嘆ケア）［講師］大山悟神父（福岡聖スルピス大神学院）［参加費］600円［問合先］☎092・713・8523大村尾

■福岡地区納骨堂開放
［開放日時］8月13日（月）～15日（水）10時～15時

■美野島司牧センターのお願い
衣類のカンパをお願いします。特に夏物の男性用ジーンズ・Tシャツ・靴下などの衣類・洗面道具・靴をよろしくお願いします。女性用の衣類は間に合っています。また、金曜日のボランティアを募集しています。衣類を頂きに来た人に出してあげたり、整理のお仕事です。
［問合先］コース神父☎092・431・1419

◆北九州

■小倉祈りの集い
［日時］7月13日（金）13時～14時30分［指導］V・マテオ神父（御受難会）［場所］小倉教会信徒会館2階［内容］「みことば」をあじわい祈る［問合先］☎093・452・1556安藤

◆佐賀

■佐賀祈りの集い
［日時］7月12日（木）10時～11時30分［場所］佐賀カトリック会館［内容］祈り［問合先］☎0952・72・7536吉田［次回］7月26日（木）10時～12時はミサと祈り：毎月第2と第4木曜日に集まっています。どうぞ、ご参加下さい。

■聖書を読む会
［日時］毎月第1木曜日、午前10時～14時［場所］カトリック大名町教会［講師］白浜満神父（福岡聖スルピス大神学院）［テーマ］ミサの全体の構造の理解［参加費］600円［問合先］☎092・737・3701事務局：次回は9月16日（日）

◆熊本

■熊本教会学校担当者会議
［日時］7月1日（日）14時から［場所］カトリック手取教会［問合先］☎096・368・2825中村彰神父

■熊本地区召命を共に祈る会
［日時］7月12日（木）11時～［場所］カトリック健軍教会［内容］ロザリオ、召命の祈り・はなしあい［問合先］☎096・368・2825中村彰神父

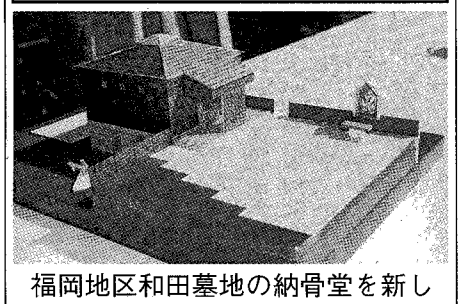
編集後記

記事のためにいろいろと写真を撮り、さあ現像にだそうと出てゆきましたが、写真屋に着いてみるとフィルムが見つかりません。いろいろと探しましたが結局見つからず、ここからパニックが始まりました。紙面の割り付けの変更、それに伴う新たな原稿編集。今回ほど時間に追われながら編集したことはありません。

梅雨も終わればいよいよ夏本番。暑い暑いとうなだれるばかりでなく、神様の恵みの太陽が輝いていると元気にがんばりましょう。

9月号は休刊の予定です。お知らせ等の連絡はその点考慮して来月号の編集までにご連絡ください。

福岡地区和田納骨堂加入者募集



福岡地区和田墓地の納骨堂を新しく増築することになりました。
場　所：福岡市南区和田4-15
完　成：平成13年10月末(予定)
加入金：25万円＋管理費4万円（10年分）
申込先：各教会の納骨堂委員か委員長の山田耕三郎まで
☎092・504・0848
各納骨室を大きくし、1階部分に配置したバリアフリーな構造です

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

FUJIKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店　〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　大森　周　福岡支店長　城戸隆秀

カトリック福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　田中重治
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

次は100年をめざして再出発

二日市教会と高宮教会が創立50周年記念を祝う
宣教を続けられてきたのは力！

福岡県の二日市教会と高宮教会が、それぞれこの7月、創立50周年を迎え、記念の感謝ミサがささげられた。教区長松永久次郎司教を迎えてささげられたミサは、数十人で設立されたそれぞれの教会が数百人を数えるまでに成長して来た事を感謝する機会となり、次は、100年を目指して再出発する決意を新たにする時となった。


特設テントの中で喜びの歌をうたう人びと

太宰府天満宮で有名な太宰府市の二日市教会（主任・山元眞神父）の創立50周年記念感謝ミサが、7月8日（日）、教区長松永久次郎司教を迎えて挙行され、あわせて11人の小中学生と8人の大人に堅信の秘跡が授けられた。

ミサの説教で司教は、教会の使命は宣教であり、キリストを伝えるのは神の救いのわざに協力することである。この地で50年間宣教が続けられてきたのは力があり、信仰の遺産をつくっていると信徒を激励した。説教に続いて堅信式が行われたのも、信徒にとって、この宣教の使命を新たに想起する機会となり、喜びも大きなものとなった。また、ミサの聖歌を、大人と共に青年がギターで伴奏し、子ども達が元気な歌声をひびかせ、これからの教会の歩みに希望を持たせるミサとなった。

ミサ後、幼稚園園庭に特設テントを張って祝賀会が催され、歴代の主任司祭や近隣の司祭、そして信者が集い、おりからの晴天も重なって、熱気あふれる集いとなった。子どもの聖歌合唱や青年のバンド演奏も目を見張るものであった。司教も、100年、150年記念の時は、自分は天国から見ているだろうが、その時はこの教会に人が入りきらないほど信者が増えていることを期待すると挨拶した。

二日市教会は、初代主任司祭に平田勇神父を迎え、1951年7月8日に、西鉄電車大牟田線の西鉄二日市駅のすぐ側（現・スコーレビル）に幼稚園を併設して聖堂が献堂され創立した。創立当時は26人の信徒でスタートしたという。

その後、公害問題が騒がれ出したオイルショックの頃、教会の街路樹が枯れる現状を見て、教会移転が計画され、1974年5月29日に、現在の土地に教会、幼稚園が移転し献堂式が行われている。

現在、信者数650人を数える教会まで成長した。今後の成長にも期待したい。

日曜日の糧を

「天におられる私たちの父よ……」。私たちが、一番口にする祈りは、この「主の祈り」と「聖母への祈り」ではないだろうか。特に「主の祈り」は、主キリストご自身が教えてくださった祈りであるから、キリスト教各教派をこえて重んじられ、親しまれている。

私は、この祈りのなかで、特に「日毎の糧を私たちにお与えください」というくだりに親しみを感じる。他の部分は、深い教養をひめているようで、近付きがたい感じがするのに、この部分は、平凡な日常性を持っていて、気軽に口にすることができるような気がするからである。

この親しみは、どこから来るのだろうか。と考え出すと、このたのに伴い、1964年12月13日に現聖堂がドイツの信徒の寄付とフランシスコ会の援助で献堂された。のべ108人のフランシスコ志願者達が学び、52人が司祭となった志願院は1967年に閉鎖となったが、そのことにより、それまで志願者まかせだった典礼など、教会運営に信徒が活発に参加するようになった。信者は順調に増加し、大楠教会、老司教会を産み出した。現在、400人をこえる信者と、様々な活動によって、元気のある教会であり、次なる100年へ向けて希望のうちに船出した。

時の話題
久保　守

まず、「糧」というからには、それは、霊的はいうにおよばず肉体的食物、つまり、栄養を意味するのであろう。「日毎の」というのは、文字どおり毎日ということなのか、ありふれたという意味なのか、反対に、贅沢な栄養をふんだんにという意味なのだろうか。

そんなことは、解釈の問題だが、いずれにしても、栄養であるからには、消化しなければならない。ここに思い至ると愕然となる。

私は、神様にお恵みをお願いするだけでなく、それをわが身に消化するように努力しているだろうか。それも、日曜日だけのことではなく、「日毎」の務めとして。

西新教会信徒

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般の意向】神は人のいのちの唯一の主

【布教の意向】福音的霊性と中国の偉大な伝統

【日本の教会の意向】平和の実現とキリスト者

今月の意向

日本カトリック平和旬間
平和を祈る集い各地で開催



福岡地区《講演会と平和を祈るミサ》
日　時：2001年8月12日（日）13時～16時
場　所：カトリック大名町教会
テーマ：日韓の歴史から何を学ぶか
～和解の道へ向けて～
講　師：後藤正史神父（広島教区／岡山教会）
ミサ司式：堤敏雄神父（大楠教会主任）

北九州地区《講演会と平和を祈るミサ》
日　時：2001年8月12日（日）14時～16時
場　所：カトリック小倉教会
テーマ：『いのち』
講　師：山元眞神父（二日市教会主任）

熊本地区《平和を祈るミサ》
日　時：2001年8月12日（日）10時
場　所：カトリック健軍教会
司　式：松永久次郎司教

フランシスコ会と共に歩いた50周年

宮会
高教

フランシスコ会が担当している福岡市の高宮教会が創立50周年を迎えた。7月15日（日）、教区長松永久次郎司教、フランシスコ会日本管区長前川登神父、主任司祭小池如安神父、第4代主任司祭中村道生神父、フアミリーセンターで叙階50周年を迎えて、叙階当時の祭服をまとったS・ライル神父、司教館の田中重治神父とたくさんの信者、高宮教会を拠点に活動しているボーイスカウト、ガールスカウトの子ども達が聖堂を埋め尽くして、記念のミサがささげられた。


司教と共に祭壇を囲み喜びと感謝のミサ

ミサの説教で、松永司教は、高宮教会が、現代における証人であり続けるように諭し、50周年の記念は、大きな教会になるように再出発の時であると激励した。共同祈願を唱えた子どもが、これからも高宮教会の中で頑張りたいと祈る姿に、未来への希望がうかがえた。ミサの終わりに挨拶した信徒代表の坂田氏が、50周年を記念して、「聖霊と共に今こそ主役はあなた」という教会スローガンを決めたことを発表し、新たなる発展を目指す決意を現わした。

高宮教会は、フランシスコ会ドイツ・フルダ管区が1951年5月10日に、修道院と志願院を設立したことに端を発している。せっかく修道院でミサを毎日ささげているので、ここを小教区の教会としてほしいという信徒の要請を受けて、同年10月20日付、当時の福岡教区長、深堀仙右衛門司教より小教区設立の認可が下りた。その後、急激に信徒が増加し

2001年度司祭研修会に48人が参加

今年度の福岡教区全司祭研修会が、6月26日から28日まで、熊本阿蘇プリンスホテルを会場に、48人の司祭が参加して開催された。


ASIPAプログラムについて語る松田神父

今年のテーマは「道で話していたではないか」（ルカ24・32）…生活の中で読む聖書（みことばの分かち合い）…と題して、元日本カトリック研修センター所長の松田清四朗神父（コンヴェンツアル聖フランシスコ修道会）を講師に迎えて、ASIPAプログラムに触れてみることを目標とした。

今回の研修会の内容は、2月に開かれた司祭評議会において希望が出されていたテーマで、司牧的にみことばを学びたいという要請を受けて企画されたものである。

司祭異動

教区本部事務局長＝中浜一男神父（司教館付き）　7月20日付け

みちくさ

インド出身の神学者アントニー・デ・メロ師の言葉に「神は実り豊かな人生を愛されるように、何の実も結ばなかった人生をもお愛しになる。」と云うのがある。大好きな言葉であり、自分の机の上に何時も掲示して慰めとしている▼神は確かに実り豊かな人生を愛される。人に生命を恵み、種々の賜物で護ってくださった。人は神の恵みに応えて最善を尽くした。そして美しく豊かな実りをあげたのである。それが本来の神のご計画であった。そのご計画は満たされた。神のお喜びは当然である▼しかし順調に生育を遂げたものばかりではない。善良な心の人もちょっと油断したのであろう、お人よしの人も少しぼやっとしていたのだろう、善意はあったのに、豊かな実りを結ぶには至らなかったのである。成長はその中途で止まり、実りは半分にも及ばず終わりを迎えたのだ。だけど、神はご自分の仕事の端くれとでも思ってか、最後まで残しておかれた。華やかな実りを付けることもなく、空しくそこに残ったのである。豊かな実りをあげたのなら、神はどんなにお喜びだったことかと思う▼「もう三年もの間、このいちじくの木に、実を探しに来ているのに見つけたためしがない。だから切り倒せ。なぜ、土地をふさがせておくのか。」との声が聞こえて来そうである（ルカ13・7）しかし神は黙って、いや、種々配慮なさりながら、待っていてくださったのだ▼この作物は、何の実りももたらさなかった。しかし、神の無償の愛をうけたのだ。この作物こそ神の特別な愛の徴である。他のすべての作物より愛されたといえる。実りのゆえに愛されたのではなく、作物そのものが愛されたのである。心を込めて、神の限りない愛を称えよう。

（M）

司祭研修

7ステップを用いて みことばの分ち合いに挑戦

AsIPAプログラム

6月26日から28日まで熊本県阿蘇町で教区の全司祭の研修会が例年通り行われた。

初日から、隣の司祭と、あるいは3・4人の司祭と決められたテーマを元に話し合うワークショップを立て続けに実践し、参加した司祭も、こういう司祭同志の分かち合いには不慣れでもあり、大変さを感じながらも、素直に心の内を分かち合うことを実践で体験していった。


「主よ、洗礼の恵みを感謝します」と祈る司祭。

その後、7ステップによる聖書の分かち合いの方法について学び、すぐさま、一グループ8人前後、計6グループに分かれて7ステップによる聖書の分かち合いを実践してみた。祈りのうちに深い黙想ができたグループもあれば、聖書の解釈の討論になってしまったグループもあり、分かち合いの難しさを身にしみて感じた。

初日の夜はいつもなら自由時間だが、今回は洗礼の恵みを感謝する典礼が行われた。これは、全員が輪になって座っている中心に、洗礼を想起する水の入った器と復活ろうそくがともされ、みことばの朗読と説教の後、希望者が進み出て、「主よ、洗礼の恵みに感謝します」と唱え、器に両手を浸し、復活ろうそくに手をかざして静かに祈るというものである。

一同自分の洗礼と司祭職の恵みに感謝すると同時に、小教区でも応用できるものとして学びの時となった。

二日目は、例年の午後の自由時間も返上して、講師の説明とワークショップの繰り返しと、過密なスケジュールに少々司祭達も疲れた様子だった。しかし、何かをつかんで現場で活かそうと、熱心に参加していた。

この日行われた研修で目を引いたのは、講師が「金魚鉢」と呼んだものだった。これは、一同が輪になって囲む中、各世代の代表が真ん中に集まり、昨日学んだ聖書の7ステップによる分かち合いを行い、他の人々がそれを見守るというものであった。代表の人の分かち合いに感心しながら、客観的にこの分かち合いについて見つめるよい機会となった。

二日目の夜は懇親会。それぞれのテーブルに別れて司祭達がお酒も入って、笑い声の絶えないひとときを過ごした。この中で意見が出され、実行されたのが、最終日の研修時間を1時間短縮し、その時間を使って、参加者一同の自己紹介である。これは、同じ教区で働く司祭が一堂に会するのは一年でも数えるほどしかないため、顔と名前が一致しない司祭も多くいるのが現実である。そこでお互いの自己紹介と、今感じていること、抱えている問題、悩みや、協力して欲しいことなどを分かち合った。特に教区に来て日の浅い司祭はもちろん、多くの司祭にとってこれは好評であり、福岡教区の司祭団としての絆を深める機会となった。最後に松永司教司式のミサがささげられ、続いて行われた閉会式で、司祭団を代表して、茶山教会主任司祭の山田成章神父が挨拶し、無事研修会を終了した。

今回研修したASIPAプログラムは、FABC（アジア司教協議会連盟）によって指導・認可された、アジアにおける「参加する教会」を促進するための司牧的信徒養成プログラムである。本来4コースもある膨大なプログラムだが、今回はそのはじめの部分である、みことばの分かち合いを通して、小さな共同体を作っていく過程のさわりを学び、体験したことになる。自分の信仰、聖書の読み方を見つめる機会となったのはもちろん、この体験を元に、各自が自分の小教区にあわせてこれを活用していくことが望まれている。

キカイダートディビッド 人類創造

新しい世紀のカテケジス⑤

伊東成晃神父

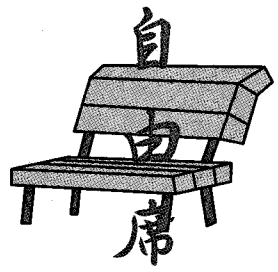


夏真っ盛り、皆さんいかがお過ごしでしょうか？この猛暑を避けて映画館などに足を運ばれてはいかがでしょう。エアコンが効いていて、なかなか快適ですよ。私は、この夏話題の映画『AI』を観てきました。不治の病の実子にかわって造られる養子ロボット―デイビッドの物語です。他のロボットとは違って『愛』をインプットされたというのがうたい文句です。さぞかし感動ものかと思いきや、親のエゴによって生を受けた彼は、エゴしか知らない哀しき人造人間でした。エゴに始まってエゴに終わるそんな映画です。もう一つの映画を紹介しましょう。『アンドリューNDR114』昨年公開された、やはりロボットのお話です。彼は人間に限りなく近づくために『死』でさえも受け入れてしまうという物語です。私としてはこちらの方がいい映画だと思いました。どちらの主人公も不老不死、疲れを知らない身体でありながら『本物の人間』になりたいと言う皮肉なお話です。人間は不老不死を望み、今や人工臓器の開発にクローンの研究などお話に『ピノキオ』というのがあります。彼が人間になるための条件も『愛と良心』を持つという事でした。少年の頃『キカイダー』というTV番組を見ていました。悪の支配者のもとで働かされていた博士が正義のロボットを造るために密かに『良心回路』を組み込んだ主人公『キカイダー』を造るというお話です。この『良心回路』のおかげで彼は悪のロボットにならず、悪と闘うのです。神は愛によって人類創造を行い、人は神に似せて造られました。だから人は、神が持つような『心』をもってこそ『人間』なのです。人間がものを造る時代、それらは、人間の何を真似て生まれてくるのでしょうか？

呼子教会主任神父

マテオ神父の 祈りの学校

V・マテオ神父



「司教様たちの司牧計画すべての目標は日本国民と日本の信徒の聖性を高めることです。教会共同体は『祈りの学校』となるべきです。なぜなら、祈りこそは福音化の泉だからです。」と2001年3月31日、教皇様はアドリミナでローマを訪れた日本の司教様方に仰ったことが、中央協議会発行「カトリック・ニュース」2001年4月号に掲載されていました。

わたしは、この黙想の家で小さな「祈りの学校」を開きたいとずっと考えていました。

祈りについての講話と祈りの実践の一日静修（日帰り学校）です。様々な祈りの方法『イエスさまに、天のおん父に単純に自分の言葉で語りかける祈り』、『イエスさまの美しい魅力と、愛について思い起こしながらの黙想』、『おん父と聖霊と、ひとつにましますイエスの現存を想い、主のいつくしみを味わい（詩編34・9）、み言葉、特に詩編を深く祈ること』、『聖母マリアの愛についての黙想』など。

キリスト者の生活は、イエスさま、神さまとの愛と親しさを深める生活に尽きます。神さまの愛の中で、深く強く成長すれば、お互いの愛も成長します。

この神さまへの愛を培うのは私たちの祈りの生活を通して出来るのです。

マテオ神父の「祈りの学校」は、月に一度神さまとの親しいひとときを持つゆったりとした時間になります。わたしマテオ神父は、いのりの森の『祈りの学校』でみな様を待っています。一緒に祈るために。

御受難会福岡黙想の家司祭

みことばに惹かれて

吉田絹子



「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいる」（マタイ18・20）。何と優しく、いつくしみ溢れるみことばでしょうか。このみことばに惹かれ、信頼し、私たちは集い、祈っています。以前、祈りとは『これをして下さい、あれも聞いてください』と言葉多く唱え、自分のお願いを何とか聞き入れてもらえるようにと熱心に祈っていました。勿論良い事ですが。「すべてをご存じのお方は、私たちが願う前から必要なもの、充分に与えて下さっている。神様が喜ばれる祈りは賛美と感謝を捧げることだ。」といろんな勉強会、セミナー、研修会等で解らせていただきました。だが、誰一人例外なく、悩みや苦しみが次々に現われ、それがむずかしく感じる時があります。避けたいけれど感謝して受け止めなければならない各々の十字架。神様の与えられるものに、意味の無いものの、無駄なものは無い。かえってその十字架から恵みが注がれて来るのだ、と思えた時やっぱり賛美と感謝を捧げずにはいられません。祈りは信仰の原点とも聞きました。ミサを囲み、心を合わせ歌い、祈り、神様が共に居てくださると感じる時、『今、この世の天国だ』と甘美な幸せに包まれます。神父様と皆様のご理解を通して計らって下さったこと感謝するばかりです。これからも、どんな状況にあっても、小さな祈りの輪を大切に、絶えず賛美と感謝を捧げながら歩み続けることができますように。そして、この輪が少しでも広がりますように、と祈りつつ。

佐賀教会信徒

感謝・お母さんの集い

福吉三代子

信仰の喜びをたくさんの人と分かち合いたい、という声に触発され、小倉教会でお母さんの集いが始まって早や7年が経ちました。その間、様々な神父さまを迎えて開かれた講演会は実に20回にもおよんでいます。

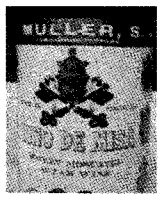
子どもをかかえながらみんなよく参加できました。神様が共にいて支えてくださったのでしょう。教会になじめないお父さん達を巻き込んでの夏祭りやクリスマス会、行事を通して「自分も信者になりたい」というお父さんの声や、子ども達の「教会って楽しいね」という笑顔に出会い、お母さんの顔も輝いたのを間近で見ることもできました。



私自身も会が始まった時は小学生だった娘が18才になり、受洗と共に歩んできたこの集いを無事卒業しました。お母さんの集いを通して体験したこの輝きが教区の子どもをかかえるたくさんのお父さん達、お母さん達に広まっていくよう、また、そのためにもお母さんの集いみたいなものが各地に広まっていくようにと願っています。

小倉教会信徒

マテオ神父の『祈りの学校』
9月4日(火)からマテオ神父の『祈りの学校』が始まります。
イエスさま、神さまとの愛と親しみに満ちた一時にマテオ神父が案内いたします。
日時：9月4日(火) 11：00～15：00　毎月第1火曜日
お弁当持参でどうぞ！　【費用】無料　【指導】V.マテオ神父
10月8日（体育の日）むなかたてんてんまつり
福岡黙想の家　〒811-4155 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222 FAX 0940(32)3385

ミサ用ワイン

ヴィノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ　青木　彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑〔SOU-EN〕
ご葬儀
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

島崎

聖体の祝日に各地で聖体行列

新田原

伝統が受け継がれた島崎教会の聖体行列

6月17日（日）、聖体の祝日に島崎教会（熊本）にて恒例の聖体行列が、午前11時から主日のミサに引続き行われ、今年も市内の教会から司祭、修道者、信徒約200人が参列した。

一行は教会の聖堂を出て、北側のマリアの宣教者フランシスコ修道会の聖堂までの約1キロの行程を行列。その間、ロザリオの祈りと聖歌を交互に唱和しながら、一般公道を約300メートル程進んだところで修道院の門に着く。敷地内には、待労院、老人ホーム等があり、この各施設をめぐり、高齢者のための野外聖体祝福が、子供達がまく花びらの舞う中、とてものどかな行列になった。その後、修道院の聖堂には参加者全員が集い、聖体降福式が捧げられ、行列は無事終了した。



島崎教会の聖体行列は百年ほど前、救ライ事業のため、島崎の地に設立されたマリアの宣教者フランシスコ修道会が、毎年、行っていたものを当教会が引き継ぎ、40数年間一度も欠かさず小規模ながら毎年実施され、現在に至っている。聖体の祝日が6月の梅雨の時期と重なるにも関わらず、今年も天候に恵まれた。これは神ご自身が準備してくださった事、この神体験は、私たちの心に、まかれた一粒の芥子だねとなるものではなかろうか。

小教区の一致の証し 新田原教会の聖体行列

6月17日（日）、キリストの聖体の祝日に、新田原教会では、『特別・聖体賛美式』が行われた。今年は、隣接の聖マリア幼稚園が「父の日参観行事」で、駐車場や、園庭が使用不可能のため、聖体行列にかえ、聖堂内で聖体賛美式が執り行われた。

前大分教区長・平山高明司教を招き、午前9時からのミサに引き続き、祭壇上に御聖体を顕示し、聖体賛美式が行われた。賛美式の中で、平山司教は、愛の秘跡である御聖体の秘跡の恵みを頂くために、『目に見えない神を愛する証しに、目に見える隣人をまず愛する』ことをこころがけようと説教された。

当日は、お隣の聖母訪問会で引退後を過ごしている前福岡教区長の平田三郎司教も参加。また、主日の早朝のミサを取りやめ、『一致の秘跡』である御聖体への信心を特別の形で行い、小教区全体が一つの心、一つの信仰を表現する機会・ひとときとする事が出来た。

白柳誠一枢機卿北九州と福岡で記念講演
世界平和への貢献は違いを認め合う事

北九州市の教誨師を中心に「各宗派を越え対話集会などを通して、それぞれがより開かれた宗教を目指そう」と結成された北九州宗教者懇話会（会長＝立正佼成会小倉教会　矢作英雄師）の5周年記念式典が6月27日と28日の両日、立正佼成会小倉教会と福岡教会で行われ、前東京大司教で世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会理事長の白柳誠一枢機卿が記念講演を行った。

小倉教会での講演で白柳枢機卿は、「平和な世界とは、戦争が無いというだけではなく、人間が人間らしく生き、その人権が脅かされない世界のこと。そのような世界を築くためにWCRPは働いている。」と言った上で大要次のように語った。

「20世紀は、科学・文化・医学と衣食住が豊かに、便利になるという明るい面を広げてきたが、その陰の部分で武器が生まれ、殺し合い、憎み合うという死の文明が支配する世紀だった。人間の命がないがしろにされ、一般家庭でも中絶が日常的になり、安楽死が容認されるところも出ている。安楽死や中絶は、不都合なものは無くしてしまえという考えが支配する世界であり、ナチズムと同じ考えである。争いの原因になる文化・民族・宗教など、いろいろなものの違いを認め合う気持ちがない限り争いはなくならない。WCRPは様々な宗派の集まりだが、混合宗教を創るためでなく、宗教者が互いの違いを認め合った上で協力し合い、それぞれの良さを提供し合って世界平和の実現のために働く組織である。」と。そして終わりに、「平和は近い愛から始まる。自分の身近な人や家庭の中でお互いを御大切（ごたいせつ＝愛）にすることから始める。」と結んだ。

講演に先立って、門司カトリック教会付属聖母幼稚園（平田寛園長）を訪れた白柳枢機卿は園児の歌う「マリアさまのこころ」の聖歌で迎えられ、和やかな一時を過ごした。

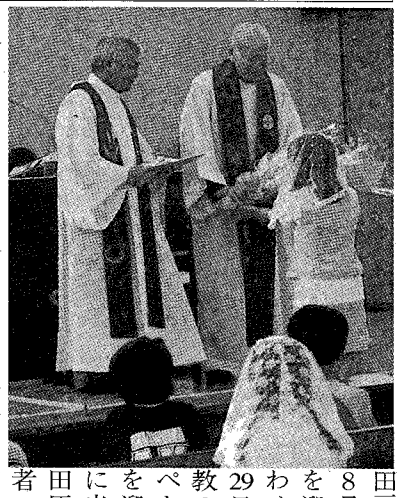
翌28日には立正佼成会福岡教会で講演し、長崎、佐賀、大分など900人を越える参加者が白柳枢機卿の話に聞き入った。



立正佼成会福岡教会で講演する白柳枢機卿

WCRPとは、立正佼成会の創立者庭野日敬師がカトリック、プロテスタント、ヒンズー教徒、ユダヤ教徒などに呼掛けて、1970年11月、第1回京都会議を開催。この会議で、世界の宗教者が過去のあやまちを反省し、平和のために手を携えて共に献身すべきことを宣言、この決意を実行に移すための継続的な機関として、国際的に連帯し宗教者の立場から平和への祈りと実践を広げることを目的に設立。日本の活動部会は①非武装・和解②難民③開発・環境④人権⑤広報⑥宗教対話の6つの委員会で世界平和のために活動している。

前教区長平田三郎司教の米寿を祝う



今年2月、糸島小教区主任司祭の任を解かれて後、聖母訪問会・新田原第2修道院にお世話になっている、前福岡教区長・ペトロ平田三郎司教は、8月で、米寿を迎える。合わせて、6月29日に平田司教の霊名・聖ペトロの祝日を迎えられるに当たり、新田原教会の信者一同は、7月1日（日）9時のミサで、平田司教を盛大にお祝いした。当日は、新田原小教区主任竹森勇神父と共同司式ミサを自ら司式し、その説教の中で88年の人生と62年間の司祭生活、そして40年の司教職を振り返り、神様と福岡教区民、そして新田原教会信者一同に感謝の意を表した。

ミサ後、信徒を代表して、宮脇委員長が挨拶。続いて、お祝いの霊的・物的花束が贈られ、子どもたちを中心に、全信者による歌のプレゼントなどが披露された。

平田司教は、現在、聖母訪問会新田原修道院で、シスター方の協力と暖かいお世話のもと、日曜日の9時のミサで竹森主任司祭と毎週共同司式ミサを捧げられるぐらい、元気に生活しておられる。

採れ動く日韓関係の中で

ソウル市庁の正面には、大きな電光掲示板があり、ワールドカップ開催の日までのカウントダウンが毎日刻まれています。96年に決定されたこの日韓共同開催は双方が決して望んだものではなかったものですが、結果的に日韓関係を大きく好転させることになりました。特に、金大中大統領の訪日の際に、小渕首相との間に交わされた日韓共同宣言は「21世紀に向けた新たな日韓パートナーシップを構築する」未来志向の新時代を告げるものでした。以後、スポーツの交流のみならず、政治経済文化のあらゆる面での交流が促進されていきました。ところが、「新しい歴史教科書をつくる会」の教科書が明るみにでるや、日韓関係に大きなひびが入りました。韓国側は、歪曲された既述が正しく修正されるようにいち早く抗議してきました。

これに対してして日本側の対応は決して誠実なものとは言えないものでした。それどころか小泉首相は靖国神社参拝を公言してはばかりません。

また、これに対し日本の教会は、3月27日、日本カトリック正義と平和協議会は担当司教の名で、反対表明をしました。(注2)

このような日本の司教様方の行動に「心から賛同」する趣旨の手紙が韓国司教協議会の正義と平和委員会会長のチェ・ヨンスウ司教から届けられたことが「カトリック新聞」の7月1日号で報じられています。

実は日韓の司教様方の交流は、日韓の歴史の正しい認識を分かち合おうとして8年程前から始まっており、毎年交互に相手の国を訪問し理解と親睦を深めてこられました。昨年の平和旬間の際には、広島教区とプサン教区とフィリピンのインファンタ教区は互いに姉妹関係を結びました。

日韓の教会の連帯が両国の、さらにはアジアの平和の証となればと願っています。

注1「カトリック新聞」5月13日号参照
注2「カトリック新聞」7月8日号参照

中村　道生神父（大名町教会出身・フランシスコ会司祭・現在、韓国ソウルの同会在住）

BOOK 読みは専科

★わたしはマザーに会った 20人が語るマザーテレサの姿　女子パウロ会　編



「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれた事である。」マタイ25章40節のこのみことばを、マザーは命を賭けて生き抜いた。いろいろな立場の人々がマザーの元を訪れ、手紙を送り、そして招いた。この本は彼女に接した20人の貴重な体験、感動の記録である。「愛とは何か？仕えるとは何か？」ということを、深い感動とともに考えさせてくれる本である。

本体　1300円

★平和の塔　永井　隆　著



本書はカトリック信仰だけでなく、また大学で研鑽した科学だけでもない独特の永井隆の信仰と人生観が現されている。瓦礫しかない廃虚で、白血球が数十万にもなる自分の血液を顕微鏡で覗いたり、腫れた腹の巨大な脾臓を触診したりと、死を見つめつつ書かれたもの。母をすでに亡くし、やがて疑いもなく父も亡くすであろう二人の子供を傍らにおきながら、畳二枚の如己堂で、廃墟の天主堂の鐘を聞きつつ人間愛やユーモア、先見性あふれた種々のエッセイを収録。本書はサンパウロ（旧社名：中央出版社）発行の新書判を文庫にしたものである。

サンパウロ　税抜き　680円

ジャパンスマイルか 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811-7265

感謝と賛美のために
祈りを通して制作
典礼センター ピエタ
祭服．聖器具．聖像
信心用品．ベール．
ロザリオ他
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092-526-9176

キリストの招きにこたえ この一歩

福岡黙想の家　8・9月

◇1日（水）～10日（金）　幼きイエズス修道会黙想
◇12日（日）～18日（土）　サレジオ会黙想
◇19日（日）～20日（月）　幼きイエズス修道会研修
◇20日（月）～29日（水）　幼きイエズス修道会黙想
9月
◇2日（日）～7日（金）　オブレート会黙想
◇10日（月）～11日（火）　召命を祈る会世話人会の集い
◇12日（水）　ミカエル会
◇15日（土）～16日（日）　聖母カテキスタ会
◇16日（日）～18日（火）　むなかた和善の聖書集い
◇19日（水）　むなかた和善の聖書集い（日帰り）
◇21日（金）～23日（日）　むなかたAsIPA（後期A）
◇29日（土）～30日（日）　在世フランシスコ会の集い
◇10月8日（月）　第11回むなかたてんてんまつり

［問合先］黙想の家
☎0940・32・3222　FAX32・3385

生命山カトリック別院

※祈りの集い
・9月13日（木）10時～15時
・10月11日（木）10時～15時
※若い宣教師の研修会
・日時：8月12日（日）～16日（木）13時まで
・指導：フランコ神父

園田善昭神父
※宗教対話活動
（信仰について仏教者と語る）
・日時：9月2日（日）14時
・場所：専念寺
手取教会13時40分集合

［問合先］
・生命山カトリック別院
☎0968・85・3100
FAX0968・85・3186

熊本地区神学講座開催中　第1期

◆9月9日（日）　神・聖霊・恩寵　マッケイ神父
◆9月23日（日）　三位一体の神　櫻井尚明神父
マリア論　櫻井尚明神父
◆10月14日（日）　信仰・希望・愛　森山信三神父
◆11月11日（日）　キリスト受肉・死・復活
キリスト教的終末　牧山勝美神父

問合せ先：☎096・352・1515　手取教会　日向

カナの会　きっと、出会えるカナ。

日時：2001年9月24日（祭日）10：00～16：00
場所：カトリック大名町教会
（福岡市中央区大名2-7-7）
指導：青木　悟神父
インストラクター：吉川信雄氏
会費：2000円（昼食代を含む）
対象：20歳以上の独身男女
申込み／問合せ：☎092-771-0793前野良子

案内版　会合と催し

8月のこよみ

5日（日）　年間第18主日
6日（月）　主のご変容
日本カトリック平和旬間［～15日］
†E.ベノア［門司港教会1962］
8日（水）　†P.マルケシーニ［待労病院付1980］
12日（日）　年間第19主日
平和を祈る集い［カテドラル13時］
†A.ブルトン司教［第2代福岡教区長1954］
†J.オサリバン［熊本地区長1983］
13日（月）　教区和田墓地開放［～15日］
14日（火）　聖マキシミリア・マリア・コルベ殉教者
†ミカエル木村義巳［馬渡島教会1967］
15日（水）　聖母の被昇天
教区和田墓地ミサ［14時］
19日（日）　年間第20主日
久留米教会堅信式
†ステファノ川口康頼［小神学校長1991］
20日（月）　教区幼稚園連盟夏期研修会（～22日）
22日（水）　天の元后聖マリア
24日（金）　聖バルトロマイ使徒
25日（土）　笹丘教会聖アウグスチノ祭
26日（日）　年間第21主日
27日（月）　聖モニカ
福岡地区婦人会感謝ミサ［大名町教会10時］
28日（火）　聖アウグスチヌス司教
29日（水）　洗礼者聖ヨハネの殉教

9月のこよみ

2日（日）　年間第22主日
3日（月）　聖グレゴリオ一世教皇
†P.コトレル［熊本地区宣教1928］
4日（火）　**司祭評議会［司教館別館10時30分］**
8日（土）　聖マリアの誕生
9日（日）　年間第23主日
箱崎教会創立記念の祝い
10日（月）　日本205福者殉教者
15日（土）　悲しみの聖母
福岡地区信徒協研修会
†A.ヒューゼ［司教館1944］
敬老の日
16日（日）　年間第24主日
17日（月）　†P.オジョニ［ロザリオの園1982］
21日（金）　聖マタイ使徒福音記者
23日（日）　年間第25主日
世界難民移住者移動の日（献金日）
秋分の日
28日（金）　聖トマス西と15殉教者
29日（土）　聖ミカエル・聖ガブリエル・聖ラファエル
†Y.ヴィオン［司教館1969］
30日（日）　年間第26主日
福岡カルメル会創立50周年記念感謝ミサ

10月
1日（月）　幼きイエスの聖テレジア
2日（火）　守護の天使
3日（水）　†E.ラゲ［司教館1929］
4日（木）　アシジの聖フランシスコ
■ゴチックは司教日程

◆福岡

■ヨアキム・アンナ信心会
［日時］8月16日（木）［場所］カトリック高宮教会［指導］小池如安神父［内容］ロザリオ・黙想・ミサ［問合せ先］☎092・533・2326小田部
［次回］9月20日（木）

■テゼの歌による祈りと黙想
［日時］8月24日（金）19時30分から［場所］カトリック大名町教会小聖堂［問合先］☎092・524・6142許斐［次回］9月14日（金）

■第29回典礼聖歌研修会
［日時］9月2日（日）13時から［場所］カトリック光丘教会［講師］深堀純氏（大名町教会信徒）［参加費］自由献金［問合先］☎092・623・5023有馬浩

■福岡パストラルケア研究会
［日時］9月2日（日）14時から［場所］福岡サン・スルピス大神学院［内容］病人になって体験した事［参加費］無料［問合先］☎092・871・4943 Sr.箕浦［次回］10月7日

■第84回福岡結婚準備セミナー
［日時］9月5日（水）～29日（土）毎水曜日と土曜日全8回19時～21時30分［場所］カトリック大名町教会［申込先］カトリックファミリーセンター☎092・541・6207

■グレゴリオ聖歌を歌う集い
［日時］9月5日（水）11時～12時15分［場所］浄水通教会聖堂［講師］坂田孝子氏［参加費］自由献金［問合先］☎098・380・5686堺

■オリーブの会第1回定例会
［日時］9月9日（日）14時～16時［場所］カトリック大名町教会［話し］「私の体験」江上博昭氏［問合先］☎092・871・5517河井章江

■第15回福岡ホスピスの会
［日時］9月16日（日）14時～16時［場所］カトリック大名町教会［内容］病院ボランティアについて［講師］長野玲子氏（福岡市民病院看護部長）［問合先］☎092・737・3701事務局：次回は11月18日（日）

■在世フランシスコ会集会
［日時］9月23日（日）14時～16時［場所］カトリック高宮教会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習［指導］小池如安神父［問合先］☎092・843・5831岩崎

福岡カルメル会修道院
創立50周年記念感謝ミサ
［日時］9月30日（日）14時
［司式］松永久次郎司教

■福岡生と老い死を見つめる会
［日時］9月30日（日）14時～16時［場所］カトリック大名町教会［内容］「老いともの忘れ」：死別体験者の集い［講師］三木浩司医師（小倉記念病院神経心療科部長）［参加費］会員

◆佐賀

■佐賀祈りの集い
［日時］8月9日（木）10時～11時30分［場所］佐賀カトリック会館［内容］祈り［問合先］☎0952・72・7536吉田［次回］8月25日（木）10時～12時はミサと祈り：毎月第2と第4木曜日［次回］9月13日（木）と9月22日（木）

■聖書を読む会
［日時］毎月第1木曜日、午前

◆北九州

■小倉祈りの集い
［日時］8月17日（金）13時～14時30分［指導］V・マテオ神父（御受難会）［場所］小倉教会信徒会館2階［内容］「みことば」をあじわい祈る［問合先］093・452・1556安藤
［次回］9月21日（金）

◆熊本

■第66回熊本結婚準備セミナー
［日時］9月4日（火）～10月2日（火）の毎月曜日と火曜日全8回19時から21時30分［場所］カトリック手取教会［問合先］☎096・352・3030

チャリティ映画会
マザーテレサとその世界

日時：8月18日（土）14時～
場所：中央市民センター3F
代金：1000円（大人）
800円（高校生以下）
目的：海外ボランティア活動を通して、ルワンダとビニアビサウへの支援
※チケットはセントポールまで

■オリーブの会福岡家族の集い
［日時］10月13日（土）14時～16時［場所］カトリック大名町教会［問合先］☎092・871・5517河井章江

■美野島司牧センターのお願い
衣類のカンパをお願いします。特に夏物の男性用ジーンズ・Tシャツ・靴下などの衣類・洗面道具・靴をよろしくお願いします。女性用の衣類は間に合っています。また、金曜日のボランティアを募集しています。衣類を頂きに来た人に出してあげたり、整理のお仕事です。
［問合先］コース神父☎092・431・1419

■オリーブの会福岡家族の集い
10月28日（日）
［問合先］☎092・713・8502村尾：8月は休会［次回］10月28日（日）

500円：一般700円［問合先］☎092・713・8502村尾：8月は休会［次回］10月28日（日）

福岡地区和田納骨堂加入者募集

福岡地区和田墓地の納骨堂を新しく増築することになりました。
場　所：福岡市南区和田4-15
完　成：平成13年10月末（予定）
加入金：25万円+管理費4万円（10年分）
申込先：各教会の納骨堂委員か委員長の山田耕三郎まで
☎092・504・0848

編集後記

金歯のはぐきの根っこが膿んでしまい、毎日歯医者通いをしています。おかげで、この夏の異常とも思える暑い日差しとうだる暑さを身にしみて感じさせられています。夏ばてに負けずに、よき夏の季節をお過ごしください。そして、貴重な夏の体験談を教区報にもどしどし送ってください。せっかく自由席のロゴがかわり、涼しげなベンチになったので、原稿を座らせてください。

次号からは読みやすい新聞となるよう文字のサイズを少し大きくしようかと考えています。どう変更できるかお楽しみに。

お知らせ

◆セントポールフクオカ
8月13日（月）～18日（土）
夏期休業とさせて頂きます。
◆福岡教区報
9月号を休刊と致します。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者 ペトロ 平田 清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所 大石真澄
☎092-552-8195 Ⓕ092-541-7734

未来へ――安心を創る
FUJIKI
藤木工務店
福岡支店 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1 TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長 大森 周　福岡支店長 城戸隆秀

カトリック福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　田中重治
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般の意向】少数民族と宗教の豊かな文化と霊性

【布教の意向】3千年期の新たな宣教精神

【日本の教会の意向】高齢者と家庭

10月21日 世界宣教の日



２５００回の集会を開いた高宮教会のレジオマリエ

ヨハネ・パウロ２世教皇は「主の慈しみをとこしえにわたしは歌います」（詩編89・２）を宣教の日制定７５年になる今年の世界宣教の日のテーマとして、メッセージを発表しています。その中で、「イエス・キリストは、きのうも今日も、また永遠に変わることのない方（ヘブライ13・８）であるとの確信を持って、過去の恵みを記憶し、現在を熱心に生き、未来に信頼して前進するようにと促します」と述べています。

高宮教会レジオマリエの１９５２年発足以来、今年９月11日の2500回の集会は、50年間１回も休まず、毎週集まり続けた結果です。地道に、確実に前進しましょう！

教区司牧評議会設立について討議　司祭評議会

2002年度の年間行事予定も検討

今年度第１回司祭評議会が９月４日（火）、松永久次郎司教をはじめ、19人の司祭が参加して開催された。この会議の中で、２００２年度の教区の年間行事について話し合いがなされた。また、教区信徒使徒職協議会から設立の要望があがっている教区司牧評議会の設立についてどうするか慎重に検討された。

今回の司祭評議会の開催に先立ち、事務局長中濱一男神父より、９月１日付で、１９９７年から４年間司教総代理を務めてこられた堤要吉神父（浄水通教会主任）が勇退し、新しく川上惣一神父（行橋教会主任）が任命されたことが発表された。続いて報告事項があり、事務局より９月１日付の司祭人事の発表が行われ、合わせて各種委員会、諸活動担当司祭の確認が行われた。また、前回の司祭評議会からの継続審議の経過の報告がなされた。

議題に入り、第１議題として２００２年の教区行事予定が話し合われた。この中で、聖ペトロ使徒座への献金（６月23日）などの指定献金をもう少し額を増やすように信徒に呼びかけて欲しいことが説明された。また、６月25日（火）～27日（木）に予定されている教区全司祭研修会について討議された。テーマについては日本の司教団が発表したメッセージ「いのちへのまなざし」について取り扱うことになり、事務局にて意見を集約して次の評議会にかけることになった。今後、テーマや講師、場所、日程などを事務局に一任して検討してもらい、意見のある方は事務局長までということになった。今年の平和の集いは従来の福岡地区だけでなく、熊本・北九州地区でも開催されたので、来年も各地区で平和の集いを持つように計画して欲しい旨確認された。なお、来年の教区邦人司祭黙想会はすでに講師を依頼しているが、10月14日（月）は体育の日で、黙想の家もてんてんまつりで使えないため、15日（火）午後～19日（土）で講師と日程を調整することになった。

第２議題として、教区司牧評議会設立案について話し合われた。これは、教区信徒使徒職協議会から司教に司牧評議会設立の要望が打診されたためである。事務局より、これまでの経緯が説明され、信徒協の考えている司牧評議会は教会法の規定とかけ離れており、あくまで司教の諮問機関であるとして、教会法に基づく司牧評議会のあり方について説明を受けた。これを受けて意見交換が行われ、「宣教」を加えて、私達が宣教についてもっと考えていくようになればいいという意見があった。また、教会法に基づく説明はわかるが、夢がなく、もう少し血の通ったものにできないかという意見も見られた。一方で、信徒協や司祭評議会があるのに、何のために司牧評議会を新たに作らなければいけないかが明確でないとの指摘もあった。結局、教会法と信徒協の望む司牧評議会の間には大きな溝があり、この溝を埋めながら、あくまでも司教の諮問機関であること、司教が司牧面に限って意見が聞きたいとして召集され話し合うが、たとえその場で全員が一致した意見をまとめても、司教はその他の事柄を考慮してそれを拒否することもできることを理解してもらう必要が指摘された。そこで、議長より司牧評議会設立には前向きな意見が多いので、司祭、信徒代表による準備委員会を発足して相互認識を深め、相応しい司牧評議会設立を目指してはということになり、中濱神父を代表とし、川上神父、平田敬神父、松井忠之神父を司祭代表とする「教区司牧評議会（仮称）設立準備委員会」を発足させ、今後具体的に取組んでもらうことになった。

日本と福岡教区に偉大な足跡を残し 2人の宣教師相次いで帰天

L・デシャンブ神父

パリ外国宣教会北九州八王寺支部責任者レオン・デシャンブ神父（パリ外国宣教会）が８月20日午前10時５分、北九州市の九州厚生年金病院にて心不全のため帰天された。享年84才。

デシャンブ神父は１９１６年フランス生まれ、42年にパリ外国宣教会の司祭として叙階され、46年までフランスで過ごした。その後、中国満州に派遣されたが、51年中国から強制追放され、52年初めに日本に入国、そのまま北九州へ。以来、天神町、若松、小倉、八王寺の教会宣教に従事された。98年３月末をもって八幡カトリック幼稚園園長を退任し、現職を退いていた。４月に入院する前日まで、明治学園内のノートルダム仙水修道院のミサに通うなど、最後まで宣教師として福岡教区のために尽くされた。



レオン・デシャンブ神父

20日に遺体をパリ外国宣教会八王寺支部に安置して追悼ミサが捧げられた。21日に小倉教会で通夜が松永久次郎司教司式で、パリ外国宣教会日本管区長ミシェル・コーナン神父をはじめ30人の司祭と６００人近くの信徒が参列、荘厳にささげられたという。

D・グリフィン神父

休暇・療養のためアイルランド本国に帰国中の玉名教会主任司祭ダニエル・グリフィン神父（聖コロンバン会）が、８月20日現時時間午前４時30分（日本時間午後１時30分）、聖コロンバン会ホスピスセンターで心不全のため帰天された。享年72才。通夜・葬儀はアイルランドにて行われ、ちょうど巡礼でアイルランドを訪れていたライル神父（ファミリーセンター）も参列、荘厳にささげられたという。

ダニエル・グリフィン神父

グリフィン神父は、１９２９年アイルランド生まれ、53年に司祭に叙階され、55年来日。和歌山県の教会や熊本の健軍、八代教会、千葉県、大阪府の教会で宣教司牧に従事された。91年から99年まで大阪の英知大学でアイルランド文学を講じた。その後、99年６月28日付で、玉名教会主任司祭に任命され活躍中だった。



司祭異動

▽司教総代理・顧問・司祭評議員＝川上惣一神父（行橋教会）▽顧問・司祭評議員＝青木悟神父（大名町教会）９月１日付け

時の話題

新世紀の教会

川島　晋二

日本カトリック司教団は、21世紀を間近に迎えた１９８８年に新しい福音宣教を考え、ナイス１で最優先課題として「開かれた教会づくり」をテーマにいくつかのメッセージを私たち信徒へ送られました。各教区や小教区では「開かれた教会づくり」のテーマに沿ったさまざまな取り組みがなされ、現在もナイス１の精神は各小教区の中に生きつづけていると思いますが最近はあまりナイス１の話題を聞かなくなり残念な思いがしていましたが、21世紀を迎えた今年、司教団は新しい世紀を共に歩むすべての人へ向けて、いのちについて様々な角度から問題提起をされた「いのちへのまなざし」というすばらしいメッセージを送られました。司教団はメッセージを「新しい世紀を迎えたこのとき、わたしたちは人間のいのちをむしばみ、その人生を疎外させるすべての悪に対して、カトリック教会がはっきりと「否」と言い、個々の困難な状況を克服し、問題を解決して、真理と正義と愛にあふれた社会をつくり上げようとする人々の輪に積極的に加わっていくことを願っています」としめくくっています。これからの教会や私たち個々の信仰生活を考えるうえでナイス１での「開かれた教会づくり」と今回の「いのちへのまなざし」の２つのメッセージは、それぞれ違うタレントを神からいただいた私達がそのタレントを一つに集めお互いに協力しあい、これからの教区や小教区のあり方を考えるうえでの力強い柱になるのではと思います。

水巻教会信徒

みちくさ

秋、春に続く運動会シーズンの到来。よく耳にするのが「来週は運動会があるので教会を休みます」とのこと。実際、その家族一同は次の主日のどのミサにもいなかった。さも当たり前のようにミサに集わない、最近本当に目に付くようになったように思える▼現代の西欧文化社会では、日曜日は一般的に休暇の日であり、キリスト者にとっては主日であることが、特に日本のようなキリスト教に根ざしていない社会で歪みをうんでいる。そこで、ヨハネ・パウロ２世教皇は「主の日」という使徒的書簡を98年に発表して、今一度主日の大切さを説いている▼主日は主の復活の祝日である。その日信者はそれぞれの小教区に集い、ミサを共にささげて、一週間で頂いたお恵みへの感謝と犯した罪の反省とゆるし、み言葉による主の語りかけと、聖体による魂の養いと同時に同じ一つの聖体を頂いて皆が神の民として一つとなり、新たな一週間へ向けて祝福される。こういった意味でミサは信者の生活の頂点であり、中心である▼つい最近まで、ミサには厳しい決まりがあった。交通の便も不便だった。しかし、何時間も歩いてミサに集っていた教会の姿があった。今、交通の便も良くなった。なのに、主日のミサに集わない。実は一人でも欠けるとミサにおける共同体の一致が欠如する重大な事態をひきおこしている。それ以上に、キリスト者にとって大切な頂点と原点、恵みの時を逃してしまっているのである。この大損を損と感じなくなっていくところに今の教会の問題が浮かび上がってくる。（T）

平和旬間 福岡・北九州・熊本 各地区で平和を祈る集い開催

8月12日

福岡地区

大名町

福岡地区では、午後1時から大名町教会で恒例の平和を祈る集いが開催された。第一部講演会は、「アジアの平和への道のり〈日韓の歴史から何を学ぶか！〉～和解の道へ向けて～」をテーマに、後藤正史神父（広島教区・岡山教会助任）を講師に迎えて、1階講堂が満員になる参加者のもと開催された。後藤神父は、教科書問題などで、日韓関係の悪化が取りざたされている今、問題をよく見極めるためには両国間に係わる歴史を振り返ることが大切として、歴史上、両国間で起きた事件や交流を詳しく振り返った。その上で、和解のためには、まず双方がお互いの歴史をよく知ること、そして一人ひとりが国をこえた交流関係を築き、そこから自分の国を見つめ直すこと、自分を見つめ直すことが大切だと語った。

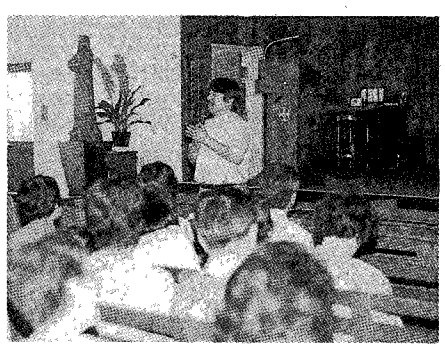
第二部は平和祈願ミサとして、例年のように、滞日外国人と平和を祈る主旨のもと、スペイン語や英語での聖書朗読の他、第一部で韓国の問題がとりあげられており、韓国の人々がたくさん参加していることを配慮して、福音朗読は日本語と韓国語で行われた。共同祈願は、福岡にいる様々な国の人が自国語で意向を唱え、奉納ではペルーのアンデス音楽の演奏の中、平和を願って、各国の民族衣装を着た5人と日本人の侍者をした少女一人によって祭壇にろうそくがささげられた。また、韓国の人々も聖体拝領の間に韓国語の聖歌を力強く歌い、式を盛り上げた。このように、単に日本の平和というだけでなく、アジアをはじめ、世界の平和を、そして、身近にも外国から来ている沢山の信者たちがいることを改めて感じさせるミサとなった。



北九州地区

小倉

北九州地区では、今年初めて地区の平和の集いが小倉教会を会場に企画・開催された。まず、午後2時から、「いのち」をテーマに、山元眞神父（二日市教会主任）が講演をした。150人ほどの集まった参加者に山元神父は、先に日本カトリック司教団が発表したメッセージ「いのちへのまなざし」をもとに話し、神様からいただいたいのちの尊さ、また、いのちを取りまく諸問題について述べられた。その中で、特に、教会のいのち、またいのちをいただいた人間に対する態度にふれ、「メッセージの根本にあるように教会が温かくいのちを受け入れ、守らなければならない。私たち一人ひとりが教会であり、私たちの姿そのものが教会の姿である。そういった意味で、私たちがいのちを大切にしている教会になっているだろうか」と問いかけ参加者の心をはっとさせる話しとなった。

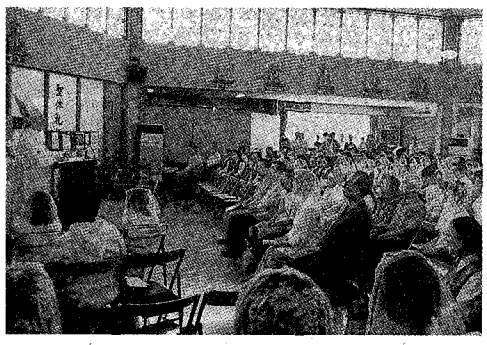


続いてささげられたミサは、例年大名町教会でささげられている国際色豊かな平和ミサのテキストをもとにささげられた。地元のフィリピン人をはじめとする外国人信者も多数集い、信者にとっても、自分たちのところに来ている外国人信者に対して初めて実感するミサとなり、ともに平和を願って熱い祈りのもとミサがささげられた。

熊本地区

健軍

松永久次郎司教の、「平和の集いを熊本でぜひ行いたい」という要望に応えて、熊本地区として初めての平和を祈るミサが、健軍教会で午前10時



からささげられ、松永司教をはじめ、5人の司祭と400人近くの熊本地区の信者が集い、平和を祈願した。

説教の中で司教は、「現代社会のグローバル化にあって、大切なのは、互いの違いを認め合うことである」と話し始め「正義とは人の傷をいやすものであり、そこから生まれる平和はすべての人が平等になることである」と諭し、自分の家庭にまず平和の輪を作ることが大切であり、そこから小さな輪を広げてゆくことによって平和が広まっていくと信者のこれからの生活を激励した。

司教の申し出によって急に決まった地区の平和の集いであったが、聖堂を埋め尽くした参加者たちは共に集い、平和を祈ることはすばらしいと感激の声があがり、来年以降も継続して熊本地区として平和を祈る集いを企画・開催していきたいと意気込んでいた。

外観は綺麗ですが、コンクリートの床は水溜まりがあちこち、ドアは閉まらない、電気は夕方だけという不便さでした。でも、3人の日本人と4人の現地スタッフで、毎日60～70人訪れる患者さんの対応と、ここの設立の目的である、周囲の村々の人々の衛生的教育と結核の個人別治療に皆一生懸命に働いていました。「おかげでマラリヤがずっと減りました」と一昨年前マラリヤで死にかけた元ドン・ボスコ学園の校長が感謝してくれました。江村さんはオートバイや車を自由に乗り回して、とても満足そうでした。新田原教会から沢山の方々からの寄付を頂いたことをすごく感謝して「皆さん、お変わりありませんか」と真っ先に聞いてきました。

私は今回が最後になるかもしれないとあちらこちらと訪問して、6日間がまたたく間に過ぎ、江村さんとお別れする時、「教会の皆さんにどうぞよろしく」という彼女の顔にチラっと涙を見ました。

あちらは今、冬、でも温かい太陽の下、見渡す限りの草原を颯爽と風を切って走っている彼女たちの姿が目に浮かびます。

どうぞ東ティモールの為、AFMETの為に続いてお祈り下さいませ。

聖母訪問会新田原修道院

※AFMETとは、聖母訪問会のシスター亀崎が手がけた東ティモール医療活動を受け継いで、将来的にしっかりとした医療基盤をこの地につくりたいと、聖母訪問会とカトリック信徒宣教者会、シスターを支援するグループによって99年5月に「東ティモール医療友の会」（AFMET）として創設されました。昨年1月より本格的に国内で募金活動などを行いはじめ、活発に活動しています。

大自然の中で神さまを賛美しよう

新しい世紀のカテケジス⑥

中村　彰　神父



今年の夏の教会学校のキャンプは、南阿蘇の根子岳山荘で行われた。テーマは「大自然の中で神さまを賛美しよう」であった。創造主である父なる神様の偉大な業を見て触れ、味わい、学ぶキャンプが計画された。

プログラムの中でまず、自然に触れることが行われた。草千里の草原で弁当を食べ、火山博物館で阿蘇の歴史を学び、夜は温泉に入った。朝は山荘の周りを散歩し、帰りに湧水公園の噴水で遊んだ。ふだんは近くにいながら、阿蘇の自然を満喫することの少ない子どもたちにとって、いい体験となった。

自然を体験しながら、学びの時間もとられた。まず、創世記の創造物語を思い起こした。神はすべてのものを創造され、それはすべて良かった。人間は神の似姿として造られ、他の動物、植物、自然界を任された。しかし、人間が神との約束を破ったことによって、人間同士、人間と自然の関係がおかしくなっていった。創造主なる神のみ心は、人間が互いに助け合い、自然とも共生し合って生きることであった。今の世界を見ていると、人と人が争い、環境問題でおかしくなっている。どうすればいいのか、考えてみようという話しが、初めになされた。

この話しを導入として、宮崎駿監督のアニメ映画「風の谷のナウシカ」を見た。ストーリーを簡単になぞると、世界大戦が起こり、文明社会がなくなり、腐海という菌類の森が地を覆い、人間はその辺境に暮らしていた。トルメキアとペジテの国が争って、巨神兵という戦争の兵器を使って、腐海を焼き払おうとしていた。風の谷は風の通る場所で、この村の人たちは平和に暮らしていた。ナウシカはその国の女王で、風を読む力、王蟲、動物と共感する力があり、身を投げ出して谷の救い主となる。この映画は人間と自然の共生、人間同士の共生を呼びかけている。人間は自分勝手に自然を利用しようとしても、自然の力の方が強く、自然に圧倒されてしまう。しかし、自然は人間を赦し、人間は赦し合いと共生を学ぶ。映画の後、名前や色、登場してきたものの意味が話された。映画の中に深い神学が込められていることを学んだ。

教会学校のカテケジスとして、この夏のキャンプを紹介しました。同じテーマでもいろいろな展開をすることで、子どもたちが関心を深めて魂へのメッセージとして受け取ってもらえると思います。健軍教会主任

自由席

東ティモール医療援助活動報告

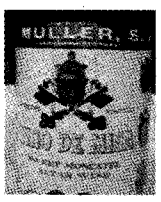
シスター亀崎善江

今年は6月5日から18日迄の短い訪問でした。一緒に行ったのは、シスター遠藤と、宮先生というティモール訪問4回目の産婦人科の先生（産業医科大学卒業）の三人でした。初めに、南部の山岳都市、アイナロを訪問しました。この綺麗な林の中にある町は、コーヒー等で富裕な都市でしたが、一昨年の騒乱で徹底的に焼かれ、何もかも今からという状態でした。黒田さんという国連の方の宿舎に泊めて頂き、床に寝て、顔もろくに洗えない不便な生活でしたが、患者さんを少し診て、持ってきた薬はほとんどアフリカからの単身赴任の医師が一人働いているクリニックに寄付してきました。



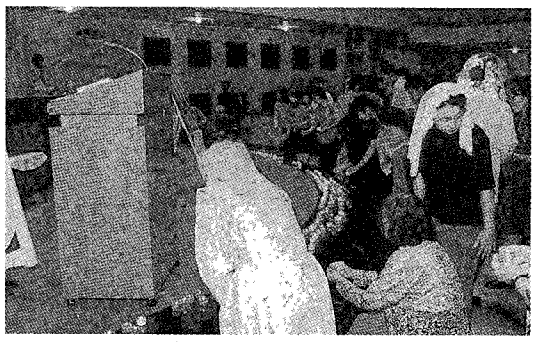
4日目に、丸一日かかって、江村美保さん（新田原教会信徒）のいるフイロロのAFMETクリニック（東ティモール医療友の会）に行き、AFMETによって建設が進められ、2月に竣工したばかりの建物、第一次医療施設「リファラル・センター」に滞在してみました。

2001年 第11回むなかたてんてんまつり
10月8日（月／体育の日）AM10：00～PM3：00
★特別講演『いのち再びかがやく日！』講師：川上 俊彦 氏（日本MAC代表）
★更正施設や作業所、ボランティアグループ、近隣教会など20店舗が出店
★人魚劇／ハンドベル演奏／スペイン音楽バンド演奏／もちつき大会
地元子ども会によるコーラス／子ども広場／お食事コーナー・・・他
★和解のミサ　14：00より
皆さまのご来場をお待ちしています!!
むなかた祈りの森 福岡黙想の家
〒811-4155 宗像市名残1056
TEL 0940(32)3222 FAX 0940(32)3385

ミサ用ワイン

ヴィノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命 お問い合せは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ 青木 彰
〒815-0082 福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718 Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 SOU-EN
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

米国での大惨事の犠牲者の冥福を祈り
世界平和を祈願する集い開催
大名町



9月12日に米国でおきた同時多発テロに対して、犠牲者の冥福を祈り、世界の平和のために祈る集いが大名町教会の信者の何かしたいと言う要望で企画され、16日（日）午後7時30分より、福岡アメリカ領事館ウー・C・リー主席領事とその家族や領事館職員、大名町をはじめとする近隣の信者たち、そして、街頭での呼びかけなどでこの集いを知って参加した一般の人など250人が集まって催された。一人ひとりがろうそくをともし、聖歌を歌う中、司式司祭である鈴木忠一神父（御受難会・宗像黙想の家院長）をはじめ12人の司祭が聖堂に入堂して儀式は始められた。鈴木神父はマタイ福音5章1～10節の真福八端の箇所を朗読した後、教皇が米国に送った弔電の一部を英語と日本語翻訳文で披露しながら、キリスト者として、人間として、犠牲者のことを本当に心から悼み、傷ついた人々の心と一つになろうと招いた。その上で、「この暴力による罪のない人たちの犠牲者のために祈ること」そして「武器による報復ではなく、心からの和解に向かうべきで、そこから真の平和を実現することが大切である」と諭した。

話しの後、しばらく黙祷をささげ、フォーレのレクイエムの中からPIE　JESU（いつくしみ深い主イエスよ）が静かに歌われ、一同の祈りの心を深めた。その後、共同祈願、主の祈り、アシジの聖フランシスコの平和の祈りがささげられた。続いて、犠牲者の冥福と平和を願う各自の心を添えて、ろうそくを聖堂内陣に上がる階段の周りにささげた。結びの祈りの後、笹丘教会のマホニ神父（聖アウグスチノ修道会）が英語で挨拶し、同じ米国人として、今回の事件の犠牲者に対して自分も心から胸が打たれる思いがしていること、そして、この福岡でこの様な集いを企画してくれたこと、祈りを沢山の方がささげてくれたことに感謝した。

福岡司教区幼児連盟教職員研修大会開催
生きる力はどこからかを学ぶ
唐津

二年毎の福岡司教区幼児教育連盟（会長・山元眞神父）教職員研修大会が、今年22回目を迎え、「生きる力はどこから―幸せを築く―」をテーマに、唐津市のシーサイドホテルで行われた。8月20日からの2泊3日を過ごすため、教区内の幼稚園・保育園から園長先生を始め、教職員の約340人が集まった。

大会は「みことばの祭儀による開会式」から始まった。佐賀カトリック幼稚園園長F.ジョルジョ神父の朗読後の「保育者の心の在り方は神の愛を与えるもの」という話に一同確信を得た。次に岡山の川崎医療福祉大学教授で精神科医である佐々木正美先生の講演が行われた。「人の生きる力は人を愛し、信じ、愛され信じてもらう深い人間関係から生まれる。父親、母親の役割が不安定になってきている現代社会で、今、教師に求められているものはありのままを受け入れてくれる、母なる愛である」との話に、共感し、教師の役割の大切さを感じた。続いて、20グループの分団会。講演を聴いての感想と、同時に保育での喜び、苦しみ、悩みを出し合い、実のあるものとなった。夕食中には、参加した約50の園が紹介され、お互いが身近な存在という実感を得ることができた。



2日目の講演は、滋賀大学教授の相良敦子先生。「カトリックの園の保育者の役割は、子どもの『自ら生きる力に仕える』ことではないだろうか」と話し、くすぶっていた子ども、荒れていた子どもが生き生きと輝いて生きるようになる事実から、生きる力があふれ出る根拠、自ら生きるのを支援する方法、そして、イエス様を知っている強みを語った。夕食前の1時間は「典礼研修」と題して、カトリックの精神の頂点といわれるミサの説明と聖歌学習。大牟田天使幼稚園園長森山信三神父と大名町教会信徒岡本峰世氏がこれを指導してくださった。

そして、最終日には全体会と感謝のミサが行われ、閉会となった。

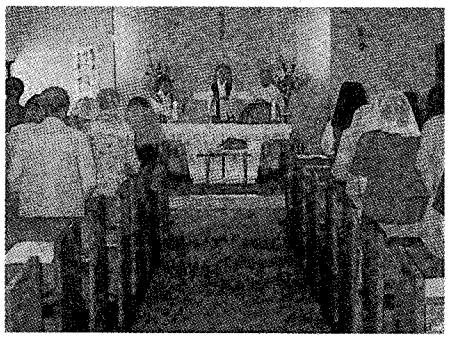
カトリック精神に基づいて保育を心掛けている者たちが一同に集まり、講演を聴き、日頃の思いや問題を出し合って共有・共感することができた。子ども達から学び、お互いを信じあっていくことの大切さを忘れずにこれからも頑張っていこうという気持ちをからの恵みであると信じ、自分たちの大切な仕事に責任を持ってつとめていこうと思う。新たにする機会であった。

この研修会で得たものは、まさしくこれからの私達の「生きる力」となり、これからの日々の糧となるであろう。そして子ども達のことを真剣に考えている同志に出会い、はげましあえたことは、神様

熊本市内5教会合同聖体礼拝大会
6年間の恵みに感謝
山帯

8月26日（日）、内装工事が済んだばかりの帯山教会で、5教会合同聖体礼拝と感謝ミサが行われた。

6年前に、健軍教会で永久聖体礼拝がスタートしてから、毎年聖体大会が行われていたが、今年は初めての試みとして、帯山教会で合同聖体礼拝と感謝ミサが行われた。前半は聖体賛美と聖書による祈り、そして沈黙があり、その後、聖体による祝福が荘厳に執り行われた。



後半は、F・マッケイ神父、をはじめとする3人の司祭の共同司式による感謝ミサが捧げられた。マッケイ神父は説教の中で、当日の福音である神の国で宴会の席に着くこと（ルカ13・22―30）にふれながら、ヨハネ福音6章の「わたしはいのちのパンである」の意味を分かりやすく、力強く話された。

ミサの共同祈願では、各教会の代表者が、6年間の永久聖体礼拝を通して頂いた恵みみあふれる聖マリア」も歌われ、小教区のカラーも取り入れながらの催しとなった。

遅れた手紙

まずは小話から。

ローマ市内の郵便事情はとても悪く、届くまで恐ろしいほど日数がかかりました。そのためイタリア郵政大臣は改革に乗り出しました。第一弾として、各郵便局内に山のように残っている未配達の手紙をすぐ配達しろ、と厳命したのです。山のようにあった手紙はみるみる少なくなり、一週間後、底が見えてきました。最後の一枚が底にあるのみで、局員はその宛先を見ました。それは聖パウロがローマの信徒に宛てた第二の手紙でした。

聖パウロは各地の信徒たち、個人に手紙を出しています。現在私たちはそれらを自分自身に書かれている手紙として読んでいます。たいへん配達が遅れましたが、聖パウロの書簡は確かに私たちのもとに届いたのです。彼の手紙を受け取った時、もはや彼はこの世に生きていません。

ニューヨーク、ワシントン特別区でテロのために命を奪われた人たちのなんと多いことでしょう。誰もこのような形で命を落とすとは予想していなかったことでしょう。飛行機の乗客、世界貿易センタービル内、国防総省内で働いていた人々、そして救助にあたっていた人々。

この悲惨な出来事は現地の朝起こりました。亡くなった人たちの中に、その前日、家族や友人に手紙を出した人がいるはずです。それらの手紙はおそらく遅れて届くでしょう。全米の飛行機輸送が停止したので。家族、友人の安否が分からない、もしくは死亡が確認された後、受け取る手紙はなんと悲しいものでしょう。同時にそれは受け取った人にとってなによりも大切な手紙となります。その手紙が受け取った人々の人生の糧となりますように。この事件でなくなった人たち、その家族のために、そして怪我をした人たちのために祈りましょう。アーメン。

オブレート会修学院　院長
川口　敏神父（大江教会出身・オブレート会司祭）

BOOK 読みま専科

★ともに生きる世界
―カンボジア発―
後藤　文雄　著
下川　雅敏　装丁



難民の子ども14人を育てあげ、今はカンボジアに小学校を作るなど、広く支援を続けるなかで見えてきた「共生」への道を、愛とユーモアを交えて熱っぽく語る。

『現在の村人の「共生」は、理論ではなく、過去との具体的共同作業から生まれてきたものである。「共生」は現在に足踏みすることなく、未来に向けての「共同の創造」となる。』―本文より―

女子パウロ会　本体1200円

◇　◇　◇

★福音宣教の過去と未来
佐久間　勤　編



本書は、聖フランシスコ・ザビエル渡来450年を記念して「福音宣教」をテーマに開催された、上智大学神学部夏期講習会の講演をまとめたものです。新しい千年紀を迎えて、福音宣教を生き生きとしたものにするにはどうすればよいのか。この問いを考えるために、福音宣教の源流から、450年前のザビエルの出会いからはじまる日本の福音宣教を振り返り、キリシタン時代から戦時下での戦争協力への反省を含めて、新たなる千年紀に信仰者の共同体そのもののあり方を問いています。

サンパウロ　税抜き2400円

ジャパンスマイルか
株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計
株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811－7265

感謝と賛美のために
祈りを通して制作
典礼センター ピエタ
祭服，聖器具，聖像
信心用品，ベール，
ロザリオ他
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092－526－9176

キリストの招きにこたえ この一歩

ディエゴ加賀山隼人ほか27人の福岡教区殉教者列福祈願ミサ

１９９７年からディエゴ加賀山隼人の列福祈願ミサが殉教日に近い日曜日に小倉教会で捧げられていました。今年、既に予定されていたディエゴ加賀山隼人の列福祈願ミサを変更して、新しい世紀を迎え、今、列福申請がなされている１８８人のうち福岡教区28人の殉教者を意識し、10月14日(日) 午後２時より、カテドラル大名町教会において、福岡教区長ヨセフ松永久次郎司教司式のもと列福祈願ミサが捧げられることになった。こうして、カテドラルで捧げられることによって、28人の殉教者が福岡教区民にとって、殉教者の今日性と生き方にならうことへの問いかけと信仰の大きな恵みの時となるように願っています。

(教区殉教者顕彰推進担当司祭深堀勝人)

熊本地区神学講座開催中

第１期

◆10月14日(日)　信仰・希望・愛　森山信三神父
◆11月11日(日)　キリスト受肉・死・復活
　キリスト教的終末　牧山勝美神父
◆11月25日(日)　祈り　フランコ神父
問合せ先：☎096・352・1515　手取教会　日向

ホスピスチャリティーコンサート

♪.出　演：スイス／聖アントン教会トリオ
♪.日　時：10月13日(土)
　午後１時開場：午後２時開演
♪.会　場：カテドラル大名町カトリック教会
♪.入 場 料：１５００円
♪.主　催：福岡ホスピスの会
♪.友情出演：福岡雙葉学園チェチリア会のハンドベル

「千年の響き」コンサート ―東西の新しい出会い―

日　時：2001年11月25日(日) 18：00開演
場　所：カトリック小倉教会
　(北九州市小倉北区香春口1-3-1)
演奏内容：正倉院復元楽器と西洋の伝統楽器パン
　フルートとオルガンによる新しい響き
チケット：3,500円(前売) 4,000円(当日)
チケット販売：小倉教会,セントポール福岡
問合せ：☎093-921-0093 小倉教会
　☎093-531-3230 高田
主　催：「千年の響き」実行委員会

案内版　会合と催し

福岡黙想の家　10月

◇３日(水)　ミカエル会
◇８日(月)　**第11回むなかたてんてんまつり**
◇15日(月)～19日(金)　福岡教区司祭黙想
◇20日(土)～21日(日)　北九州レジオ・マリエ
◇21日(日)～27日(土)　サレジオ会黙想
※今月は「むなかたてんてんまつり」が開かれます。みなさまの温かい支援で11回を数えます。さまざまな障害を持った方々を支援するグループが出店をします。ご協力をお願いします。
※宗像の黙想の家「むなかた祈りの森」にも秋が漂って来ました。森の木々が色付きみなさまを祈りに誘っています。
[問合先] 黙想の家　☎0940・32・3222　FAX 32・3385

生命山カトリック別院

遥かに有明海を望む山頂に生命山はあります。自然と静寂の中で祈りましょう。お待ちしています。
※祈りの集い
・10月11日(木) 10時～15時

テーマ：本当にこの人は神の子だった
※毎月第２木曜日に祈りの集いを行っています。お待ちしています。
[問合先] 生命山カトリック別院
☎0968・85・3100
FAX 0968・85・3186

2001年度教区聖書講座開講中

2. 10月28日(日) 聖書と教会の教え①　櫻井　尚明神父
3. 11月25日(日) 聖書と教会の教え②　櫻井　尚明神父
4. １月27日(日) 聖書と典礼①　S.フランコ神父
会場：大名町教会　時間：14時～16時　費用：各500円

10月のこよみ　ロザリオの月

７日(日)　年間第27主日
８日(月)　むなかたてんてんまつり［福岡黙想の家］
14日(日)　年間第28主日
福岡教区殉教者　ディエゴ加賀山隼人ほか27名列福祈願ミサ［大名町教会14時］
15日(月)　**福岡教区邦人司祭黙想会［19日まで］**
16日(火)　†フランソワ徳山登［門司港教会2000］
17日(水)　†J.グリーン［玉名教会1994］
18日(木)　聖ルカ福音記者
福岡雙葉幼稚園創立50周年
21日(日)　年間第29主日・世界宣教の日［献金日］
福岡和田納骨堂新築祝別式［和田墓地11時］
九州地区若者の集い［大名町教会14時］
南粕屋教会バザー
23日(火)　†J.P.ドラビ［黒崎教会1967］
28日(日)　年間第30主日
水俣教会堅信式
大牟田教会・新田原教会・茶山教会・二日市教会・光丘教会バザー
31日(水)　†ヨセフ糸永一［今村教会1992］

11月
１日(木)　諸聖人
２日(金)　死者の日
†S..アクワビバ［1984］
３日(土)　**召命の集い［大神学院］**
†F.ボア［援助修道会黒崎修道院1977］
４日(日)　年間第31主日
笹丘教会堅信式
教区和田墓地ミサ［和田墓地14時］

◆福岡

■グレゴリオ聖歌を歌う集い
［日時］10月３日(水) 11時～12時15分［場所］浄水通教会聖堂［講師］坂田孝子氏［参加費］自由献金［問合先］☎０９８・３８０・５６８６堺・次回11月６日(水)

■定期個別ゆるしの秘跡
［日時］10月６日(土)より毎月第１・第３土曜日10時から12時［場所］カトリック大名町教会小聖堂［聴罪司祭］R・マグリン神父(ミラノ会・久留米聖マリア病院付)

■福岡パストラルケア研究会
［日時］10月７日(日) 14時から［場所］福岡サン・スルピス大神学院［内容］自宅で病人になっての体験［参加費］無料［問合先］☎０９２・８７１・４９４３Sr.箕浦［次回］11月４日

■福岡祈りの集い
［日時］毎週月曜11時～12時30分［場所］カトリック大名町教会［内容］聖霊による祈り［問合先］☎０９２・５２２・５１３９ブラザー床嶋

■召命祈願ミサ
［日時］10月11日(木) 19時15分～［場所］福岡聖スルピス大神学院［司式者］青木悟神父(大名町教会主任)

■ヨアキム・アンナ信心会
［日時］10月19日(木)［場所］カトリック高宮教会［指導］小池如安神父［内容］ロザリオ・黙想・ミサ［問合せ先］☎０９２・５３３・２３２６小田部

■和田墓地清掃日
［日時］10月21日(日) ８時～
※清掃後、11時より松永司教司式で主日のミサと新納骨堂落成祝別式が行われます

■若者の集い
［日時］10月21日(日) 14時～18時［場所］カトリック大名町教会［テーマ］人はなぜ巡礼するのか～現代における巡礼の意味（仮題）［内容］ワールドユースディ２００２トロント大会の準備の一環と、そのテーマに青年が向き合うよう分かち合い、祈り［指導］松浦悟郎司教(大阪教区補佐司教)・ＷＹＤスタッフ

■典礼を学ぶ集い定期学習会
［日時］10月21日(日) 14時～16時［場所］カトリック大名町教会［内容］ミサの各部の説明①開祭［参加費］６００円［問合先］☎０９４０・３２・３０４７平井※前回出席の方はレジメをお忘れなく

■在世フランシスコ会集会
［日時］10月28日(日) 14時～16時［場所］カトリック高宮教会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習［指導］小池如安神父［問合先］☎０９２・８４３・５８３１岩崎

■福岡生と老い死を見つめる会
10月28日予定だった例会は会場の都合でお休みです。次回は11月25日(日)です［問合先］☎０９２・７１３・８５２３大山：０９２・６０７・６９９２村尾

■「すべての民の御母」を讃える祈りと講演の集い
［日時］10月29日(月) 14時～17時［場所］カトリック大名町教会［テーマ］汚れなきみ心への奉献［講師］パウロ・マリア・ジーグル神父(共贖者マリアの家族会創立者)［内容］聖体礼拝、ロザリオ、ミサ、講演［参加費］無料［問合先］☎０９４２・５１・７１３０下川

■第15回福岡ホスピスの会
［日時］11月18日(日) 14時～［問合先］☎０９２・７３７・３７０１事務局

■美野島司牧センターのお願い
衣類のカンパをお願いします。特に秋・冬用のの男性用ジーンズ・Ｔシャツ・靴下などの衣類・洗面道具・靴をよろしくお願いします。女性用の衣類は間に合っています。また、金曜日のボランティアを募集しています。衣類を頂きに来た人に出してあげたり、整理のお仕事です。［問合先］コース神父☎０９２・４３１・１４１９

◆北九州

■小倉祈りの集い
［日時］10月19日(金) 13時～14時30分［指導］Ｖ・マテオ神父(御受難会)［場所］小倉教会信徒会館２階［内容］「みことば」をあじわい祈る［問合先］☎０９３・４５２・１５５６安藤

◆佐賀

■佐賀祈りの集い
［日時］10月11日(木) 10時～11時30分［場所］佐賀カトリック会館［内容］祈り［問合先］☎０９５２・７２・７５３６吉田［次回］10月27日(木) 10時～12時はミサと祈り：毎月第２と第４木曜日に集まっています。どうぞご参加下さい。

■聖書を読む会
［日時］毎月第１木曜日、午前の部10時～11時半／午後の部19時半～21時［場所］佐賀カトリック会館［内容］「創世記」を読む［講師］Ａ・アレグリーニ神父［テキスト］聖書［参加費］無料［問合先］☎０９５２・２３・４７５４阿南

◆熊本

■熊本キリスト教市民セミナー
②［日時］10月18日(木) 19時～［内容］いのちのシンポジウム［パネラー］ライル神父、蓮田太二医師（慈恵病院産婦人科医）、シスター泉（幼きイエズス修道女会・みこころホスピス看護部長）［場所］メルパルクホール③［日時］10月27日(土) 19時～［内容］日常生活の中の神［講師］曾野綾子［場所］県立劇場演劇ホール④［日時］11月２日(金) 10時30分と19時～［内容］共にいて下さる神［講師］矢野吉久神父（神戸住吉教会）［場所］手取教会信徒会館⑤［日時］11月９日(金) 10時30分と19時～［内容］証しと癒しの集い［指導］Ｆ・マッケイ神父［参加費］②④⑤の３講座で１０００円③は単独１０００円［問合先］☎０９６・３５２・１５１５日向［主催］熊本キリスト教市民セミナー実行委員会

編集後記

まずは訂正から。８月号３面で取り上げた北九州宗教者懇話会の記事で会長の矢作英雄氏を立正佼成会小倉教会と紹介しましたが、正しくは小倉恵ヶ丘キリスト教会の牧師先生です。謹んで訂正させていただきます。

今号より、少し文字の大きさなどに手を加えてみました。読み映えはどうでしょうか。感想を聞かせて下さい。

また、新しいカテケジスのコーナーは、今月より伊東成晃神父に変わり、健軍教会の中村彰神父が連載してくれることになりました。伊東神父様ご苦労さまでした。中村彰神父様よろしく。皆さんご期待下さい。

COSMOS
スポーツ用品・ＯＡ・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
ＴＥＬ　0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川３丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

FUJIKi
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店　〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　大森　周　福岡支店長　城戸隆秀

カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　田中重治
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

今月の意向

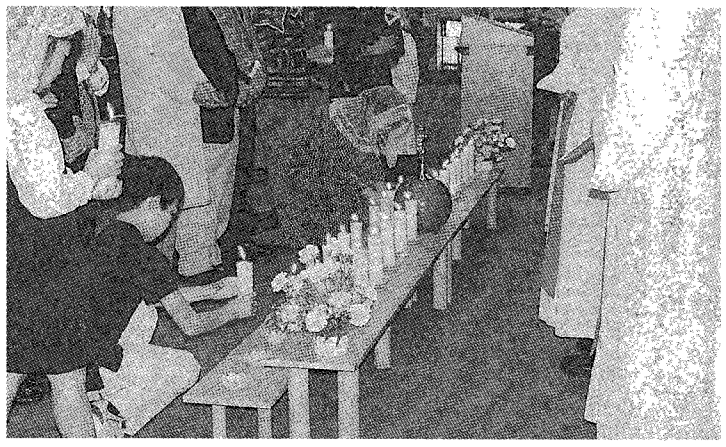
教皇様の意向のために祈りましょう
【一般の意向】聖人の助けで神の国を告げる
【布教の意向】広報と宣教による福音化
【日本の教会の意向】聖書に親しむ

福岡教区殉教者顕彰推進委員会

教区内28殉教者列福祈願ミサを開催

カテドラル

現在列福申請中の188人の日本の殉教者の内、福岡教区内で殉教した28人について、現在まで、殉教した各地で殉教祭・列福祈願ミサがささげられていたが、福岡教区民全体に、教区の殉教者のことについて意識を高めようと、初めての試みとして、カテドラル大名町教会にて教区としての殉教者の列福祈願ミサが教区長松永久次郎主司式のもとささげれた。



28人の殉教者をあらわす28本のローソクを奉納する

福岡教区内で迫害のため殉教した人のうち、現在福者の位に上げてもらうよう使徒座に申請している28人の一日も早い列福を願う「ディエゴ加賀山隼人ほか27人の福岡教区殉教者列福祈願ミサ」が10月4日（日）カテドラル大名町教会でささげられた。ミサには主司式の松永久次郎司教をはじめ、18人の司祭と400人近くの信者が福岡教区の各地から参集し、熱い祈りをみなでささげた。

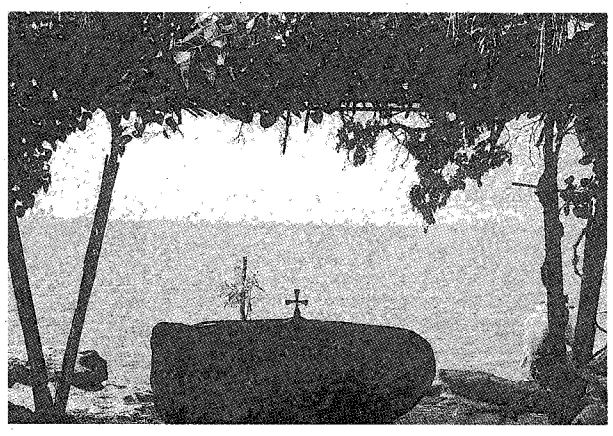
説教の中で松永司教は「教区内の殉教者たちはキリストゆえにすべてをささげた人であり、教区の宝・誇りである」と述べ、どれだけ私たちが、このすばらしい模範である彼らに心をかけているかと信者に問いかけ、同じ人間でありながら、身分も財産もすべてささげ尽くして長い間苦しみながらも耐え抜き、殉教によって信仰を証した先輩たちの信仰を見つめ直すよう信者に促した。

共同祈願に続いて、殉教者のシンボルである花十字架が司教によって祝福され、続いて28人をあらわす28本のろうそくが信者の代表によってささげられた。

日本の殉教者のうち、現在ペトロカスイ岐部神父をはじめとする188人の殉教者について、使徒座に福者の位に上げてもらうように申請中である。その中には、福岡教区の、熊本の小笠原玄也・マリアみやをはじめとする15人、北九州のディエゴ加賀山隼人、天草の殉教者アダム荒川、八代のヨハネ南五郎左衛門をはじめとする11人が含まれている。現在、熊本では、殉教者の墓がある花岡山で4月の第1日曜日に、北九州では殉教の地の近くである小倉教会で10月の第2日曜日に、天草では本渡市が中心になって11月に殉教祭が、八代では12月の第1日曜日に八代教会でそれぞれ殉教祭、列福祈願ミサが行われている。しかし、各地で祝われているため、教区全体では殉教者が一日も早く福者になるようにとの要望が信者の中に高まっていないとの指摘があり、今回、小倉の加賀山隼人の列福祈願ミサを取りやめにして、教区全体として教区内殉教者列福祈願ミサをカテドラルでささげようと企画された。参加者の中で、「福岡教区にこんなに殉教者がいらしたとは知りませんでした。」という声は多かった。

聖書週間　11月18日～25日

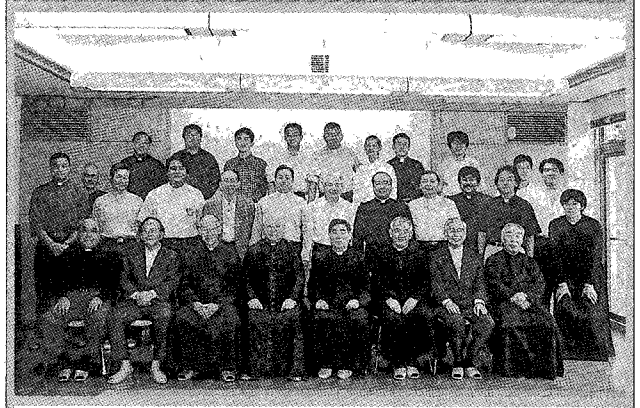
沖に漕ぎ出しなさい



今年の聖書週間のテーマは、新しい千年期の始めに「沖に漕ぎ出しなさい」（ルカ5・4）が選ばれています。聖書のみ言葉を伝えるために、現代世界という沖に漕ぎ出しましょう！

信仰の感覚で司祭のまわりを見て行こう

教区司祭の黙想会



10月15日（月）から19日（金）まで、恒例の教区邦人司祭黙想会が、鹿児島教区長糸永真一福司教を指導者に迎えて開催された。新身を見つめ直す良き機会となった。

福岡カルメル会50周年を祝う

福岡カルメル会修道院が創立50周年を迎え、9月30日（日）に記念ミサがささげられた。ミサは教区長松永久次郎司教主司式のもと、神学生時代に創立に深くかかわった前大分教区長平山高明司教をはじめ、15人の司祭と、創立以来の恩人方、大神学生や信者の方など、80人近くが聖堂を埋め尽くし、カルメリットたちとともに荘厳にささげられた。カルメル山の聖母の典礼でささげられたミサの中で、松永司教は「カルメル山は地中海の恵みを受ける場であり、旧約時代からすでに祈りの場であり、隠遁生活を送る者がいたところ。カルメル会もそこに起源があるのだから、イエス様より前に会の起源がある。そういう点から考えれば50年は短いものかもしれないが、シスター方の祈りの生活のおかげで、この場所が福岡教区の聖地、心臓になっている」と説教し、これまでの歩みを讃えた。また、米国同時多発テロにふれ、「武器は武器をもたらすのみ。祈ることが大切であり、そこにシスター方の祈りの意義深さがあるともふれられた。ミサの終わりには、教皇の祝福文が披露され簡単な祝賀式が行われ、禁域のサロンを開放して、短い時間ではあったが、50年の喜びをシスターとともに分かち合った。



福岡カルメル会は、1947年、ベルギーのブリュージュのカルメル会修道院が日本に修道院創立を決定したことに端を発している。時の駐日教皇使節（後の大使）フルステンベルグ大司教は、福岡に大神学院創立を準備中だったサン・スルピス会に、このカルメル会を大神学院の側に創立することを決定したことを伝えた。特に日本の司祭、福岡の大神学院、そしてその神学生のために祈るようにという意向のもとにである。1950年10月3人のシスターが来日、東京のカルメル会で日本語の勉強後、1951年7月15日に来福、16日から、当時の大神学院に併設してあったカナダ聖ヨゼフ修道院の建物の一部を借りて正式に修道生活を始めている。大神学院の向かいの地に1952年5月に新修道院の祝別式が行われ、正式な禁域生活に入り、以来福岡教区、特に司祭、その司祭職を目指す神学生のために祈りと犠牲をささげ続けている。周囲の環境の激変で、観想生活を送るのが困難になったため、1993年11月に現在の土地に移転を余儀なくされたが、心は今も大神学院の側に一番近くある。

時の話題

畠山　春秋

テロはどんな理由があっても許されるものではない。特に地下鉄サリン事件やこのたびのアメリカにおける同時多発テロは、悪魔の仕業としか思えない。だからといってテロへの報復が正当化されるものでもない。良い麦の畑に敵が蒔いた毒麦でさえ、抜いてはならないとキリストは教えられた。アメリカ大統領は、あのテロの翌12日の演説で、わざわざ詩編を引用し、神は我々と共にある。我々は神と共に悪を撲滅しようと言った。しかしそれは大統領が、国民の団結をうながし、復讐を正当化しようとする話術でしかない。神が復讐の中におられるはずがない。この問題を思案するうち、何と早くも翌13日のミサで朗読されたルカ福音第6章で、誠に的確な回答を得た。「あなたがたに言っておく。敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にしなさい」と。聖書を引用して演説するほどのアメリカ大統領であるなら、詩編ではなく、ルカ書第6章を引用して言ってもらいたかった。『アメリカはひどい仕打ちを受けた。甚だしい恥辱を蒙った。大きな悲しみをなめさせられた。しかしバイブルには「敵を愛せ」とある。アメリカ国民よ、この際耐え難きを耐え、復讐を思いとどまろう』と。そうすれば、大統領の人気は現在ほど上昇しなかったかもしれないが、テロの仕掛人は辟易し、後々のテロを思いとどまるだろう。

二日市教会所属信徒

報復を赦すな

みちくさ

人がこの世に生を受けるとき、神は多くの可能性の中から、その使命を思い、その能力・性能を考えて、一人の子どもを選ばれる。他の多くの可能性を差し置いてもそうなさる。一人の子供の誕生は神の特別のお選びの結果なのである▼それに併せて、一組の男女が両親となるように選ばれ、真の愛のうちに一人の幼子を送るよう導かれる。夫婦の愛と親の愛は本来神の基本的なお恵みなのである。それに家族と社会全体が協力するよう構築されている▼また一人の子どもの成長の過程で、家庭内外から特別の好意を持ってその成育を助ける手が備えられる。多くの人の善意の中で人は育つのである▼昔、双子の兄弟が生まれるのを忌む習慣があったとされる。不幸にしてそんなことが起こった場合、一方の子は闇に葬られかねなかった、「間引き」などが行われていた時代である。だが、思いやりの心は共通である。どんなになったであろうか▼その子は子どもを養う施設の前に捨てられたとのこと、幸い、その子は健康に恵まれ、頭も心根も通常の人より優れて育ち、織物の上手な娘となって、自分の道を切り拓いた。後では自分の生家とも名乗りしあって交際し、平和に暮らしたという。ある人の葬儀の日に聞いたことである▼この人は信仰のお恵みをいただき、人の命を大切にする外人宣教師の配慮を受けた。神様のために一つの命を育てようという人々の愛もあったであろう。真にお恵みの人生だったと言える▼真に、人の一生は神秘に満ちているが、その神秘を育てるのは、普通の人の平凡な善意である（M）

米同時多発テロに際して 常任司教委員会がメッセージ発表

平和を愛するみなさんへ

去る9月11日にアメリカ合衆国で起きた同時多発テロで犠牲になったすべての方たちに深い哀悼の意を表します。数千にのぼる罪のない人々が生命を奪われ、多くの人々が肉体と精神に深い傷を負いました。生命を失った人々、怪我をした人、そしてこの暴力的で卑劣な行為によって、精神的な傷を負った多くの人々に私たちの祈りを捧げ、傷ついた方々が一日も早く快復されることを心から願っています。

このようなテロ行為は人間の尊厳への侵犯であり、人類全体への犯罪行為です。いかなる動機によるものであろうと、自らの目的を遂行するために他の人間の生命を犠牲にし、抹殺するという行為は、正当化されるべきではありません。これは明らかに人道への罪であり、国連など国際社会が国際刑事法廷を設置して、テロリストやその共犯者を国際法に基づいて厳正かつ公正に訴追し、処罰するべきです。

しかし、ブッシュ大統領は今回の暴挙に対して、「自由と民主主義」に対する攻撃であり戦争行為であるとみなし、断固とした武力報復を実行すると宣言しました。

テロの犠牲者を悼み、その死に報いる途は、軍事的報復行動によって犠牲者の上に更に犠牲者を重ねることではないはずです。武力による報復は、問題の解決をもたらすどころか、世界を暴力と憎しみの果てしない応酬の連鎖に引き込むだけです。しかも、その繰り返しの中で、テロ行為とは関係のない多数の一般市民の生命が、奪われることは不可避です。また多くの難民を作り出すことも明らかです。

紛争は、忍耐と信頼にもとづく対話、人間の尊厳にもとづく国際法の遵守、国際機関の活用などの平和的手段によって解決されるべきです。さらに今回の惨事が引き起こされた経緯と原因を究明し、反省することが大切です。それは、なぜこのような事態が発生したのかをともに冷静に見つめることであり、全人類が世界の平和を脅かす共通の課題に、共同責任をもって取り組んでいくためです。

これらのテロの根底には、南北問題（貧困、経済の不平等）、さまざまな差別、武力による外交などに由来する憎悪があります。これらの悪と罪の連鎖という歴史の中に、私たちキリスト者も責任の一端があることを忘れてはいけません。

日本が今こそなすべきことは、アメリカに武力行使を思いとどまらせ、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、問題解決の方策をさぐることではないでしょうか。日本は国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と武力による威嚇、または武力の行使を国際紛争を解決する手段として永久に放棄しました。また、中東にも比較的中立な立場にある日本は、外交手段を通して、テロリズムを無くしていこうとする国際社会をつくり、戦争ではない問題の解決を図ることができると信じます。貧困や抑圧を生んでいる仕組みを正していく役割を積極的に果たしていくこと、それこそが、テロを根絶し、平和をもたらすことにつながる国際貢献です。

私たちは、悲しみに打ちのめされたニューヨークをはじめ、アメリカの人々の間から、「復讐ではなく平和を！」という声が次第に湧き上がっている知らせに励まされます。

教皇ヨハネ・パウロ二世は、9月12日の一般謁見で、「憎しみと暴力の悪循環がはびこることのないよう主に願いましょう。慈しみの御母が、すべての人の心を、知恵ある考えと平和への思いで満たしてくださいますように」と祈りました。

世界の平和のために私たちに何ができるのでしょうか。国際社会として、日本として、教会として、個人として、といったそれぞれのレベルでできることを考えていきましょう。キリストは人々の憎しみと排斥の中にあって、「剣をさやに収めなさい」と弟子たちを戒め、和解とゆるしを願って十字架に上り、そのために自らの生命を差し出したのです。それは一見、無力な行為のように見えます。しかし、その十字架は予想し得なかった新しい生命を生んだのです。具体的に、今回のような難しい現実に立ち向かおうとする時、私たちはこのようなキリストの視点に立つことが大切であると信じます。どんなに時間がかかっても、無駄に思えても、このキリストの生き方に従っていこうではありませんか。

最後に、教皇ヨハネ・パウロ二世の来日の折、広島で祈られた祈りをともに捧げたいと思います。

私は自然と人間、真理と美の創り主である神に祈ります。

神よ、私の声をお聞きください。それは、個人の間、または国家の間でなされた、すべての戦争と暴力の犠牲者の声だからです。

神よ、私の声をお聞きください。それは、人々が武器と戦争に頼るとき、犠牲者となって苦しむすべての子供たちの声だからです。

神よ、私の声をお聞きください。私は、主がすべての人間の心の中に、平和を創るための知恵と、正義の力と、仲間同士であることの喜びを注いでくださるよう願います。

神よ、私の声をお聞きください。私は、すべての国、また歴史のすべての時代において、戦争を望まず、常に喜んで平和の道を歩もうとしている無数の人々にかわって話しているからです。

神よ、私の声をお聞きください。私たちがいつでも、憎しみには愛を、不正には正義をもってあたり、貧困には自己の分かち合いを、戦争には平和をもって応えることができるよう、英知と力をお与えください。

神よ、私の声をお聞きください。そして、この世に「あなたの終わりなき平和」をお与えください。

（教皇ヨハネ・パウロ二世『平和アピール』参照、1981年・於広島）

2001年10月4日

日本カトリック司教協議会・
常任司教委員会

聖徒の交わり

新しい世紀のカテケジス⑦

中村　彰神父



11月は教会の典礼暦では、死者の月です。亡くなったすべての死者のため、特に家族、親族、恩人、友人、知人のために、ミサ、祈り、善業、犠牲、愛の働きを捧げます。死者のためにこれらの業を捧げることは、信仰宣言にある聖徒の交わりを表しています。

この聖徒の交わりは、使徒信経では諸聖人の通功と言われています。普通に唱えているけれども、聞かれてみるとその意味は良くわからない言葉ではないでしょうか。これからこの言葉の意味を考えてみたいと思います。

まず、教会はこの世で生きるキリスト者の集いである地上の教会と、あの世で生きている天上の教会に分けられます。どちらも神の前では、生きているキリスト者の集いです。天上の教会も、天使と聖人の集いである天国の教会と、償いと清めの状態にある霊魂の煉獄の教会に分けられます。この3つの教会で生きているキリスト者が互いに神の生命と愛によって結ばれており、互いに助け合うことを聖徒の交わりといいます。

まず、この世に生きているキリスト者は、互いに祈り合い、助け合うことによってキリストにおける交わりを深めます。一人ひとりがキリストの体の一部として、欠けることができない存在であり。互いに協力し合うことによって、その体が成長します。一部に痛みや苦しみがあれば全体の痛み、苦しみとして受け止め、助け合います。一部に喜び、楽しみがあれば全体の喜び、楽しみとして受け止め、喜び合います。苦しみは分かち合うことによって半分になり、喜びは分かち合うことによって倍になると言う言葉がありますが、まさしくこの言葉は教会において実現しています。

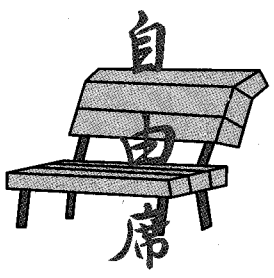
次に、この世に生きているキリスト者は天国の聖人を敬い、聖人に祈りの取り次ぎと保護を願います。聖母マリアをはじめ多くの有名無名の聖人が、永遠のいのちの喜びにあずかっています。特に、洗礼の時霊名をいただいた霊名の聖人とは付き合いが深くなります。聖人は私たちのために祈りを取り次ぎ、悪の危険から守ってくれます。

最後に、この世に生きているキリスト者は、ミサ、祈り、善業、免償などを捧げて煉獄の霊魂を助けることができます。償いを果たし、清められた煉獄の霊魂は、聖人となり、今度は私たちのために、祈り、守ってくれます。死者の月にあたり、聖徒の交わりをもっと深く意識し、交わりに生きるものとなりたいと思います。

健軍教会主任神父

マリアさい

あだち　青葉



二日市教会でマリアさいがありました。マリアさいは近所の人やようち園の子どもたちと、お父さんお母さんそして、いろんな教会のしんとさんがこられてました。わたしはじしゃをしました。わたしの所からみんながみえます。ようち園の子どもたちは、いっしょうけんめい手をあわせていました。お父さんお母さんたちは、らんたんをもって主のいのり、せい母マリアへのいのり、えいしょう、あめのきさきを、ろうそくのあかりをみながらいのりと歌をさげました。五つのマリア様のごぞうがありました。そのあいだをぎょうれつしました。一つめのマリア様のごぞうまえでは、アメリカでの同時発時テロのぎせい者のために

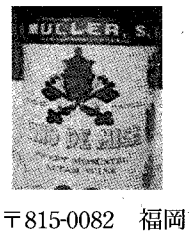


いのり、それからは、イスラエルとパレスチナの和かい平和をもとめていのり、東チモールの平和をもとめていのり、ようち園前でアフガニスタンのなんみんのためにいのり、さいごに教会の中のマリアぞうの前で日本とわたしたち社会の平和をもとめていのりました。

アメリカのアフガニスタンくうばくで人がなくなっています。ニューヨークのテロではいっぱいの人がなくなり、まだみつかってない人もいます。お父さんやお母さんのみつかってないお友だちが、悲しい気持ちでいます。マリア様がお友だちの一人ひとりに、きぼうと恵みの心をろうそくのあかりのようにつけて回っていると思います。マリアさいでおいのりした、みんなの気持ちが世かい中にとどいて平和になりますように。いろんな時に助けてくださるマリア様ありがとう。

二日市教会　小学3年

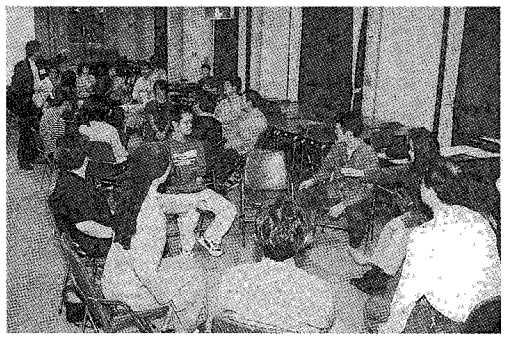
2001年　待降節の黙想会
お申込受付中
①12月1日(土) 11：00 ～ 2日(日) 昼食まで (B.ガブリエル神父)
②12月8日(土) 11：00 ～ 9日(日) 15：00迄 (V.マテオ神父)
③12月15日(土) 11：00 ～ 16日(日) 15：00迄 (V.マテオ神父)
④12月22日(土) 11：00 ～ 24日(月) 15：00迄 (鈴木忠一神父)
会費：①～③ 8,700円(1泊4食)　④ 16,000円(2泊7食)
クリスマス：ミサの時間
＊12/24(月) 19：00～子どもと祝うミサ／深夜0時イヴのミサ・25日11：00ご降誕ミサ
むなかた祈りの森 福岡黙想の家
〒811-4155 宗像市名残1056
TEL 0940(32)3222 FAX 0940(32)3385

ミサ用ワイン

ヴィノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ 青木 彰
〒815-0082 福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718 Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 (SOU-EN)
ご葬儀
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

ワールドユースディ・トロント2002準備会
テーマ：あなた達は地の塩・世の光
教区を越えて集った45人の若もの

カテドラル



10月21日（日）、ワールドユースディ2002の担当司教松浦悟郎（大阪教区）と事務局スタッフによる「若者の集い」が大名町教会にて開催され、地元福岡を始め、九州各地や2000年ワールドユースディに参加した本州の青年など、45人の若者、司祭、修道者が参加した。この集いは、前回の大会に日本から公式団体として若者の代表を募ったが、若者全体に対してその精神が浸透しなかった反省から、トロント大会のテーマ「あなたがたは地の塩、世の光」を日本の若者全体で深めていこうと日本の3大管区で開催されることになったものである。その皮切りとして、長崎管区の福岡で、「ゴロー司教と語ろう―ワールドユースディ―新しい自分発見の旅」と題して開催された。

初めに、お互いに知り合いになろうと時間がもたれ、会場狭しと若者達が右往左往して自己紹介する内に自然とみんな打ち解けた雰囲気となった。続いて前大会のビデオ観賞と大会参加者の体験談があり、「日本、そして世界のカトリックの若者と仲間意識を持てるようになり、自分自身変わることが出来た」との発言に、会場の若者のワールドユースディへの関心は高まった。松浦司教による大会の説明と、たとえ参加できなくても意識を共有しようとの発言を受けて6つの班に分かれて分かち合いを行った。その中では、大会そのものに対する高い関心と、参加したくても仕事を休めないなどの意見が出され、事務局としても、日本で、期間を短くしたミニ大会を開く予定が紹介された。また、このような集まりを今後は各教区主催で続けてほしいことが参加者、事務局から共通して提案され、最後に、全員で祭壇を囲んで若者のミサがささげられ、若者の心の一致が強められた。

なお、福岡教区の大会受付担当は健軍教会の中村彰神父である。

福岡教区福岡地区婦人会黙想会
いのちを持っているから美しい

カテドラル

福岡の二日市教会から古賀教会まで14教会と1つの巡回教会からなる福岡教区福岡地区婦人会（会長：牛尾伝枝・大楠教会信徒）が10月4日（木）大名町カトリック教会で黙想会を開催した。

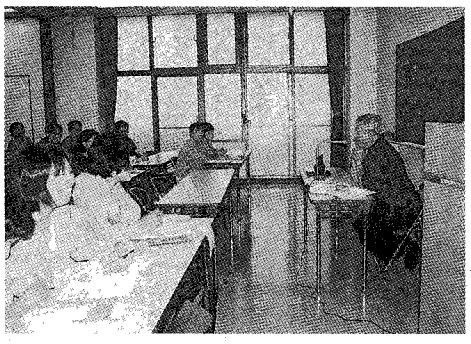
司教団がこの春出したメッセージ「いのちへのまなざし」をテーマに、講師は前大分教区長の平山高明司教。

10時に50人の参加者を得て平山司教の講話で始った。

第1講話で「いのちの始めはどこから?」と、受精の瞬間からいのちが始ることを教皇ヨハネ・パウロ二世の「いのちの福音」を引用しながら強調。また、人間の存在の価値とは、神の似姿として創られた人間、いのちの尊さと美しさなど熱心に話された。目に見えない神さまに仕える為に、目に見える人を愛するのです、と言う言葉に「主人や子どもの中に神さまの業を見た第2講話では、夫婦のかかわりを取り上げ「夫婦がしっかり向き合うこと」、「無秩序な欲望が人間をだめにする」、「子育ては、みんなの力で一緒にする。いま、一人ひとりが大切にされない社会だから」など性と心が一緒になる教育こそ大切と語った。

さらに、「生きるということ、いのちを大切にするということは、人を愛することに連なっている」と諭した。

黙想会には、婦人達ばかりでなく男性の姿も少なくなかった。日頃、教区行事の手伝いや司教館の清掃など奉仕に忙しい婦人会のメンバーが、会員の霊性を一層高めるために行う黙想会として毎年、多くの会員が熱心に参加している。



福岡地区信徒使徒職協議会研修会
誰でも来れる教会を目指そう！

カテドラル

9月15日（敬老の日）、大名町教会で、福岡地区信徒協主催の研修会が、山元眞神父（二日市教会主任）を講師に迎えて開催され、信徒を中心に110人が参加した。「教会はみんなのために」というテーマで、これからの教会はどうあるべきかを考えるひとつのヒントにしてほしいという主旨で、小教区での具体的な体験などを中心に話された。

まず講話の初めに、「皆さん信者であってよかったですか」と問いかけられたが、一人ひとりが自分のこととして考えさせられた。「信者でよかったとの思いは、周りの人たちにも福音を伝えようという大きな力になる」と述べられた。二日市教会で「どんな教会だったらいい?」と子ども達に聞いたところ、最も多かったのが「だれでも来れる教会」。子ども達の答えは、まさに福音的である。障害者、子ども達、若者、高齢者など、だれでも来れる教会に、との子どもの心のバリアーを取り除くことの大切さも強調された。最後に私たち一人ひとりも宣教者であり、それぞれの生活の場で福音を伝えていきましょうと結ばれた。



訃報

ミカエル金松敏神父

（大分教区臼杵教会主任）

10月6日腹部大動脈瘤による出血のため帰天。享年80才。1952年、当時の宮崎知牧区の司祭として叙階。大名町教会助任、大楠教会主任を経て、大分教区正式設立に伴い、1962年大分教区に転籍した。

米国テロにおもう（前）

まずはじめに、ここアメリカでの心の修練の機会を寛大に与えて下さっている松永司教様をはじめ福岡教区の皆様に感謝申し上げます。

アメリカではご承知のように9月11日午前、ニューヨーク、ワシントン、それにペンシルベニアで一般市民を標的にした同時多発テロによって数千人にのぼる死者がでました。そして10月7日とうとう最悪のシナリオである武力行使が始まりました。

テロの数時間後には、祈りの集いやミサを捧げること、祈りたい人々のために教会を一日中開放することなどの要請が教区の司教様からありました。イスラム教徒に対する嫌がらせ、憎しみは絶対に容認できないということを説教台から述べるようにという通達も届きました。私は、「真珠湾攻撃の後に米国内の日本人や日系人へなした過ちを繰り返さないように」と呼びかけました。アメリカ全土はその日、深い悲しみと祈りにつつまれました。

インターネットで日本の情報を得ていますが、新聞が、意図的にかどうかは知りませんが、「アメリカによる報復」「報復攻撃」という言葉をさかんに使っているのが気になりました。

アメリカのカトリック教会の司教様たちの声明は、政府と一般市民に憎しみによる報復をしないようにと呼びかける一方、テロリストから一般市民を守るために倫理的に許される範囲での武力行使の権利を容認するものでした。

日本の教会の反応と微妙なズレを感じました。この意味でも日本の教会はテロリズムの恐怖に直面しているアメリカの教会ともっと率直に意見の交換をして欲しいと思います。アメリカが愛と正義に基づいて賢明に判断できるよう、祈りで「後方支援」してください。

渡辺隆義神父・聖パトリック教会（米国ミズーリ州）

BOOK 読みは専科

★クリスマスのうまごや
作・絵　M・ロッシュ
文・えびな　ひろ
装丁・宮田　庸子



小さな村のマリアとヨゼフはろばといっしょに旅をしました。赤ちゃんのイエスさまがお生まれになったベトレヘムまで窓を一つずつ開きながら、いっしょに旅ができるしかけ絵本になっています。

各ページについてある窓には、やさしい問いかけがあり窓を開くとイラストの答えがあります。親子で楽しく対話しながら読めます。

女子パウロ会　本体1000円

◇　◇　◇

★オーバーアマガウ
受難劇感賞の旅
井手雄太郎　著



著者にとって、オーバーアマガウの受難劇感賞を選んだのは、1984年に行われた350年の特別講演を見て以来の願望であった。このオーバーアマガウの受難劇感賞を目玉に、世界遺産のモン・サン・ミッシェルの巡礼を入れ、多少の無理を承知で旅の計画を立てた。その結果ブリュッセル、ナポレオンゆかりのワーテルローと欲張り、グリンデルワルトやルツェルンなどアルプスにも立ち寄るハードな旅行を計画した。今後旅行される方への道標になれば幸いである。

サンパウロ　税抜き1143円

ジャパンスマイルか株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092−761−8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092−711−0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811−7265

感謝と賛美のために
祈りを通して制作
典礼センター ピエタ
祭服．聖器具．聖像
信心用品．ベール．
ロザリオ他
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092−526−9176

キリストの招きにこたえ この一歩

2001年度教区聖書講座開講中

11月25日(日)　聖書と教会の教え②　櫻井尚明神父
2002年
1月27日(日)　聖書と典礼①　S.フランコ神父
2月24日(日)　聖書と典礼①　S.フランコ神父
3月17日(日)　聖書と教会の歴史　硫黄隆二神父
4月28日(日)　聖書と教会の掟　松永久次郎司教
会場：大名町教会　時間：14時～16時　費用：各500円

特別聖書講座

テーマ：カナの婚宴を深く読む！
日　時：12月2日(日) 14時から
場　所：大名町カトリック教会講堂
講　師：湯淺俊治神父［大神学院教授］

熊本地区神学講座開催中　第1期

◆11月11日(日)　キリスト受肉・死・復活
　キリスト教的終末　牧山勝美神父
◆11月25日(日)　祈り　フランコ神父
◆12月9日(日)　日本キリシタン史　第1・2部
　Sr.片岡千鶴子
問合せ先：☎096・352・1515　手取教会　日向

「千年の響き」コンサート ―東西の新しい出会い―

日　　時：2001年11月25日(日) 18：00開演
場　　所：カトリック小倉教会
　(北九州市小倉北区香春口1-3-1)
演奏内容：正倉院復元楽器と西洋の伝統楽器パン
　フルートとオルガンによる新しい響き
チケット：3,500円(前売) 4,000円(当日)
チケット販売：小倉教会、セントポール福岡
問 合 せ：☎093-921-0093　小倉教会
　☎093-531-3230　高田
主　　催：「千年の響き」実行委員会

健軍教会50周年記念巡礼の旅

中村神父さまと行く
イタリア周遊とルルド・パリ10日間

旅行期間：2002年1月28日(月)～2月6日(水)
旅行代金：329,000円 (全食事付き)
添 乗 員：全行程1名
訪 問 先：ローマ／アッシジ／フィレンツェ／
　ミラノ／ルルド／パリ／ヌベール
問 合 先：阪急交通社熊本支店

カトリック通信講座　受講者募集中

ニーズに合わせて6種類の講座を用意しています
1キリスト教とは　4神・発見の手引き
2聖書入門〔Ⅰ〕　5聖書入門〔Ⅱ〕
3キリスト教入門　6幸せな結婚
受講料：1～4は各4500円・5～6は各5000円
申込・問合先：オリエンス宗教研究所
　カトリック通信講座センター
☎03-3322-7601　FAX 03-3325-5322

案内版　会合と催し

福岡黙想の家　11月

◇2日(金)～4日(日)　むなかたアシパ
◇7日(水)　むなかた和善の聖書
◇11日(日)　日本キリスト・折尾教会修養会
◇14日(水)　ミカエル会
◇22日(木)～23日(金)　聖母カテキスタ会
◇23日(金)～24日(土)　熊本・久留米信愛幼稚園職員研修会
※クリスマス案内
12月24日(月) 19：00　子どもと祝うミサ
　深夜0時　イヴのミサ
25日(火) 11：00　ご降誕ミサ
※福岡黙想の家「むなかた祈りの森」にもうすぐ馬小屋ができます。どうぞ、どなたでもこの馬小屋を訪れ、幼いキリストと出合ってください。
［問合先］黙想の家　☎0940・32・3222　FAX 32・3385

生命山カトリック別院

※祈りの集い
・11月8日(木) 10時～15時
・12月13日(木) 10時～15時
テーマ：本当にこの人は神の子だった
※毎月第2木曜日に祈りの集いを行っています。

※諸宗教対話研究会のグループの集会
日　時：12月2日(日) 14時～
場　所：手取カトリック教会
内　容：イスラム教とは
講　師：フランコ神父
［問合先］
・生命山カトリック別院
☎0968・85・3100
FAX 0968・85・3186

11月のこよみ　死者の月

4日(日)　年間第31主日
　笹丘教会堅信式
　教区和田墓地ミサ［和田墓地14時］
　新田原教会共同墓地死者追悼ミサ
9日(金)　ラテラン教会の献堂
11日(日)　年間第32主日
　武蔵ケ丘教会堅信式
　大楠教会バザー
14日(水)　†フランシスコ中田籐太郎［高宮教会1999］
17日(土)　聖エリザベト
18日(日)　年間第33主日／聖書週間（～25日）
　大牟田教会堅信式
21日(水)　聖マリアの奉献
　大神学院祭［10時］
　†P.ポール［黙想の家1996］
22日(木)　聖セシリアおとめ殉教者
23日(金)　北九州信徒協研修会　勤労感謝の日
　†B.シュルツ［吉塚教会1996］
24日(土)　地区婦人会ヤングママ黙想会［司教館10時］
25日(日)　王であるキリスト
　伊万里教会堅信式
27日(火)　†S.ズワノニ［唐津教会1962］
30日(金)　聖アンデレ使徒
12月
1日(土)　†伊東誠二［馬渡島1997］
2日(日)　待降節第1主日
　水巻教会堅信式
　宣教地司祭育成の日献金
3日(月)　聖フランシスコ・ザビエル

◆福岡

■定期個別ゆるしの秘跡
［日時］毎月第1・第3土曜日 10時から12時［場所］カトリック大名町教会小聖堂［聴罪司祭］R・マグリン神父（ミラノ会・久留米聖マリア病院付）

■福岡祈りの集い
［日時］毎週月曜11時～12時30分［場所］カトリック大名町教会［内容］聖霊による祈り［問合先］☎092・522・5139ブラザー床嶋

■ヨアキム・アンナ信心会
［日時］11月15日（木）［場所］カトリック高宮教会［指導］小池如安神父［内容］ロザリオ・黙想・ミサ［問合せ先］☎092・533・2326小田部

■第16回福岡ホスピスの会
［日時］11月18日（日）14時［場所］大名町カトリック教会4階［テーマ］遺族へのアプローチ。［講師］松村祐二郎師（牧師・医師）［参加費］会員500円一般700円［問合先］☎092・737・3701福岡ホスピスの会事務局

■ヤングママ黙想会
［日時］11月24日（土）10時～15時［場所］司教館［講師］森山信二神父（大牟田教会）［参加費］1000円＊ベビーシッターいたします。［主催］福岡地区婦人会［問合せ］各小教区の担当者

■在世フランシスコ会集会
［日時］11月25日（日）14時～16時［場所］カトリック高宮教会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習［指導］小池如安神父［問合先］☎092・843・5831岩崎

■福岡生と老い死を見つめる会
［日時］11月25日（日）14時［場所］カトリック大名町教会［内容］老いと物忘れⅡ［講師］三木浩司医師（小倉記念病院神経心療科部長）／メモリアルサービス／死別体験者の集い［参加費］会員500円一般700円［問合先］☎092・713・8523大山：092・607・6992村尾

■一日静修ご案内
［日時］11月30日（金）10時～15時30分［テーマ］待降節をふさわしく過ごすために［場所］師イエズス修道女会（ピエタ）［講師］松井忠之神父（教区事務所）［内容］講話・ゆるしの秘跡・ミサ聖祭［参加費］1500円（昼食代含む）［問合先］師イエズス修道女会／Sr関口［締切］11月20日

■グレゴリオ聖歌を歌う集い
［日時］12月5日（水）11時～12時15分［場所］浄水通教会聖堂［講師］坂田孝子氏［参加費］自由献金［問合先］☎098・380・5686堺・11月の集まりは中止になりました。

■召命祈願ミサ
［日時］12月13日（木）19時15分～［場所］福岡聖スルピス大神学院［司式者］G・ブルーニ神父（光丘教会主任）

■美野島司牧センターのお願い
衣類のカンパをお願いします。特に秋・冬用の男性用ジーンズ・Tシャツ・靴下などの衣類は間類・洗面道具・靴をよろしくお願いします。女性用の衣類に合っています。また、金曜日のボランティアを募集しています。衣類を頂きに来た人にてあげたり、整理のお仕事です。
［問合先］コース神父☎092・431・1419

◆北九州

■小倉祈りの集い
［日時］11月16日（金）13時～14時30分［指導］V・マテオ神父（御受難会）［場所］小倉教会信徒会館2階［内容］とば」をあじわい祈る［問合先］☎093・452・1556安藤

◆佐賀

■佐賀祈りの集い
［日時］11月8日（木）10時～11時30分［場所］佐賀カトリック会館［内容］祈り［問合先］☎0952・72・7536吉田［次回］11月24日（土）10時～12時はミサと祈り：毎月第2木と第4土曜日に集まっています。どうぞご参加下さい。

■聖書を読む会
［日時］毎月第1木曜日、午前10時～11時半／午後の部19時半～21時［場所］佐賀カトリック会館［内容］「創世記」を読む［講師］A・アレグリーニ神父［テキスト］聖書［参加費］無料［問合先］☎0952・23・4754阿南

◆熊本

■熊本キリスト教市民セミナー
［日時］11月2日（金）10時30分と19時～［内容］共にいて下さる神［講師］矢野吉久神父（神戸住吉教会）［場所］手取教会信徒会館／［日時］11月9日（金）10時30分と19時～［内容］証しと癒しの集い［指導］F・マッケイ神父［参加費］1000円［問合先］☎096・352・1515日向［主催］熊本キリスト教市民セミナー実行委員会

編集後記

前月号、そして今月号と、都合で一人で編集しなければならない部分がたくさんありました。そのため、文字の大きさを少し変更しましたが、紙面全部に手を加えるまでには至っていません。すいません。

しかし、ほんの少し文字を大きくしただけで、読みやすくなったという感想がよせられたのには正直驚いています。皆さんはいかがでしょうか。

秋本番から晩秋にかけ、いろんな教会で教会バザーが開催されているようです。とても全部を回ってみることは皆さんも出来なかったと思います。そこで、来月号で、ちょっとしたバザー特集をしてみたいと思います。バザーの時の写真数枚と一言をそえて司教館の教区報編集部までぜひ送付して下さい。15日までにお願いします。バザーを開いた教会全部から写真が送られてきたらどうしようなんて心配していますが、何とか調理してみたいと思います。ぜひご協力を！そして、来月号を御期待下さい。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者 ペトロ 平田 清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所 大石真澄
☎092-552-8195 Ⓕ092-541-7734

FUJIKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長 大森 周　福岡支店長 城戸隆秀

カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　田中重治
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円



「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった」（ルカ２・11）。神のひとり子イエス様は、２０００年前、イスラエルのベツレヘムで人間として誕生されました。神様が、わたしたちの時と場所の世界に、幼子として生まれることによって救いの恵みをもたらすためでした。世の光となる幼子イエス様の誕生によってもたらされた光に導かれて、わたしたちも共に主の降誕を祝いに教会に集まりましょう！

福岡教区墓地に新しい納骨堂が完成
11月4日死者を追悼するミサに２００人

和田墓地

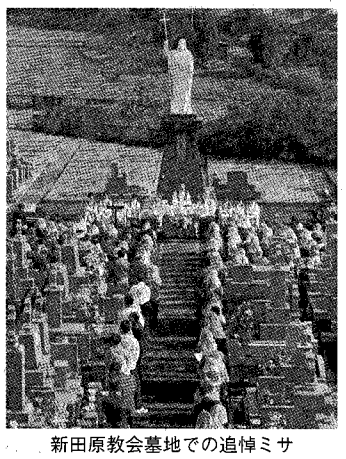
10月21日（日）、福岡市南区和田にある教区墓地に新しく納骨堂が完成、落成式が行われた。11月4日（日）午後2時より、新しくなった祭壇と納骨堂で追悼ミサと5人の方の納骨式が行われ各地から２００人ほどが集まった。また、教区内の各地でも死者の月にちなみ追悼ミサや記念祭などが行われた。

11月、恒例の死者のための追悼ミサが各地の墓地、教会でささげられた。福岡地区納骨堂である和田墓地では、11月4日（日）に、教区長松永久次郎司教司式のもと追悼・納骨のミサがささげられ、10人の司祭と２００人あまりの信者が集い、共に祈りをささげた。説教を担当した田中重治神父（司教館）は、日本のカトリック信者にとって8月のお盆・聖母被昇天と並んで、いやそれ以上に、11月1日に天国に入った死者を記念し、2日にまだ天国に入れずにいるすべての死者のために祈る死者の日と死者の月は美しい伝統であると語り、「死者の眠る墓地を訪れることによって、忙しい社会の中にあっても自然と故人のことを思い出し、祈りをささげる気持ちになれるここは聖地である」と述べ、墓参の大切さを説くと共に、すべての死者のために祈ることは、やがては自分も誰かに祈ってもらうことにつながること、そのために自分がまず祈り、このことを次の世代に伝え、受け継がせていくことが必要であると諭した。

これに先立ち、10月21日（日）には、新しく増築した納骨堂の落成・祝別のミサが松永司教の司式でささげられた。


新しい納骨堂の祝別式と内部

これは、今までの納骨堂がすでに満室に近く、今後帰天していくであろう司祭たちのためのスペースも不足し始めていたため、別棟で新たに建設されたものである。斜面を利用した2階建てで、2階部分が入口・３００の納骨室を持つ１６１平米の鉄筋づくり。また、新納骨堂の入り口の前には信者の無償奉仕によって描かれた復活のイエスをモチーフにした絵がタイル化されて飾られている。合わせて、屋外のミサのための場所が新たに整備され、祭壇を新しく聖別し信者席をタイル張りにした。この新しい祈りの広場で今回の死者の月のミサもささげられた。信者の中からは本当にきれいで明るくなりましたという声が聞かれた。


新田原教会墓地での追悼ミサ

新田原教会墓地
先祖の安息を祈った

11月4日（日）新田原教会主任の竹森勇神父は付属の教会墓地で、ここに眠る人たちを追悼する恒例のミサを大勢の信徒と共に捧げた。ミサには聖母訪問会新田原修道院で隠居生活を送る平田三郎司教も元気な姿を見せ共同司式を行った。70年の新田原教会の歴史を支えてきた先祖、兄弟姉妹の霊魂の安息を祈り、墓石に刻まれた人たちの永遠の安らぎを願った。主聖堂に隣接する墓地は、墓地公園のように整備され、教会に近いため参詣する人も多く、花が絶えることなく飾られている。立ち並ぶ墓碑の中央に台座に『私は復活である』と刻まれたイエスの像が多くの魂を見守っている。

2001年 降誕前夜祭と大晦日のミサ時間

教会	降誕深夜	大晦日	教会	降誕深夜	大晦日	教会	降誕深夜	大晦日
福岡地区			美野島	19:00	X	鹿島	18:00	X
糸島	20:00	X	吉塚	19:30	19:30	唐津	19:30	18:00
今村	20:00	X	南粕屋	19:30	X	佐賀	19:00	0:00
大楠	20:00	X	老司	19:30	0:15	多久	20:00	11:00
大牟田	20:00	X	北九州地区			武雄	20:00	X
小郡	19:30	X	飯塚	19:30	X	鳥栖	20:00	19:00
久留米	19:00	0:00	黒崎	19:00	0:15	馬渡島	19:00	6:00
	22:00			22:00	10:00	呼子	20:00	X
古賀	19:00	0:00	小倉	18:00	0:00	熊本地区		
	23:00			20:30		荒尾	19:00	X
笹丘	19:30	X		23:00		大江	19:00	23:30
浄水通	18:00	X	新田原	20:00	0:00	帯山	19:00	23:00
	20:00		田川	18:00	X	菊池	20:00	X
大名町	18:00	23:30	天神町	20:00	X	健軍	19:30	0:00
	20:30		戸畑	20:00	X	崎津	21:00	X
	23:00		直方	19:00	X	島崎	19:00	0:00
高宮	20:00	23:45	水巻	19:30	X	玉名	19:00	X
茶山	20:30	X	門司	19:30	X	手取	18:00	0:00
西新	19:00	X		23:00			22:00	
箱崎	19:00	X	湯川	19:00	0:00	人吉	未定	未定
光丘	20:00	X	行橋	19:00	0:00	本渡	19:30	0:00
二日市	20:00	0:00	若松	19:00	X	水俣	20:00	0:00
本郷	18:30	X	佐賀地区			武蔵ヶ丘	19:30	0:00
	21:00		伊万里	20:00	X	八代	19:00	0:00

司祭人事

召命育成担当＝浦川務神父（久留米教会）▼教区教会学校担当＝伊東成晃神父（呼子教会）▼福岡地区婦人会顧問＝牧山美好神父（大名町教会）以上10月13日付▼エキュメニズム担当＝小池如安神父（高宮教会）11月1日付

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう
【一般の意向】文化的条件づけと他者の権利の尊重
【布教の意向】キリスト教的人道主義とアジアの文化
【日本の教会の意向】1年の感謝

時の話題

森山　敬三

わが国においては、クリスマスはよく知られているが、より大事なご復活は、殆ど顧みられない。クリスマスを知らない日本人はいない。それももっともなことである。

ご復活は年によって変わるし、ちょっと信じがたい。神が人となってご降誕されたということは、世界史の上で一大事件で、空前絶後の最大事である。６世紀のディオニシウスという修道士が西暦を作ったのであるが、実は西暦元年より数年前にご降誕されていたようである。しかし、そのおかげで、全世界に伝わっている。イスラム教圏でも、宗教的儀式以外は、西暦を使っている。ひるがえってわが国をみると、相も変わらず平成13年と２００１年とが同居している。外国人に分かるだろうか。たとえば大正13年生まれといっても、何才かすぐには計算できない。しかし１９２４年といえば、すぐ年令が分かる。すぐ分からないのは、年号があるためで、大正天皇は大正14年のクリスマスに亡くなられたので、昭和元年はわずか6日間しかなくて、翌年は昭和2年になっている。中国をまねて、ここまで続いてきたのであるが、もう日本の国旗も国家も制定されたのであるから、そろそろ年号を廃止してもよいのではないだろうか。こういう事から世界化がすすむ。

クリスマスと年号

箱崎教会信徒

みちくさ

12月を迎えた。もうという人もいればやっとという人もいるだろう。振り返れば色々なことが社会で起こった慌ただしい一年だった。わたしたちもそれぞれ様々な思いを胸に一年を終えようとしている▼教会では一足早く暦が新しくなり、季節も待降節を迎えた。教会によっては共同回心式や黙想会を計画しているところもあるだろう。主の降誕を迎えるための準備としてすばらしいものである。しかし、私たちは年末を迎え、年賀状の準備、お歳暮、ボーナスなど社会に振り回されているのも事実である。そのような中、ある意味において、過ぎし一年を振り返り、こんな事で神様のお恵みをいただいたと感謝し、また、こんな事で神様に悪かったと罪を反省する機会とすると、さらにすばらしいものになるのではと思う▼クリスマスも正月も関係ないというのが受験生たち。最近では幼稚園受験のために塾に通う幼児もいるというから、本当にこんな社会でいいのだろうかと悩む。カトリックの子ども達も受験戦争の中にあって、クリスマスと新年をどのような心境で、そしてどのように迎えるのだろうか。親にいわれて無理矢理クリスマスのミサに行かされたという事で、カトリック信者であることに嫌気をさす子どもがいるのも事実。社会の中に生きるカトリック信者の難しさである▼主の降誕はすばらしい喜びである。1月1日の神の母聖マリアのお祝いもすばらしいものである。この本物の素晴らしさをいかにこの日本の社会の中にあって伝え、実感してもらうことができるのだろう（T）

待降節とクリスマス

新しい世紀のカテケジス⑧

中村　彰　神父



12月2日から待降節に入りました。主イエスの誕生を喜び迎える準備の季節です。

教会では待降節に入るとクリスマスの飾りつけをします。馬小屋を作り、聖書の誕生物語に登場する人物、動物、天使などを配置します。クリスマスツリーを作る教会もあります。また、アドベントクランツといって、木の緑で飾ったものにろうそくを4本立て、待降節の主日が来る度に火をつけるろうそくを増やしていくものもあります。いずれも目に見えるものを通して準備していくことで、心の準備を深めていくものです。

ミサの中でも栄光の賛歌を歌いません。クリスマスに天使と一緒に神の栄光を喜び歌うために、クリスマスまでとっておきます。祭服の上につけるストラの色も紫に変わります。紫は苦しみ、犠牲を表わしています。ちなみに、白は清さ、純粋、復活の喜びを、赤は殉教、熱意、愛の炎を、緑は希望、永遠のいのちを表わしています。ミサの聖書朗読も救いの歴史を振り返りながら、少しづつ救い主の誕生を待つ心を燃え立たせます。

また、主の降誕の内的準備として、回心式が行われます。

大切なお客様を迎えるときに、家の中をきれいに掃除して、ごちそうや楽しい話を準備して待つように、一番大切な方である主をわたしたちの心に、わたしたちの生活の中に迎えるために、心を清めてもらい、愛で満たしてもらいます。

教会によっては、クリスマスミサの前後に子どもたちや青年の出し物があります。聖劇やクリスマスキャロル、映画の上映など、いろいろな出し物があります。教会学校ではこの待降節の準備とクリスマスの祝いを大切にしていきたいものです。子どもの頃に自分が聖劇で誰の役をしたかは、大人になっても覚えています。聖書を読んでいなくても、誰でも聖劇の場面は覚えています。聖劇に登場する人がなぜ彼らなのか、そして彼らの行動やことばの意味は何なのかを教えてやれば、御子の誕生にいっそう喜びをもってあずかれることでしょう。

また、クリスマスの喜びを多くの人々、特に貧しさや戦争、苦しみの中にある人々と分かち合うために、クリスマス献金があります。歳末助け合い運動として、街頭募金に立つ教会もあります。

一つひとつの行いを心を込めて捧げることによって、心に残る、心を豊かにする信仰教育となることと思います。

健軍教会主任神父

遅くなりましたが、9月の評議会において決定した来年の教区年間行事予定を掲載します。これを参考に、教区行事に他の行事が重ならないよう、それぞれの会合の準備担当の方は配慮下さい。また、バザーなど小教区の行事を決める際は、近隣の小教区とも連絡を取り合って日程が重ならないよう気をつけるのも大切です。何よりも、私たちが行事に参加するよう、今から予定に入れておきましょう！

2002年福岡教区行事予定

8月
6日～15日　日本カトリック平和旬間
11日(日)　平和を祈る集い［カテドラル］
12日(月)　新田原教会納涼祭
15日(木)　聖母被昇天祭
　教区墓地ミサ［和田墓地14：00］

9月
3日(火)　2002年度第1回司祭評議会
15日(日)　福岡地区信徒協研修会
22日(日)　世界難民移住者移動の日（献金日）

10月
14日(月)　むなかたTENTENまつり［黙想の家］
15日～19日　福岡教区司祭黙想会［黙想の家］
20日(日)　世界宣教の日献金日

11月
3日(日)　教区墓地ミサ［和田墓地14：00］
4日(月)　召命の集い［大神学院］
21日(木)　聖マリアの奉献／大神学院祭
23日(土)　北九州信徒協研修会
24日(日)　王であるキリスト
　健軍教会創立50周年と堅信式

12月
1日(日)　宣教地司祭育成の日（献金日）

2003年1月
14日（火）　司祭新年の集い［浄水通教会］

2002年1月
1日(火)　新年ミサ［カテドラル10：00］
15日(火)　司祭新年の集い［浄水通教会］
18日～25日　キリスト教一致祈祷週間
27日(日)　児童福祉の日（献金日）

2月
5日(火)　司祭評議会［司教館10：30］
10日(日)　大名町教会堅信式
11日(月)　世界病者の日
13日(水)　灰の水曜日
26日(火)　今村信徒発見記念日

3月
5日(火)　司教様霊名の祝い［浄水通教会］
19日(火)　聖ヨセフ　松永司教霊名の祝日
24日(日)　受難の主日［世界青年の日］
26日(火)　聖香油ミサ［カテドラル15：00］
　司祭叙階記念の祝い
29日(金)　聖金曜日
31日(日)　復活の主日

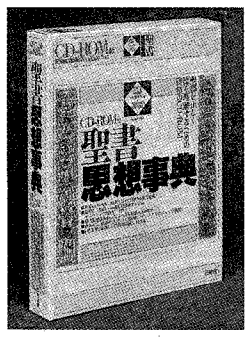
4月
7日(日)　花岡山殉教祭／教区特別献金日
13日(土)　福岡教区司教座献堂記念日
21日(日)　召命祈願日

5月
3日～5日　クルシリヨ［黙想の家］
5日(日)　世界広報の日／広報研修会
19日(日)　聖霊降臨の主日
　合同堅信式［カテドラル14：00］
22日(水)　助祭・司祭候補者認定式［大神］

6月
2日(日)　キリストの聖体
　島崎教会聖体行列
23日(日)　聖ペトロ使徒座への（献金日）
25日～27日　福岡教区全司祭研修会

聖書週間に送る

聖書思想事典がCD-ROMに！



私が愛用する聖書思想事典は1973年の初版本で、神学生の頃から使っておりますので、今ではアンダーラインや書き込みでいっぱいです。どの項目を調べても、その言葉の持つ深い意味を悟らせてくれる貴重な事典です。恩師でありました、この事典の翻訳監修者であるZ・イエール神父の聖書の講義でも不可欠の書物で、「この点については思想事典の・・・の項を読んでください」と度々言われたものでした。

今回この事典がCD－ROM版となり、事典本文、聖書本文そして項目一覧が同時に示され、見たい項目はもちろんのこと、項目中の聖書箇所をクリックすると前後の文章を伴って示されます。実はイエール神父は、自分が調べている項目の内容を読むのではなく、その中に参照として出てくる聖書の箇所を実際に聖書を開いて、項目の内容を読み進めると、もっともっと理解が深まり、広がりますよ、とよく言われていたのですが、なかなか面倒で、あまり実行に移したことはありませんでした。たとえば事典の最初の項目は「愛」ですが、CD－ROMでは、クリック一つで瞬時のうちに聖書参照箇所が開きますので、便利であるばかりではなく、みことばを学ぶ大いなる助けになると思われます。

他に様々な機能を備えたこの新しい聖書思想事典が、多くの方々に愛用され、あまねくみことばが伝わっていきますことを祈ります。

聖書委員会委員長
大牟田教会　森山信三神父

『聖書思想事典』の原著フランス語版は1962年の出版。世界二十カ国語に翻訳されている。日本語版は1970年の改訂増補版に基づいて1973年に完成。22回の再版を重ね1999年には新版が出された。

乙女峠までの道程

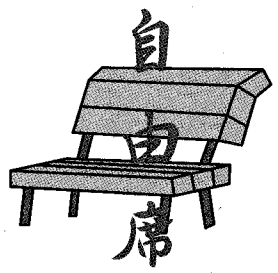
黒田　京子

11月11日、乙女峠（島根県津和野町）のマリア記念聖堂で祈りと願いを紙に書きながら、この萩・津和野の一泊二日の『旅』をするまでの出来事は神の御計らいだと感じずには居られませんでした。

今年の3月、画家安野光雄氏の美術館が津和野にオープンしたことを知り、行ってみたいなあと思っていたところ、「乙女峠まつり」の記事を新聞で見て、それは津和野であることを知ったのです。さらにシスターよりいただいた葉書が乙女峠の「殉教者の栄光」100年記念碑のポストカードでした。これにはマリア様は私のことは何でもご存知かもと不思議な思いでした。

そして7月20日、とても暑い日、長崎浦上天主堂での司祭・助祭叙階式ミサに与りました。2時間以上も扇風機も冷房もない、自然の風が少し入ってくるだけのお御堂でミサに参列した2000人の方々の姿や真新しい司祭服を着て、汗のしずくが顔から吹き出ながらご聖体を配る3人の新司祭の姿に感動しました。

この叙階式の直後に、永井隆著「乙女峠」の本をシスターより頂き、浦上から津和野に流罪になった殉教者に出会ったのです。この本を読み進んでいくうちに、夏の暑さにグータラしていた私は、身も心も引き締まる思いでした。また、浦上の町並みの美しさは次々に押し寄せてくる苦難に耐え、それを乗り越えたものだと実感しました。



そしてついに、11月の天候にも恵まれた日に『乙女峠』へと導かれたのです。マリア記念聖堂までの道のりは、想像していたよりはるかに急な坂道で、奥へ進むに連れて空気が冷たくなり、紅葉も他のところよりも深く色づいていました。これは大変と思いながらも、坂道の横を流れるせせらぎの音に心洗われながら登って行きました。記念碑前では殉教者の御霊の息遣いを感じるような静けさを味わい、殉教者の強い信仰に触れ、神の子になった恵みを忘れずに生きていきたいと心が新たになりました。

今回、萩では主体的な学問の場である松下村塾と窯で焼いた萩焼の逸品に、津和野では安野光雄氏の原画とキリストの証人（乙女峠の殉教者）にと「ほんもの」に出会えた恵み多き『旅』となりました。

帰路の津和野からSL号の車中で、浦口均神父さまから教えて頂いたピオ12世教皇の巡礼者への言葉が心に浮かびました。

「旅する事は見聞を広め自分を豊かにします」

大名町教会信徒

2001年　待降節の黙想会　ご案内
お申込受付中
① 12月1日(土) 11：00 ～ 2日(日) 昼食まで (B.ガブリエル神父)
② 12月8日(土) 11：00 ～ 9日(日) 15：00迄 (V.マテオ神父)
③ 12月15日(土) 11：00 ～ 16日(日) 15：00迄 (V.マテオ神父)
④ 12月22日(土) 11：00 ～ 24日(月) 15：00迄 (鈴木忠一神父)
会費：①～③ 8,700円(1泊4食)　④ 16,200円(2泊7食)
クリスマス：ミサの時間
＊12/24(月) 19：00～子どもと祝うミサ／深夜0時イヴのミサ・25日11：00ご降誕ミサ
むなかた祈りの森 福岡黙想の家
〒811-4155 宗像市名残1056
TEL 0940(32)3222 FAX 0940(32)3385

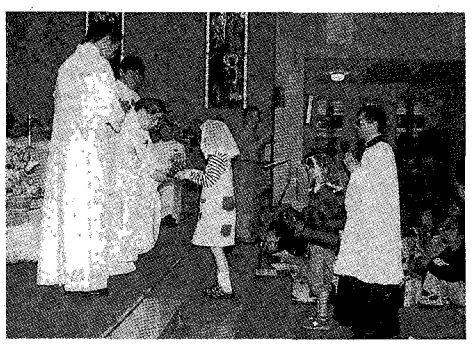
ミサ用ワイン

ヴィノ　デ　ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ　青木　彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 (SOU-EN)
ご葬儀
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

大神学院の召命の集いに九百人

11月3日（土・文化の日）、恒例の「召命の集い」が福岡サン・スルピス大神学院にて開催された。文化の日は晴天といわれるが、今年は十数年ぶりに朝から本格的な雨となりすべてのスケジュールを校内で行うこととなった。聖堂はさながらすし詰め状態になる中、開会式が始まった。幸い、聖堂に入りきれる参加者数となったので、ある意味でよい雰囲気の中で、教区長松永久次郎司教司式の召命祈願ミサがささげられ、子ども達の元気な聖歌の歌声が響きわたった。説教は井下洋介助祭（大分教区）が「いのち」をテーマに、それぞれの神様からの召命の大切さと、司祭、修道者の召命がいのちを分け与えていく大切ですばらしいものだと子ども達に訴えた。



午後からは聖堂では教会の子ども達によるミニコンサート、教室ではステンドグラスづくり、ホールではミニゲーム大会と子ども達は楽しい一時を過した。

熊本キリスト教市民セミナーで宣教

現代社会にみ言葉をどのようにして広めるか、14年目を迎える熊本市内5教会合同の宣教活動、短期キリスト教講座は今年から「熊本キリスト教市民セミナー」と名を改め、講演、コンサート、シンポジウムと様々なイベントを実施した。聞き手が信者中心の講演会形式から、一般社会への呼びかけを主眼に昨年から取り組んでいる新企画だが、今年は、前年好評だった青年部の「チャリティコンサート」を手取教会前庭で実施した他、カトリック作家「曽野綾子氏の講演」が実現、さらにはファミリーセンターのライル神父、産婦人科医蓮田太二氏、みこころホスピス看護部長シスター泉キリエの3氏を招いて「いのちのシンポジウム」を開催、神戸住吉教会の「矢野吉久神父の講演」、「証しと癒しの集い」と続くバラエティに富んだ宣教活動となった。



信者以外の人が来なくては宣教イベントの意味はない。この当たり前だが難しいテーマにスタッフは正面から取り組んだ。この点で最も大きな成果があったのは「曽野綾子講演会」で、会場はほぼ満席、その半数以上は一般の人だった。もう一つの成果はマスコミの協力が実現したことである。いのちのシンポジウムでは、テーマの社会性から熊日新聞の後援を取付け、さらにコーディネーターを熊日新聞の論説委員矢加部和幸氏に委嘱することができた。

今年のセミナーに参加した一般入場者は600人前後、現代社会へ向けた宣教を模索する熊本地区の挑戦はこれからも続く。

不動山で切支丹殉教慰霊祭

佐賀地区

佐賀地区信徒協恒例の行事「不動山切支丹殉教慰霊祭」は、11月11日（日）佐賀県嬉野町不動山区「太刀洗川史跡」において催された。午後2時、A・テンペリーニ神父（多久教会主任）の司式で慰霊ミサがささげられた。参加者は司祭7人・シスター4人・嬉野町長・住民代表2人・各教会信徒約60人が、心を一つにして祈りをささげた。



「太刀洗川」の名は、同じ谷川のやや上流にある「垣内史跡」に収容したキリシタンの首をはねた太刀を洗ったことに由来するといわれる。また、川の東にあった寺屋敷と呼ばれた場所では、キリシタン信者に仏教を強制するための拷問が行われたという。この地は、隣接する大村藩からの弾圧を逃れて忍んで来た人々が多く隠れ住んだといわれ、ここで捕らわれ殉教した信徒も多かったと伝えられている。このような不動山一帯で殉教された多くの信者方々の永遠の安息を祈りつつ慰霊祭を終えた。

若い力を引き出したい！各地でバザー

古賀教会のバザー

11月4日古賀カトリック教会バザー。メインテーマ「地域の人々との交流を目指して」のもと、教会に隣接する地域の区長や日頃から関わりのある近隣の人に招待状を出したりチラシを配った。当日、近所からも大勢の人が訪れてくれた。宣教コーナー（聖堂の「いのち」をテーマにしたパネル・ミニ聖書展）も一役果たした。カレーや手作りケーキ等の美味しいもの、福引きや青年会の楽しいコンサート等盛況の内に終了。収益を来年のワールドユースディ大会参加者への援助や後継者育成などにもといった教会共同体のバザーの一時であった。


宣教コーナーに見入る人

新田原教会バザー

10月28日、新田原教会では、第7回大バザーを開催。今回は新しい世紀にふさわしく「元気！21世紀」をテーマに、若い力を引き出すべく、隣接の「聖マリアの園」園児による鼓笛隊「マーチング」を皮切りに、高校生や青年のバンド演奏で会場が華やかな空気に包まれた。各販売コーナーでは毎度人気の高い「採れたて」新鮮野菜、信徒の持ち寄った友愛品「掘り出し市」、飲食コーナーにヨゼフ会特製の芋饅頭など味覚の秋にふさわしい「旨いもの市」。テレジア館では「ふれあい作品展」、丹精に育てた盆栽や、作務衣、プロもうなる写真等の力作に心を惹かれる。広場では様々なゲームや遊びに元気いっぱいの子どもたち。地域の愛好会による太極拳の演技。悪天候にもめげず、信徒の一致と祈りのうちに実り多いバザーとなった。


大名町教会でバンブーダンスも！

大名町教会や大牟田教会などこの秋はバザーが各地で行われ青年の活躍も大きかった。

米国テロにおもう（後）

立場でした。アメリカの司教様たちの条件付き「支持」または「容認」の発言や声明と読み比べながら、説教台から日本人司祭としてどう話せばいいのかしばし考え込んでしまいました。似たような戸惑いがいま日本の教会で働いているアメリカ人宣教師や第二次世界大戦時に日本にいた外国人宣教師たちの中にもあったのだろうな、とご苦労を少しだけ共有できた気がします。

アメリカ人は自分たちの歴史と現実から、「武力で自分や家族、国家を守る」という生き方を身に付けたのでしょう。だから、アメリカの「平和」についての考え方には時代的な制約があります。しかしそれは日本での「平和」論でも同じことが言えるのではないでしょうか。くれぐれも「自分たちの考え方が福音的だ」などというおごりを持たないようにしたいものです。かえって一層謙虚に「平和の対話」を促進すべきだと思います。

私たちの世界は相変わらずの喧騒や、戦争や殺りくで流されるおびただしい血の中に幼な子イエズス様を横たえようとしています。9月11日の悲惨な同時多発テロで、多くのアメリカ人は間違いなく昨年と違うクリスマスを迎えるでしょう。

渡辺隆義神父
聖パトリック教会
（米国ミズーリ州）

新約聖書物語



文　脇田　晶子
絵　小野かおる
監修　今道瑤子

過去30万冊普及されてきた『新約聖書物語』だが、初版から30年という年月の間に、最近の聖書学やユダヤ人との関係で改訂する必要から、手を加えられたもので判型もイラストもまったく新しくなっている。聖書に忠実に、しかし、聖書について全く知らない日本の子どものために歴史的・宗教的背景を簡潔に添えて、イエスの言葉と行いをやさしく物語り、その愛と十字架の意味を浮き彫りにするようにされている。女子パウロ会発行　本体1300円

◇　◇　◇

★あるクリスマスの出来事CD

新垣壬敏　編・監修



クリスマスの名曲と新しいキャロルをテノトルと女性コーラスで演奏。収録曲①或るクリスマスの出来事②マリアへの祈り③アヴェ・マリア（グノー）④アヴェ・マリア（シューベルト）⑤アヴェ・マリア（フランク）⑥アヴェ・マリア（フォーレ）⑦天使祝詞（オペラ26聖人殉教より）⑧みどり子イエス⑨うまやのなかに（13世紀フランスキャロル）⑩ハレルヤコーラス⑪聞かせてください⑫砂の上の定跡。以上12曲を収録しています。今年のクリスマスはこの曲で癒して頂ければ…。

サンパウロ　税抜き2500円

BOOK 読みは専科

ジャパンスマイルか 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811-7265

感謝と賛美のために
祭服．聖器具．聖像
信心用品．ベール．
ロザリオ他
典礼センター ピエタ
師イエズス修道女会
〒810-0028
福岡市中央区浄水通37
Tel.Fax 092-526-9176

キリストの招きにこたえこの一歩

2001年度教区聖書講座開講中

11月25日(日)　聖書と教会の教え②　櫻井尚明神父
2002年
1月27日(日)　聖書と典礼①　S.フランコ神父
2月24日(日)　聖書と典礼②　S.フランコ神父
3月17日(日)　聖書と教会の歴史　硫黄隆二神父
4月28日(日)　聖書と教会の掟　松永久次郎司教
会場：大名町教会　時間：14時～16時　費用：各500円

特別聖書講座

テーマ：カナの婚宴を深く読む！
日　時：12月2日(日) 14時から
場　所：大名町カトリック教会講堂
講　師：湯淺俊治神父［大神学院教授］

熊本地区神学講座開催中　第1期

◆12月9日(日)　日本キリシタン史　第1・2部
Sr.片岡千鶴子
◆1月27日(日)　教会とは　司教・司祭の使命
教会とは　修道者・信徒の使命
松永久次郎司教
問合せ先：☎096・352・1515　手取教会　日向

★市民クリスマス★

第54回福岡市民クリスマス

日　時：2001年12月10日(月) 18：00開場
場　所：福岡市民会館（福岡県美術館横）
メッセージ：佐々木昭夫救世軍福岡小隊長
出　演：ゴスペル合唱／エンジェリック・シャウト
入場料：無料
問合せ：筑紫教会（日本キリスト教団）
☎092-596-4924
主　催：福岡市民クリスマス実行委員会
福岡キリスト教連合

第14回むなかた市民クリスマス

日　時：2001年12月15日(土) 18：00開場
場　所：宗像ユリックスハーモニーホール
メッセージ：川野直人久山療育園理事長
出　演：独り芝居／中島淳一「砂漠の商人」
折尾女子学園ハンドベルクワイア
メサイアを歌おう／新垣寿子とむなかた市民クリスマス合同聖歌隊
問合せ：福岡黙想の家　☎0940-32-3222
一麦教会　☎0940-32-5225
主　催：むなかた市民クリスマス実行委員会

健軍教会50周年記念巡礼の旅

中村神父さまと行く
イタリア周遊とルルド・パリ10日間

旅行期間：2002年1月28日(月)～2月6日(水)
旅行代金：329,000円（全食事付き）
添乗員：全行程1名
訪問先：ローマ／アッシジ／フィレンツェ／ミラノ／ルルド／パリ／ヌベール
問合先：中村彰神父　☎096・368・2825

案内版　会合と催し

福岡黙想の家　12月

◇1日(土)～2日(日)　待降節の黙想会（Fr.ガブリエル）
◇3日(月)～5日(水)　御受難会共同体の日
◇8日(土)～9日(日)　待降節の黙想会（Fr.マテオ）
◇11日(火)　マテオ神父の『祈りの学校』
宗像市民クリスマス聖歌隊練習会
◇12日(水)　ミカエル会
◇15日(土)～16日(日)　待降節の黙想会（Fr.マテオ）
◇22日(土)～24日(月)　待降節の黙想会（Fr.鈴木）
2002年1月
5日(土)～11日(金)　休館日
※クリスマス案内
12月24日(月) 19：00　子どもと祝うミサ
深夜0時　イヴのミサ
25日(火) 11：00　ご降誕ミサ
［問合先］黙想の家　☎0940・32・3222　FAX 32・3385

生命山カトリック別院

※祈りの集い
・12月13日(木) 10時～15時
テーマ：本当にこの人は神の子だった
※諸宗教対話研究会のグループの集会
日　時：12月2日(日) 14時～
場　所：手取カトリック教会
内　容：イスラム教とは
講　師：S.フランコ神父
対　象：どなたでも自由に参加出来ます。お待ちしています。
※毎月第2木曜日に祈りの集いを行っています。
［問合先］・生命山カトリック別院
☎0968・85・3100
FAX 0968・85・3186

12月のこよみ

1日(土)　†アシジ F.伊東誠二［馬渡島教会1997］
2日(日)　待降節第1主日
水巻教会堅信式
宣教地司祭育成の日（献金日）
3日(月)　聖フランシスコ・ザビエル
8日(土)　無原罪の聖マリア
9日(日)　待降節第2主日
13日(木)　聖ルチアおとめ殉教者
14日(金)　十字架の聖ヨハネ
16日(日)　待降節第3主日
17日(月)　†M.コニリー［手取教会1990］
18日(火)　†J.マグラ［荒尾教会1976］
19日(水)　†パウロ青木功［行橋教会1973］
20日(木)　†M.ソーレ［久留米教会1917］
23日(日)　待降節第4主日　天皇誕生日
†A.ベニエ［飯塚教会1983］
24日(月)　降誕祭夜半ミサ（1面参照）
25日(火)　主の降誕（クリスマス）
26日(水)　聖ステファノ殉教者
27日(木)　聖ヨハネ使徒福音記者
28日(金)　幼子殉教者
30日(日)　聖家族の主日
31日(月)　大晦日
2002年1月
1日(火)　神の母聖マリア［守るべき祝日］
世界平和の日ミサ（カテドラル10：00）
†G.ロー［人吉教会1950］
2日(水)　†J.ドノフ［菊池教会1985］
†ヨゼフ牧山藤房［直方教会1993］

◆福岡

■定期個別ゆるしの秘跡
［日時］毎月第1・第3土曜日 10時から12時［場所］カトリック大名町教会小聖堂［聴罪司祭］R・マグリン神父（ミラノ会・久留米聖マリア病院付）

■福岡祈りの集い
［日時］毎週月曜 11時～12時30分［場所］カトリック大名町教会［内容］聖霊による祈り［問合先］☎092・522・5139ブラザー床嶋

■グレゴリオ聖歌を歌う集い
［日時］12月5日（水）11時～12時15分［場所］浄水通教会聖堂［講師］坂田孝子氏［参加費］自由献金［問合先］☎098・380・5686堺※12月19日（水）11時より召命の家聖堂にてグレゴリアンのミサがあります

■召命祈願ミサ
［日時］12月13日（木）19時15分～［場所］福岡聖スルピス大神学院［司式者］G・ブルーニ神父（光丘教会主任）

■召命を共に祈る会
［日時］12月20日（木）12時～［場所］召命の家［内容］教区召命育成担当司祭浦川務神父（久留米教会）を囲んで［申込先］※今回に限り、参加希望者は申込下さい☎092・526・9176師イエズス修道女会／Sr関口［締切］12月15日

■ヨアキム・アンナ信心会
［日時］12月20日（木）［場所］高宮カトリック教会［指導］小池如安神父［内容］ロザリオ・黙想・ミサ［問合先］☎092・531・6494高宮教会

■在世フランシスコ会集会
［日時］12月23日（日）14時～16時［場所］カトリック高宮教会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習［指導］小池如安神父［問合先］☎092・843・5831岩崎

■第85回福岡結婚準備セミナー
［日時］1月12日（土）～2月6日（水）毎水曜日と土曜日全8回19時～21時30分［場所］カトリック大名町教会［申込先］カトリックファミリーセンター☎092・541・6207

■典礼を学ぶ集い定期学習会
［日時］1月20日（日）14時～16時［場所］大名町カトリック教会1階［内容］ミサの各部の説明②［講師］白浜満神父（サンスルピス大神学院）［参加費］600円［問合先］☎0940・32・3047平井

■第17回福岡ホスピスの会
［日時］1月20日（日）14時［場所］大名町カトリック教会4階［テーマ］遺族へのアプローチII［講師］野島一彦氏（九大）［参加費］会員500円一般700円［問合先］☎092・737・3701福岡ホスピスの会事務局

■福岡生と老い死を見つめる会
［日時］12月20日（木）［場所］高宮カトリック教会［指導］小池如安神父［内容］ロザリオ・黙想・ミサ［問合先］☎092・531・6494高宮教会

■在世フランシスコ会集会
［日時］12月23日（日）14時～16時［場所］カトリック高宮教会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習［指導］小池如安神父［問合先］☎092・843・5831岩崎

■第85回福岡結婚準備セミナー
［日時］1月12日（土）～2月6日（水）毎水曜日と土曜日全8回19時～21時30分［場所］カトリック大名町教会［申込先］カトリックファミリーセンター☎092・541・6207

■典礼を学ぶ集い定期学習会
［日時］1月20日（日）14時～16時［場所］大名町カトリック教会1階［内容］ミサの各部の説明②［講師］白浜満神父（サンスルピス大神学院）［参加費］600円［問合先］☎0940・32・3047平井

■第17回福岡ホスピスの会
［日時］1月20日（日）14時［場所］大名町カトリック教会4階［テーマ］遺族へのアプローチII［講師］野島一彦氏（九大）［参加費］会員500円一般700円［問合先］☎092・737・3701福岡ホスピスの会事務局

■福岡生と老い死を見つめる会
［日時］12月20日（木）［場所］高宮カトリック教会［指導］小池如安神父［内容］ロザリオ・黙想・ミサ［問合先］☎092・531・6494高宮教会

■在世フランシスコ会集会
［日時］12月23日（日）14時～16時［場所］カトリック高宮教会集会所［内容］アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習［指導］小池如安神父［問合先］☎092・843・5831岩崎

■第85回福岡結婚準備セミナー
［日時］1月12日（土）～2月6日（水）毎水曜日と土曜日全8回19時～21時30分［場所］カトリック大名町教会［申込先］カトリックファミリーセンター☎092・541・6207

■典礼を学ぶ集い定期学習会
［日時］1月20日（日）14時～16時［場所］大名町カトリック教会1階［内容］ミサの各部の説明②［講師］白浜満神父（サンスルピス大神学院）［参加費］600円［問合先］☎0940・32・3047平井

■第17回福岡ホスピスの会
［日時］1月20日（日）14時［場所］大名町カトリック教会4階［テーマ］遺族へのアプローチII［講師］野島一彦氏（九大）［参加費］会員500円一般700円［問合先］☎092・737・3701福岡ホスピスの会事務局

■福岡生と老い死を見つめる会

◆北九州

■小倉祈りの集い
［日時］12月21日（金）13時～14時30分［指導］V・マテオ神父（御受難会）［場所］小倉教会信徒会館2階［内容］「みことば」をあじわい祈る［問合先］093・452・1556安藤

◆佐賀

■佐賀祈りの集い
［日時］12月13日（木）10時～11時30分［場所］佐賀カトリック会館［内容］祈り［問合先］☎0952・72・7536吉田［次回］12月22日（土）10時～12時はミサと祈り・毎月第2木と第4土曜日に集まっています。どうぞご参加下さい。

■聖書を読む会
12月は休会。次回は2002年1月27日［場所］カトリック大名町教会［問合先］☎092・713・8523大山：092・607・6992村尾

■美野島司牧センターのお願い
衣類のカンパをお願いします。特に冬用の男性用ズボン・ジャンパー・靴下などの衣類・洗面道具・靴・毛布をよろしくお願いします。女性用の衣類は間に合っています。また、金曜日のボランティアを募集しています。衣類を頂きに来た人に出してあげたり、整理のお仕事です。［問合先］コース神父☎092・431・1419

◆熊本

［日時］毎月第1木曜日、午前の部10時～11時半／午後の部19時半～21時［場所］佐賀カトリック会館［内容］「創世記」を読む［講師］A・アレグリーニ神父［テキスト］聖書［参加費］無料［問合先］☎0952・23・4754阿南

■第67回熊本結婚準備セミナー
［日時］1月21日（月）～2月18日（月）毎月曜日と火曜日全8回19時～21時30分［場所］手取カトリック教会［問合先］手取カトリック教会☎096・352・2030 FAX 096・352・1515

セントポールFUKUOKAからお知らせ

クリスマス休業　12月25日（火）
年末年始の休業　12月30日～2002年1月4日

若者よ／2002年7月トロントに行こう！

第17回ワールドユースディトロント大会
日本公式団体参加希望者募集中！
○日　程：2002年7月21日～31日
○参加資格：18才～35才
○費　用：約25万円
○福岡教区申込窓口：健軍教会・中村彰神父
☎096・368・2825

編集後記

気がつけば、もうクリスマス間近。新聞作成に追い回されている内に一年を終えようとしています。皆さんにとっては、素晴らしい待降節・主の降誕・新年となりますよう、お祈りしています。そのためにも、クリスマス夜半ミサと大晦日深夜ミサの時間を掲載しています。どうぞ御参照の上、ミサに参加し、喜びと感謝を共にしましょう！

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

FUJIKi
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店　〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　大森　周　福岡支店長　城戸隆秀